

9 サスペンション & アクスル

ホイール アライメント	9-3
準備品	9-3
ホイール アライメント	9-3
前点検項目	9-3
フロント点検および調整	9-4
リヤ点検および調整	9-7
フロント サスペンション	9-11
準備品	9-11
フロント ショック アブソーバ	9-13
脱着構成図	9-13
分解構成図	9-14
ASSY ウイズ コイル スプリング取りはずし	9-15
ASSY取りはずし	9-16
ASSY点検	9-17
廃却方法	9-18
カートリッジ交換 (TEMS付き車)	9-18
オイル式ショック アブソーバ分解 (タクシー)	9-18
リング ナット オイル シール交換	9-19
構成部品点検	9-19
オイル式ショック アブソーバ組み付け	9-20
ASSY取り付け	9-21
ASSY ウイズ コイル スプリング取り付け	9-23
ロワー サスペンション アーム	9-25
脱着構成図	9-25
ボール ジョイント前点検	9-25
取りはずし	9-26
ボール ジョイント点検	9-27
ボール ジョイント ダスト カバー交換	9-27
ブッシュ交換	9-28
取り付け	9-28
ストラット バー	9-30
脱着構成図	9-30
取りはずし	9-30
クッション交換	9-31
取り付け	9-32
スタビライザ バー	9-34
脱着構成図	9-34
取りはずし	9-34
リンク点検 (除くタクシーおよび教習車)	9-35
取り付け	9-36
フロント アクスル ハブ	9-37
準備品	9-37
フロント アクスル ハブ	9-38
脱着分解構成図	9-38
取りはずし	9-38
分解	9-39
組み付け	9-40

取り付け	9-40
ボルト交換	9-41
リヤ サスペンション	9-42
4リンク	9-42
準備品	9-42
リヤ ショック アブソーバ	9-43
脱着構成図	9-43
ASSY取りはずし	9-44
ASSY点検	9-45
廃却方法	9-45
ASSY取り付け	9-45
サスペンション コントロール アーム & ラテラル コントロール ロッド	9-47
取りはずし	9-47
ブッシュ交換	9-48
取り付け	9-49
IRS	9-50
準備品	9-50
リヤ ショック アブソーバ	9-51
脱着構成図	9-51
ASSY取りはずし	9-52
ASSY点検	9-53
廃却方法	9-53
ASSY取り付け	9-54
アツパ コントロール アーム	9-56
脱着構成図	9-56
アクスル キャリヤ ウイズ	
アツパ アーム取りはずし	9-57
取りはずし	9-57
ボール ジョイント点検	9-57
取り付け	9-57
アクスル キャリヤ ウイズ	
アツパ アーム取り付け	9-57
ロワー サスペンション アーム & ストラット ロッド	9-58
脱着構成図	9-58
取りはずし	9-58
ブッシュ交換	9-59
サスペンション アーム No.1	
ボール ジョイント点検	9-59
取り付け	9-60
スタビライザ バー	9-62
脱着構成図	9-62
リンク点検	9-62
リヤ アクスル	9-63
4リンク	9-63
準備品	9-63

リヤ アクスル シャフト	9-64
脱着構成図	9-64
取りはずし	9-64
リヤ アクスル シャフトおよび ベアリング リテーナ点検	9-65
分解	9-65
組み付け	9-66
取り付け	9-67
ボルト交換	9-67
IRS	9-68
準備品	9-68
リヤ アクスル ハブ	9-70
脱着分解構成図	9-70
アクスル キャリヤ ウイズ アツパ アーム取りはずし	9-71
分解	9-72
組み付け	9-73
アクスル キャリヤ ウイズ アツパ アーム取り付け	9-75
ボルト交換	9-76
ドライブ シャフト	9-77
準備品	9-77
ドライブ シャフト	9-77
脱着構成図	9-77
分解構成図	9-78
取りはずし	9-79
分解前点検	9-79
ダスト デフレクタ交換	9-79
除く 1G-GE M/T車	9-80
分解	9-80
組み付け	9-81
1G-GE M/T車	9-82
分解	9-82
組み付け	9-84
点検	9-86
取り付け	9-86
デифアレンシヤル	9-87
4リンク車デифアレンシヤル	9-87
準備品	9-87
車上交換	9-90
ドライブ ピニオン オイル シール交換	9-90
デифアレンシヤル キャリヤ ASSY	9-93
脱着構成図	9-93
分解構成図	9-94
断面図	9-95
分解前点検	9-96
分解	9-97
構成部品の点検	9-100
ケース組み付け	9-100

IRS用デифアレンシヤル	9-110
準備品	9-110
車上交換	9-114
脱着構成図	9-114
ドライブ ピニオン オイル シール交換	9-114
サイド ギヤ シャフト オイル シール交換	9-117
デифアレンシヤル キャリヤ ASSY	9-120
断面図	9-120
脱着構成図	9-121
分解構成図	9-122
分解前点検	9-124
分解	9-125
構成部品の点検および交換	9-130
組み付け	9-130
リミテッド スリツプ デифアレンシヤル	9-145
断面図	9-145
分解構成図	9-145
ケース ASSY取りはずし	9-146
ケース分解	9-146
構成部品の点検	9-147
ケース組み付け・調整	9-147
ケース ASSY取り付け	9-149
デифアレンシヤル マウント クツシヨン	9-150
取りはずし	9-150
取り付け	9-150
TEMS	9-151
準備品	9-151
部品配置図	9-151
機能点検	9-152
減衰力制御状態点検	9-152
制御機能点検	9-152
トラブル シューテイング	9-154
トラブル シューテイングの進め方	9-154
ステアリング センサ	9-159
脱着構成図	9-159
単体点検	9-160
アブソーバ コントロール スイッチ点検	9-160
アブソーバ コントロール アクチュエータ点検	9-160
ステアリング センサ点検	9-160
ストップ ランプ スイッチ点検	9-161
メータ点検	9-161
コンピュータ点検	9-162

ホイール アライメント 準 備 品

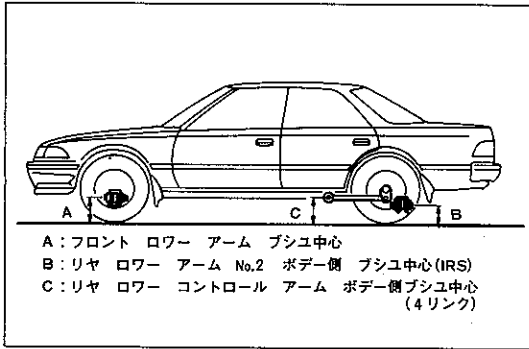
工 具	ブレーキ ペダル プレッツシャ	フット ブレーキ保持用
計 器	 (株)バンザイ 扱い TB-322	アタッチメント, ホイール ア ライメント
	 (株)バンザイ 扱い TB-322-A	アダプタ, ホイール アライメント アタッチメント
	 (株)バンザイ, 弥栄工業(株) 扱い AA-828	ローラ測定子
	ダイヤル ゲージ	タイヤの振れ測定用
	キャンバ キヤスタ キングピン ゲージ	ホイール アライメント測定用
	トーイン ゲージ	トーイン測定用
	ターニング ラジアス ゲージ	ホイール アライメント測定用
	タイヤ プレッツシャ ゲージ	タイヤ空気圧測定用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)	ロワー アーム締め付け用

ホイール アライメント

前点検項目

1 タイヤ サイズおよび摩耗状況点検

- (1) サイズ違いがなく左右の摩耗差および偏摩耗が著しくないことを点検する。



K 6641

2 タイヤ空気圧および車高点検

- (1) 車両のコーナーを大きく上下にゆすり、サスペンションを落ち着かせてから車高を点検する。

基準値

タイヤ サイズ	型式	空気圧〔一般走行時〕(kg/cm ²)	車高〔空車時〕(mm)		
			A寸法	B寸法	C寸法
205/60 R15 89H	GX81系	1.9	225.4	244	—
195/65 R15 90H	GX81系	1.9	228.4	247	—
195/70 R14 90S	GX81系	1.7	225.4	244	—
185/70 R14 87S(H)	GX81系	1.9	220.4	239	—
	SX80系			—	249
175 SR 14	SX80(Y)系	1.7	224.4 (231.4)	—	253 (268.5)
	YX80(Y)系				
	LX80(Y)系	1.9			
6.45-14-4 PR	SX80Y系	1.9	225.4	—	254
	YX80Y系				
	LX80Y系	2.0			
6.45-14-6 PR	LX80系	2.2	225.4	—	254
	YX80系	1.9	(232.4)		(269.5)

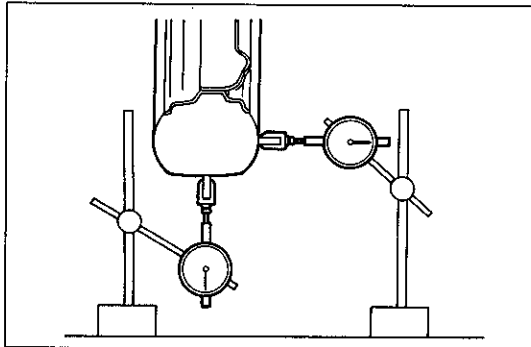
() 内の数字はタクシー

3 タイヤの振れ点検

限度 3.0mm (縦方向, 横方向)

4 関係各部のボルトの締め付け状態点検

5 関係各部のガタ点検



K 1304

フロント ホイール アライメント点検および調整

1 トーイン点検

- (1) 車両をゆすり、車両を安定させる。
(2) 車両を直進で5m手押しして前進させる。

注意 車両を後退させた時は必ず後退させた距離分前進させる。

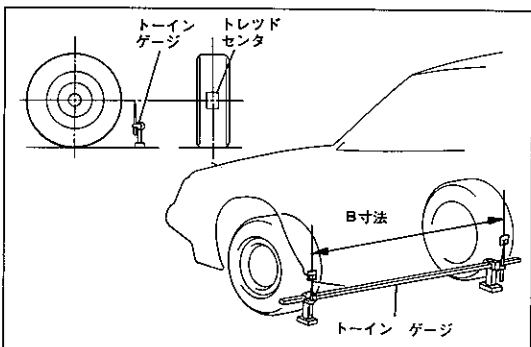
- (3) トーイン ゲージの指針高さを必ずフロント ホイール軸中心高さに合わせ、タイヤの後ろ側に入れる。
(4) 前輪タイヤのおおのの後部にトレッド センタをしるし、マーク間の距離 (B寸法) を測定する。
(5) 車両をゆつくり押して前進させ、前輪を180°回転させる。

注意 180°以上回転させないように行い、オーバ回転した場合は、(3)からやり直す。

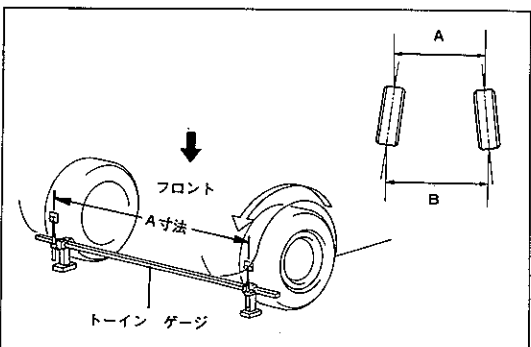
- (6) 車両前部でマーク間の距離 (A寸法) を測定する。
(7) トーインを求める。

点検基準値 $2 \pm 2 \text{ mm}$ (除くタクシー) $3 \pm 2 \text{ mm}$ (タクシー)

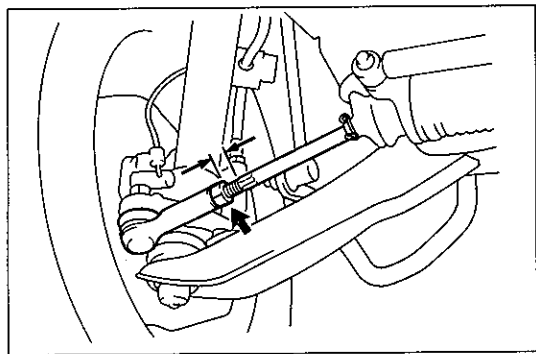
トーイン = B寸法 - A寸法



D 2316 D 7091



D 2317 A 9873



K 6642

2 トーイン調整

- (1) 左右のラック エンドのねじ部の長さを測定する。

基準 左右差 1 mm以内

- (2) ラック ブーツのクリップをはずす。
 (3) タイ ロッド エンドのロック ナットをゆるめる。
 (4) ラック エンドのねじ部の左右差が基準外の場合は(5)または(6)から、基準内の場合は(8)の調整を行う。
 (5) 測定値がアウト側にはずれる場合は、寸法の短い方のラック エンドを伸ばす方向に調整する。
 (6) 測定値がイン側にはずれる場合は、寸法の長い方のラック エンドを縮める方向に調整する。
 (7) 再度トーインを点検する。
 (8) 左右のラック エンドをおおの反対方向に同量ずつ回し、トーインが基準値内に入るように調整する。

調整基準値 $2 \pm 1 \text{ mm}$ (除くタクシー)

$3 \pm 1 \text{ mm}$ (タクシー)

- (9) タイ ロッド エンドのロック ナットを締め付ける。

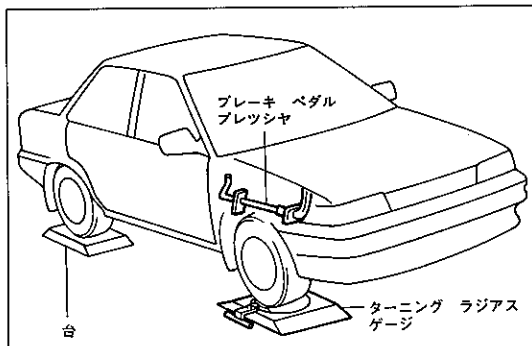
$T = 570 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

- (10) ラック ブーツのねじれを修正して、クリップを取り付ける。

注意 クリップは車両後方に向ける。

3 ターニング ラジアス ゲージ セット

- 注意**
- ・空車状態を維持し、車両が移動しないようにブレーキペダル プレッシャなどを使用してフット ブレーキを効かせた状態で点検する。
 - ・ストップ ランプが点灯しないようにストップ ランプヒューズを取りはずして点検する。



K 1307

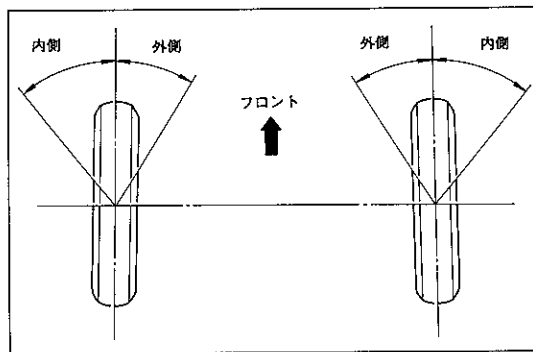
4 ホイール切れ角点検

- (1) ホイール切れ角を点検する。

基準 内側 $41^\circ \pm 1'30''$

外側 (参考) 34°

- (2) 切れ角に左右差がある場合はトーイン調整および点検を行う。

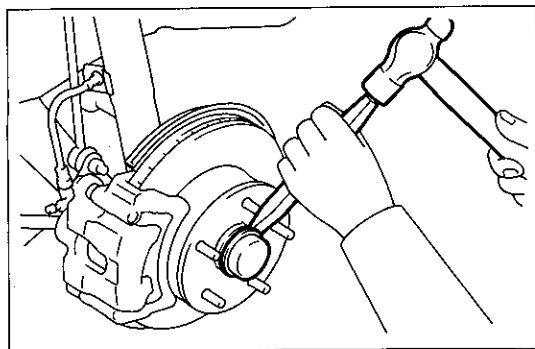


E 5765

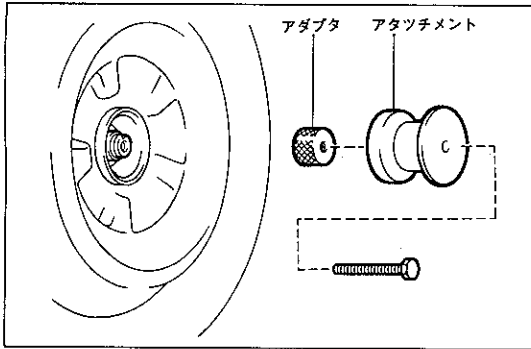
5 キャンバ、キヤスタ、キングピン アングル点検

- (1) ホイール キャップまたはセンタ オーナメントを取りはずす。
 (2) グリース キャップを取りはずす。

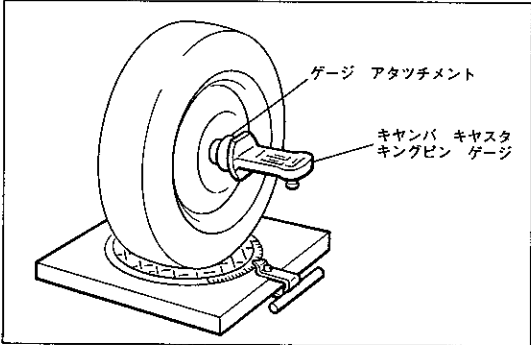
- 注意**
- ・グリース キャップはタイヤを脱着して取りはずす。
 - ・グリース キャップのアクスル ハブとのかん合面に傷をつけたり、変形させないように注意する。
 - ・アクスル ハブ端面のゴミ、異物を取り除く。



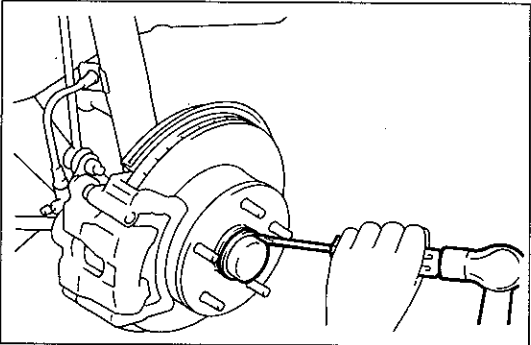
K 6643



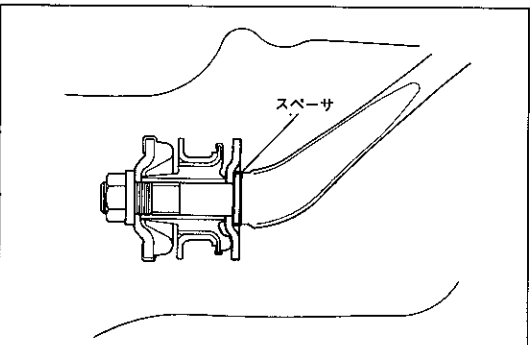
K 6644



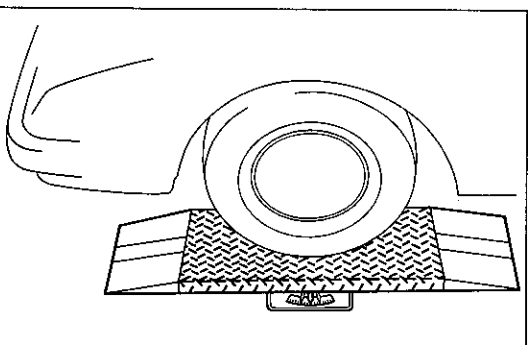
C 8428



K 6645



K 6959



D 7094

(3) キャンバ キヤスタ キングピン ゲージを取り付ける。

① アダプタをスピンドルに手でいつぱいに締め込む。

② アタッチメントをアクスル ハブ端面に当て、ボルトをアタッチメントに通して、アダプタに締めつける。

注意 ボルトはアダプタ (TB-322-A) のボルトを使用する。

③ キャンバ キヤスタ キングピン ゲージを取り付ける。

(4) キャンバ、キヤスタ、キングピン アングルを点検する。

点検基準値

	キャンバ	キヤスタ	キングピン アングル
除くタクシー	0°30' ±45'	7°20' ±45'	13°10' ±45'
タクシー	0°35' ±45'	7°05' ±45'	13°05' ±45'

左右差限度 30'以内

(5) ゲージおよびアタッチメントを取りはずす。

(6) グリース キャップを取り付ける。

注意 ・グリース キャップが変形しないように注意する。

・グリース キャップの変形およびアクスル ハブとのかん合面に傷がある場合は、新品のグリース キャップと交換する。

(7) ホイール キャップまたはセンタ オーナメントを取り付ける。

6 キヤスタ調整

(1) ストラット バーのスペーサを増減して、キヤスタを調整する。

注意 ・スペーサは1枚もしくは2枚の範囲で調整する。

・数値が大きく異なる場合はストラット バーおよびブラケットの変形および取り付け状態を点検する。

〈参考〉 スペーサ1枚でキヤスタは約20'変化する。

7 サイド スリップ点検

(1) サイド スリップ テスタでサイド スリップを点検する。

① テスタ進入は直進方向に歩く速度 (4 km/h程度) 以下とし、ギヤ位置はニュートラルで行う。

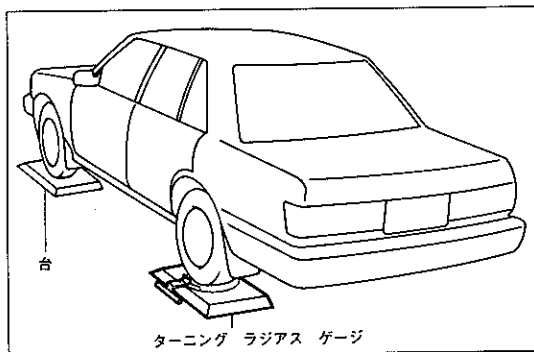
基準値 0～3mm (1mにつき)

注意 ・A/T車は必ずN レンジにする。

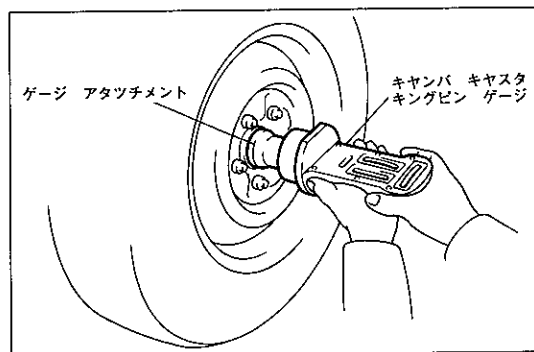
・テスト上でブレーキを踏まない。

・テスト上でステアリング操作をしない。

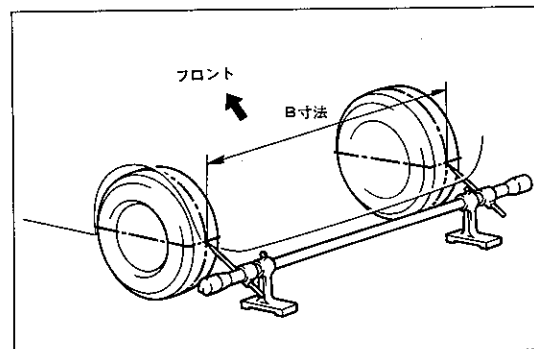
(2) 基準値外の場合はフロント ホイール アライメントが正しいかどうか点検する。



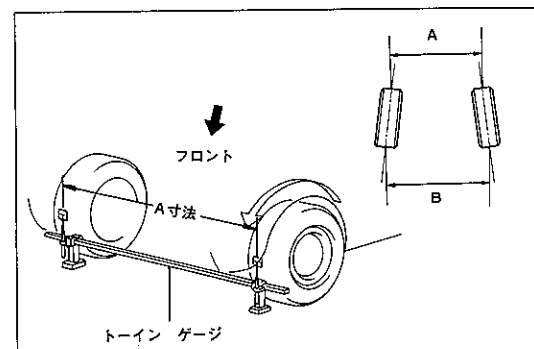
K 2772



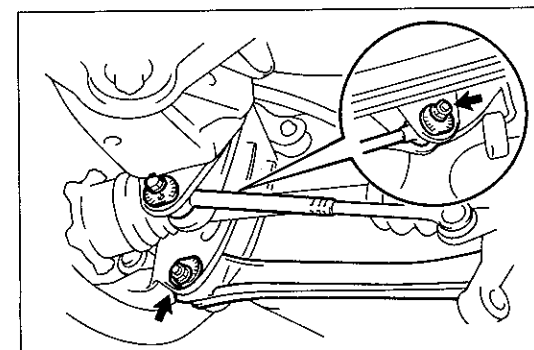
K 6646



D 1663



D2817 A 9873



K 6647

リヤ ホイール アライメント点検および調整

1 ターニング ラジアス ゲージ セット

- 注意**
- ・空車状態を維持し、パーキング ブレーキおよびフットブレーキは効かせない。
 - ・サスペンションなどを落ち着かせるため、少なくとも車両の全長以上の距離を静かに前進させる。

2 キャンバ点検

- (1) ホイール キヤップまたはセンタ オーナメントを取りはずす。
- (2) キャンバを点検する。

- ① キャンバ キヤスタ キングピン ゲージにアタッチメントを取り付ける。
- ② ゲージをリヤ アクスル ハブ端面に押し当て、キャンバを点検する。

点検基準値 $0^{\circ}00' \pm 45'$ (左右差限度 $30'$ 以内)

- 注意** アクスル ハブ端面のゴミ、異物を取り除いてから点検する。

3 トーイン点検

- (1) 車両をゆすり、車両を安定させる。
 - (2) 車両を直進で5 m手押しして前進させる。
- 注意** 後退させた時は必ず後退した距離分前進させる。
- (3) トーイン ゲージの指針高さを必ずリヤ ホイール軸中心高さに合わせ、タイヤの後ろ側に入れる。
 - (4) 左右後輪の後部にトレッド センタをしるし、マーク間の距離(B寸法)を測定する。

- (5) 車両をゆつくり押して前進させ、後輪を 180° 回転させる。
- 注意** 180° 以上回転させないように行い、オーバ回転した場合は、(3)よりやり直す。

- (6) 車両前部でマーク間の距離(A寸法)を測定する。
- (7) トーインを求める。

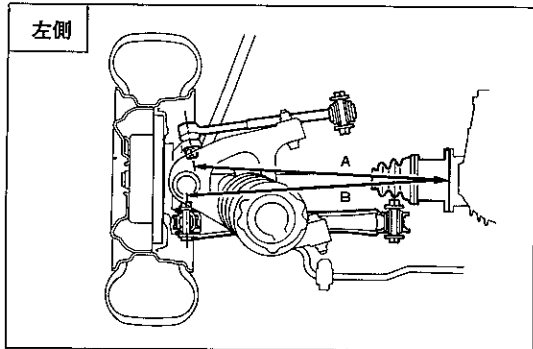
点検基準値 $2 \pm 2 \text{ mm}$

トーイン = B寸法 - A寸法

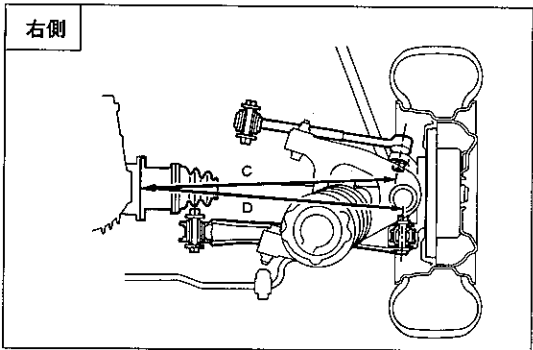
4 キャンバ、トーイン調整

- 注意** サイド スリッパの点検は必要ない。サイド スリッパの参考値は2~10mmになるが、あくまでもトーイン点検のみで行う。

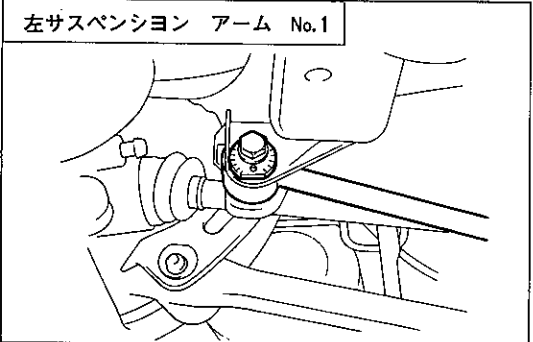
- (1) リヤ サスペンション アーム No.1 および No.2 のキャンバ アジャスト カムのナットをゆるめる。



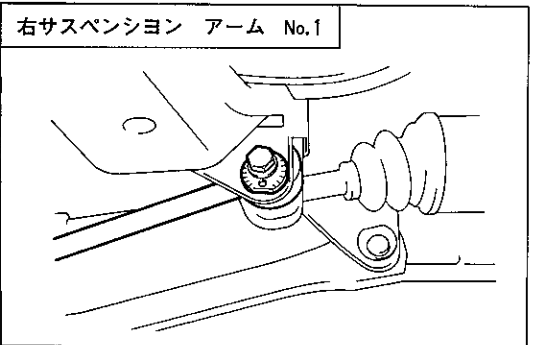
● K 6648



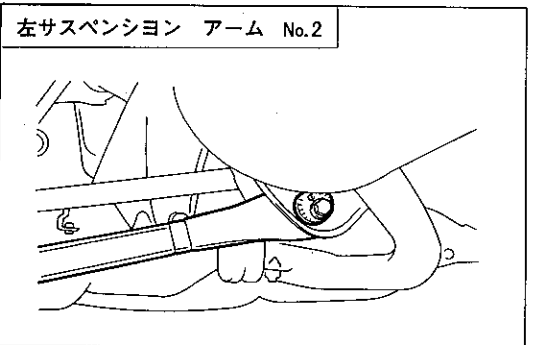
K 6648



K 6649



K 6650



K 6651

- (2) デイフアレンシヤルと左右ドライブ シヤフト合わせ下端に合わせマークを付ける。
- (3) リヤ サスペンション アーム No.1 ボール ジョイント先端から合わせマークまでの距離を左右 (A, C) 測定する。
- (4) リヤ サスペンション アーム No.2 ロワー プシュのボルト先端から合わせマークまでの距離を左右 (B, D) 測定する。
- (5) A寸法とB寸法の差 (E) およびC寸法とD寸法の差 (F) を求める。
- (6) EとFの差を求める。
基準値 4 mm以内
- (7) EとFの差が4 mm以上の場合は、A, B, CおよびD寸法の最も長いアームまたは最も短いアームのキャンバ アジャスト カムでEおよびFの差を4 mm以内にする。
- (8) 再度キャンバおよびトーインを点検する。

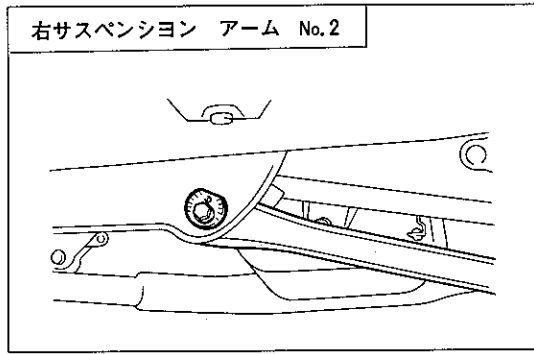
- (9) リヤ サスペンション アーム No.1 およびNo.2 のキャンバ アジャスト カムを交互に回して、キャンバおよびトーインを調整する。

調整基準値 キャンバ $0^{\circ}00' \pm 30'$ (左右差限度 $30'$ 以内)

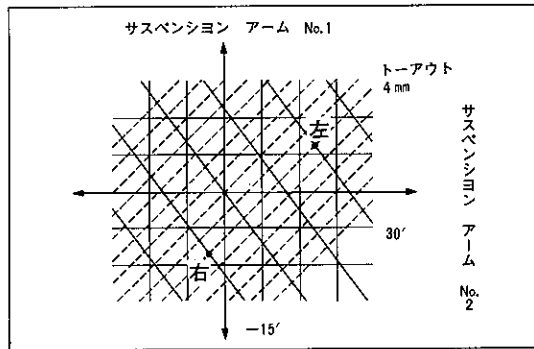
トーイン 2 ± 1 mm

〈参考〉 リヤ サスペンション アーム No.1 およびNo.2 のキャンバ アジャスト カムを1目盛回すと、トーインは約3 mm変化し、キャンバは約 $8'$ 変化する。

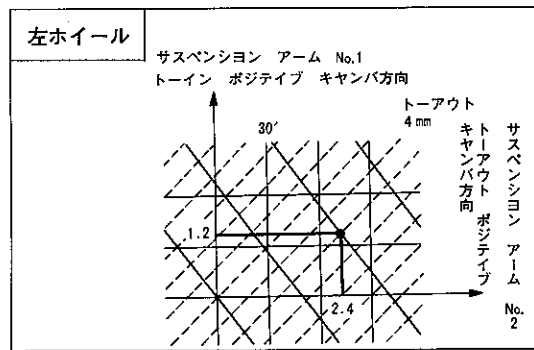
- (10) EとFの差を確認後、キャンバ アジャスト カムのナットを締め付ける。



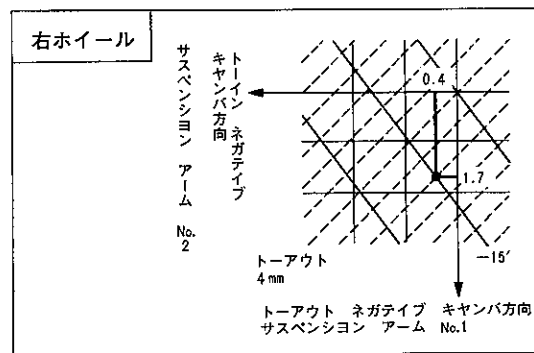
K 6652



K 6653



K 6654



K 6655

- (11) 調整は次の頁に示す図表を参考にと作業が容易になる。以下に調整例を示す。

基準値 トーイン 2 mm, キャンバ 0°00'

測定値(例) トーアウト 6 mm, キャンバ 左 0°30', 右 -0°15'

- ① トーアウト 6 mmであるから、トーインは 8 mm(左右のホイールが 4 mmずつ) トーアウト側にずれている。このずれている量(左: トーアウト 4 mm, キャンバ 0°30', 右: トーアウト 4 mm, キャンバ -0°15') を図表上に求める。

- ② 左右それぞれの点が、原点(トーイン 0 mm, キャンバ 0°00') になるように、それぞれのカムを動かす。

左ホイール

サスペンション アーム No. 1

トーアウト ネガティブ キャンバ方向へ約1.2目盛

サスペンション アーム No. 2

トーイン ネガティブ キャンバ方向へ約2.4目盛

右ホイール

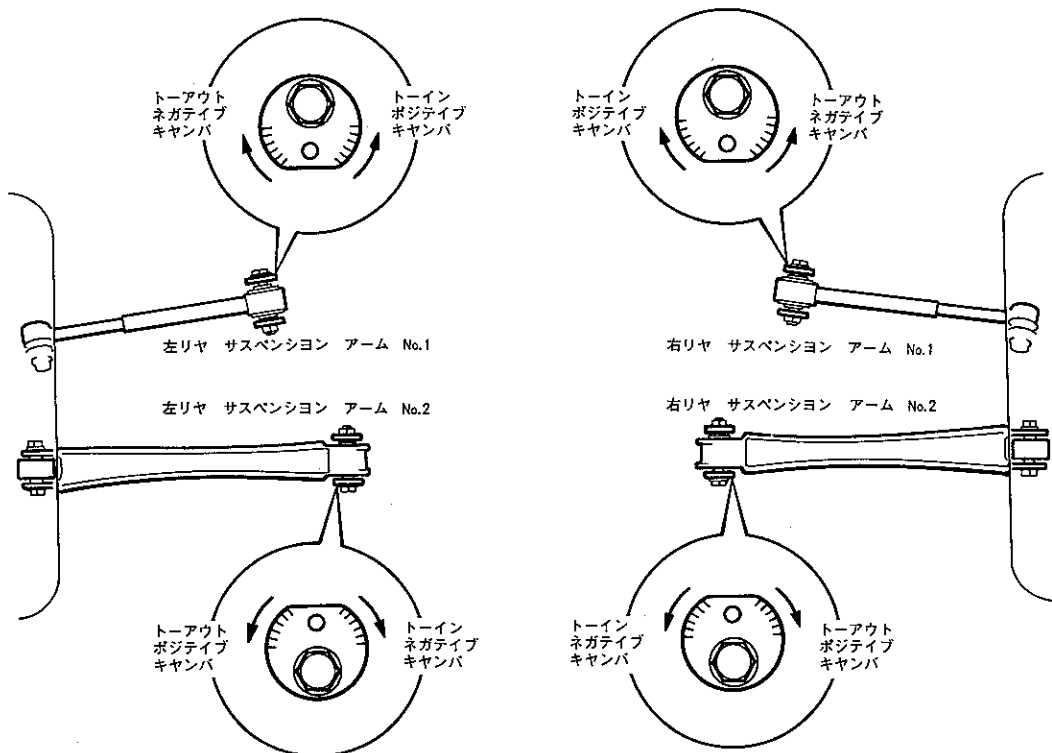
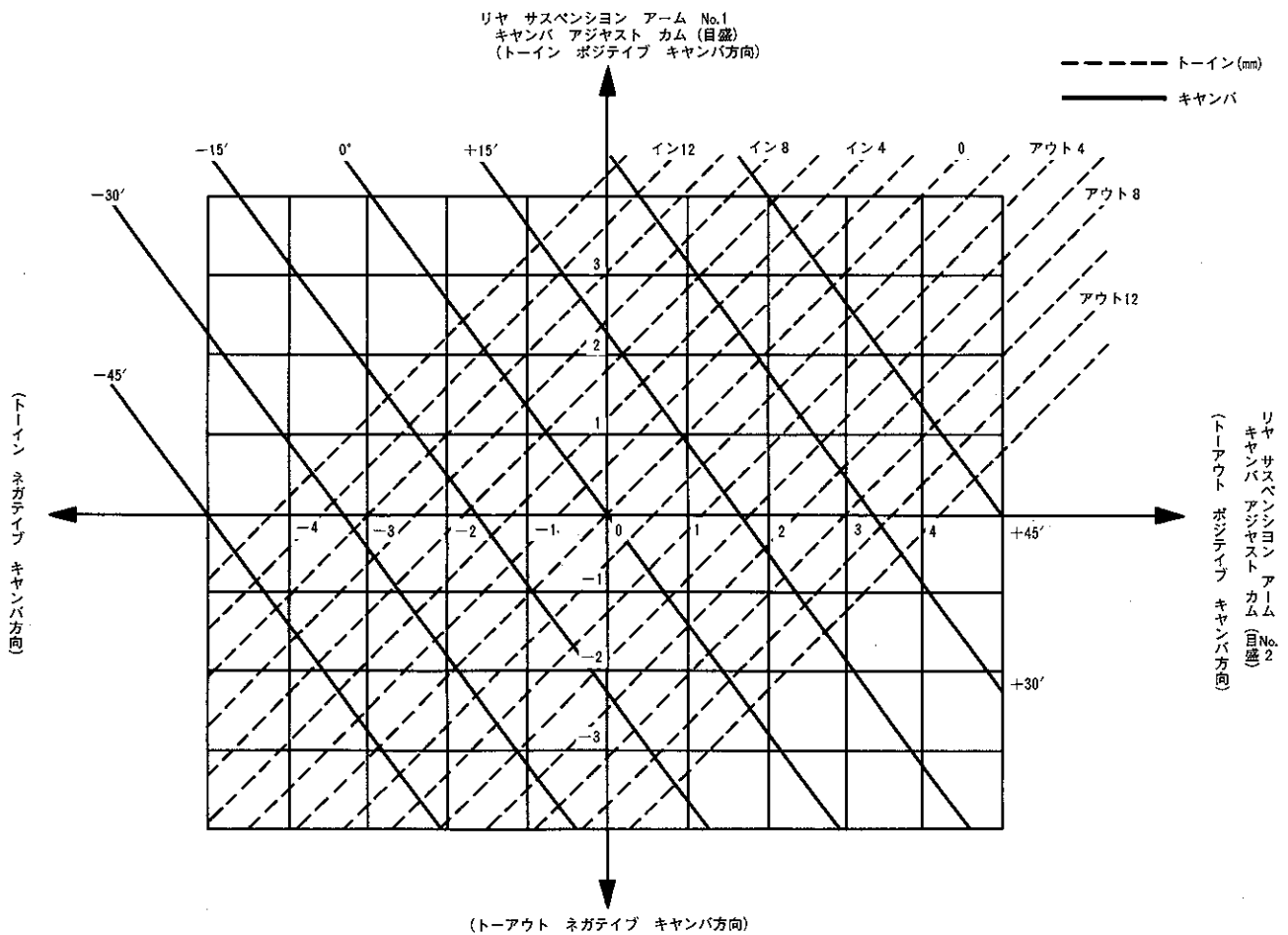
サスペンション アーム No. 1

トーイン ポジティブ キャンバ方向へ約1.7目盛

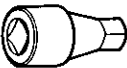
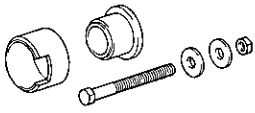
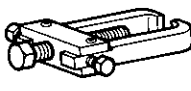
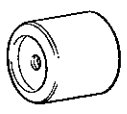
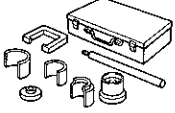
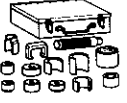
サスペンション アーム No. 2

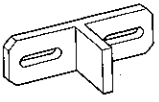
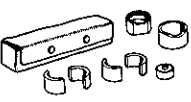
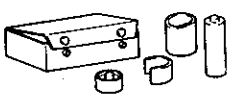
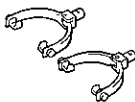
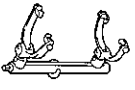
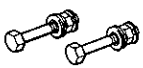
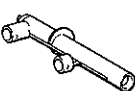
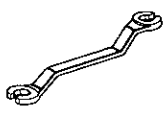
トーアウト ポジティブ キャンバ方向へ約0.4目盛

キャンバ, トーイン調整図表(空車時)



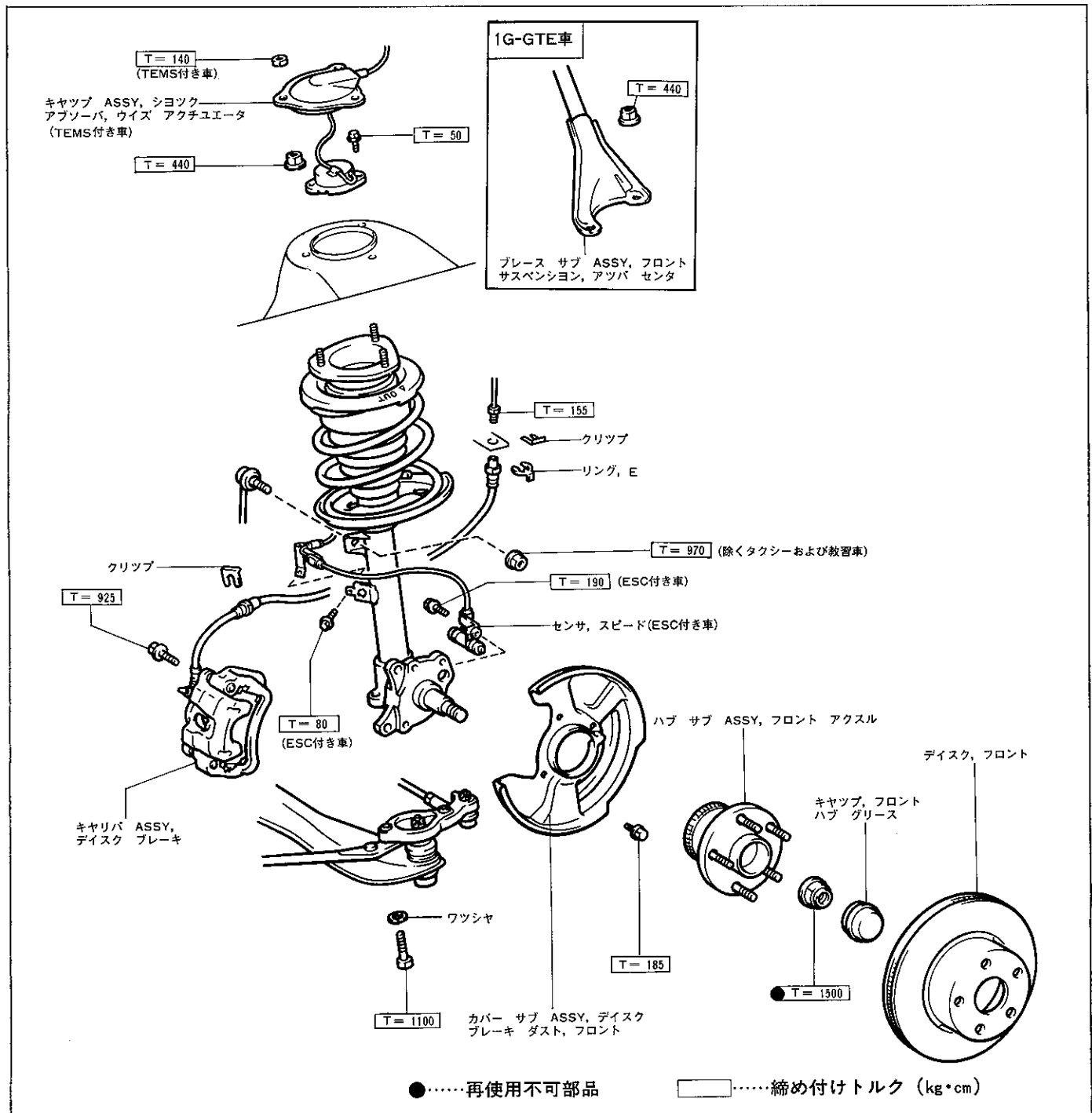
フロント サスペンション 準 備 品

SST		09313-30021	ソケット, デイテント ボール プラグ	スタビライザ リンク脱着用
		09570-22010	リムーバ アンド リプレーサ, デифアレンシャル マウント クッション	ストラット バー クッション脱着用
		09628-62011	ブラー, ボール ジョイント	タイ ロッド エンドおよびナツクル アーム取 りはずし用
		09649-17010	ツール, ステアリング ナツク ル	ストラット バー クッション取り付け用
		09710-26010	ツール セット, フロント サ スペンション プシュ	
		09710-05060	リプレーサ	
		09710-30020	ツール セット, サスペンシ ョン プシュ	
		09710-03050	リプレーサ, フロント サス ペンション アツバ アーム プ シュ	
		09710-03070	リムーバ, フロント サスペ ンション ロワー アーム プシ ュ	ロワー アーム プシュ取り付け用
		09710-03070	リムーバ, フロント サスペ ンション ロワー アーム プシ ュ	ロワー アーム プシュ取りはずし用
		09710-03090	ベース, フロント サスペン ション ロワー アーム プシュ リムービング	ロワー アーム プシュ脱着用
		09720-00012	ツール セット, ショック ア ブソーバ オーバーホール	
		09721-00030	リプレーサ, フロント ショツ ク アブソーバ オイル シー ル	
		09721-00071	レンチ, フロント ショツク アブソーバ リング ナット	リング ナット脱着用

SST		09721-00081	スタンド, フロント ショック アブソーバ	ショック アブソーバ固定用
		09726-12022	リムーバ アンド リプレーサ, ロワー サスペンション アー ム プシュ	
		09726-01051	スペーサ	ロワー アーム プシュ脱着用
		09726-32010	リムーバ アンド リプレーサ, リヤ サスペンション プシュ	
		09726-32020	リプレーサ	ストラット バー クッション取りはずし用
		09727-00045	アーム セット B	コイル スプリング圧縮用
		09727-30020	コンプレッサ, コイル スプリ ング	
		09727-00010	ボルト セット	
		09727-00030	コンプレッサ	コイル スプリング圧縮用
		09729-22031	ホルダ, フロント スプリング アツパ シート	セルフ ロック ナット脱着用
計 器		09751-36011	レンチ, ブレーキ チューブ ユニオン ナット	ブレーキ チューブ切り離しおよび接続用
	ソケット レンチ (32mm)			アクスル ハブ ナット脱着用
	シリンダ ゲージ			ロッド ガイドおよびシリンダ内径測定用
	マイクロメータ			ピストン ロッド外径測定用
	ダイヤル ゲージ			シリンダおよびピストン ロッド振れ点検用
	トルク レンチ (0~60kg・cm)			ボール ジョイント点検用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)			各部締め付け用

油脂 その他	キヤツスル MP グリース No.2	各部塗布用
	キヤツスル ショック アブソーバ フルード	ショック アブソーバ シエル注入用
	キヤツスル シャシ グリース スペシャル	ボール ジョイント注入用
	ブレーキ フルード	ブレーキ エア抜き用

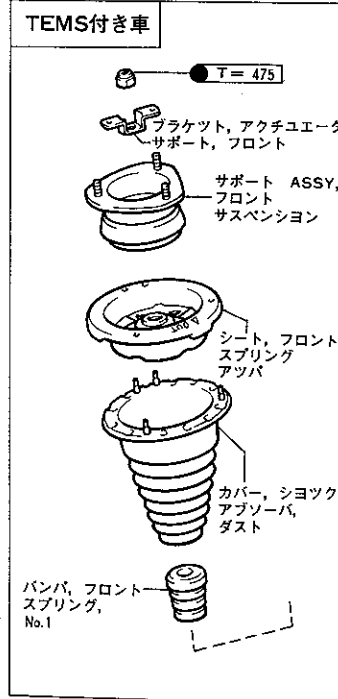
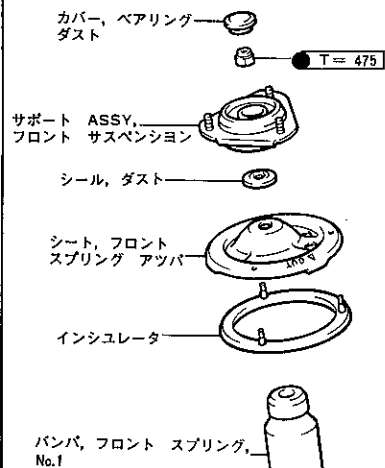
フロント ショック アブソーバ 脱着構成図



K 6658

分解構成図

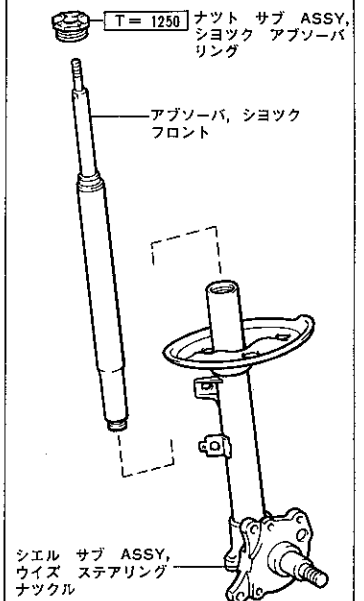
除くタクシー



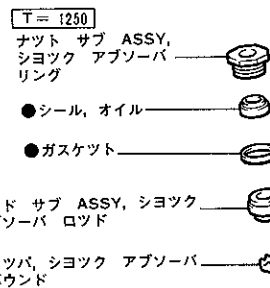
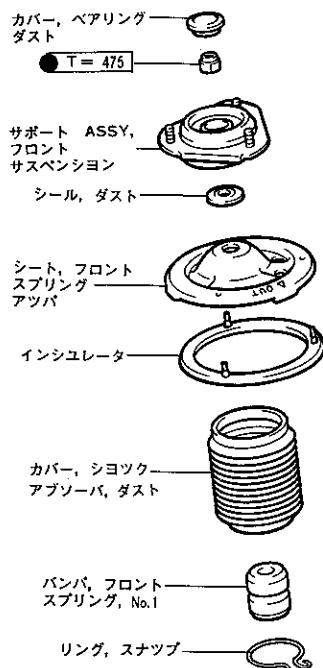
スプリング、コイル、フロント

アブソーバ ASSY, ショック、フロント

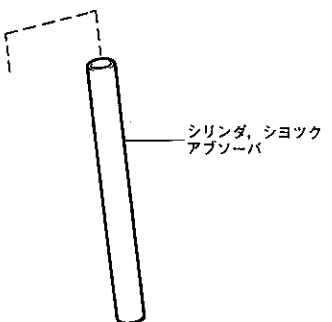
TEMS付き車



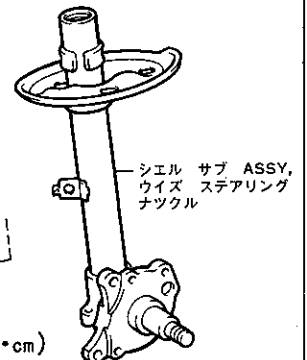
タクシー



アブソーバ ASSY, ショック、フロント

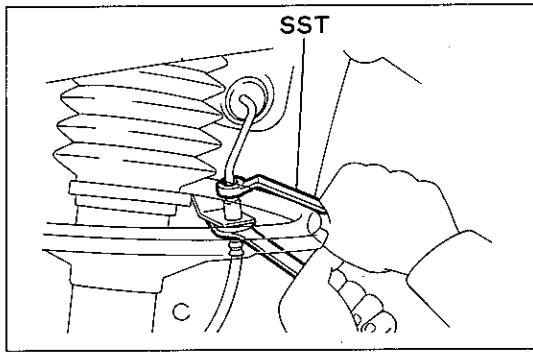


バルブ ASSY, ショック アブソーバ ベース

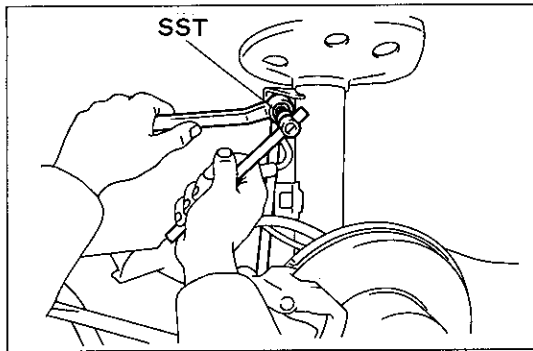


●.....再使用不可部品

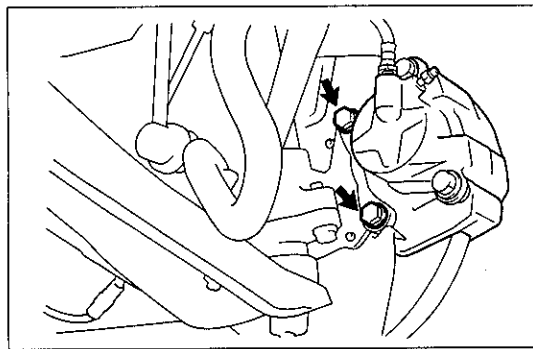
□.....締め付けトルク (kg・cm)



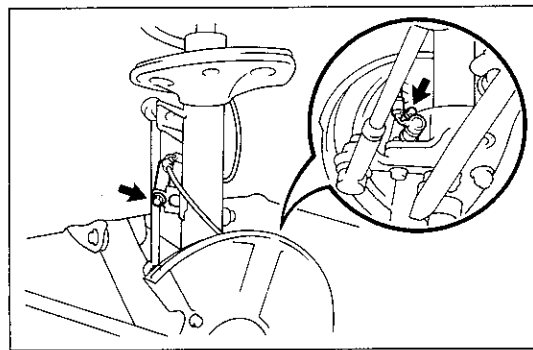
K 6661



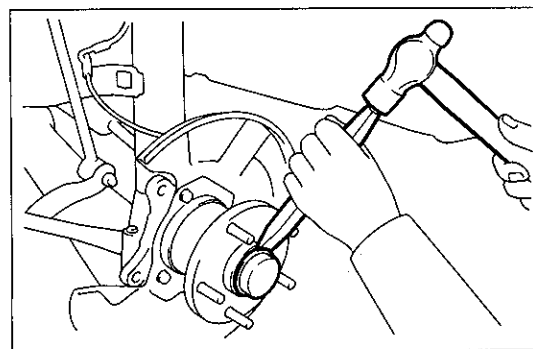
K 6662



K 6663



K 6960



K 6664

フロント ショック アブソーバ ASSY ウイズ コイル スプリング取りはずし

1 フロント ホイール取りはずし

2 ブレーキ フレキシブル ホース切り離し

- (1) クリップ 2 個および E リングを取りはずす。
- (2) SST を使用して、フレキシブル ホースを切り離し、アブソーバのブラケットから抜き取る。

S S T 09751-36011

注意 ブレーキ フルードはフルード受け容器に入れる。

3 スタビライザ リンク切り離し (除くタクシーおよび教習車)

- (1) SST を使用して、ナットをはずし、スタビライザ リンクをショック アブソーバから切り離す。

S S T 09313-30021

4 フロント ブレーキ キヤリパおよびディスク取りはずし

- (1) ボルト 2 本をはずして、ブレーキ キヤリパを取りはずす。

注意 ブレーキ パッドの間に厚さ 10mm 程度の木片などを入れておく。

- (2) ディスクとアクスル ハブに合わせマークを付けてから、フロント ディスクを取りはずす。

注意 ディスク面に油脂を付けない。

5 スピード センサ取りはずし (ESC 付き車)

- (1) ボルトをはずして、スピード センサ W/H をショック アブソーバから切り離す。

- (2) ボルトをはずして、スピード センサを取りはずす。

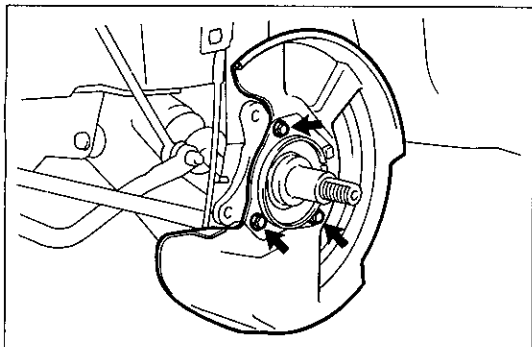
6 ハブ グリース キャップ取りはずし

注意 グリース キャップのアクスル ハブとのかん合面に傷をつけたり、変形させないように注意する。

7 フロント アクスル ハブ取りはずし

(P9-38 参照)

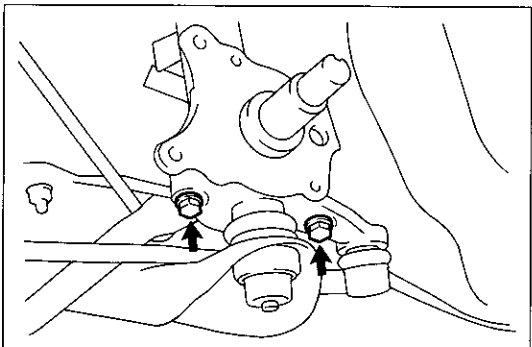
- 注意**
- ・オイル シールを傷つけない。
 - ・ESC 付き車のアクスル ハブを床面などに置く時は、スキッド コントロール ロータを傷つけないようロータ側を上にする。



K 6665

8 ディスク ブレーキ ダスト カバー取りはずし

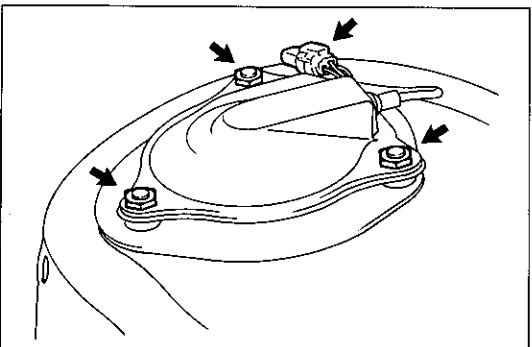
- (1) ボルト 3 本 (ESCなし車は4本) をはずして、ディスク ブレーキ ダスト カバーを取りはずす。



K 6666

9 ロワー アーム切り離し

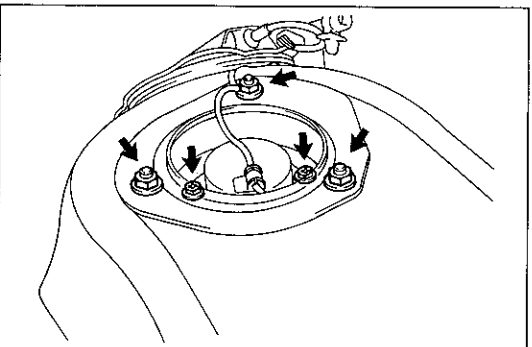
- (1) ボルト 2 本をはずして、ロワー アームをショック アブソーバから切り離す。



K 6667

10 ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリング取りはずし

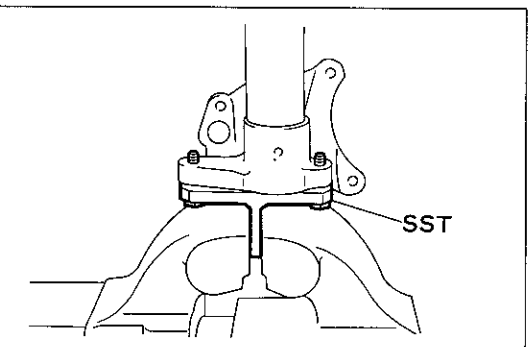
- (1) コネクタおよびナット 3 個をはずして、アクチュエータ キャップを取りはずす。(TEMS付き車)



K 6668

- (2) ボルト 2 本をはずして、アクチュエータを取りはずす。(TEMS 付き車)

- (3) ナット 3 個をはずして、ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリングを取りはずす。



K 6669

フロント ショック アブソーバ ASSY

取りはずし

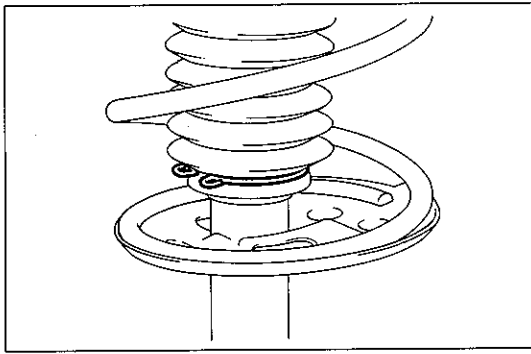
1 フロント ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリング固定

- (1) SSTを使用して、バイスに固定する。

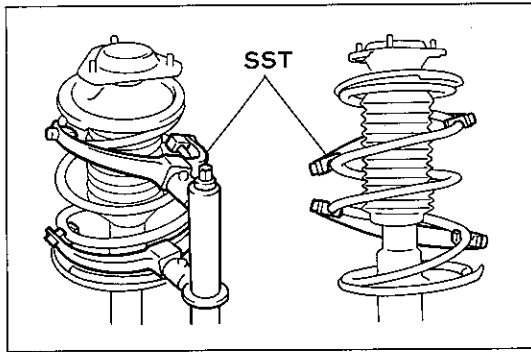
S S T 09721-00081

注意

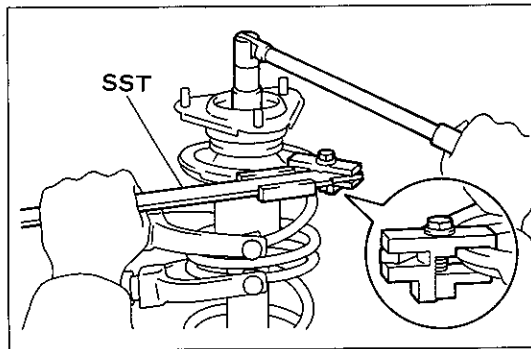
ボルトにワッシャを介してSSTをショック アブソーバに取り付ける。



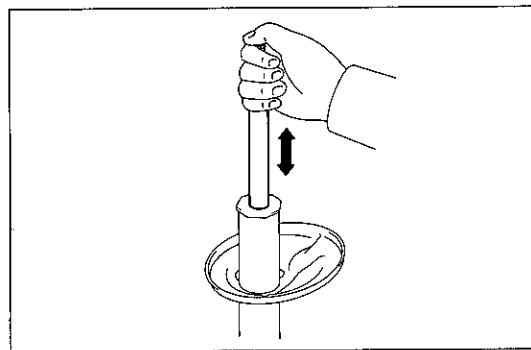
K 6670



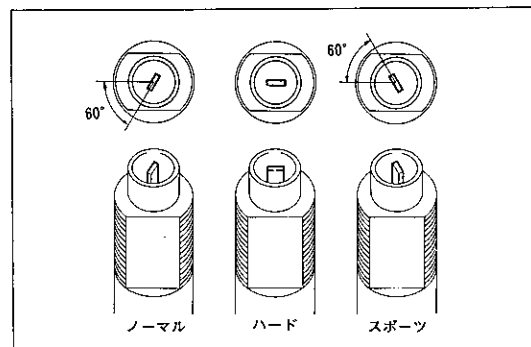
K 6671



K 6672



E 5812



K 6674

2 フロント ショック アブソーバ取りはずし

- (1) ベアリング ダスト カバー取りはずし (TEMSなし車)
- (2) ショック アブソーバ ダスト カバーのスナツプ リングを取りはずす。(タクシー)

- (2) SSTを取り付けられる範囲で上下のフックの距離が最も広くなるようにスプリングに取り付ける。

S S T 09727-00010 09727-00030 09727-00045

- (3) スプリングを十分圧縮する。

注意 インパクト レンチは使用しない。

- (4) スプリング アツパ シートをはさみ保持する。

S S T 09729-22031

- (5) ナットをはずし、アクチュエータ サポート ブラケット (TEMS付き車), サスペンション サポート, ダスト シール (TEMSなし車), スプリング アツパ シート, インシュレータ (TEMSなし車), ダスト カバー (TEMS付き車およびタクシー), コイル スプリング, スプリング バンパおよびスナツプ リング (タクシー) を取りはずす。

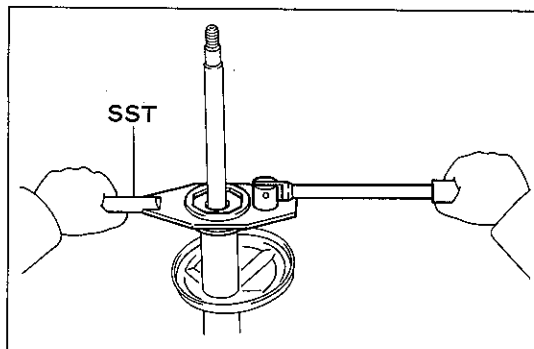
フロント ショック アブソーバ ASSY点検

1 ショック アブソーバ点検

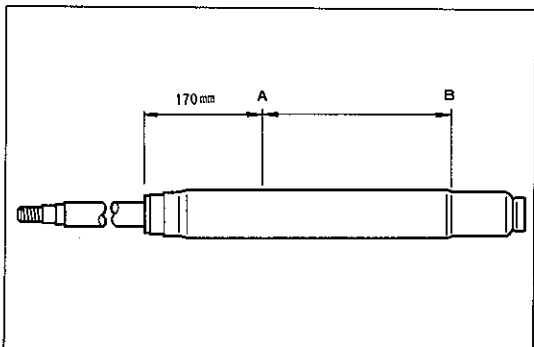
- (1) ショック アブソーバを伸縮させる。

基 準 全ストロークの重さが一定であり異常な手ごたえ, 異音がない

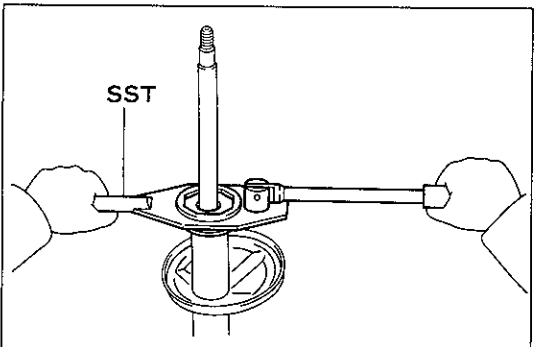
- (2) ロッドを図の位置にしたとき, 減衰力に差があることを点検する。(TEMS付き車)



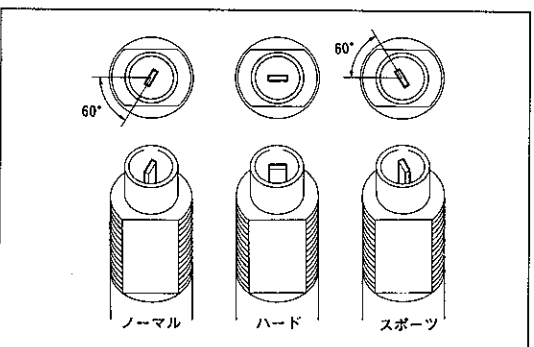
K5393



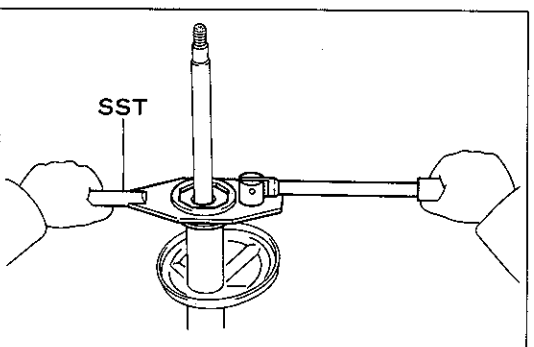
K6673



K5393



K6674



K5393

ガス封入式ショック アブソーバ廃却方法

TEMSなし車

1 SSTによる廃却方法

- (1) ガスが抜け始めるまでリング ナットをゆつくりゆるめる。(約 3～4 回転)

S S T 09721-00071

注意 ガスの圧力によりオイルが出てくることがあるので注意してゆるめる。

- (2) ガスが完全に抜けたこと（ピストン ロッドが下がる）を確認してから廃却する。

TEMS付き車（カートリッジ タイプ）

1 穴あけによる廃却方法

- (1) SSTを使用してリング ナットをはずし、カートリッジを取りはずす。

S S T 09721-00071

- (2) ピストン ロッドを伸ばした状態で水平に置き図に示すA-B間にφ2～3 mmの穴をあけてガスを抜く。

注意 抜け出すガスは無色、無臭、無害であるが、ドリルの切り粉などが飛び出すことがあるので注意して作業を行う。

カートリッジ交換（TEMS付き車）

1 カートリッジ取りはずし

- (1) SSTを使用してリング ナットをはずし、カートリッジを取りはずす。

S S T 09721-00071

2 カートリッジ組み付け

- (1) シリンダに新品のカートリッジを入れる。
- (2) リング ナットを規定トルクで締め付ける。

S S T 09721-00071

T=1250kg・cm

SST使用時の締め付けトルク

トルク レンチ形式	表示トルク (kg・cm)
1300F	1100
1900F	1120

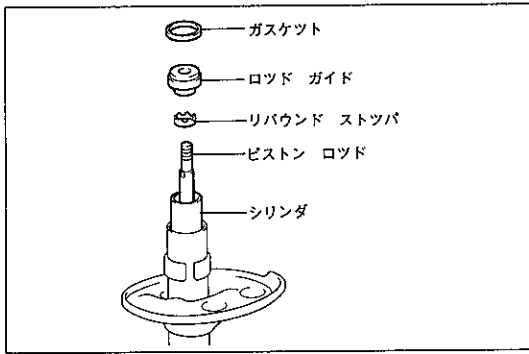
〈参考〉 新品のショック アブソーバのロッドはハードの向きになっているので、これをはずしたアブソーバのロッドと同じ向きにしてから取り付ける。

オイル式ショック アブソーバ分解（タクシー）

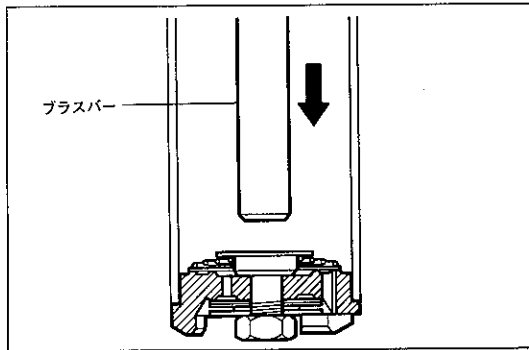
1 リング ナット取りはずし

- (1) SSTを使用して、リング ナットを取りはずす。

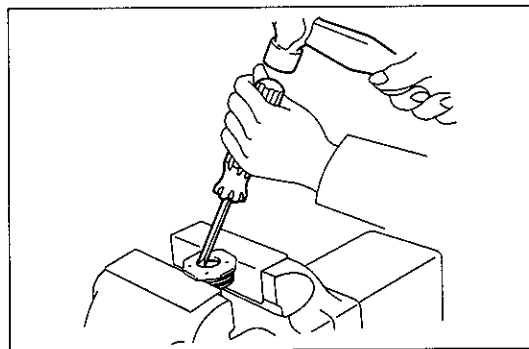
S S T 09721-00071



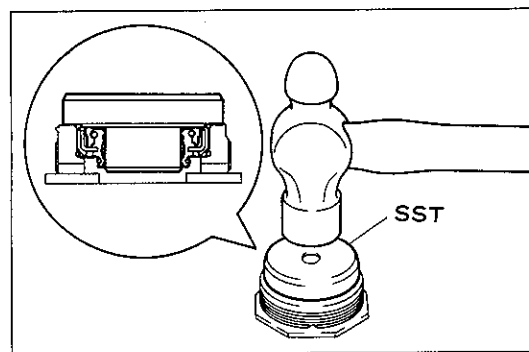
K 6675



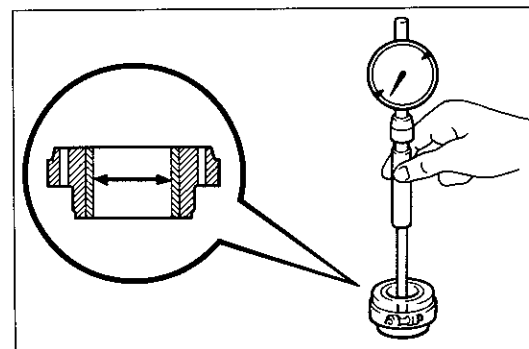
K 6676



K 6901



K 6677



K 6678

2 ピストン ロッド取りはずし

- (1) フルードをこぼさないようにピストン ロッド ウィズ ロッド ガイドを静かに抜き取る。
- (2) ピストン ロッドからロッド ガイド、ガスケットおよびリバウンド ストッパを取りはずす。

3 シリンダ取りはずし

- (1) シリンダ内のフルードをシエル内にもらすようにしてシリンダを取りはずす。

4 ベース バルブ取りはずし

- (1) プラスパーを使用して、ベース バルブを取りはずす。

リング ナット オイル シール交換

1 オイル シール取りはずし

注意 バイスに強くはさまない。

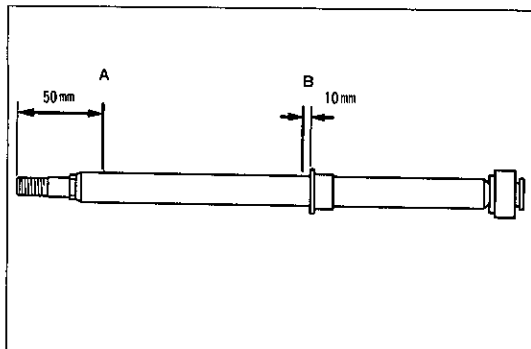
2 オイル シール取り付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイル シールをリング ナットに取り付ける。
S S T 09721-00030
- (2) オイル シール リップ部にキヤツスル MP グリース No. 2を塗布する。

ショック アブソーバ構成部品点検

1 ロッド ガイド摩耗点検

- (1) シリンダ ゲージを使用して、内径を測定する。
限 度 22.35mm



K 6679

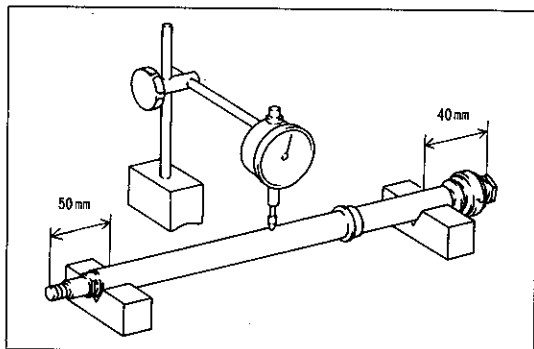
2 ピストン ロッド点検

(1) ロッドの摩耗、傷および振れを点検する。

① ロッドの外径をマイクロメータを使用して、図のA-B間で測定する。

限 度 21.90mm

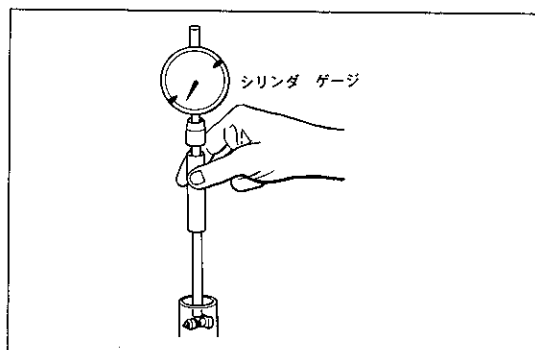
② A-B間の傷を点検する。



Z 9564

③ 振れを点検する。

限 度 0.10mm



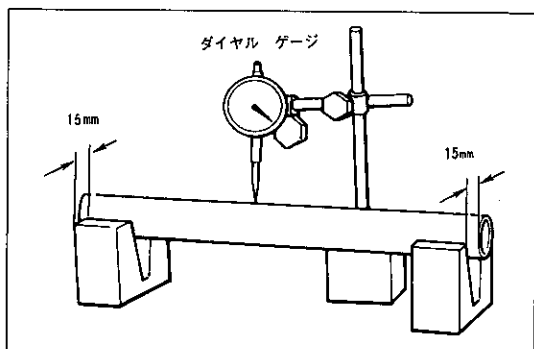
Z 4974

3 シリンダ点検

(1) 内径の摩耗および振れを点検する。

① 内径をシリンダ ゲージを使用して、数箇所測定し、最大内径を測定する。

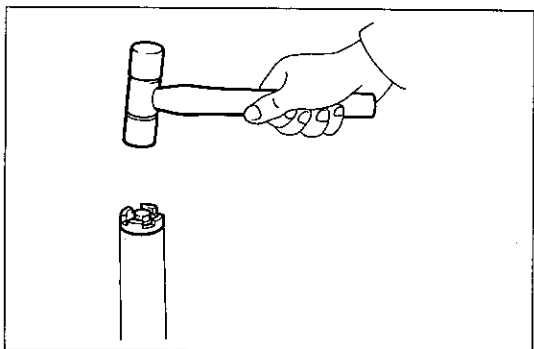
限 度 32.23mm



Z 4975

② シリンダ中央部の振れを測定する。

限 度 0.06mm

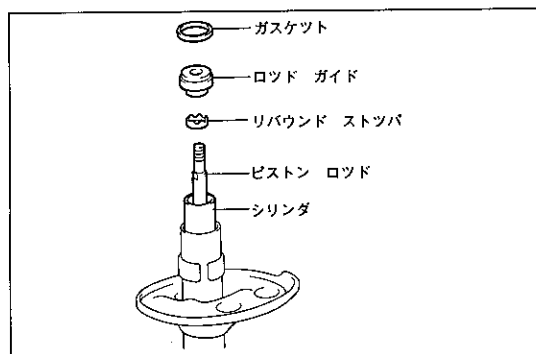


K 6680

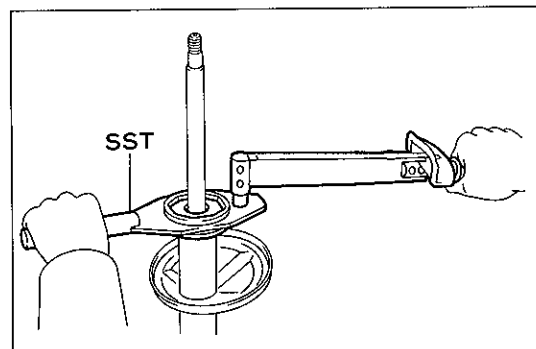
オイル式ショック アブソーバ組み付け

1 ベース バルブ取り付け

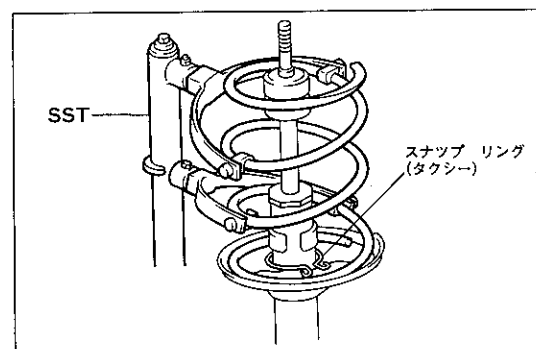
(1) プラスチック ハンマを使用して、ベース バルブをシリンダに打ち込む。



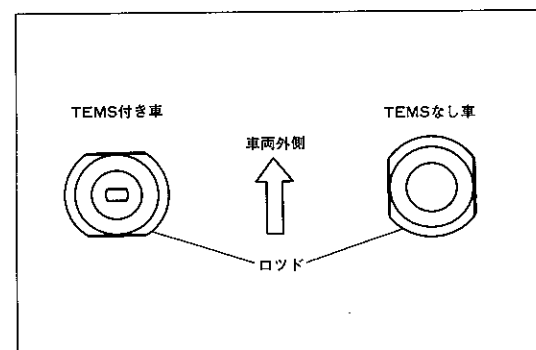
K 6675



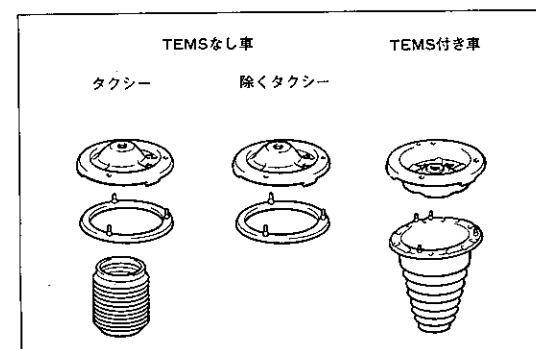
K 5394



K 6681



K 6682



K 6683

2 シリンダ取り付け

- (1) シエルにキヤツスル ショック アブソーバ フルードを注入する。

注入量 315cc

- (2) シエルにシリンダを挿入する。

3 ピストン ロッド取り付け

- (1) ピストン ロッドに、リバウンド ストツパおよびロッド ガイドを取り付けシリンダに挿入する。

注意 リバウンド ストツパは波形部が上にくるようにする。

- (2) 新品のガスケットをロッド ガイド上部に取り付ける。

4 リング ナット取り付け

- (1) ピストン ロッドを80~90mm引き上げ、SSTを使用してリング ナットを規定トルクで締め付ける。

S S T 09721-00071

T = 1250kg・cm (SST未使用時)

SST使用時の締め付けトルク

トルク レンチ形式	表示トルク (kg・cm)
1300F	1100
1900F	1120

フロント ショック アブソーバ ASSY取り付け

1 スナツプ リング取り付け (タクシー)

- (1) スナツプ リングを取り付ける。

2 スプリング バンパ取り付け

- (1) スプリング バンパをロッドの切り欠き部の下に取り付ける。

3 コイル スプリング取り付け

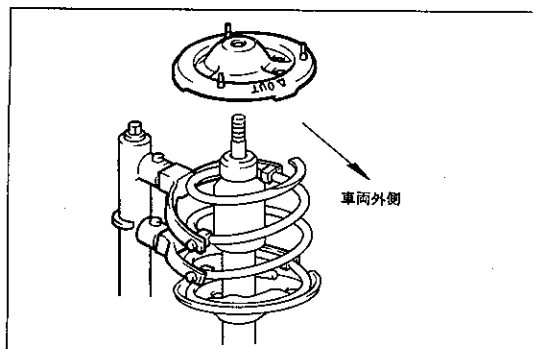
- (1) SSTを使用して、コイル スプリングを圧縮する。

S S T 09727-00010 09727-00030 09727-00045

- (2) コイル スプリング エンドをショック アブソーバの溝に合わせて取り付ける。

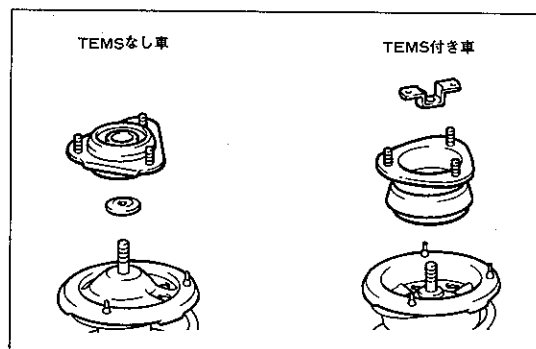
- (3) ロッドの切り欠きを図の方向に合わせる。

- (4) スプリング アツパ シートにインシュレータ (除くTEMS付き車) およびダスト カバー (TEMS付き車およびタクシー) を取り付ける。



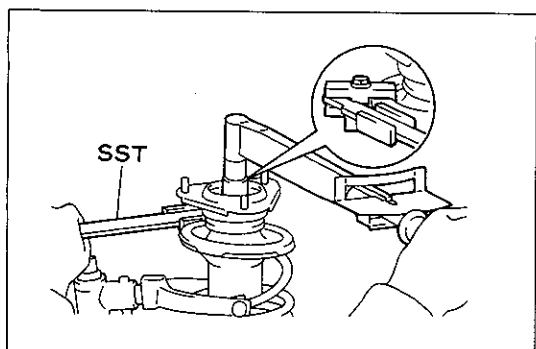
K 6684

- (5) スプリング アツパ シートのマーク (△OUT) を車両外側に向け、スプリング シートとピストン ロッドの切り欠きを合わせて取り付け。



K 6685

- (6) ダスト シール (TEMSなし車), サスペンション サポート およびアクチュエータ サポート ブラケット (TEMS付き車) を取り付け。



K 6686

- (7) スプリング アツパ シートをはさみ保持する。

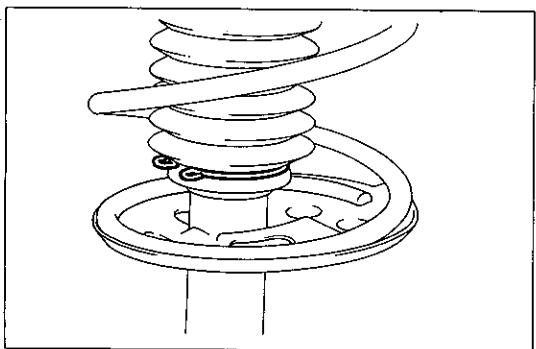
S S T 09729-22031

- (8) 新品のナットを締め付ける。

T = 475 kg・cm

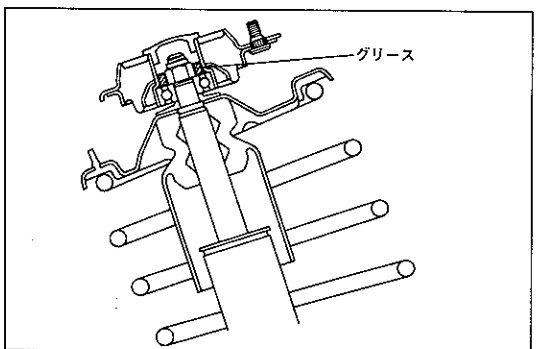
- (9) コイル スプリング圧縮用のSSTを取りはずす。

S S T 09727-00010 09727-00030 09727-00045



K 6670

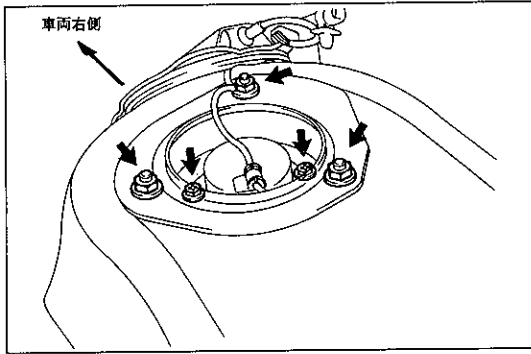
- (10) スナツプ リングを取り付ける。(タクシー)



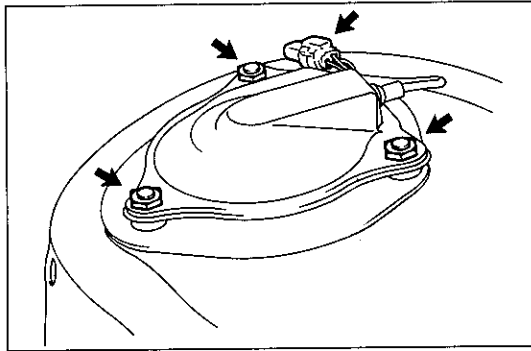
K 6687

- (11) サスペンション サポート ベアリング部にグリースを充てんする。(TEMSなし車)

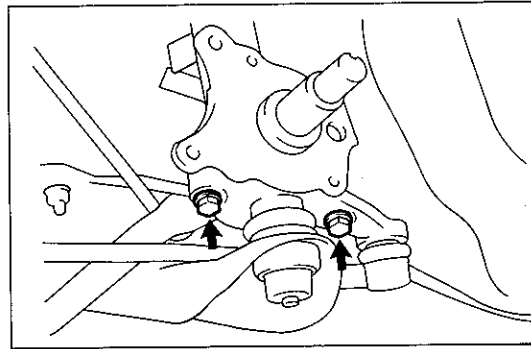
- (12) ベアリング ダスト カバーを取り付ける。(TEMSなし車)



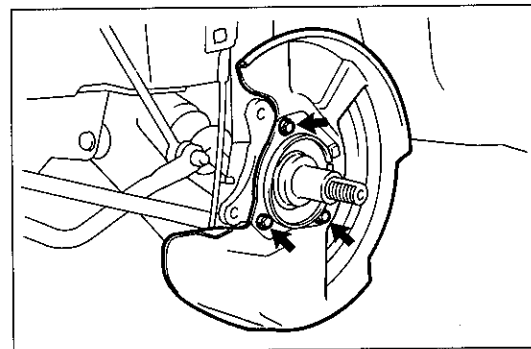
K 6668



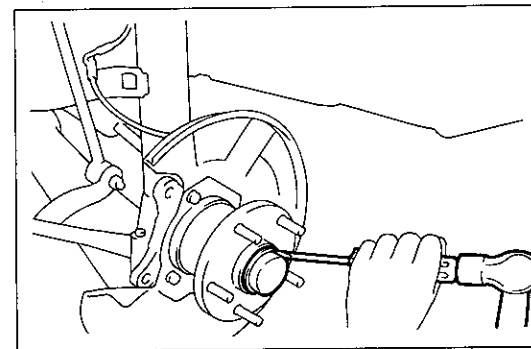
K 6667



K 6666



K 6665



K 6663

フロント ショック アブソーバ ASSY

ウイズ コイル スプリング取り付け

1 ショック アブソーバ ウィズ コイル スプリング取り付け

- (1) ナット 3個でサスペンション サポートを取り付ける。

$T=440\text{kg}\cdot\text{cm}$

注意 1 G-GTE車はパフォーマンス ロッドを共締めする。

- (2) アクチュエータのシャフトとアブソーバのロッドを合わせ、ボルト 2本でアクチュエータを取り付ける。(TEMS付き車)

$T=50\text{kg}\cdot\text{cm}$

注意 アクチュエータのW/H取り出しが車両右側になるように取り付ける。

- (3) ナット 3個で、アクチュエータ キャップを取り付ける。(TEMS付き車)

$T=140\text{kg}\cdot\text{cm}$

- (4) コネクタを接続しクランプする。(TEMS付き車)

2 ローアー ム取り付け

- (1) ワッシャを介してボルト 2本でローアー ムをショック アブソーバに取り付ける。

$T=1100\text{kg}\cdot\text{cm}$

3 ディスク ブレーキ ダスト カバー取りはずし

- (1) ボルト 3本 (ESCなし車は 4本) で、ディスク ブレーキ ダスト カバーを取り付ける。

$T=185\text{kg}\cdot\text{cm}$

4 フロント アクスル ハブ 取り付け

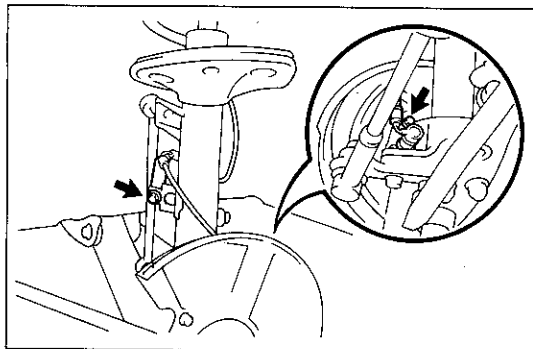
(P9-40参照)

5 ハブ グリース キャップ取り付け

- (1) ハブ グリース キャップを取り付ける。

注意

- ・ハブ グリース キャップが変形しないように注意する。
- ・ハブ グリース キャップのアクスル ハブとかん合する部分に少しでも傷がある場合は新品のハブ グリース キャップを取り付ける。



K 6960

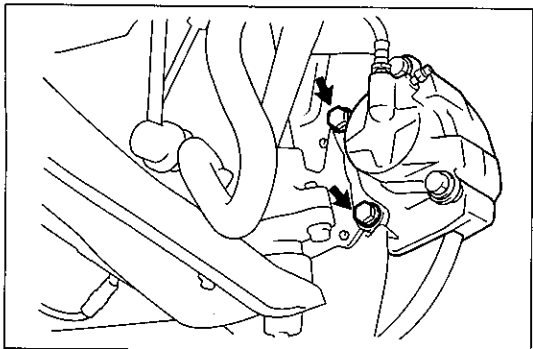
6 スピード センサ取り付け

- (1) ボルトで、スピード センサ W/Hをショック アブソーバに取り付ける。

T=80kg・cm

- (2) W/Hがショック アブソーバの車両外側になるように、ボルトでスピード センサを取り付ける。

T=190kg・cm



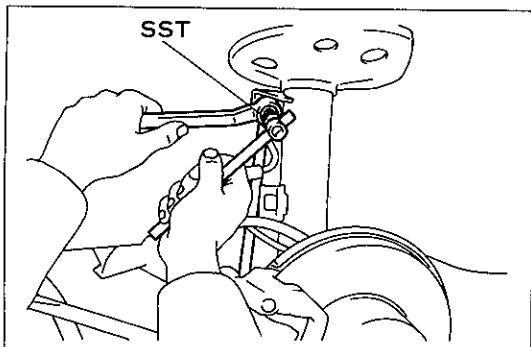
K 6663

7 フロント ブレーキ ディスクおよびキャリパ取り付け

- (1) ディスクとアクスル ハブの合わせマークを合わせて、フロント ディスクを取り付ける。

- (2) ボルト 2 本で、ブレーキ キャリパを取り付ける。

T=925kg・cm



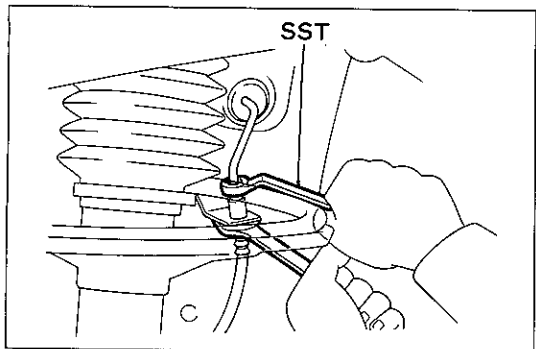
K 6662

8 スタビライザ リンク取り付け (除くタクシーおよび教習車)

- (1) SSTを使用して、ナットでスタビライザ リンクを取り付ける。

S S T 09313-30021

T=970kg・cm



K 6661

9 ブレーキ フレキシブル ホース取り付け

- (1) フレキシブル ホースをショック アブソーバのブラケットに通し、SSTを使用して、取り付ける。

S S T 09751-36011

T=155kg・cm

注意 ホースをねじらないようにする。

- (2) クリップ 2 個およびE リングを取り付ける。

10 ブレーキ エア抜きおよびフルード漏れ点検

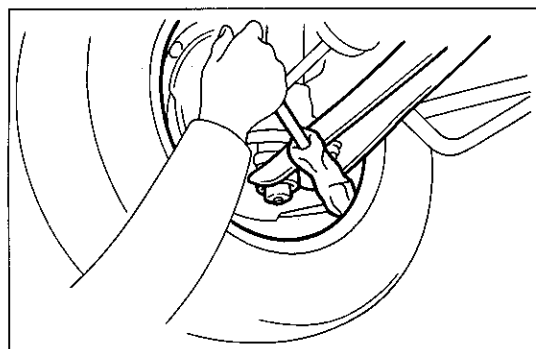
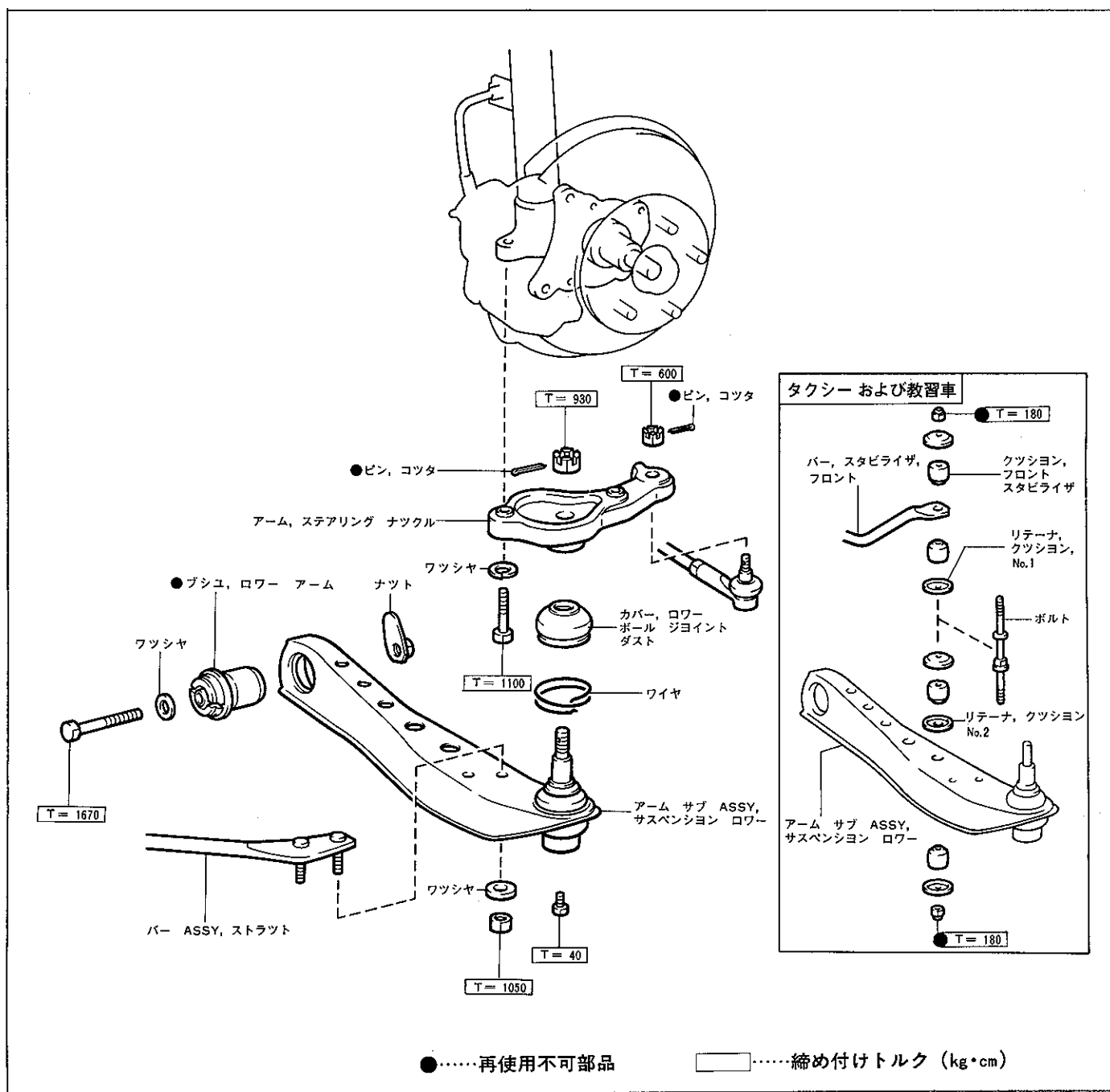
11 フロント ホイール取り付け

T=1050kg・cm

12 フロント ホイール アライメント点検および調整

(P9-4参照)

ロワー サスペンション アーム 脱着構成図



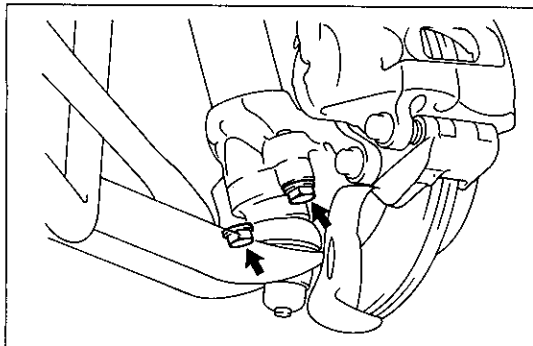
K 6690

ロワー ボール ジョイント前点検

1 ボール ジョイントのガタ点検

- (1) 車両のフロントをジャッキ アップする。
- (2) ホイールを支点にして、ロワー アームを押し上げ、垂直方向のガタを点検する。

基準値 2.5mm



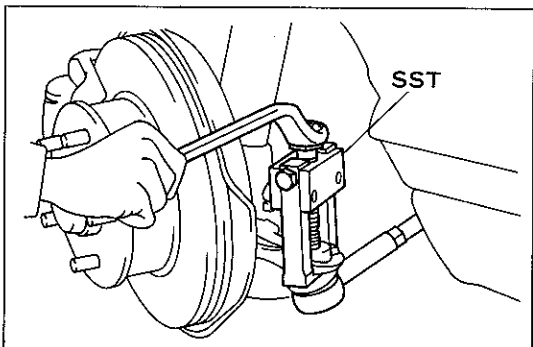
K 6691

ロワー アーム取りはずし

1 フロント ホイール取りはずし

2 ショック アブソーバ切り離し

- (1) ボルト 2 本をはずして、ショック アブソーバをナックル アームから切り離す。



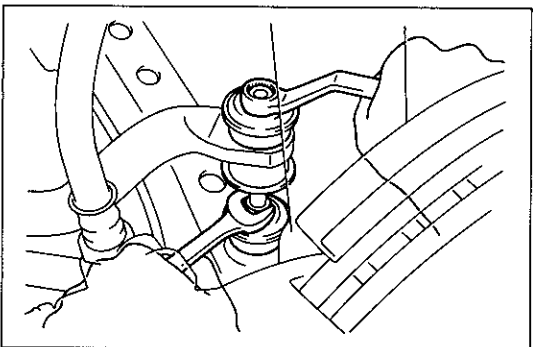
K 6692

3 タイ ロッド エンド切り離し

- (1) コッタ ピンおよびキャツスル ナットを取りはずす。

- (2) SSTを使用して、タイ ロッド エンドをナックル アームから切り離す。

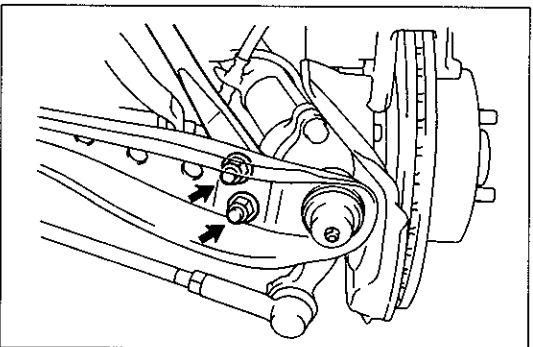
S S T 09628-62011



K 6693

4 スタビライザ バー切り離し (タクシーおよび教習車)

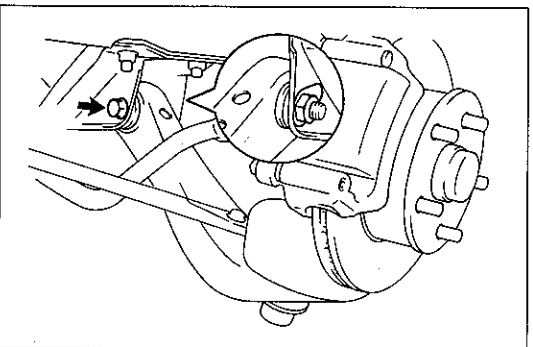
- (1) ナットをはずして、リテーナ、クッションおよびボルトを取りはずし、スタビライザ バーをロワー アームから切り離す。



K 6694

5 ストラット バー切り離し

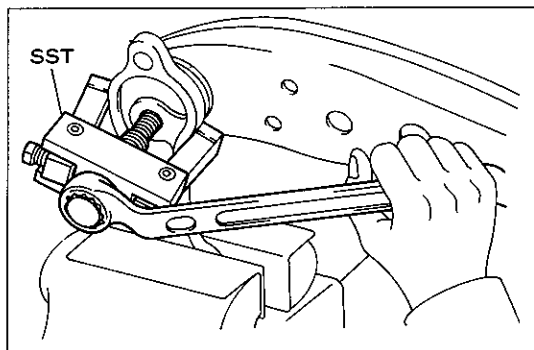
- (1) ナット 2 個をはずして、ストラット バーをロワー アームから切り離す。



K 6695

6 ロワー アーム ウイズ ナックル アーム取りはずし

- (1) ボルトをはずして、ロワー アーム ウイズ ナックル アームを取りはずす。

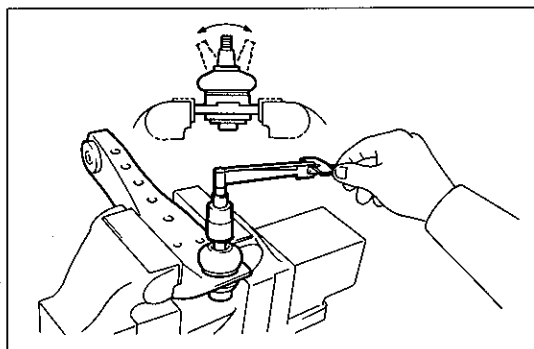


K 6696

7 ローアーム取りはずし

- (1) ナックルアームをバイスに固定し、コッタピンおよびキヤツスルナットを取りはずす。
- (2) SSTを使用して、ナックルアームをローアームから取りはずす。

SST 09628-62011



K 6697

ローボールジョイント点検

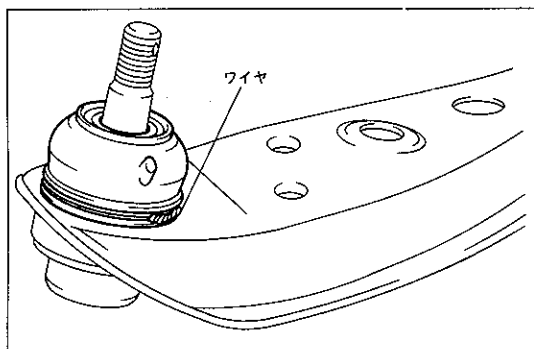
1 ボールジョイント回転具合点検

- (1) スタッドを揺動方向に5往復させた後、12~14秒/回転の速度で連続して回転させ、5回目にトルクを測定する。

基準値 $T = 25 \sim 45 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

2 ブーツ点検

- (1) ブーツに亀裂がないことを点検する。

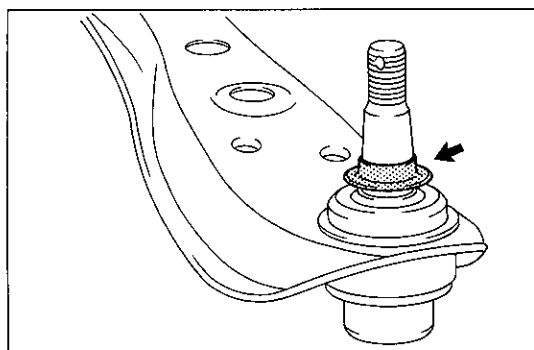


K 6698

ローボールジョイントダストカバー交換

1 ダストカバー取りはずし

- (1) ワイヤをはずし、ダストカバーを取りはずす。

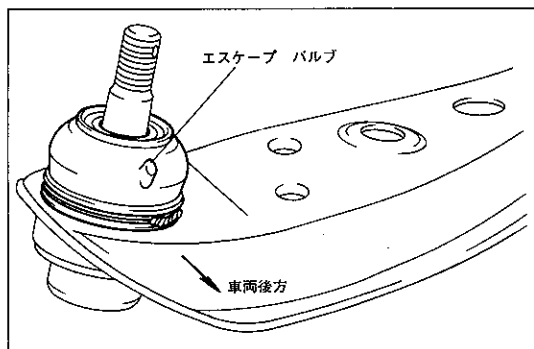


K 6699

2 ダストカバー取り付け

- (1) ダストカバープレートの摺動部にグリースを塗布する。

注意 スタッドのテーパ部にグリースなどを付着しない。

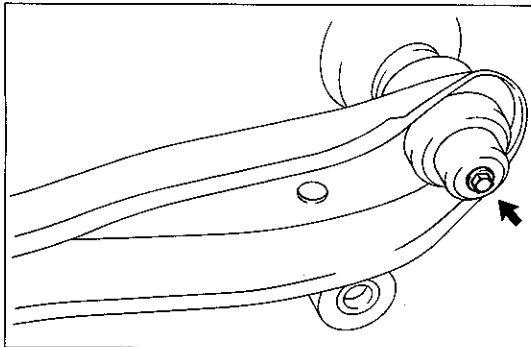


K 6698

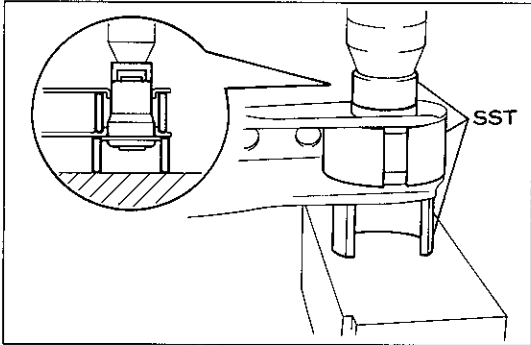
- (2) エスケープバルブの位置が車両後方になるように、ダストカバーを取り付ける。

- (3) ワイヤを2重巻きにし、ダストカバーが回転しないようにひねる。

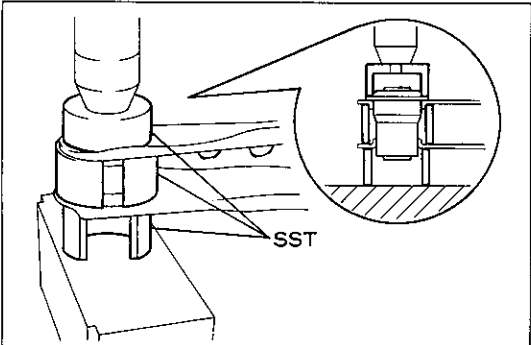
注意 ワイヤの端部は車両の前方または後方になるようにする。



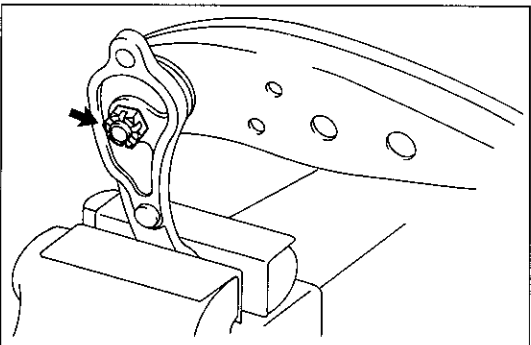
K 6700



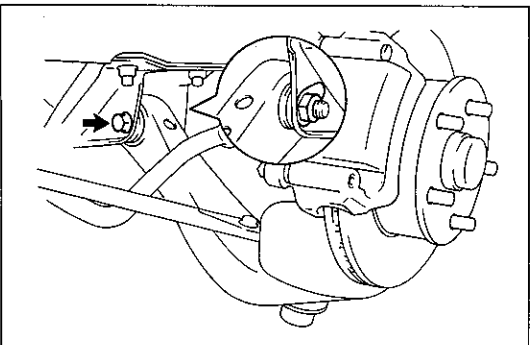
K 6701



K 6702



K 6703



K 6695

- (4) ボール ジョイント下部のプラグをはずし、グリース フィッティングを取り付け、キャツスル シヤシ グリース スペシャルを注入する。

注意 ・グリース注入はナツクル アームを取り付けた状態で行う。

・ダスト カバーのエスケープ バルブからグリースがもれ出すまで注入する。

- (5) プラグを取り付ける。

$T = 40 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

ロワー アーム ブシュ交換

1 ブシュ取りはずし

- (1) SSTを使用して、ブシュを取りはずす。

S S T 09710-03070 09710-03090 09726-01051

2 ブシュ取り付け

- (1) SSTを使用して、新品のブシュを車両前方方向から取り付ける。

S S T 09710-03050 09710-03090 09726-01051

ロワー アーム取り付け

1 ナツクル アーム取り付け

- (1) ナツクル アームを固定し、ロワー アームをキャツスル ナットで取り付ける。

$T = 930 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

- (2) 新品のコッタ ピンを取り付ける。

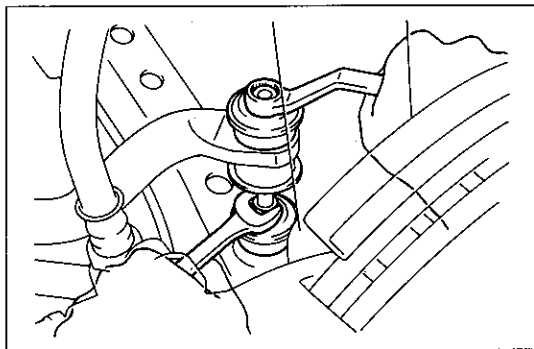
注意 ・キャツスル ナット締め付け後のコッタ ピン穴合わせは60°以内の増し締め方向に回す。

・コッタ ピンは縦割りにし、ナツクル アーム上面から11mm以下の範囲に曲げる。

2 ロワー アーム ウィズ ナツクル アーム仮締め

- (1) ボルトを車両前方から差し込み、ロワー アーム ウィズ ナツクル アームをボデーに仮締める。

注意 ストラット バーのボルトをロワー アームに通しておく。

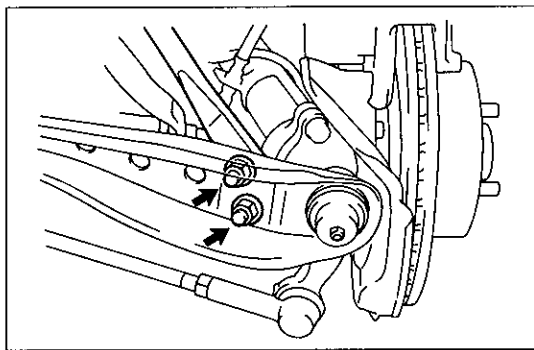


K 6693

3 スタビライザ バー取り付け (タクシーおよび教習車)

- (1) 新品のナット 2 個で、スタビライザ バーを取り付ける。

$T=180\text{kg}\cdot\text{cm}$

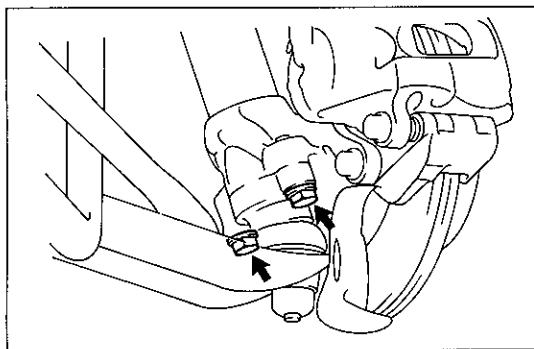


K 6694

4 ストラット バー取り付け

- (1) ワッシヤを介してナットを締め付け、ストラット バーをローアー アームに取り付ける。

$T=1050\text{kg}\cdot\text{cm}$



K 6691

5 ショック アブソーバおよびタイ ロッド エンド取り付け

- (1) ローアー アームを押し上げ、ナックル アームと ショック アブソーバの穴を合わせ、ワッシヤを介してボルトで仮締めする。

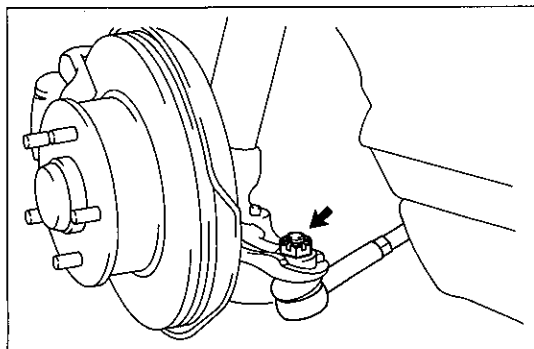
- (2) タイ ロッド エンドをキャツスル ナットで取り付け、新品のコッタ ピンを取り付ける。

$T=600\text{kg}\cdot\text{cm}$

注意 キャツスル ナット締め付け後のコッタ ピン穴合せは 60° 以内の増し締め方向に回す。

- (3) ショック アブソーバ×ナックル アームのボルト 2 本を締め付ける。

$T=1100\text{kg}\cdot\text{cm}$



K 6704

6 フロント ホイール取り付け

$T=1050\text{kg}\cdot\text{cm}$

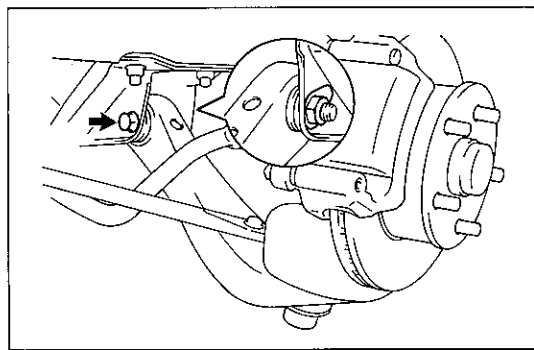
7 車両落ち着かせ

- (1) 車両をジャッキ ダウンして数回上下にゆすり、フロント サスペンションを落ち着かせる。
- (2) 車両をジャッキ アップして、ローアー アームをジャッキで支えサスペンションに荷重をかける。

8 ローアー アーム本締め

- (1) ボルトを締め付ける。

$T=1670\text{kg}\cdot\text{cm}$



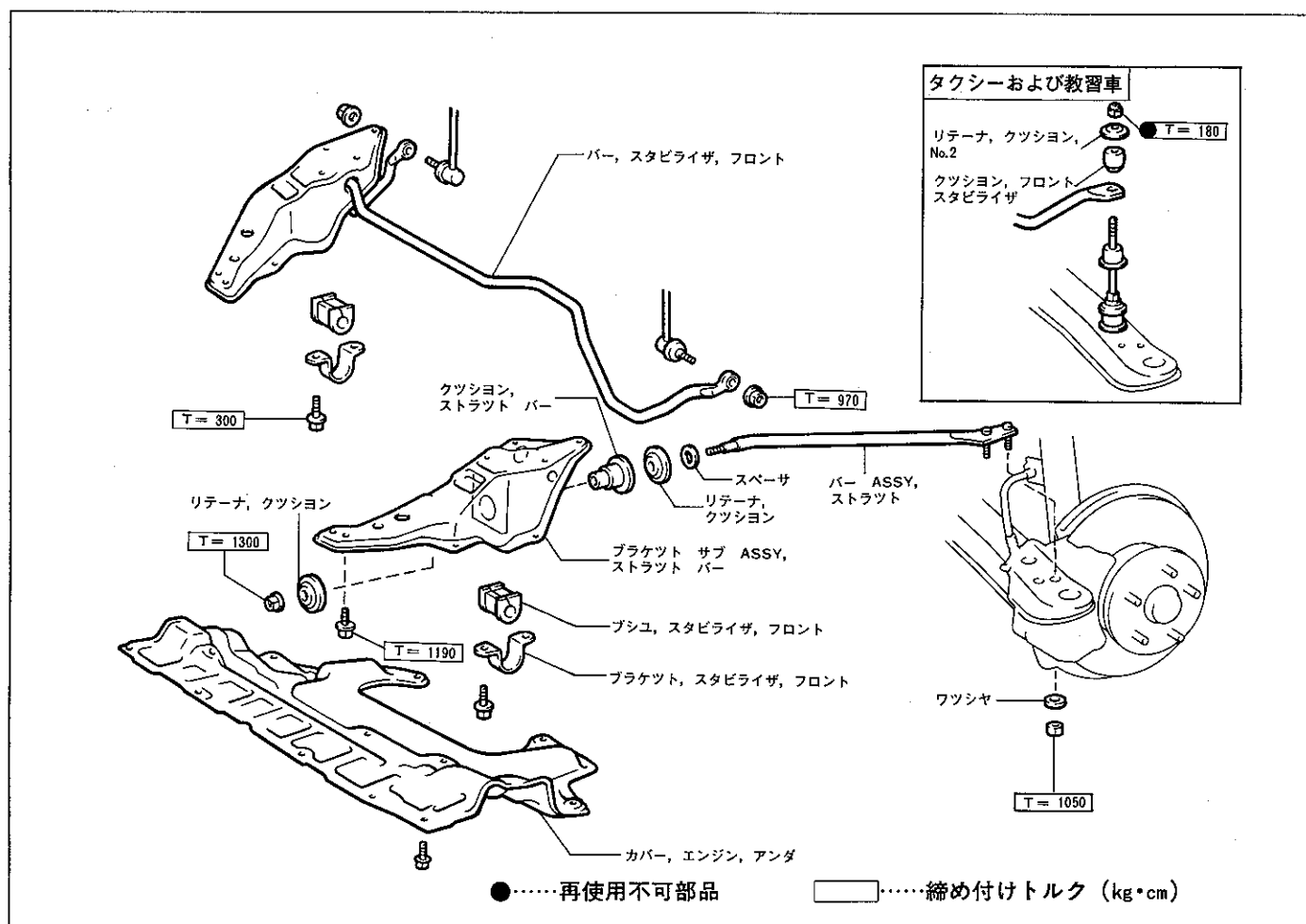
K 6695

9 フロント ホイール アライメント点検および調整

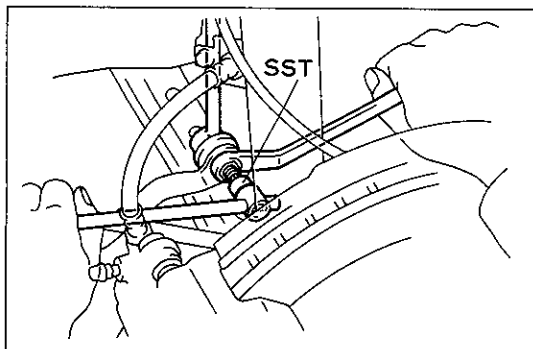
(P9-4参照)

ストラット バー

脱着構成図



K 6705



K 6706

ストラット バー取りはずし

- 1 フロント ホイール取りはずし
- 2 エンジン アンダ カバー取りはずし
- 3 スタビライザ リンク切り離し

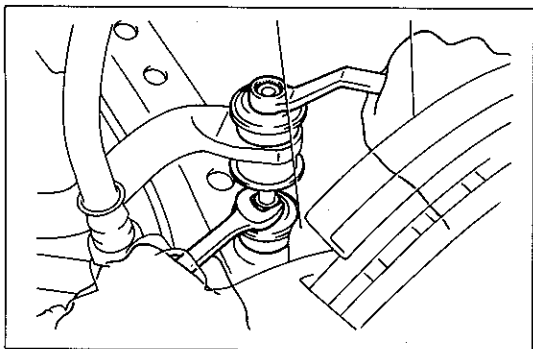
除くタクシーおよび教習車

- (1) SSTを使用して、左右のスタビライザ リンク下側のナットをはずし、スタビライザ バーからリンクを切り離す。

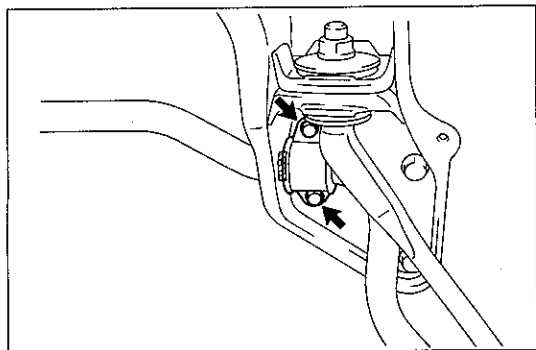
S S T 09313-30021

タクシーおよび教習車

- (1) 左右のスタビライザ リンク上側のナットをはずして、スタビライザ バーからリンクを切り離す。



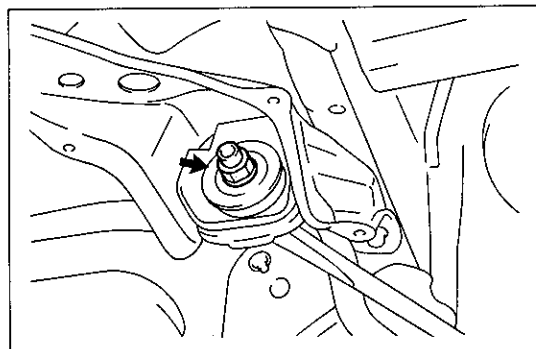
K 6693



K 6819

4 スタビライザ プッシュ取りはずし

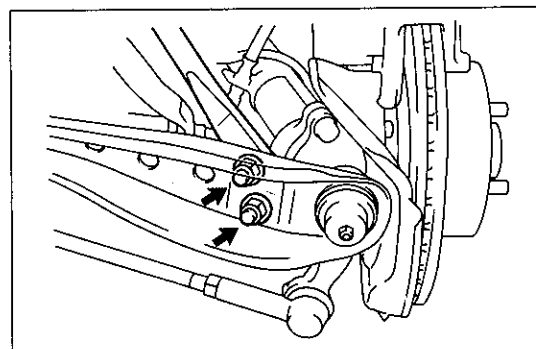
- (1) ボルト4本をはずして、左右のスタビライザ ブラケットおよびプッシュを取りはずす。



K 6707

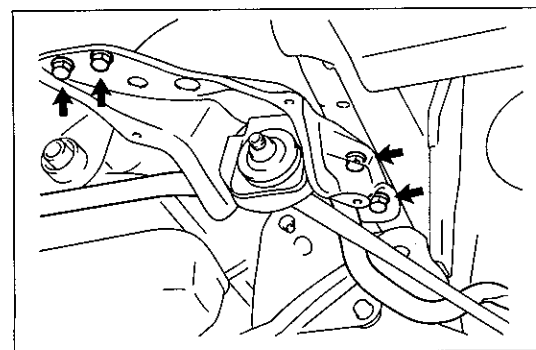
5 ストラット バー取りはずし

- (1) ストラット バー先端のナットをゆるめる。



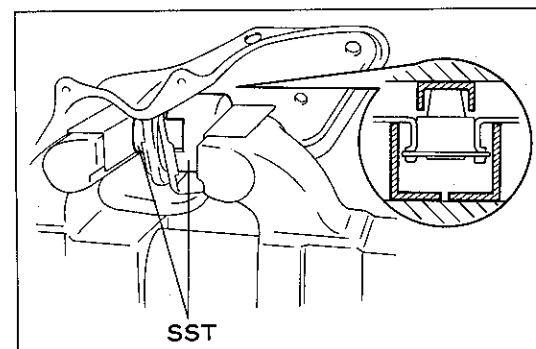
K 6694

- (2) ナット2個をはずして、ストラット バーをローアームから切り離す。



K 6708

- (3) ボルト4本をはずして、ストラット バー ウィズ ブラケットをスタビライザから抜き取る。
 (4) ナットおよびリテーナをはずして、ストラット バー、リテーナおよびスペーサをブラケットから取りはずす。



K 6965

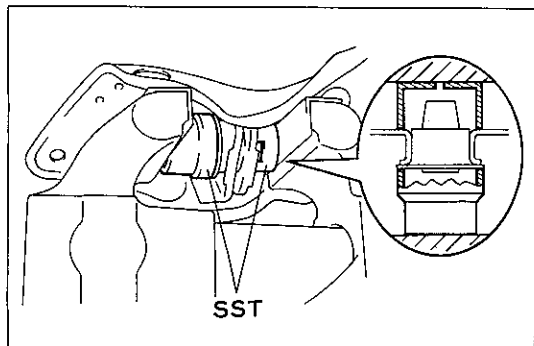
ストラット バー クッション交換

1 クッション取りはずし

- (1) SSTとバイスを使用して、クッションをブラケットから取りはずす。

S S T 09570-22010 09726-32020

〈参考〉 SST (09570-22010) は、構成部品で、外径の大きいものを使用する。

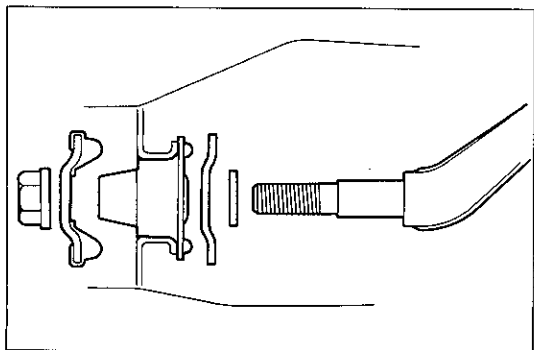


K 6966

2 クッション取り付け

- (1) SSTとバイスを使用して、クッションをブラケットに取り付ける。

S S T 09570-22010 09710-05060(または09649-17010)

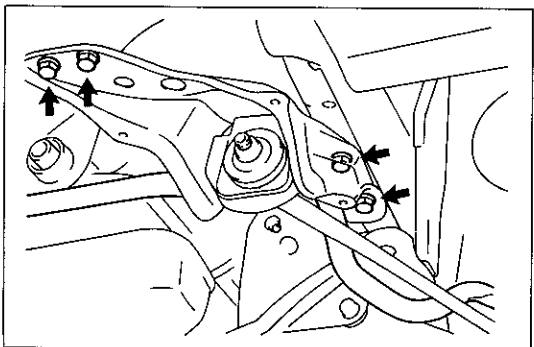


K 6902

ストラット バー取り付け

1 ストラット バー取り付け

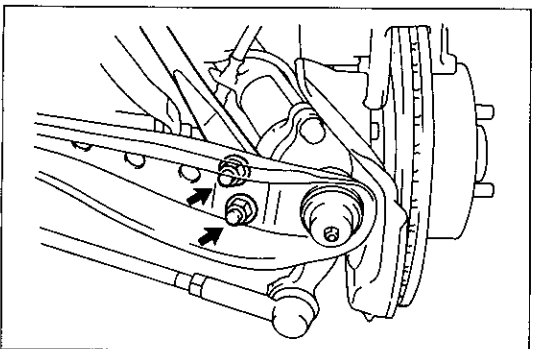
- (1) ストラット バーに、スペーサ、リテーナ、ブラケットおよびリテーナを順に通し、ナットで仮締めする。



K 6708

- (2) ブラケットにスタビライザ バーを通し、ストラット バーのボルトをローアームの穴に合わせてから、ボルト4本でストラット バー ブラケットをボデーに取り付ける。

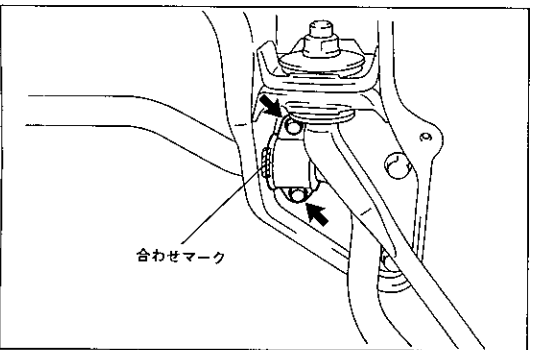
T=1050kg・cm



K 6694

- (3) ワッシヤを介してナット2個で、ストラット バーをローアームに取り付ける。

T=1050kg・cm

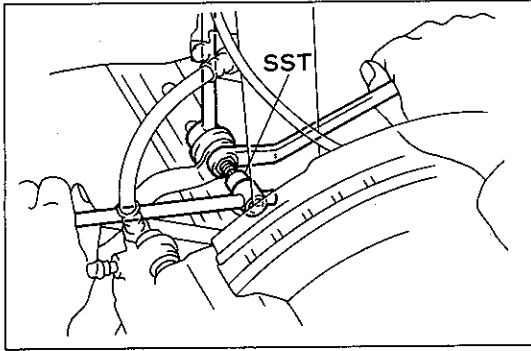


K 6819

2 スタビライザ ブシュ取り付け

- (1) ブシュをスタビライザ バーの合わせマークに合わせて取り付け、ボルト4本で左右のスタビライザ ブラケットを取り付ける。

T=300kg・cm



K 6706

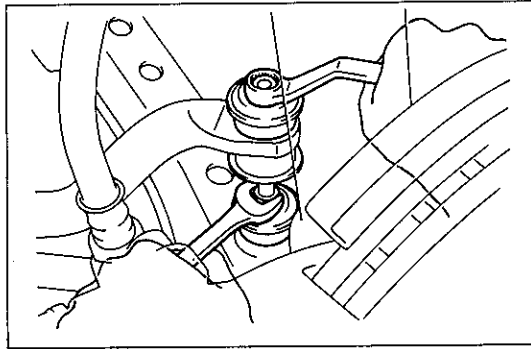
3 スタビライザ リンク取り付け

除くタクシーおよび教習車

- (1) SSTを使用して、左右のスタビライザ リンク下側のナットを取り付ける。

S S T

T = 970 kg・cm



K 6693

タクシーおよび教習車

- (1) 新品のナット 2 個で、左右のスタビライザ リンクを取り付ける。

T = 180 kg・cm

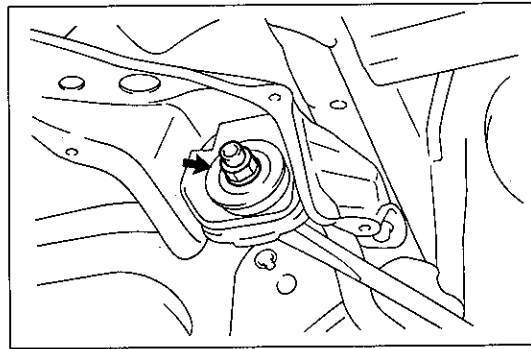
4 フロント ホイール取り付け

T = 1050 kg・cm

5 車両落ち着かせ

- (1) 車両をジャッキ ダウンして数回上下にゆすり、フロント サスペンションを落ち着かせる。
- (2) 車両をジャッキ アップしてローアームをジャッキで支え、サスペンションに荷重をかける。

注意 空車から標準車高程度になるまでジャッキ アップする。



K 6707

6 ストラット バー本締め

T = 1300 kg・cm

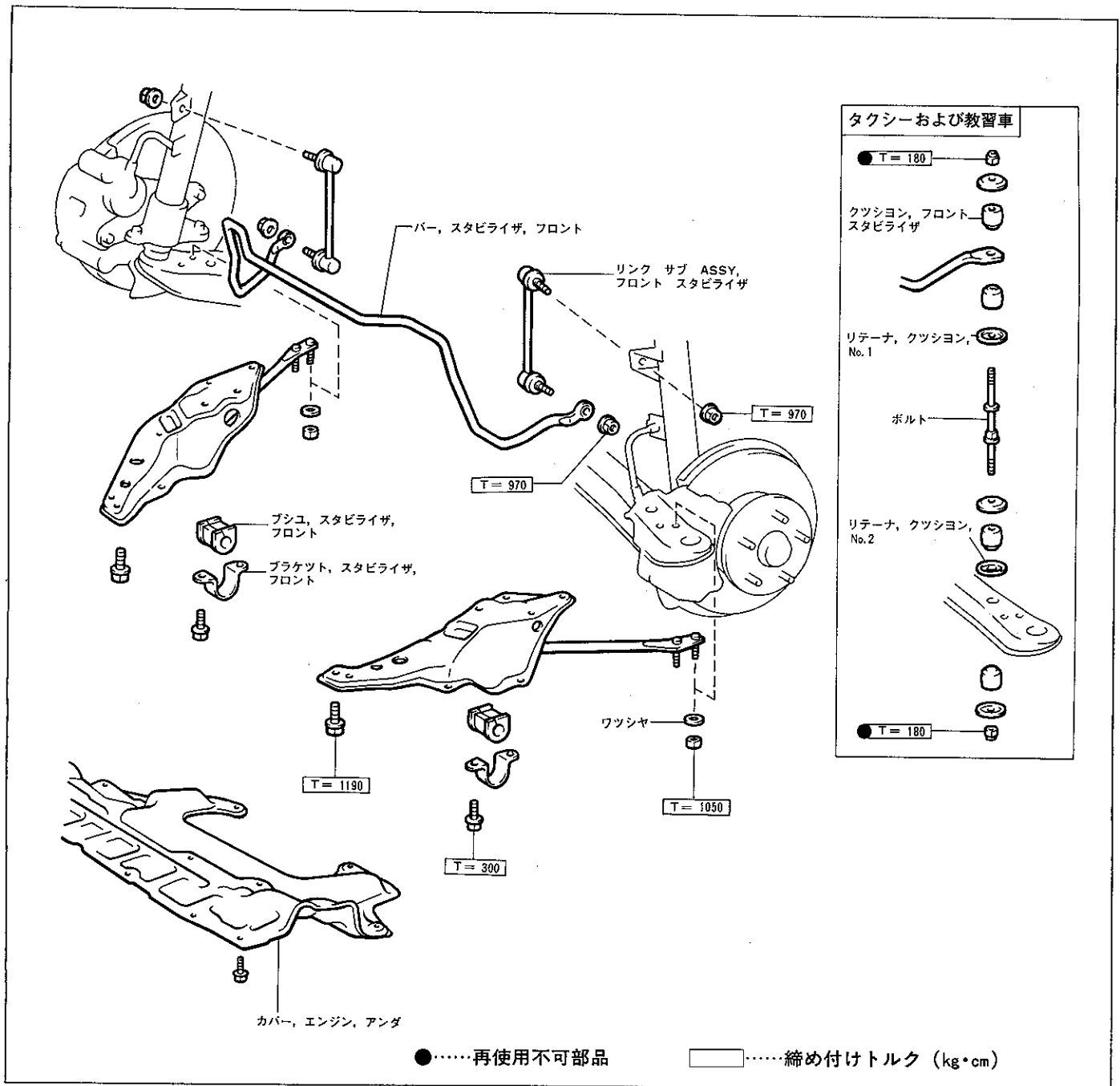
7 エンジン アンダ カバー取り付け

8 フロント ホイール アライメント点検および調整

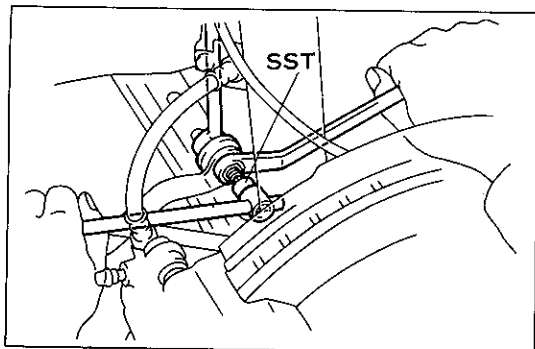
(P9-4参照)

スタビライザ バー

脱着構成図



K 6709



K 6706

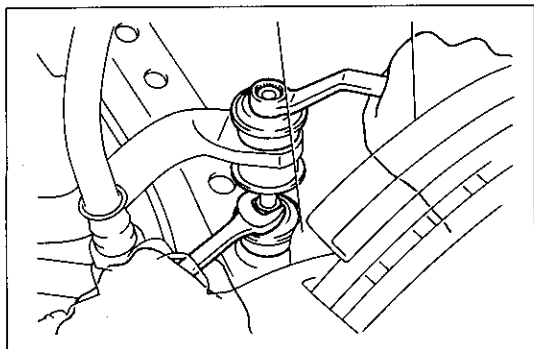
スタビライザ バー取りはずし

- 1 フロント ホイール取りはずし
- 2 エンジン アンダ カバー取りはずし
- 3 スタビライザ リンク取りはずし

除くタクシーおよび教習車

- (1) SSTを使用して、ナット4個をはずし、左右のスタビライザ リンクを取りはずす。

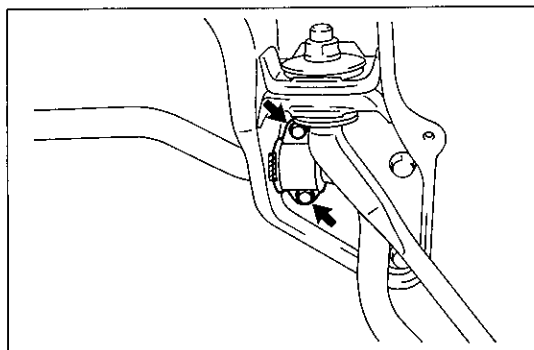
S S T 09313-30021



K 6693

タクシーおよび教習車

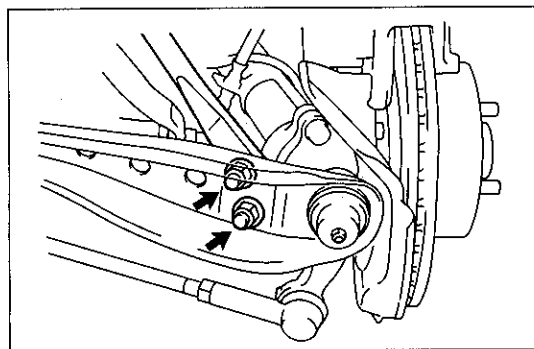
- (1) ナット 4 個をはずして、左右のリテーナ、クッションおよびボルトを取りはずす。



K 6819

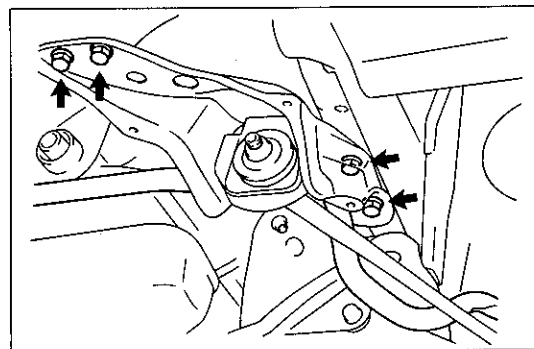
4 スタビライザ バー取りはずし

- (1) ボルト 4 本をはずして、左右のスタビライザ ブラケットおよびブッシュを取りはずす。



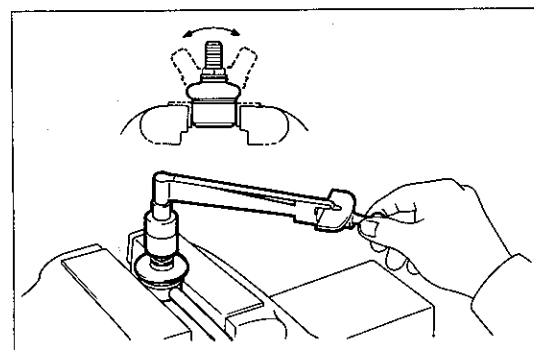
K 6694

- (2) ナット 4 個をはずして、左右のストラット バーをローアームから切り離す。



K 6708

- (3) ボルト 8 本をはずして、左右のストラット バー ブラケットをはずし、スタビライザ バーを取りはずす。



K 6710

スタビライザ リンク点検

(除くタクシーおよび教習車)

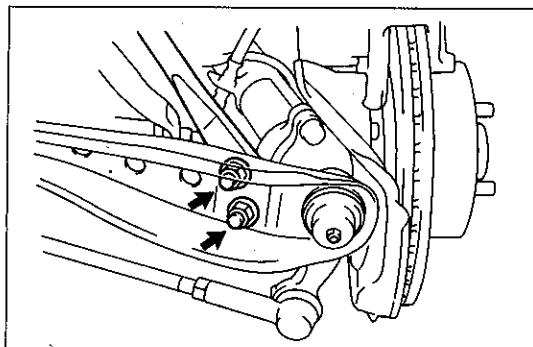
1 ボール ジョイント回転具合点検

- (1) スタッドを揺動方向に 5 往復させた後、2～4 秒/回転の速度で連続して回転させ、5 回目にトルクを測定する。

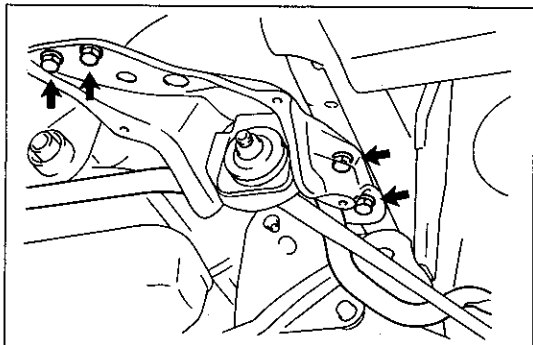
基準値 0.5～15kg・cm

2 ブーツ点検

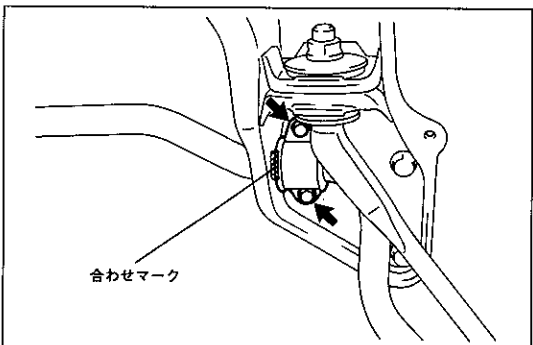
- (1) ブーツに亀裂がないことを点検する。



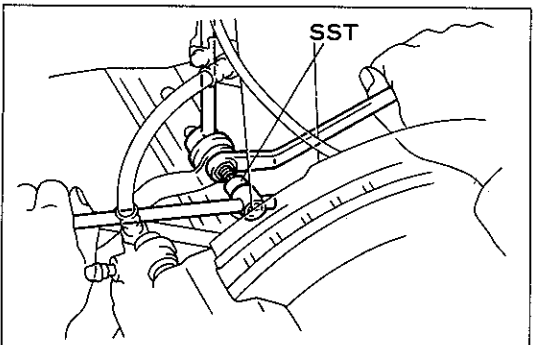
K 6694



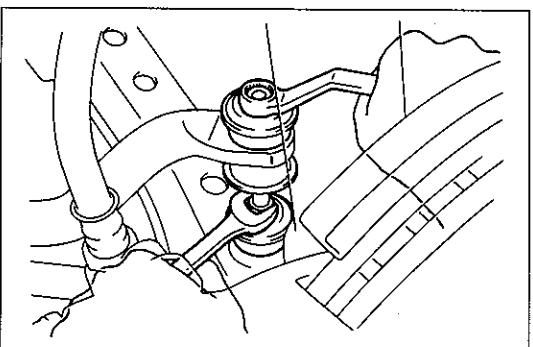
K 6708



K 6819



K 6706



K 6693

スタビライザ バー取り付け

1 スタビライザ バー取り付け

- (1) スタビライザ バーを左右のストラット・バー ブラケットに通す。

注意 スタビライザ バーがストラット バーの上になるようにする。

- (2) 左右のストラット バーを、ワッシヤを介してナット 4 個でローアームに取り付ける。

$T = 1050 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

- (3) ボルト 8 本で、左右のストラット バー ブラケットをボデーに取り付ける。

$T = 1190 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

- (4) プッシュをスタビライザ バーの合わせマークに合わせて取り付け、ボルト 4 本で左右のスタビライザ ブラケットをストラット バー ブラケットに取り付ける。

$T = 300 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

2 スタビライザ リンク取り付け

除くタクシーおよび教習車

- (1) SSTを使用して、ナット 4 個で左右のスタビライザ リンクを取り付ける。

$T = 970 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

〈参考〉 識別色 黄色メッキ (右側), 緑色メッキ (左側)

タクシーおよび教習車

- (1) 新品のナット 4 個で、左右のスタビライザ リンクを取り付ける。

$T = 180 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

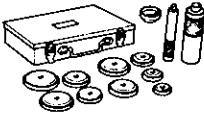
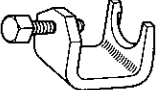
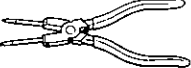
3 エンジン アンダ カバー取り付け

4 フロント ホイール取り付け

$T = 1050 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

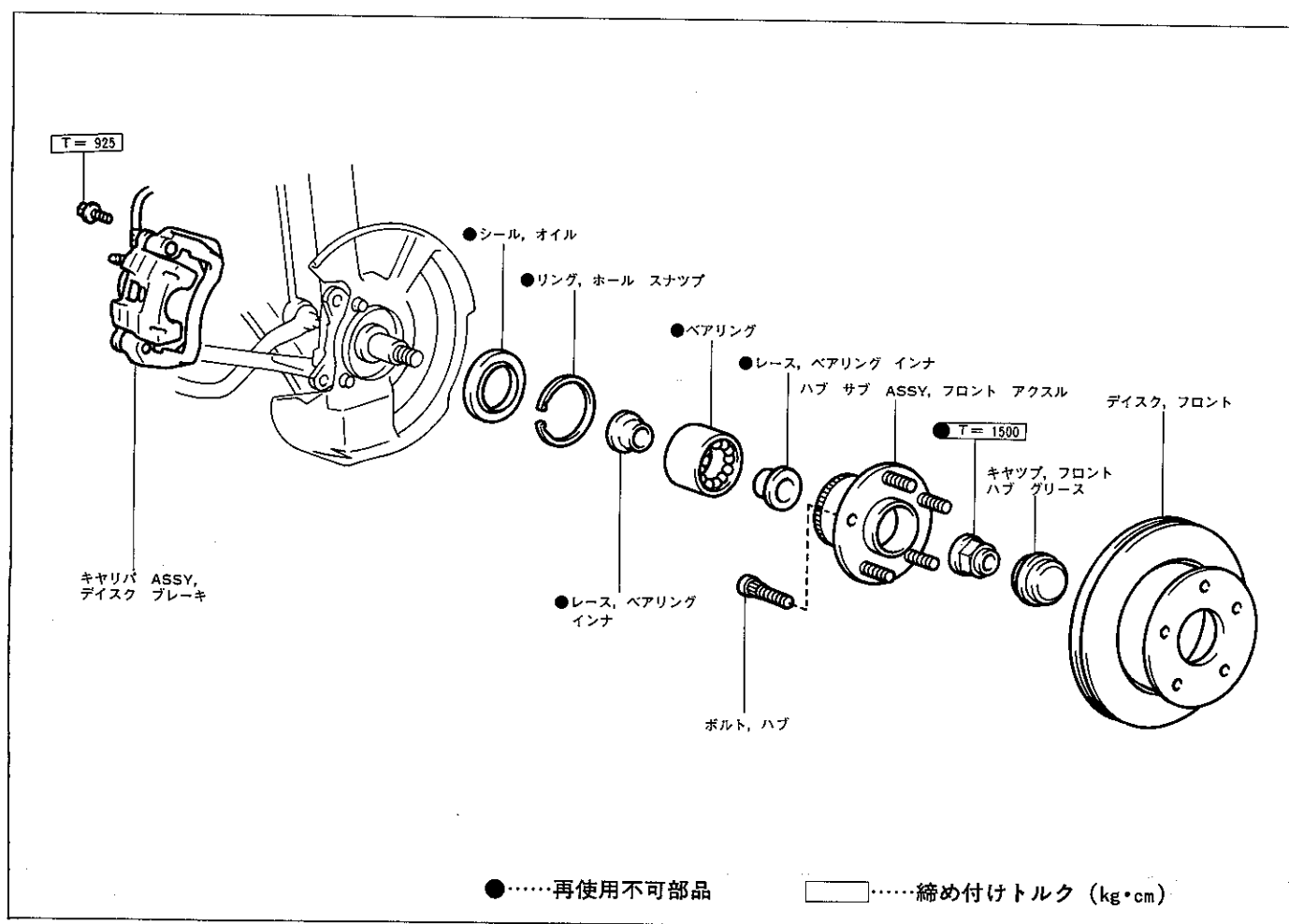
5 フロント ホイール アライメント点検および調整 (P9-4参照)

フロント アクスル ハブ 準備品

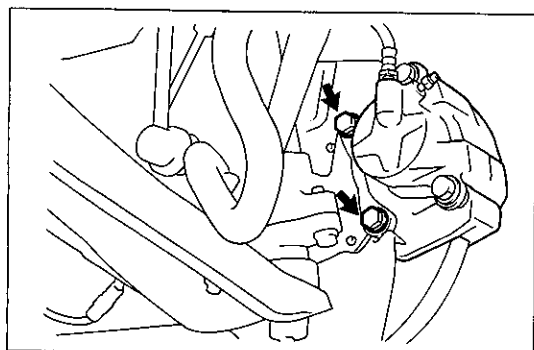
SST		09308-00010 プラー, オイル シール	オイル シール取りはずし用
		09608-32010 リブレーサ, ステアリング ナックル オイル シール	オイル シール取り付け用
		09608-35014 ツール セット, アクスル ハブ アンド ドライブ ピニオン ベアリング	
		09608-06110 リブレーサ, フロント ハブ インナ アンド ドライブ ピニオン フロント ベアリング カップ	
		09628-10011 プラー, ボール ジョイント	ハブ ボルト取りはずし用
		09905-00013 プライヤ, スナツプ リング	ホール スナツプ リング脱着用
工 具	ソケット レンチ (32mm)		アクスル ハブ取り付けナット締め付け用
計 器	ダイヤル ゲージ		アクスル ハブ振れ測定用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)		アクスル ハブ取り付けナット締め付け用
油 脂 その他	キャツスル MP グリース No. 2		オイル シール リップ部塗布用

フロント アクスル ハブ

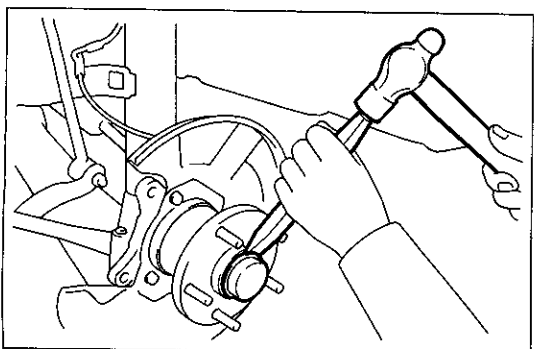
脱着分解構成図



K6967



K6663



K6664

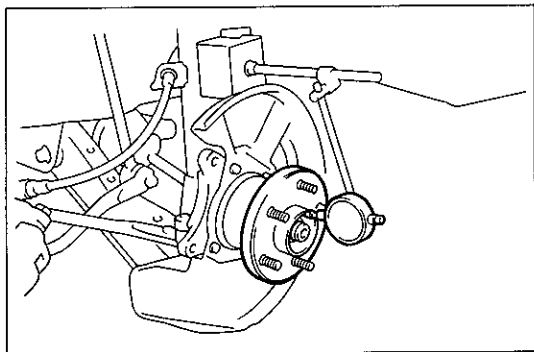
フロント アクスル ハブ取りはずし

- 1 フロント ホイール取りはずし
- 2 フロント ブレーキ キヤリパおよびディスク取りはずし
 - (1) ボルト2本をはずして、ブレーキ キヤリパをステアリングナックルから取りはずす。
 - (2) キヤリパを針金などで吊しておく。

注意 ブレーキ パッド間に厚さ10mm程度の木片などを入れる。
 - (3) ディスクとアクスル ハブに合わせマークを付けてから、フロント ディスクを取りはずす。

注意 ディスク面に油脂を付けない。
- 3 ハブ グリース キヤツプ取りはずし
 - (1) グリース キヤツプを取りはずす。

注意 グリース キヤツプのアクスル ハブとのかん合面に傷をつけたり、変形させないように注意する。

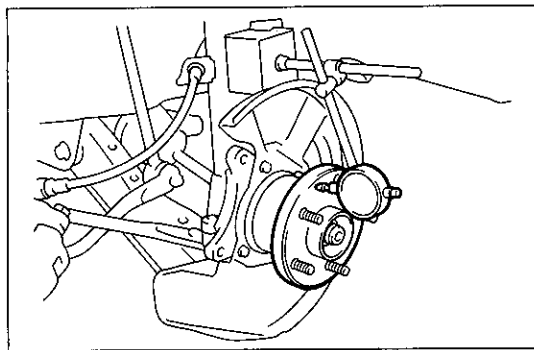


K 6711

4 ベアリング軸方向のガタ点検

- (1) ダイアル ゲージをアクスル ハブの内周付近にセットし、ベアリング軸方向のガタを点検する。

限 度 0.05mm

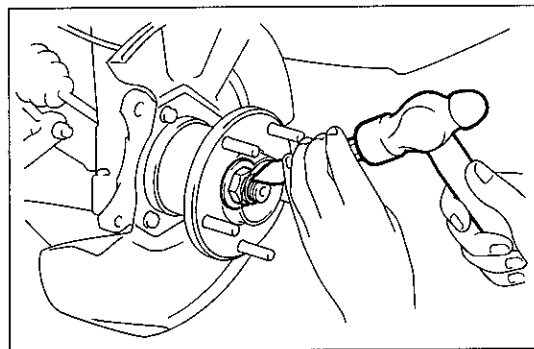


K 6712

5 アクスル ハブ振れ点検

- (1) ダイアル ゲージをアクスル ハブの外周付近にセットし、アクスル ハブの振れを点検する。

限 度 0.05mm



K 6713

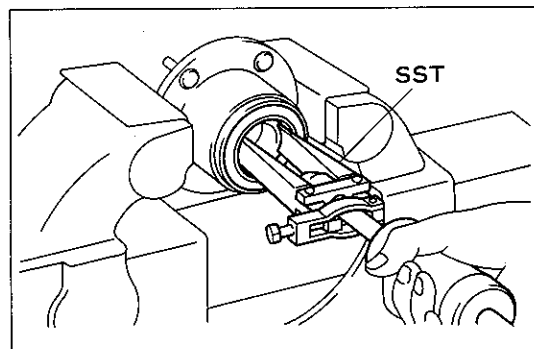
6 アクスル ハブ取りはずし

- (1) ナットのかしめを解き、ナットを取りはずす。

注意 ステアリング ナックル スピンドル部のねじ山をつぶさないように、完全にかしめを解く。

- (2) ステアリング ナックルからアクスル ハブを取りはずす。

注意 ESC付き車のアクスル ハブを床面などに置く時は、スキッド コントロール ロータを傷つけないようにロータ側を上にする。



K 6714

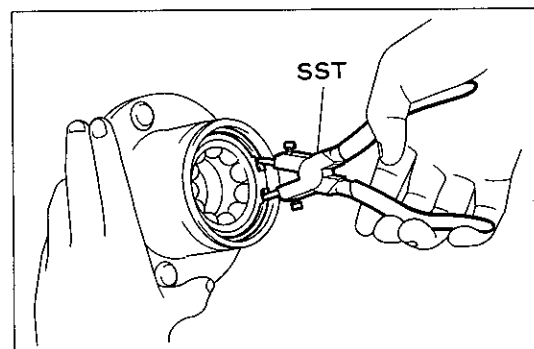
フロント アクスル ハブ分解

1 オイル シール取りはずし

- (1) SSTを使用して、オイル シールを取りはずす。

S S T 09308-00010

注意 スキッド コントロール ロータを傷つけない。

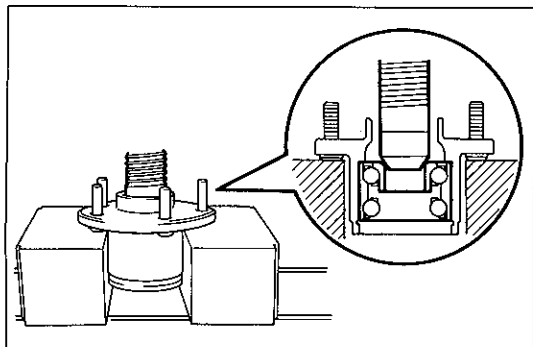


K 6715

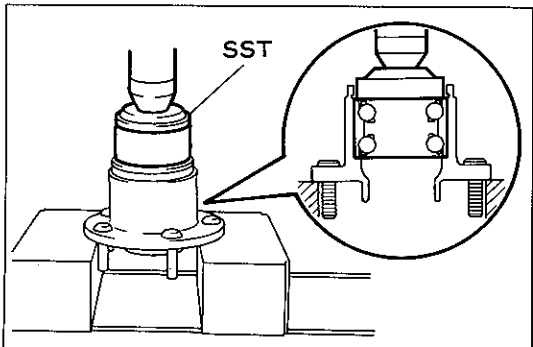
2 ホール スナップ リング取りはずし

- (1) SSTを使用して、ホール スナップ リングを取りはずす。

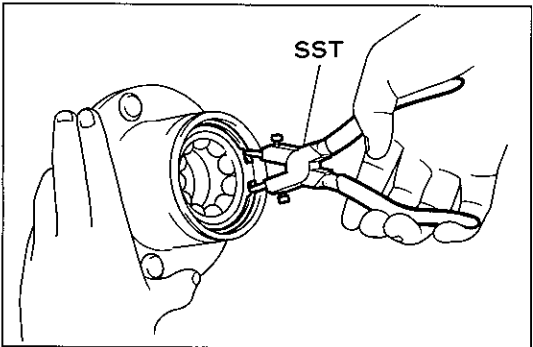
S S T 09905-00013



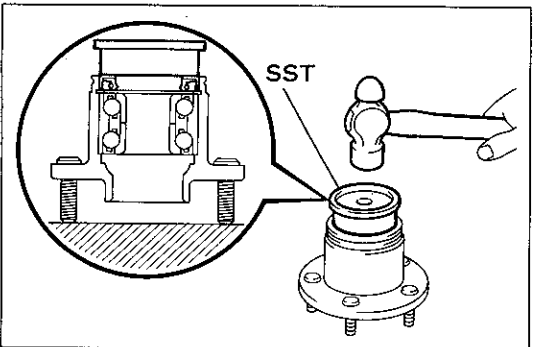
K 6716



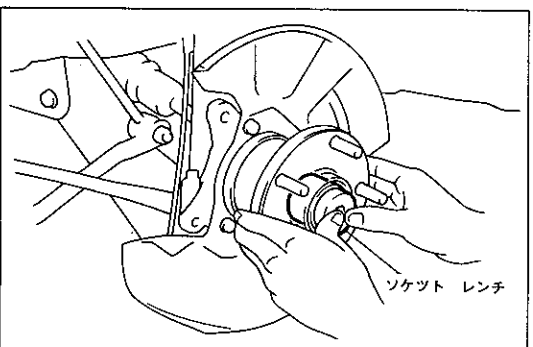
K 6717



K 6715



K 6718



K 6719

3 ベアリング取りはずし

- (1) インナ レース (アウト側) を取り付けて、ベアリングを取りはずす。

注意 スキッド コントロール ロータを傷つけない。

フロント アクスル ハブ組み付け

1 ベアリング取り付け

- (1) 新品のベアリングからインナ レースを取りはずす。

注意 インナ レースの組み付け方向を覚えておく。

- (2) ベアリングをアクスル ベアリング ケース端面まで圧入する。

S S T 09608-06110

- (3) インナ レースを取り付ける。

注意 ・ボールおよびインナ レースを分離した場合は、必ず組み付いていた側に組み付ける。
・新品のベアリングに着いているグリースは拭き取らない。
・ボールおよびインナ レースに異物を付着させない。

2 ホール スナツプ リング取り付け

- (1) 新品のホール スナツプ リングを取り付ける。

S S T 09905-00013

3 オイル シール取り付け

- (1) 新品のオイル シールをアクスル ベアリング ケース端面まで打ち込む。

S S T 09608-32010

注意 スキッド コントロール ロータを傷つけない。

- (2) グリースをオイル シール リップ部に塗布する。

フロント アクスル ハブ取り付け

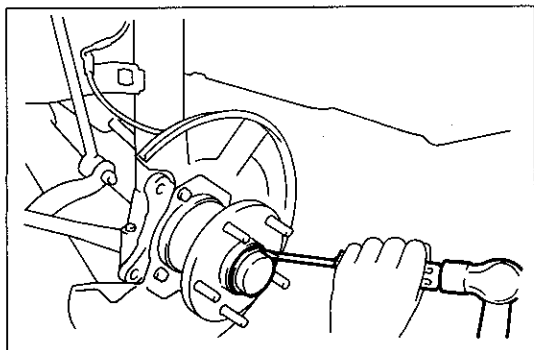
1 フロント アクスル ハブ取り付け

- (1) ソケット レンチでインナ レース (アウト側) を押さえながら、アクスル ハブをステアリング ナットに挿入する。

注意 オイル シールを傷つけない。

- (2) 新品のナットを規定トルクで締め付け、ナットをかしめる。

T=1500kg・cm

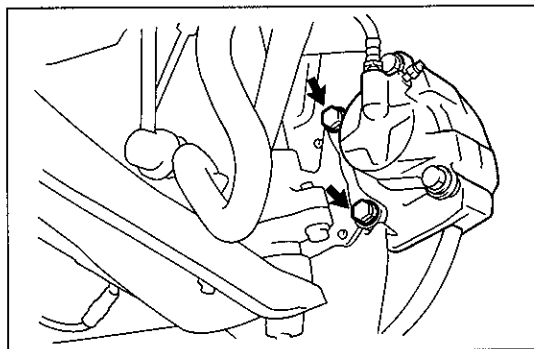


K 6688

2 ハブ グリース キャップ取り付け

- (1) ハブ グリース キャップを取り付ける。

注意 ・ハブ グリース キャップが変形しないように注意する。
 ・ハブ グリース キャップのアクスル ハブとかん合する部分に少しでも傷がある場合は新品のハブ グリース キャップを取り付ける。



K 6663

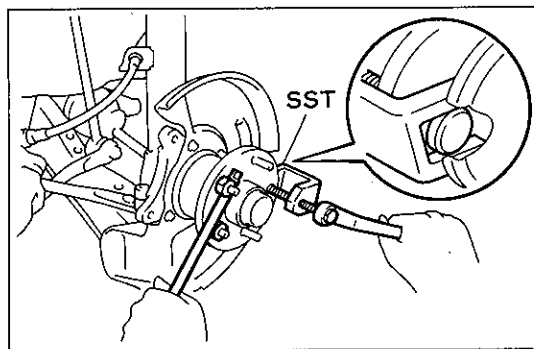
3 フロント ブレーキ ディスクおよびキャリパ取り付け

- (1) ディスクとアクスル ハブの合わせマークを合わせて、フロント ディスクを取り付ける。
 (2) ボルト 2 本でキャリパをステアリング ナックルに取り付ける。

T=925kg・cm

4 フロント ホイール取り付け

T=1050kg・cm



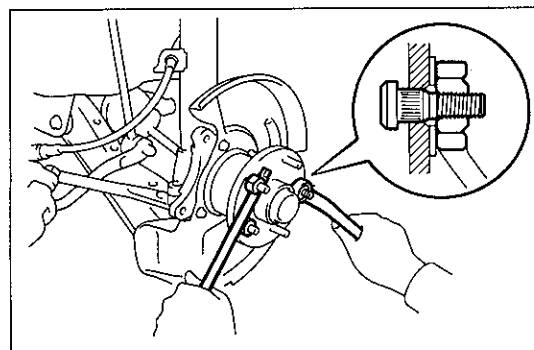
K 6720

ハブ ボルト交換

- 1 フロント ホイール取りはずし
 2 フロント ブレーキ キャリパおよびディスク取りはずし
 (P9-38参照)
 3 ハブ ボルト取りはずし

- (1) SSTを使用して、ハブ ボルトを取りはずす。

S S T 09628-10010



K 6721

4 ハブ ボルト取り付け

- (1) ハブ ボルトに左図のようなプレート ワッシヤを通し、ナット (呼び径12mm, ピッチ1.5) を締め付けながらハブ ボルトを取り付ける。

5 フロント ブレーキ ディスクおよびキャリパ取り付け

T=925kg・cm

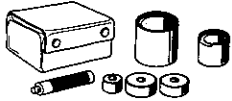
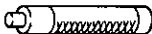
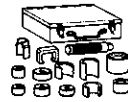
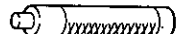
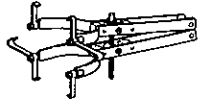
6 フロント ホイール取り付け

T=1050kg・cm

リヤ サスペンション

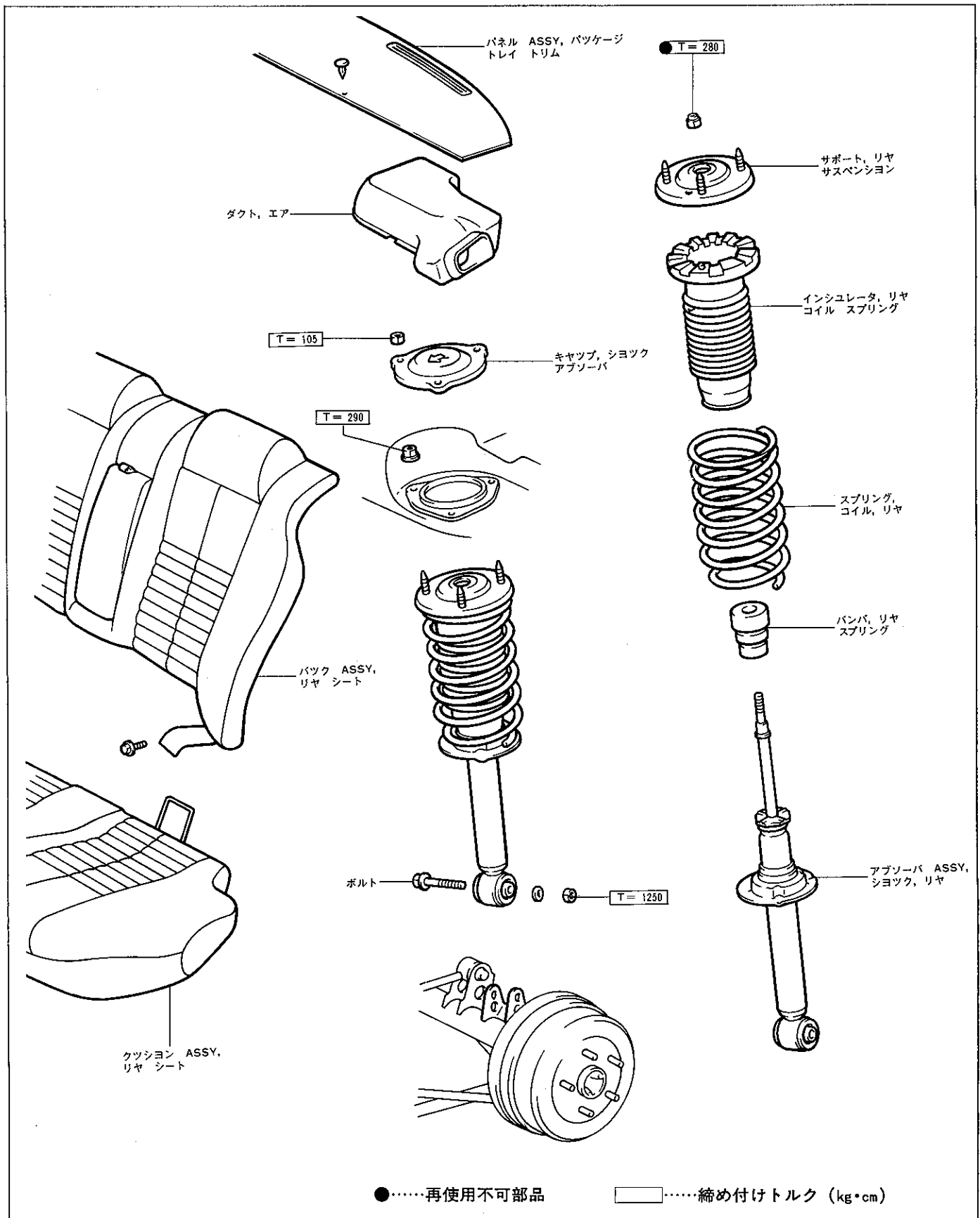
4 リンク

準備品

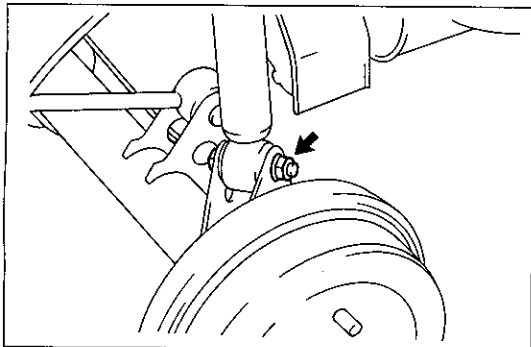
S S T		09710-14012 ツール セット, リヤ サスペンション ブシュ	
		09710-00010 リブレーサ	アツパおよびロワー アーム ブシュ脱着用
		09710-00020 パイプ	アツパおよびロワー アーム ブシュ脱着用
		09710-00050 ハンドル	アツパおよびロワー アーム ブシュ脱着用
		09710-30020 ツール セット, リヤ サスペンション ブシュ	
		09710-03020 ハンドル	ラテラル ロッド ブシュ脱着用
		09710-03130 リムーバ, ラテラル ロッド ブシュ	ラテラル ロッド ブシュ脱着用
		09710-03140 ベース, ラテラル ロッド ブシュ リムービング	ラテラル ロッド ブシュ脱着用
		09727-22032 コンプレッサ, フロント コイル スプリング	コイル スプリング圧縮用
		09727-30020 コンプレッサ, コイル スプリング	コイル スプリング圧縮用
計 器	トルク レンチ (500~2800kg・cm)		各部締め付け用

リヤ ショック アブソーバ

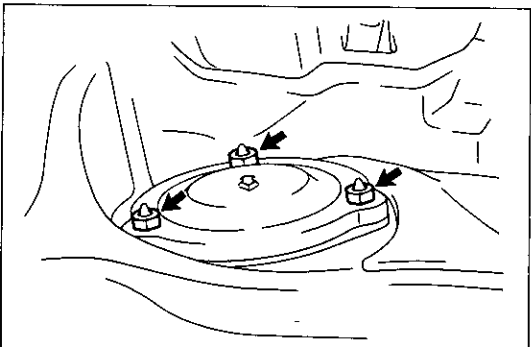
脱着構成図



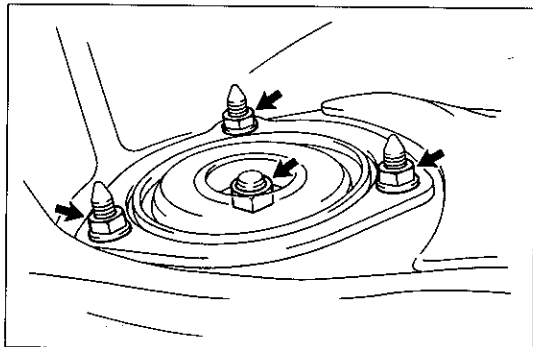
K 6722



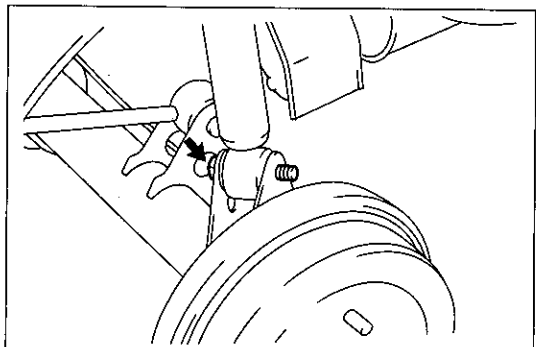
K 6723



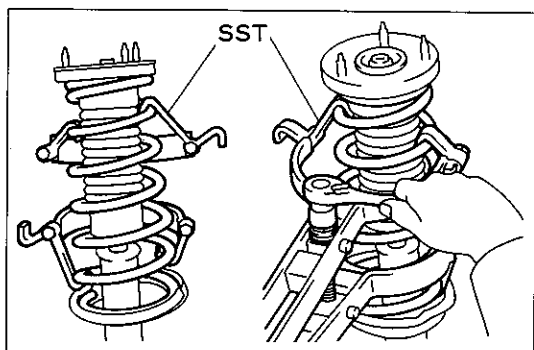
K 6724



K 6725



K 6726



K 6728

リヤ ショック アブソーバ ASSY取りはずし

- 1 リヤ ホイール取りはずし
- 2 リヤ ショック アブソーバ ブッシュ部ナット取りはずし
 - (1) リヤ アクスル ハウジングをジャッキで支える。
 - (2) ショック アブソーバ ブッシュ部のナットを取りはずす。

注意 ボルトは差し込んだままにしておく。

- 3 リヤ シート クッション ASSY, リヤ シート バック ASSYおよびパッケージ トレイ トリム取りはずし

- 4 サスペンション サポート切り離し

- (1) ナット3個をはずして、サスペンション サポート カバーを取りはずす。

- (2) サスペンション サポート ナットをゆるめる。

注意 ナットのロックを解くだけで、ナットは取りはずさない。

- (3) ナット3個をはずして、サスペンション サポートを切り離す。

- 5 リヤ ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリング 取りはずし

- (1) ジャッキをゆつくり下げる。
- (2) ボルトをはずして、リヤ ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリングを取りはずす。

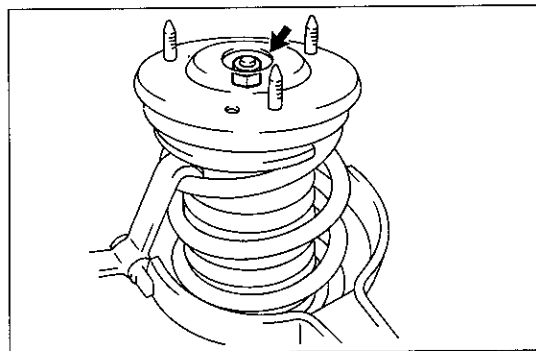
- 6 リヤ ショック アブソーバ取りはずし

- (1) SSTのL字形フックを長い方にし、取り付けられる範囲で上下のフックの距離が最も広くなるようスプリングに取り付ける。

S S T 09727-22032または09727-30020

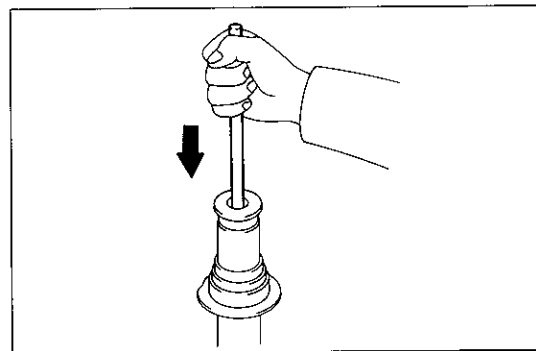
- (2) スプリングを自由に動かせるまで圧縮する。

注意 インパクト レンチは使用しない。



K 6729

- (3) ナットをはずし、サスペンション サポート、インシュレータ、コイル スプリングおよびスプリング バンパを取りはずす。



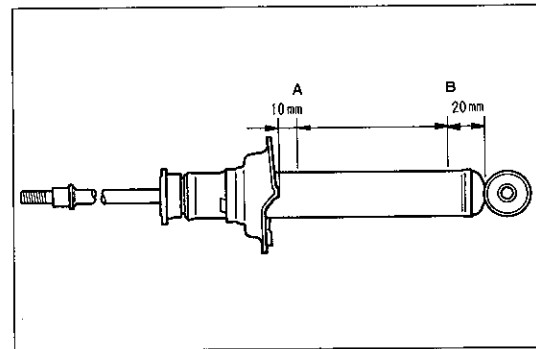
E 1686

リヤ ショック アブソーバ ASSY点検

1 ショック アブソーバ点検

- (1) ショック アブソーバを伸縮させて点検する。

基準 全ストロークの重さが一定であり異常な手ごたえ、異音がない



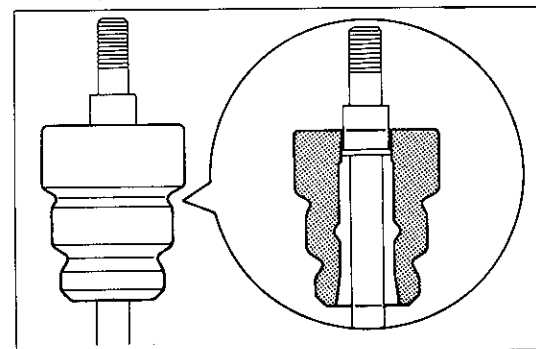
K 6730

リヤ ショック アブソーバ廃却方法

1 ショック アブソーバ廃却

- (1) ガス封入式のショック アブソーバを廃却する場合は、ピストン ロッドを伸ばした状態で水平に置き、図に示すA-B間に $\phi 2 \sim 3 \text{ mm}$ の穴をあけてガスを抜く。

注意 抜け出すガスは無色、無臭、無害であるが、ドリルの切り粉などが飛び出すこともあるので注意して作業を行う。

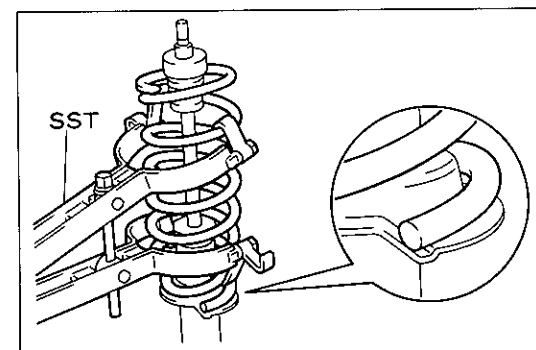


K 6731

リヤ ショック アブソーバ ASSY取り付け

1 スプリング バンパ取り付け

- (1) ピストン ロッドにスプリング バンパを図のように取り付ける。



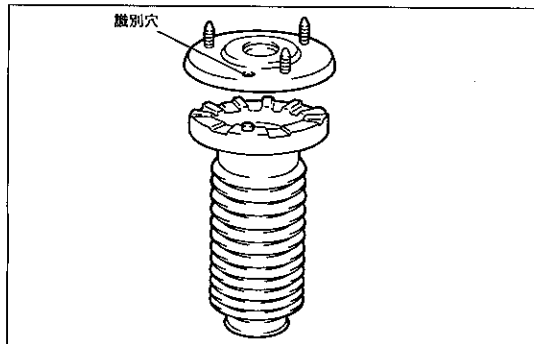
K 6732

2 コイル スプリング取り付け

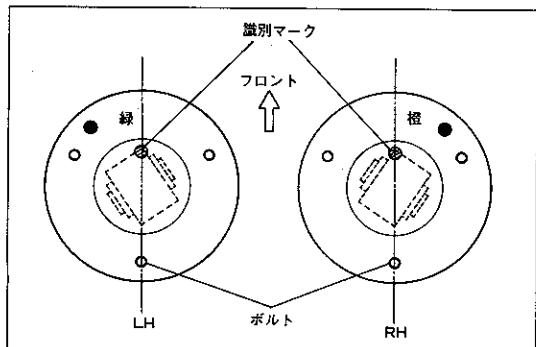
- (1) SSTのL字形フックを長い方にセットして、コイル スプリングを圧縮する。

SST 09727-22032または09727-30020

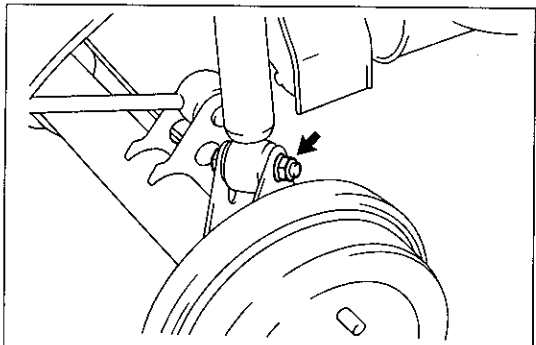
- (2) コイル スプリング エンドをショック アブソーバの溝に合わせて取り付ける。



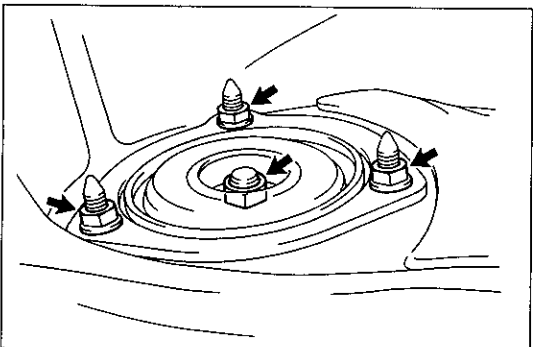
K 6733



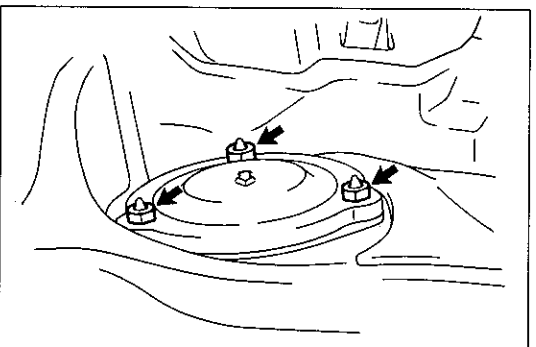
K 6734



K 6723



K 6725



K 6724

3 インシュレータおよびサスペンション サポート取り付け

- (1) サスペンション サポートの識別穴とインシュレータの凸部を合わせる。

- (2) サスペンション サポートおよびインシュレータを、ピストン ロッドに、サスペンション サポートのボルトが図の位置になるように取り付け、新品のサスペンション サポート ナットを仮締めする。

- 注意**
- ・サスペンション サポートとピストン ロッドの切り欠き部を合わせる。
 - ・サスペンション サポートの位置がずれると、車両に取り付けることが困難になるので正確に合わせる。

- (3) コイル スプリング圧縮用のSSTを取りはずす。

S S T 09727-22032または09727-30020

- 注意** インパクト レンチは使用しない。

4 リヤ ショック アブソーバ ウィズ コイル スプリング 取り付け

- (1) ショック アブソーバ プッシュ部をアクスルハウジングブラケットに合わせ、ボルトを車両内側から通し、ワッシヤを介してナットで仮締めする。
- (2) サスペンション サポートとボデー側の穴を合わせて、アクスルハウジングをジャッキアップする。
- (3) ショック アブソーバ プッシュ部のナットを締め付ける。

T=1250kg・cm

5 サスペンション サポート取り付け

- (1) ナット 3 個でサスペンション サポートを取り付ける。

T=290kg・cm

- (2) サスペンション サポート ナットを締め付ける。

T=280kg・cm

- (3) ナット 3 個でサスペンション サポート カバーを取り付ける。

T=105kg・cm

- (4) ジャッキを取りはずす。

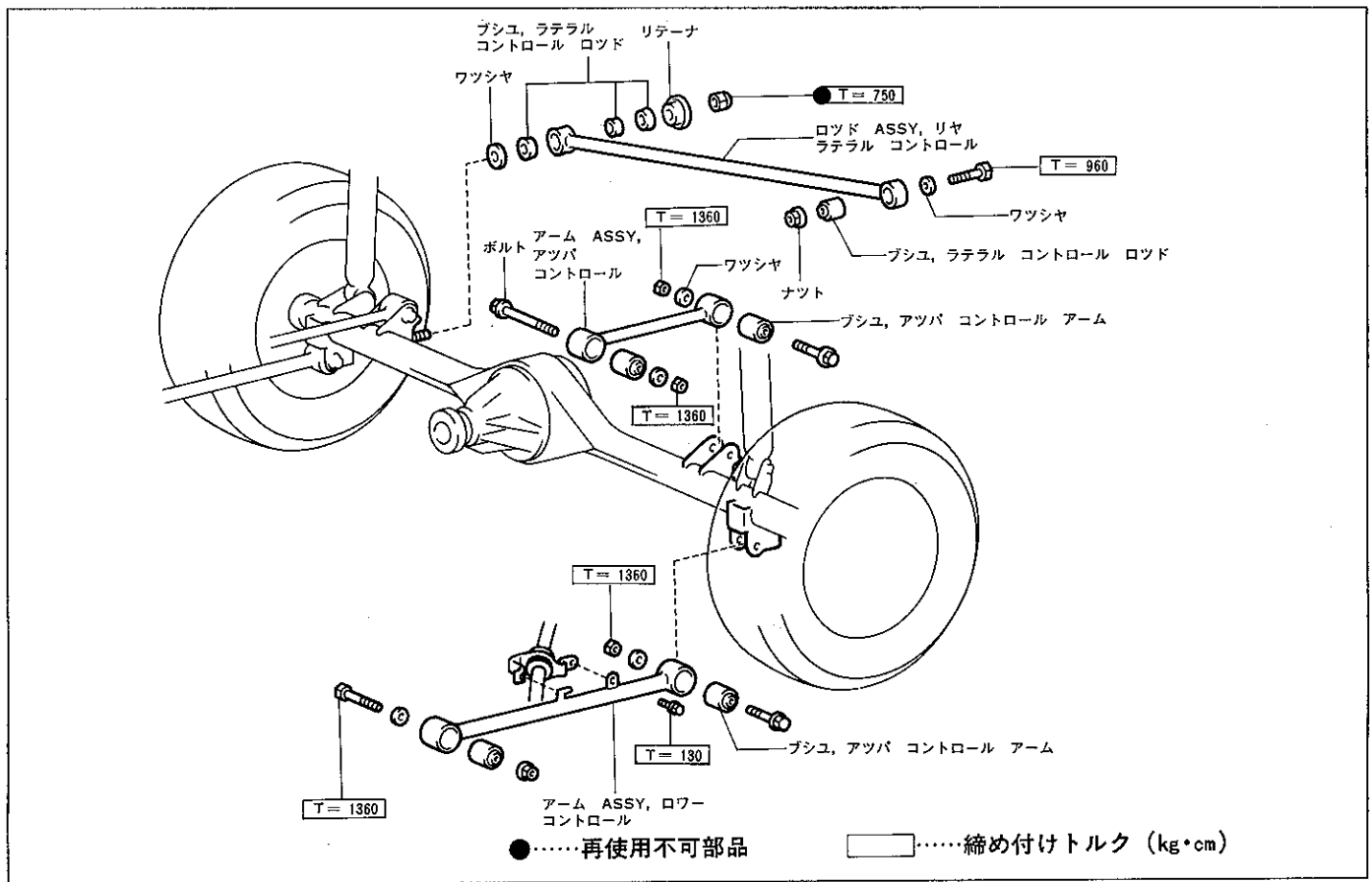
6 パッケージ トレイ トリム, リヤ シート バック ASSY およびリヤ シート クッション ASSY取り付け

7 リヤ ホイール取り付け

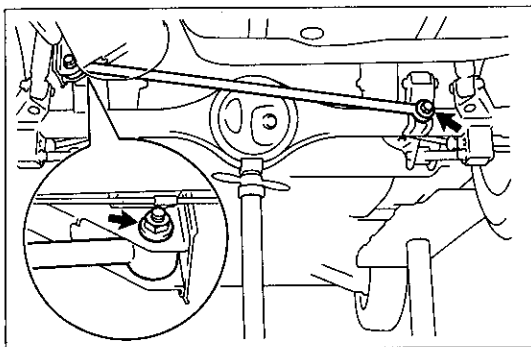
T=1050kg・cm

サスペンション コントロール アーム & ラテラル コントロール ロッド

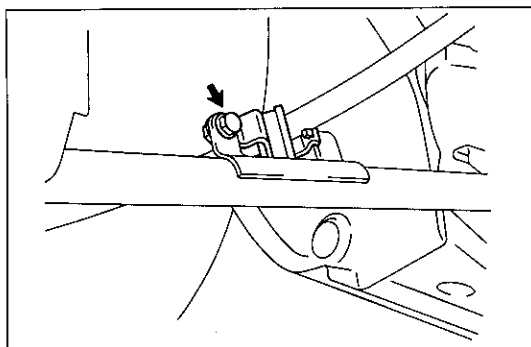
脱着構成図



K 6735



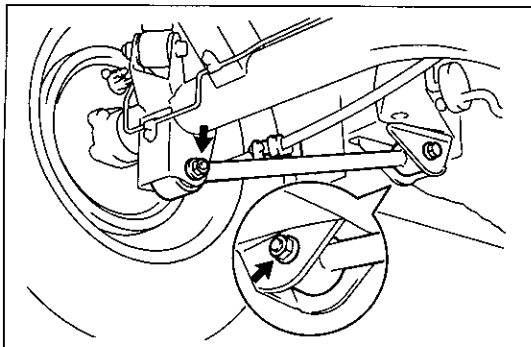
K 6736



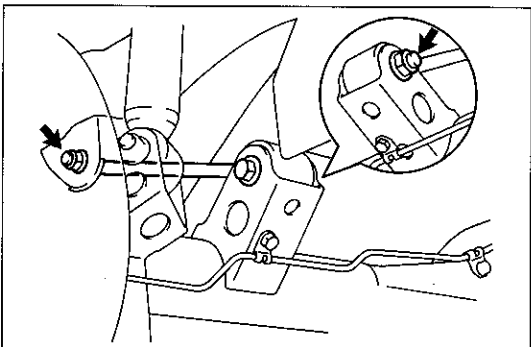
K 6737

サスペンション コントロール アームおよび ラテラル コントロール ロッド取りはずし

- 1 リヤ アクスル ハウジング ジャッキ アップ
 - (1) リヤ アクスル ハウジングをジャッキなどで支える。
- 2 ラテラル コントロール ロッド取りはずし
 - (1) アクスル ハウジング側のラテラル コントロール ロッド取り付けナットおよびワッシヤを取りはずす。
 - (2) ボデー側のボルト、ナットおよびワッシヤを取りはずし、ラテラル コントロール ロッドを取りはずす。
- 3 ロワー コントロール アーム取りはずし
 - (1) ボルトをはずして、パーキング ブレーキ ケーブルのクランプをロワー コントロール アームから切り離す。



K 6738

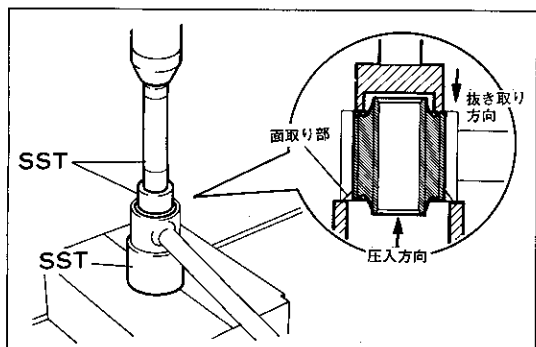


K 6739

- (2) アクスル ハウジング側のボルト、ナットおよびワッシヤを取りはずす。
- (3) ボデー側のボルト、ナットおよびワッシヤを取りはずし、ローコントロール アームを取りはずす。

4 アツパ コントロール アーム取りはずし

- (1) アクスル ハウジング側のボルト、ナットおよびワッシヤを取りはずす。
- (2) ボデー側のボルト、ナットおよびワッシヤを取りはずし、アツパ コントロール アームを取りはずす。



K 3103

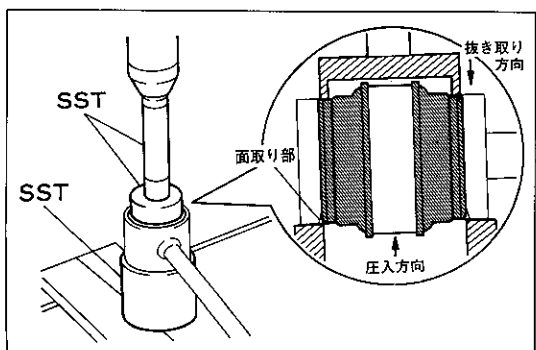
ブシュ交換

1 ラテラル コントロール ロッド ブシュ交換

- (1) SSTを使用して、ブシュを交換する。

S S T 09710-03020 09710-03130 09710-03140

- 注意**
- ・ブシュはラテラル コントロール ロッドの面取り側へ抜き取り、面取り側から圧入する。
 - ・ブシュに油脂類を付着しない。



K 6740

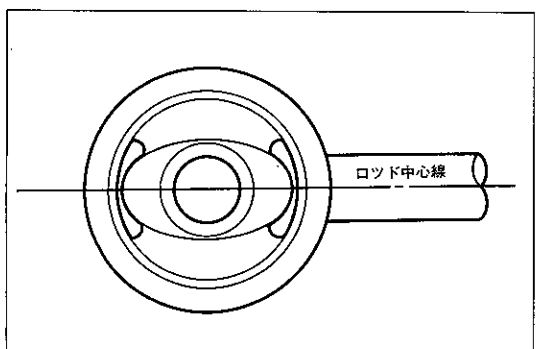
2 アツパおよびロー コントロール アーム ブシュ交換

- (1) SSTを使用して、ブシュを交換する。

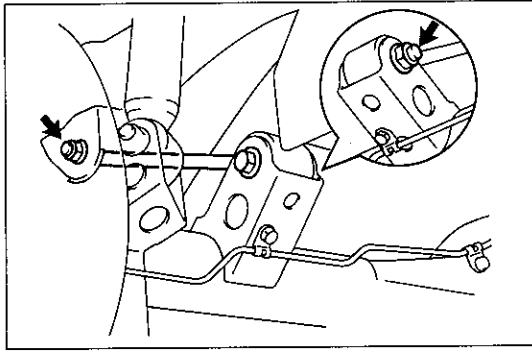
S S T 09710-00010 09710-00020 09710-00050

- 注意**
- ・ブシュはアツパおよびロー コントロール アームの面取り側へ抜き取り、面取り側から圧入する。
 - ・ブシュに油脂類を付着しない。

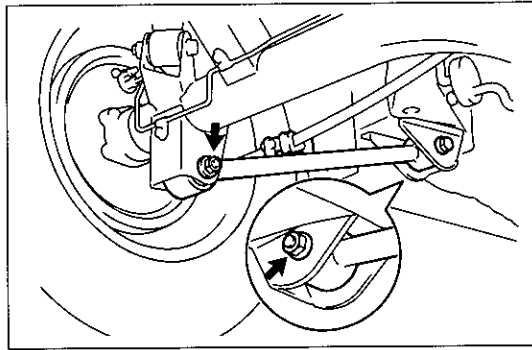
- ・ブシュ圧入時、スグリの位置をコントロール ロッドの中心線上に合わせる。



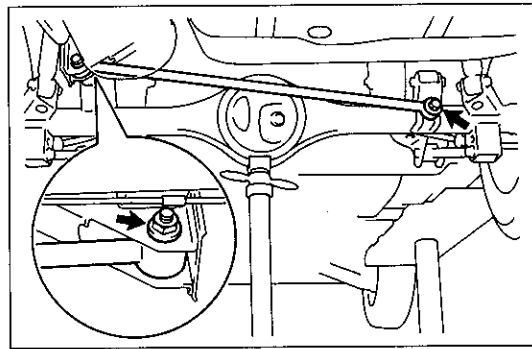
K 3105



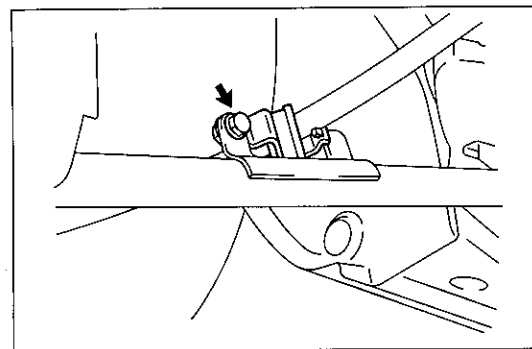
K 6739



K 6738



K 6736



K 6737

サスペンション コントロール アームおよび

ラテラル コントロール ロッド取り付け

1 アツパ コントロール アーム仮締め

- (1) アツパ コントロール アームをボデーに、ボルトを車両内側から通して、ワッシヤを介してナットで仮締めする。
- (2) アクスル ハウジングにボルトを車両外側から通して、ワッシヤを介してナットで仮締めする。

2 ロワー コントロール アーム仮締め

- (1) ロワー コントロール アームをボデーに、ボルトを車両内側からワッシヤを介して通して、ナットを取り付け、ボルトで仮締めする。
- (2) アクスル ハウジングにボルトを車両外側から通して、ワッシヤを介してナットで仮締めする。

3 ラテラル コントロール ロッド仮締め

- (1) ラテラル コントロール ロッドをアクスル ハウジングに、ワッシヤおよびブシュを介して、新品のナットで仮締めする。
- (2) ボデーにボルトを車両後方からワッシヤを介して通し、ナットを取り付け、ボルトで仮締めする。

4 車両落ち着かせ

- (1) 車両をジャツキ ダウンして数回上下にゆすり、リヤ サスペンションを落ち着かせる。
- (2) 車両をジャツキ アップして、リヤ アクスル ハウジングをジャツキなどで支え、サスペンションに荷重をかける。

5 アツパ コントロール アーム本締め

- (1) ナットを締め付ける。

$T=1360\text{kg}\cdot\text{cm}$

6 ロワー コントロール アーム本締め

- (1) ボデー側のボルトおよびアクスル ハウジング側のナットを締め付ける。

$T=1360\text{kg}\cdot\text{cm}$

- (2) パーキング ブレーキのクランプをロワー コントロール アームに取り付け、ボルトを締め付ける。

$T=130\text{kg}\cdot\text{cm}$

7 ラテラル コントロール ロッド本締め

- (1) ボデー側のボルトを締め付ける。

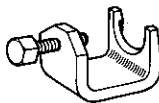
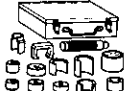
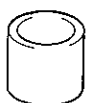
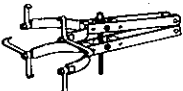
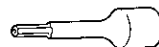
$T=960\text{kg}\cdot\text{cm}$

- (2) アクスル ハウジング側のナットを締め付ける。

$T=750\text{kg}\cdot\text{cm}$

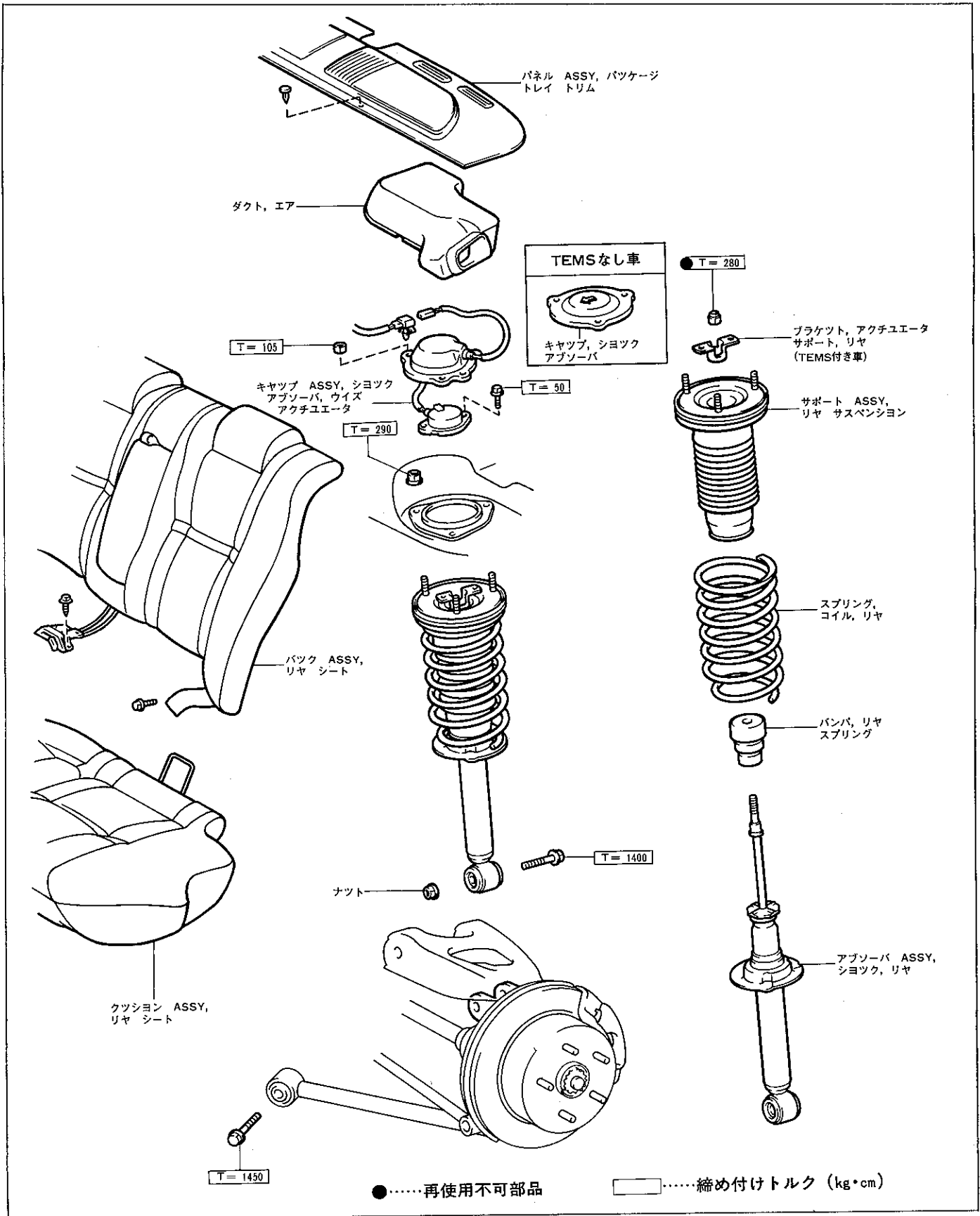
IRS

準 備 品

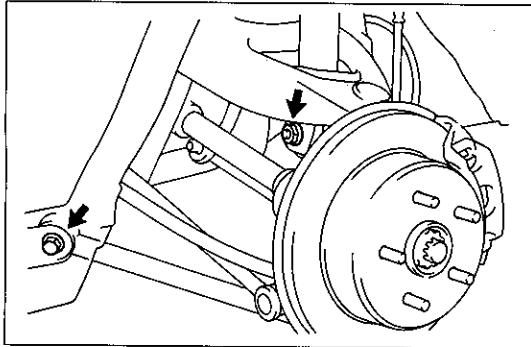
SST		09628-10011 プラー, ボール ジョイント	サスペンション アーム No.1 取りはずし用
		09710-30020 ツール セット, サスペンション プシュ	
		リムーバ, リヤ サスペンション アツパ アンド ロワー アーム プシュ 09710-03110	
		ベース, リヤ サスペンション アツパ アンド ロワー アーム プシュ リムービング 09710-03120	ストラット ロッド プシュ脱着用
		コンプレッサ, フロント コイル スプリング 09727-22032	コイル スプリング圧縮用
		コンプレッサ, コイル スプリング 09727-30020	コイル スプリング圧縮用
工 具		(稀)バンザイ 扱い レンチ, ヘキサゴン 5 3X-75-5	スタビライザ リンク脱着用
	ソケット レンチ (32mm)		アクスル ハブ取り付けナット脱着用
計 器	トルク レンチ (0~60kg・cm)		ボール ジョイント点検用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)		各部締め付け用
	トルク レンチ (700~4200kg・cm)		アクスル ハブ取り付けナット締め付け用

リヤ ショック アブソーバ

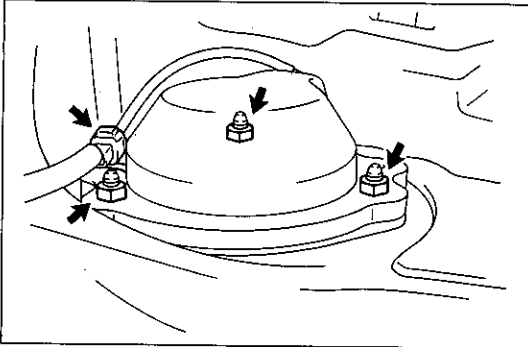
脱着構成図



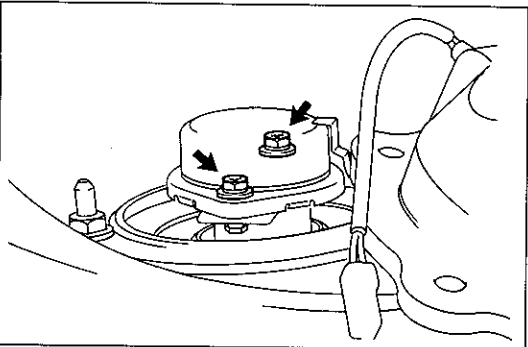
K 6741



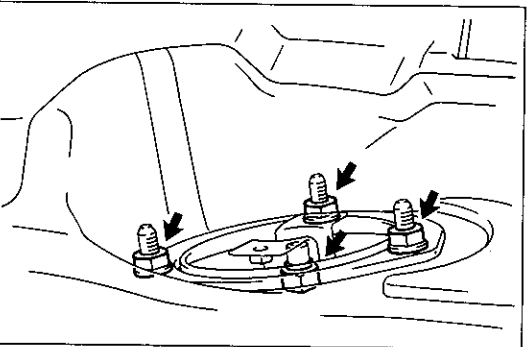
K 6742



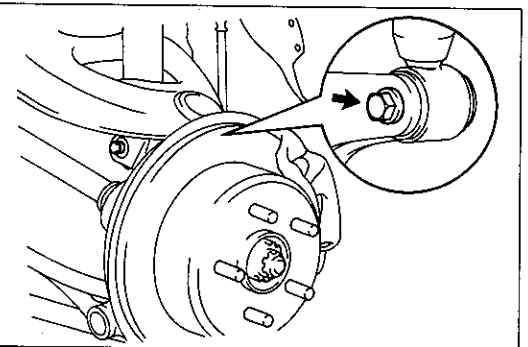
K 6743



K 6744



K 6745



K 6746

リヤ ショック アブソーバ ASSY 取りはずし

1 リヤ ホイール取りはずし

2 リヤ ショック アブソーバ ブッシュ部ナット取りはずし

- (1) 木片を介して、リヤ アクスル キヤリヤをジャッキで支える。
- (2) ボルトをはずして、ストラット ロッドをボデーから切り離す。
- (3) ショック アブソーバ ブッシュ部のボルトをゆるめてナットを取りはずす。

注意 ボルトは差し込んだままにしておく。

3 リヤ シート クッション ASSY, リヤ シート バック ASSYおよびパッケージ トレイ トリム取りはずし

4 サスペンション サポート切り離し

- (1) コネクタおよびナット 3個をはずして、アクチュエータ キャップを取りはずす。(TEMS付き車)
- (2) ナット 3個をはずして、サスペンション サポート カバーを取りはずす。(TEMSなし車)

- (3) ボルト 2本をはずして、アクチュエータを取りはずす。(TEMS付き車)

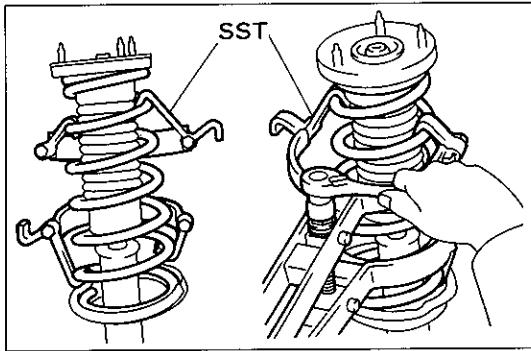
- (4) サスペンション サポート ナットをゆるめる。

注意 ナットのロックを解くだけで、ナットは取りはずさない。

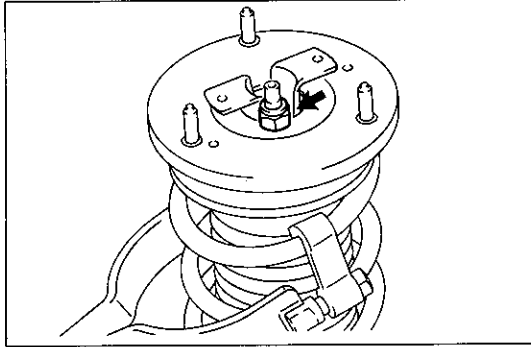
- (5) ナット 3個をはずして、サスペンション サポートを切り離す。

5 リヤ ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリング 取りはずし

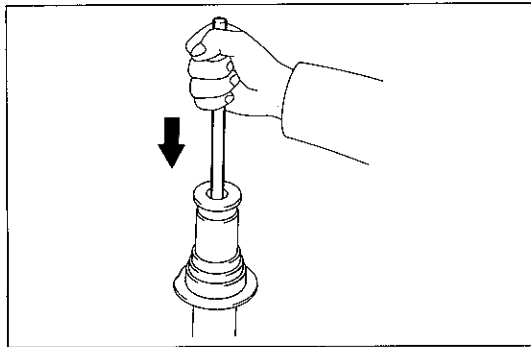
- (1) ジャッキをゆつくり下げる。
- (2) ボルトをはずして、リヤ アクスル キヤリヤを下に押し下げ、ショック アブソーバ ウイズ コイル スプリングを取りはずす。



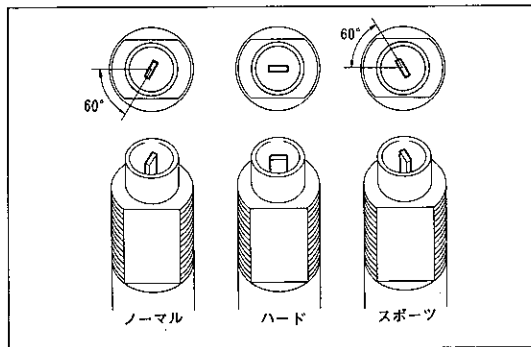
K 6728



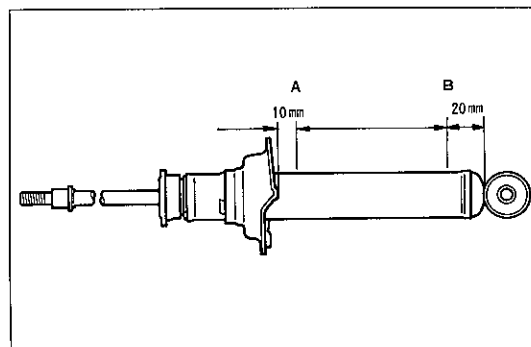
K 6747



E 1686



K 6674



K 6730

6 リヤ ショック アブソーバ取りはずし

- (1) SSTのL字形フックを長い方にし、取り付けられる範囲で上下のフックの距離が最も広くなるようスプリングに取り付ける。

S S T 09727-22032または09727-30020

- (2) スプリングを自由に動かせるまで圧縮する。

注意 インパクト レンチは使用しない。

- (3) ナットをはずし、アクチュエータ ブラケット (TEMS付き車)、サスペンション サポート ASSY、コイル スプリング およびスプリング バンパを取りはずす。

リヤ ショック アブソーバ ASSY点検

1 ショック アブソーバ点検

- (1) ショック アブソーバを伸縮させて点検する。

基 準 全ストロークの重さが一定であり異常な手ごたえ、異音がない

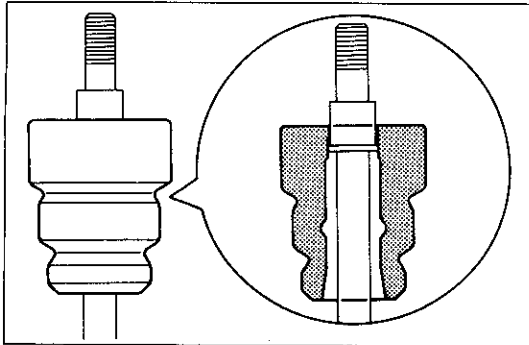
- (2) ロッドを図の位置にしたとき、減衰力に差があることを点検する。(TEMS付き車)

リヤ ショック アブソーバ廃却方法

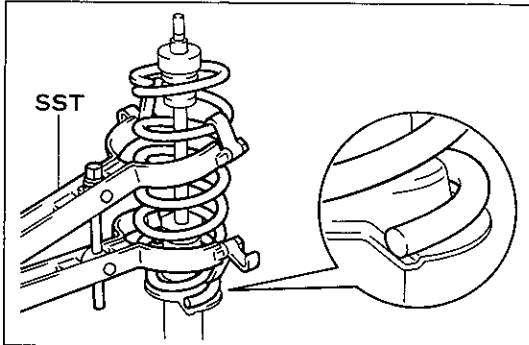
1 ショック アブソーバ廃却

- (1) ガス封入式のショック アブソーバを廃却する場合は、ピストン ロッドを伸ばした状態で水平に置き、図に示すA-B間にφ2~3mmの穴をあけてガスを抜く。

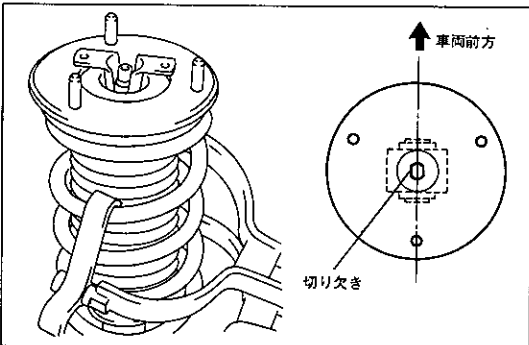
注意 抜け出すガスは無色、無臭、無害であるが、ドリルの切り粉などが飛び出すこともあるので注意して作業を行う。



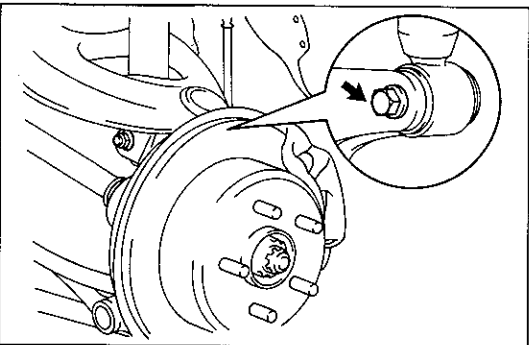
K 6731



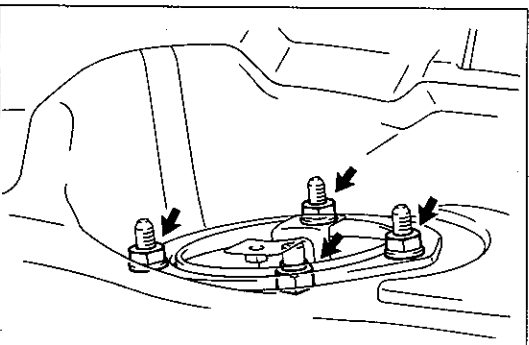
K 6732



K 6748



K 6820



K 6745

リヤ ショック アブソーバ ASSY取り付け

1 スプリング バンパ取り付け

- (1) ピストン ロッドにスプリング バンパを図のように取り付ける。

2 コイル スプリング取り付け

- (1) SSTのL字形フックを長い方にセットして、コイル スプリングを圧縮する。

S S T 09727-22032または09727-30020

- (2) コイル スプリング エンドをショック アブソーバの溝に合わせて取り付ける。

3 サスペンション サポート ASSY取り付け

- (1) ショック アブソーバのロッドの切り欠きを図の方向に合わせ、サスペンション サポート ASSYおよびアクチュエータブラケット (TEMS付き車) をピストン ロッドに取り付ける。

注意 サスペンション サポートの位置がずれると、車両に取り付けることが困難になるので正確に取り付ける。

- (2) 新品のサスペンション サポート ナットを仮締めする。

- (3) コイル スプリング圧縮用のSSTを取りはずす。

S S T 09727-22032または09727-30020

注意 インパクト レンチは使用しない。

4 リヤ ショック アブソーバ ウィズ コイル スプリング 取り付け

- (1) ナット 3個で、サスペンション サポートをボデーに仮締めする。

- (2) リヤ アクスル キャリアを押し下げて、ショック アブソーバ ブシュとキャリアの穴を合わせ、車両後方からボルトを差し込み、ナットを取り付け、ボルトを締め付ける。

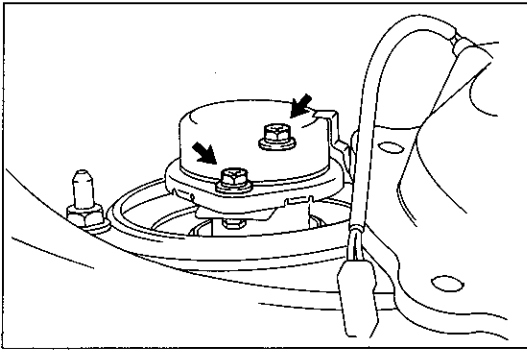
$T=1400\text{kg}\cdot\text{cm}$

- (3) 仮締めしてあつたナット 3個を締め付ける。

$T=290\text{kg}\cdot\text{cm}$

- (4) サスペンション サポート ナットを締め付ける。

$T=280\text{kg}\cdot\text{cm}$

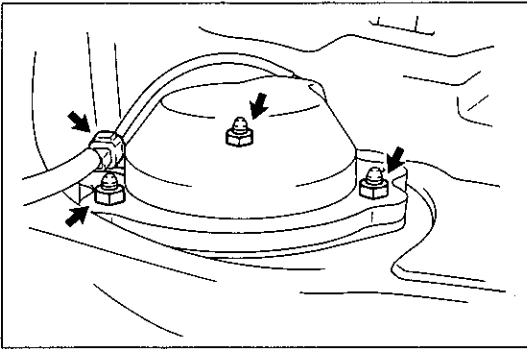


K 6744

- (5) アクチュエータのシャフトとアブソーバのロッドを合わせ、ボルト 2 本でアクチュエータを取り付ける。(TEMS付き車)

T=50kg・cm

注意 アクチュエータのW/Hが、車両右側を向くように取り付ける。



K 6743

- (6) ナット 3 個で、アクチュエータ キャップを取り付ける。(TEMS付き車)

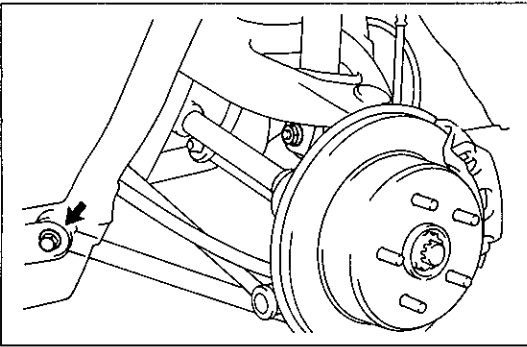
T=105kg・cm

- (7) コネクタを接続し、クランプする。(TEMS付き車)

注意 W/Hが車両内側になるようにクランプする。

- (8) ナット 3 個で、サスペンション サポート カバーを取り付ける。(TEMSなし車)

T=105kg・cm



K 6742

- 5 パッケージ トレイ トリム, リヤ シート バック ASSY
およびリヤ シート クッション ASSY取り付け

- 6 ストラット ロッド仮締め

- (1) ボルトでストラット ロッドを仮締めする。

- 7 リヤ ホイール取り付け

T=1050kg・cm

- 8 車両落下着かせ

- (1) 車両をジャッキ ダウンして数回上下にゆすり、リヤ サスペンションを落ち着かせる。

- (2) 車両をジャッキ アップして、リヤ アクスル キヤリヤをジャッキなどで支え、サスペンションに荷重をかける。

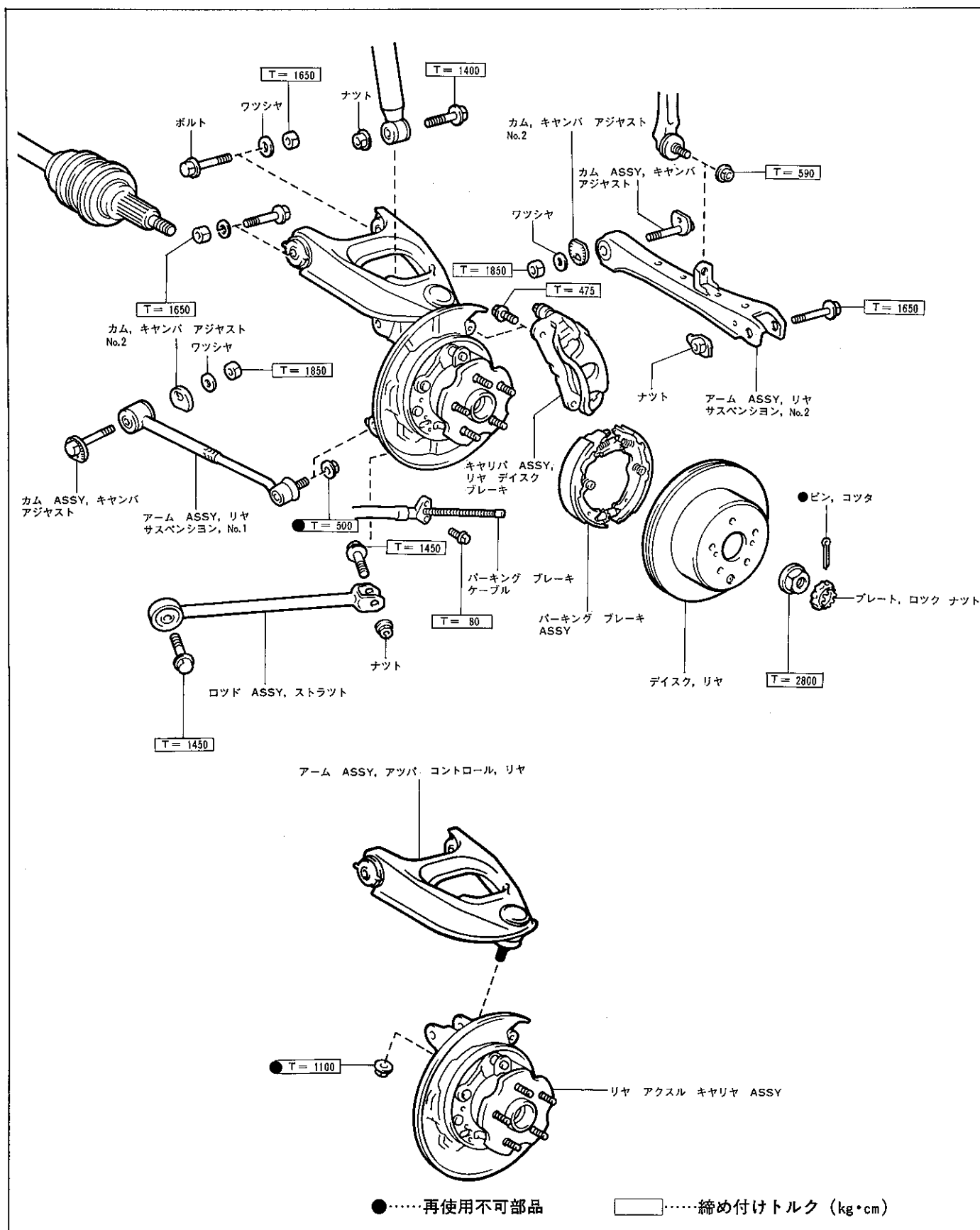
- 9 ストラット ロッド本締め

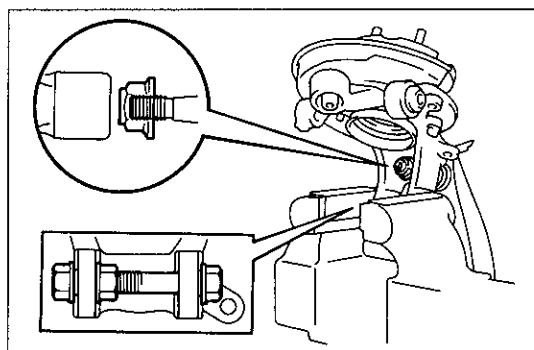
T=1460kg・cm

- 10 リヤ ホイール アライメント点検および調整
(P9-7参照)

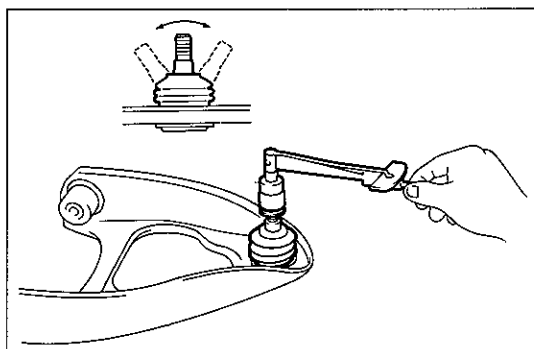
アツパ コントロール アーム

脱着構成図

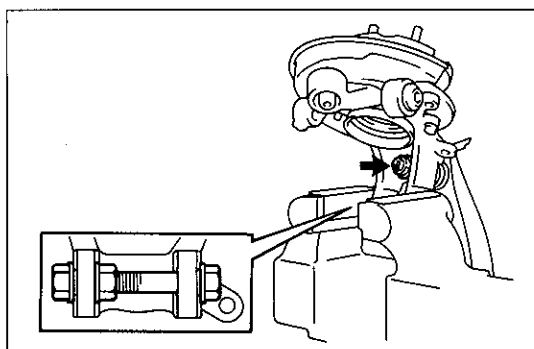




K 6750



K 6753



K 6754

リヤ アクスル キヤリヤ ウイズ アツパ

アーム取りはずし

(P9-71参照)

アツパ アーム取りはずし

1 アツパ アーム取りはずし

- (1) ボルトおよびナットを図のように取り付け、バイスに固定する。
- (2) アツパ アームのナットをゆるめて、図の位置に取り付け、ナットをハンマでたたいて、アツパ アームを取りはずす。

アツパ アーム ボール ジョイント点検

1 ボール ジョイント 回転具合点検

- (1) スタッドを揺動方向に5往復させた後、2～4秒/回転の速度で連続して回転させ、5回目に測定する。

T=10～35kg・cm

アツパ アーム 取り付け

1 アツパ アーム取り付け

- (1) ボルトおよびナットを図のように取り付け、バイスに固定する。
- (2) ナット (呼び径14mm, ピッチ1.5) でアツパ ボール ジョイントとアクスル キヤリヤをT=200kg・cmで仮締めし、テーパ部をかん合させる。
- (3) ナットをはずし、新品のロック ナットを取り付ける。

T=1100kg・cm

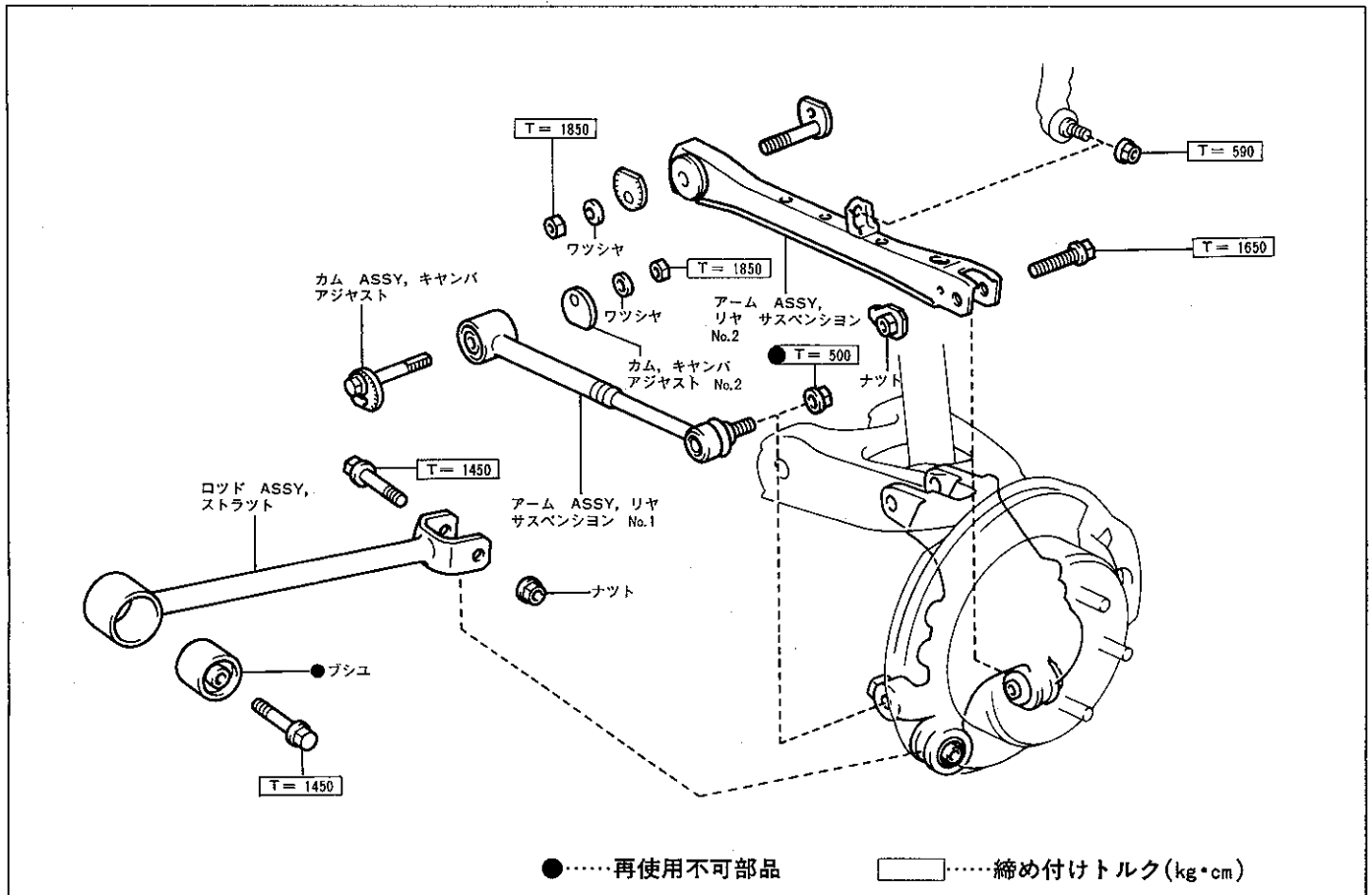
リヤ アクスル キヤリヤ ウイズ アツパ

アーム取り付け

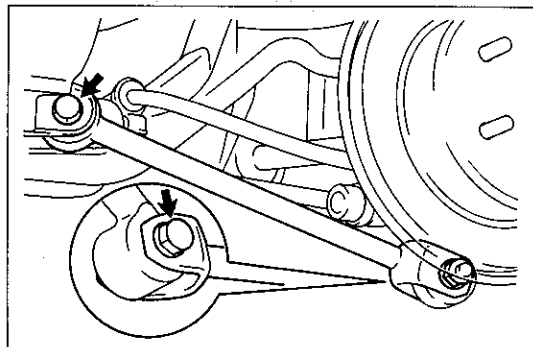
(P9-75参照)

ロワー サスペンション アーム & ストラット ロッド

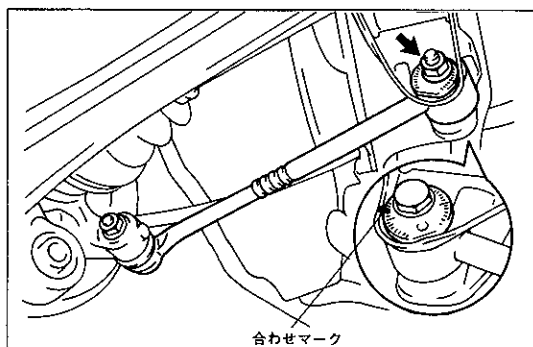
脱着構成図



K 6976



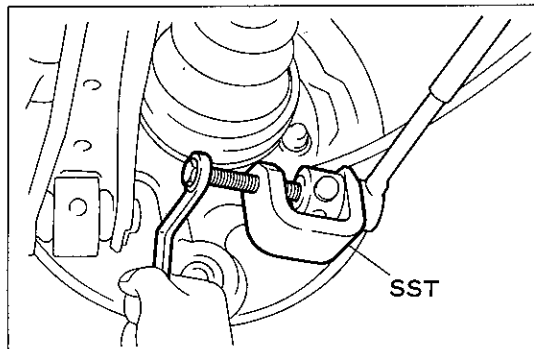
K 6755



K 6756

ロワー サスペンション アームおよび ストラット ロッド取りはずし

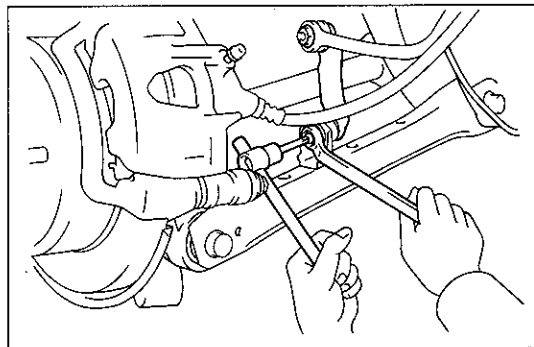
- 1 リヤ ホイール取りはずし
- 2 ストラット ロッド取りはずし
 - (1) アクスル キヤリヤ側のボルトおよびナットを取りはずす。
 - (2) ボデー側のボルトをはずし、ストラット ロッドを取りはずす。
- 3 サスペンション アーム No.1 取りはずし
 - (1) キャンバ アジャスト カムに合わせマークを付けてから、ナットをはずし カムを抜き取る。



K 6757

- (2) アクスル キヤリヤ側のナットをはずす。
- (3) SSTを使用して、サスペンション アーム No.1 を取りはずす。

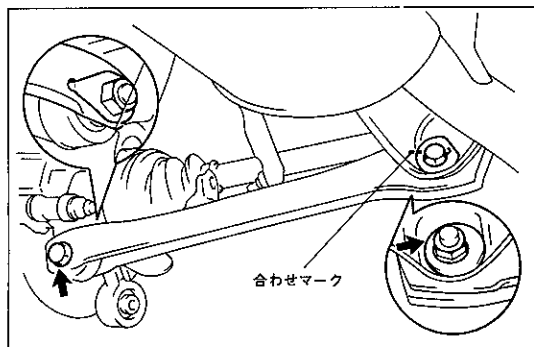
S S T 09628-10011



K 6758

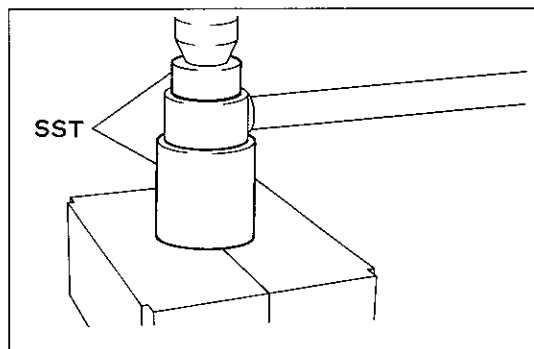
4 サスペンション アーム No.2 取りはずし

- (1) ヘキサゴン ソケット レンチ (5 mm) でスタッドを固定し、ナットをはずしてスタビライザ リンクを切り離す。(除く 1 G-FE車)



K 6759

- (2) キャンバ アジャスト カムに合わせマークを付けてから、ナットをはずし、カムを抜き取る。
- (3) アクスル キヤリヤ側のナットをはずし、サスペンション アーム No.2 を取りはずす。



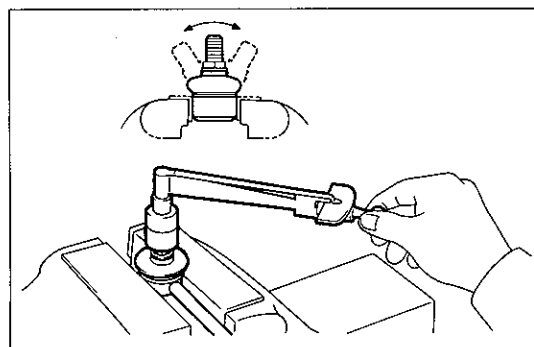
K 6762

ブッシュ交換

1 ストラット ロッド ブッシュ交換

- (1) SSTを使用して、ブッシュを交換する。

S S T 09710-03110 09710-03120



K 6710

サスペンション アーム No.1 ボール

ジョイント点検

1 ボール ジョイント回転具合点検

- (1) スタッドを揺動方向に 5 往復させた後、2~4秒/回転の速度で連続して回転させ、5 回目に測定する。

T = 5 ~ 45 kg・cm

2 ブーツ点検

- (1) ブーツに亀裂がないことを点検する。

サスペンション アームおよび

ストラット ロッド ロッド取り付け

1 サスペンション アーム No.2 仮締め

- (1) サスペンション アーム No.2 をアクスル キャリヤに取り付け、ナットの回り止めプレートをアームの穴に合わせ、ボルトを車両後方から差し込み、仮締めする。
- (2) サスペンション アーム No.2 をボデーに取り付け、キャンバ アジャスト カムを車両後方から差し込み、合わせマークを合わせ、プレートおよびワッシヤを介して、ナットで仮締めする。
- (3) ヘキサゴン ソケット レンチ (5 mm) でスタッドを固定し、ナットで、スタビライザ リンクをサスペンション アーム No.2 に取り付ける。

T=590kg・cm

2 サスペンション アーム No.1 仮締め

- (1) アクスル キャリヤにアームのスタッドを車両前方から差し込み、新品のロック ナットで締め付ける。

T=500kg・cm

- (2) アームをボデーの穴に合わせ、キャンバ アジャスト カムを車両前方から差し込み、合わせマークを合わせ、プレートおよびワッシヤを介して、ナットで仮締めする。

3 ストラット ロッド仮締め

- (1) ストラット ロッドをキャリヤに取り付け、ボルトを車両内側から差し込み、ナットを取り付け、ボルトを仮締めする。
- (2) アクスル キャリヤをジャッキ アップし、ストラット ロッドとボデーの穴を合わせ、ボルトで仮締めする。

4 リヤ ホイール取り付け

T=1050kg・cm

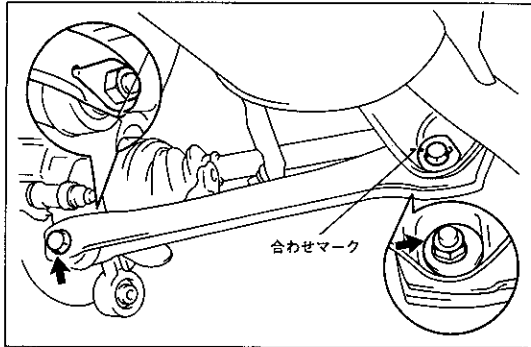
5 車両落ち着かせ

- (1) 車両をジャッキ ダウンして数回上下にゆすり、リヤ サスペンションを落ち着かせる。

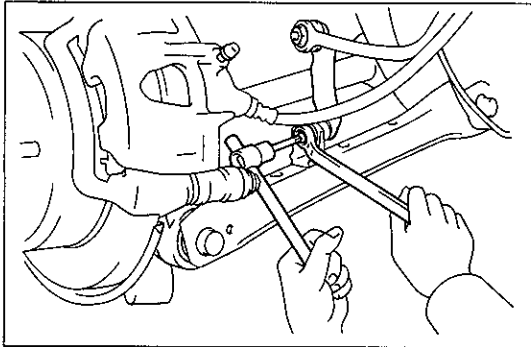
6 リヤ ホイール取りはずし

7 サスペンション アームおよびストラット ロッド本締め

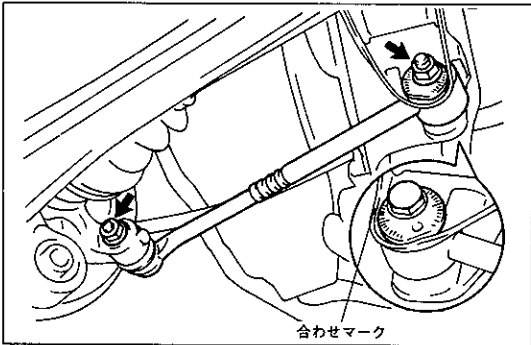
- (1) 木片を介して、アクスル キャリヤをジャッキ アップし、サスペンションに荷重をかける。



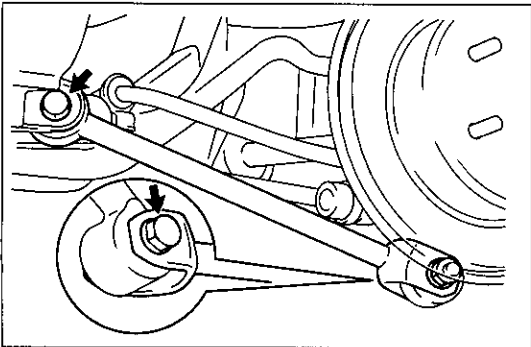
K 6759



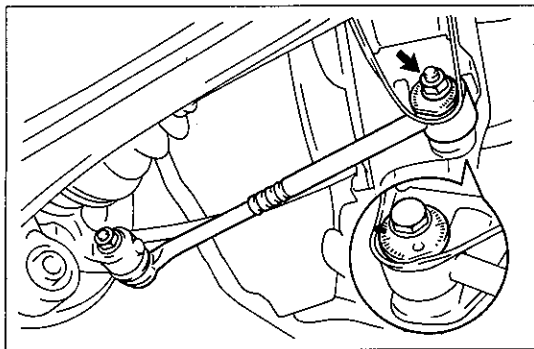
K 6758



K 6763



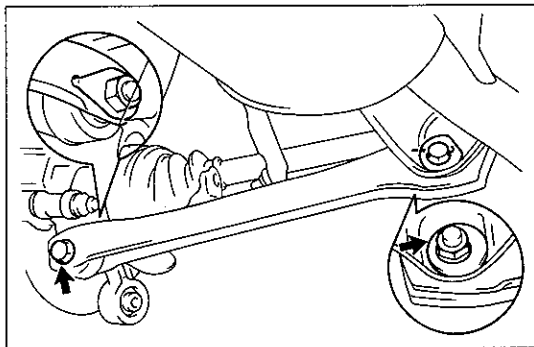
K 6755



K 6756

- (2) サスペンション アーム No.1 のボデー側のナットを締め付ける。

$T = 1850 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

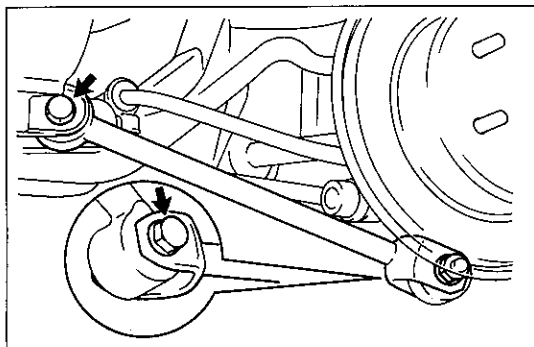


K 6759

- (3) サスペンション アーム No.2 のアクスル キヤリヤ側のボルトおよびボデー側のナットを締め付ける。

$T = 1650 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ (アクスル キヤリヤ側)

$T = 1850 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ (ボデー側)



K 6755

- (4) ストラット ロッドのアクスル キヤリヤ側およびボデー側のボルトを締め付ける。

$T = 1450 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

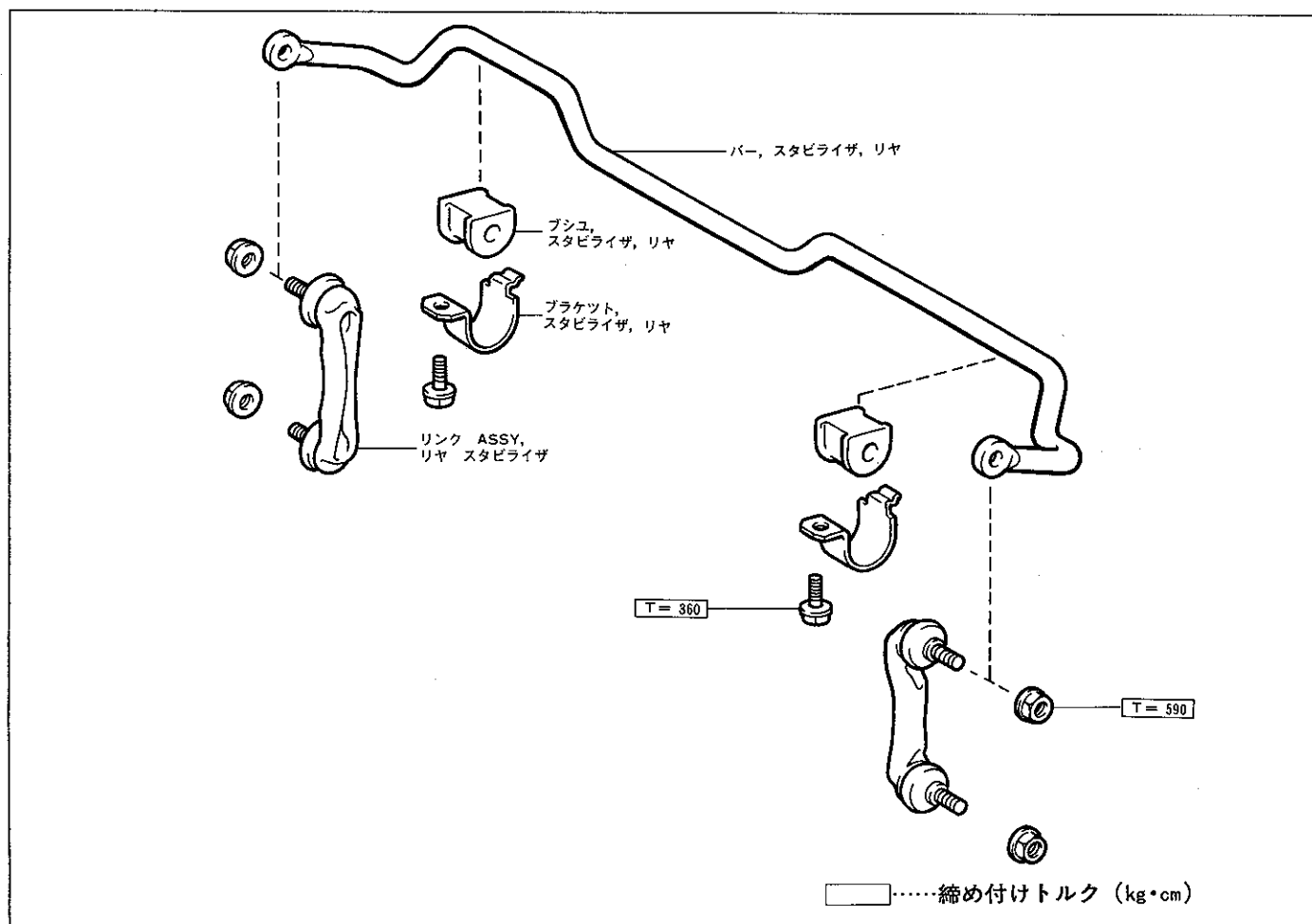
8 リヤ ホイール取り付け

$T = 1050 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

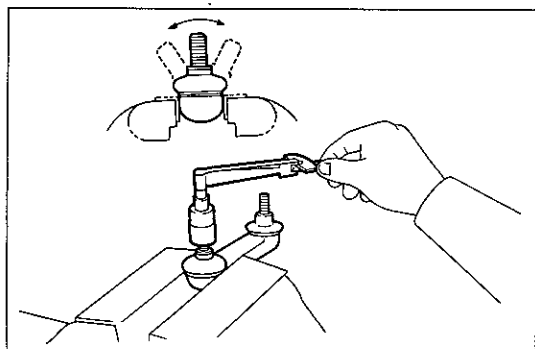
9 リヤ ホイール アライメント点検および調整 (P9-7参照)

スタビライザ バー

脱着構成図



K 6764



K 6765

スタビライザ リンク点検

1 ボール ジョイント回転具合点検

- (1) スタッドを揺動方向に 5 往復させた後, 2~4 秒/回転の速度で連続して回転させ, 5 回目に点検する。

基準値 0.5~20kg・cm

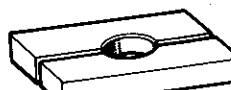
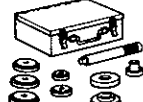
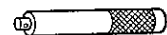
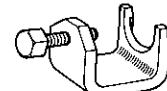
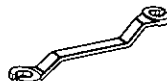
2 ブーツ点検

- (1) ブーツに亀裂がないことを点検する。

リヤ アクスル

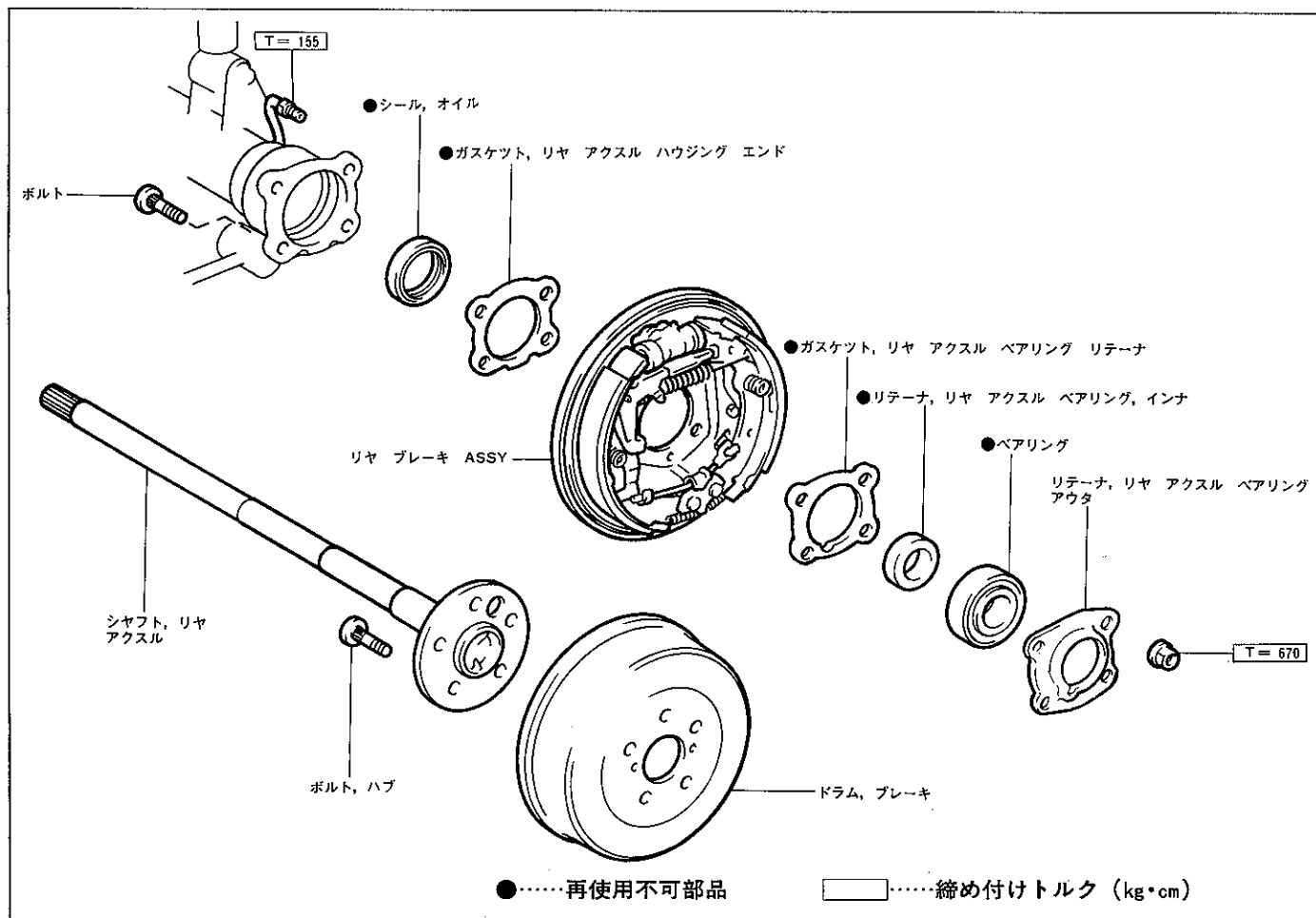
4リンク

準 備 品

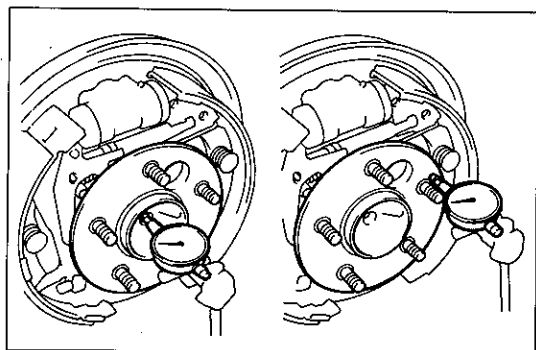
S S T		09308-00010 プラー, オイル シール	オイル シール取りはずし用
		リブレーサ, デイフアレンシヤ 09506-35010 ル ドライブ ピニオン リヤ ベアリング	ベアリング取り付け用
		09520-00031 プラー, リヤ アクスル シヤ フト	リヤ アクスル シヤフト脱着用
		09527-21011 リムーバ, リヤ アクスル シ ヤフト ベアリング	ベアリング取りはずし用
		09608-20012 ツール セット, フロント ハ ブ アンド ドライブ ピニオ ン ベアリング	
		09608-00060 リブレーサ	オイル シール取り付け用
		09608-03020 ハンドル	オイル シール取り付け用
		09628-10011 プラー, ボール ジョイント	ハブ ボルト取りはずし用
計 器		09751-36011 レンチ, ブレーキ チューブ ユニオン ナット	ブレーキ チューブ切り離しおよび接続用
	ダイヤル ゲージ		リヤ アクスル シヤフト振れ点検用
	鉄片 (40×200×30mm)		ベアリングおよびベアリング インナ リテーナ 取り付け用
油 脂 その他	シール パツキン 1281		エンド プレート取り付け面への塗布用 リテーナ & エンド ガスケット取り付け面への塗布用

リヤ アクスル シャフト

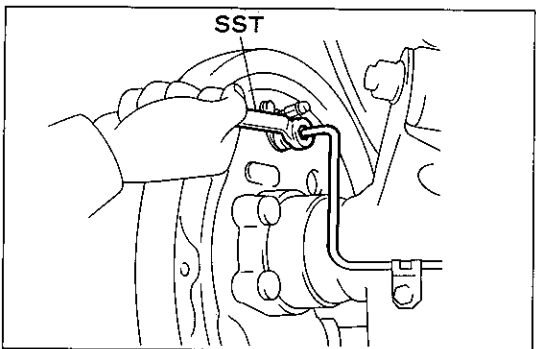
脱着構成図



K 6766



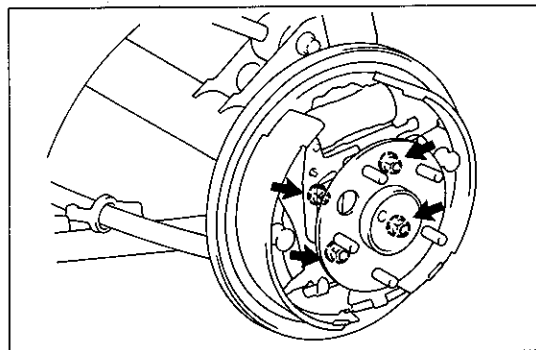
K 3155



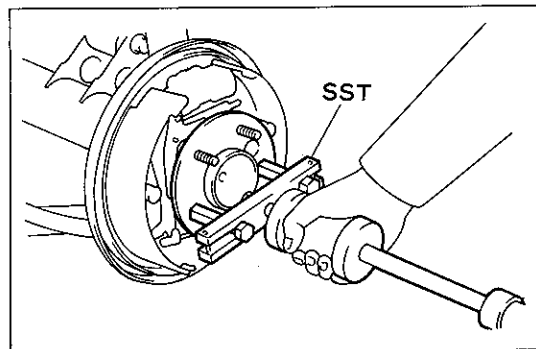
K 6767

リヤ アクスル シャフト取りはずし

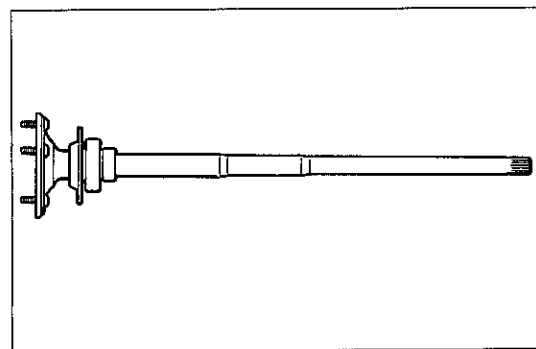
- 1 リヤ ホイール取りはずし
- 2 ブレーキ ドラム取りはずし
- 3 ベアリング軸方向のガタ点検
 - (1) ダイヤル ゲージをリヤ アクスル シャフト先端にセットして、ベアリング軸方向のガタを点検する。
 - 限度 0.7mm
- 4 リヤ アクスル シャフト フランジ部振れ点検
 - (1) ダイヤル ゲージをリヤ アクスル シャフトの外周にセットして、振れを点検する。
 - 限度 0.2mm (フランジ面)
- 5 ブレーキ チューブ切り離し
 - (1) ホイール シリンダからブレーキ チューブを切り離す。
 - SST 09751-36011



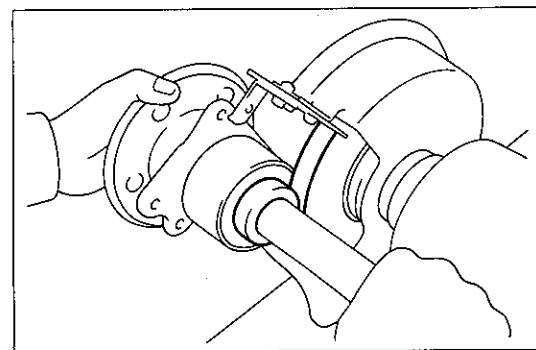
K 6768



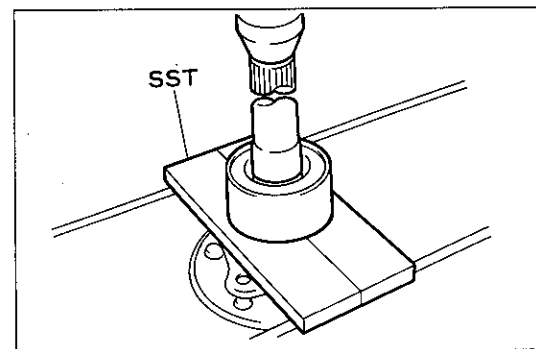
K 6769



B 8707



K 6770



K 6771

6 リヤ アクスル シヤフト取りはずし

(1) ベアリング リテーナ取り付けナット 4個を取りはずす。

(2) リヤ アクスル シヤフトを抜き取る。

S S T 09520-00031

注意 オイルがベアリング内に入進するため、アクスル シヤフトのオイルを拭き取る。

(3) リヤ ブレーキ ASSYを取りはずす。

(4) エンド ガスケットを取りはずす。

リヤ アクスル シヤフトおよび

ベアリング リテーナ点検

1 曲がり、亀裂、損傷点検

(1) リヤ アクスル シヤフトの振れおよび曲がりを点検する。

限 度 0.2mm (フランジ面振れ)

2.0mm (シャフト曲がり)

(2) リヤ アクスル シヤフトの亀裂、損傷およびスプライン部の摩耗を点検する。

(3) ベアリング リテーナの摩耗、変形を点検する。

リヤ アクスル シヤフト分解

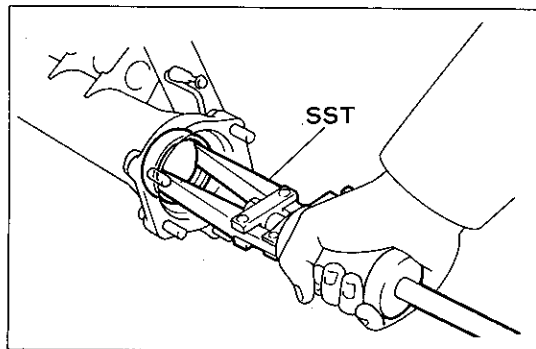
1 ベアリング取りはずし

(1) ベアリング インナ リテーナの一部をグラインダなどで削り、タガネで割って取りはずす。

(2) ベアリングを取りはずす。

S S T 09527-21011

(3) ベアリング アウタ リテーナおよびガスケットを取りはずす。

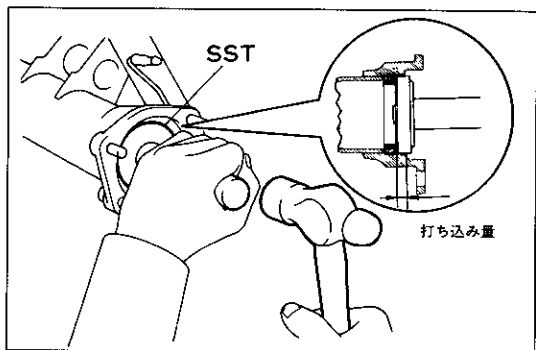


K 6772

2 オイル シール取りはずし

- (1) SSTを使用して、オイル シールを取りはずす。

S S T 09308-00010



K 6773

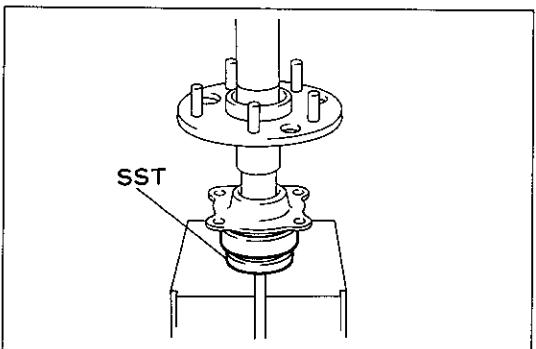
リヤ アクスル シヤフト組み付け

1 オイル シール取り付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイル シールを取り付ける。

S S T 09608-00060 09608-03020

オイル シール打ち込み量 約 6 mm

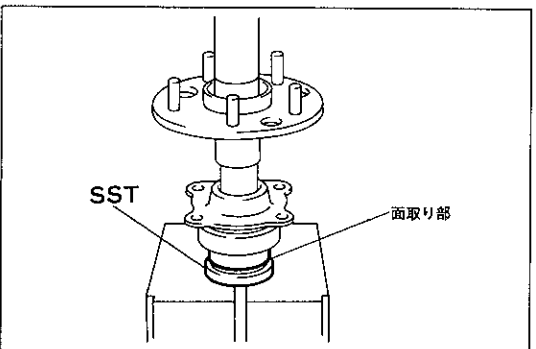


K 6775

2 ベアリング取り付け

- (1) ベアリング アウタ リテーナをリヤ アクスル シヤフトに取り付ける。
(2) 新品のベアリングをリヤ アクスル シヤフトに圧入する。

S S T 09506-35010



K 6774

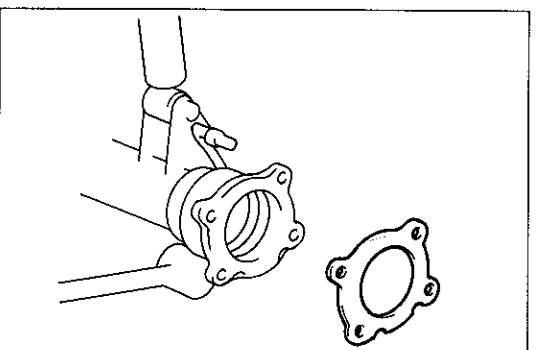
- (3) 新品のベアリング インナ リテーナを約150℃に加熱する。

注意 リテーナは 150℃以上になると表面がわずかに黄色を帯びてくるので、これ以上加熱しない。

- (4) 加熱したベアリング インナ リテーナをリヤ アクスル シヤフトに圧入する。

S S T 09506-35010

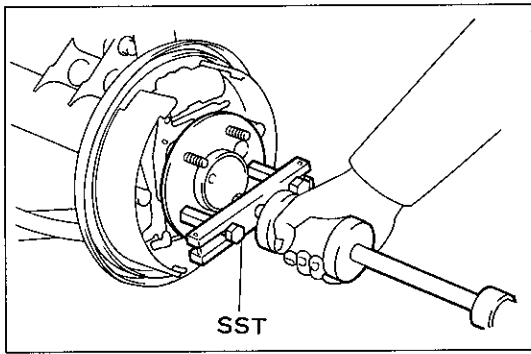
注意 面取りのない方をベアリング側に向ける。



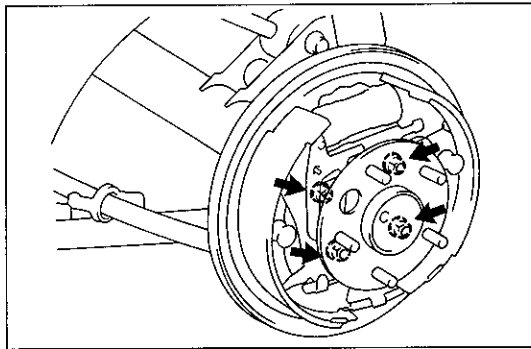
K 6776

3 エンド ガスケット取り付け

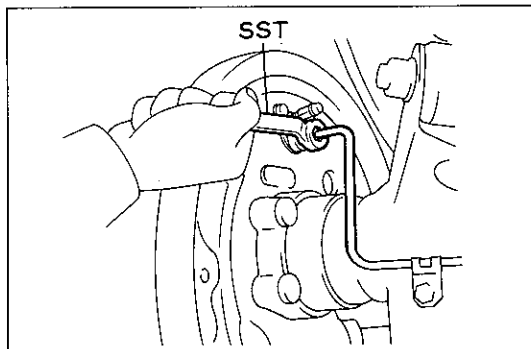
- (1) 新品のエンド ガスケットの両面にシール パツキン 1281を塗布して、リヤ アクスル ハウジングに取り付ける。
(2) リヤ ブレーキ ASSYを取り付ける。



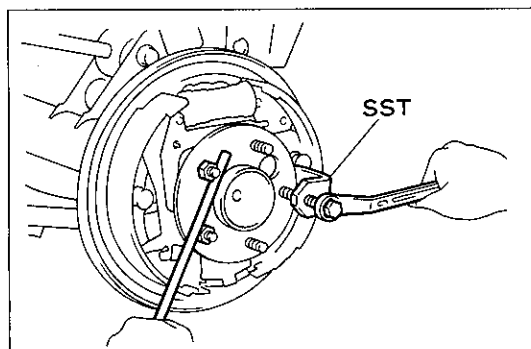
K 6769



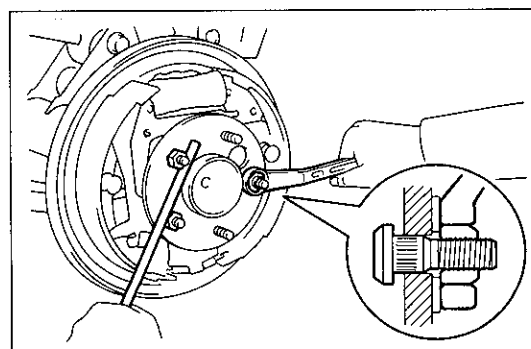
K 6768



K 6767



K 6777



K 6778

リヤ アクスル シャフト ウイズ

ベアリング取り付け

1 リヤ アクスル シャフト取り付け

- (1) 両面にシール パッキン 1281を塗布した新品のリテーナ ガスケットを介して、リヤ アクスル シャフトを取り付ける。

S S T 09520-00031

注意 リテーナ ガスケットの切り欠きを車両前方にする。

- (2) ナット 4 個で、ベアリング アウタ リテーナを取り付ける。

T = 670kg・cm

2 ブレーキ チューブ取り付け

- (1) ホイール シリンダにブレーキ チューブを取り付ける。

S S T 09751-36011

T = 155kg・cm

3 ブレーキ エア抜き

4 リヤ ホイール取り付け

T = 1050kg・cm

5 油量点検

ハブ ボルト交換

1 リヤ ホイール取りはずし

2 リヤ ブレーキ ドラム取りはずし

3 ハブ ボルト取りはずし

- (1) SSTを使用して、ハブ ボルトを取りはずす。

S S T 09628-10011

4 ハブ ボルト取り付け

- (1) ハブ ボルトに左図のようなプレート ワッシヤを通し、ナット (呼び径12mm, ピッチ1.5) を締め付けながらハブ ボルトを取り付ける。

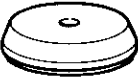
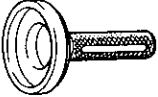
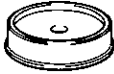
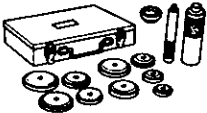
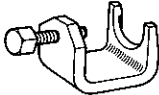
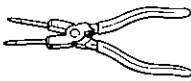
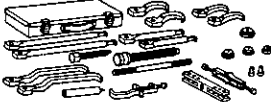
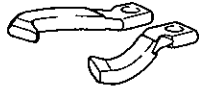
5 リヤ ブレーキ ドラム取り付け

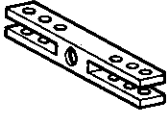
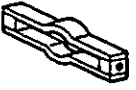
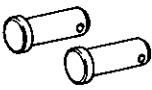
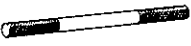
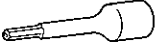
6 リヤ ホイール取り付け

T = 1050kg・cm

IRS

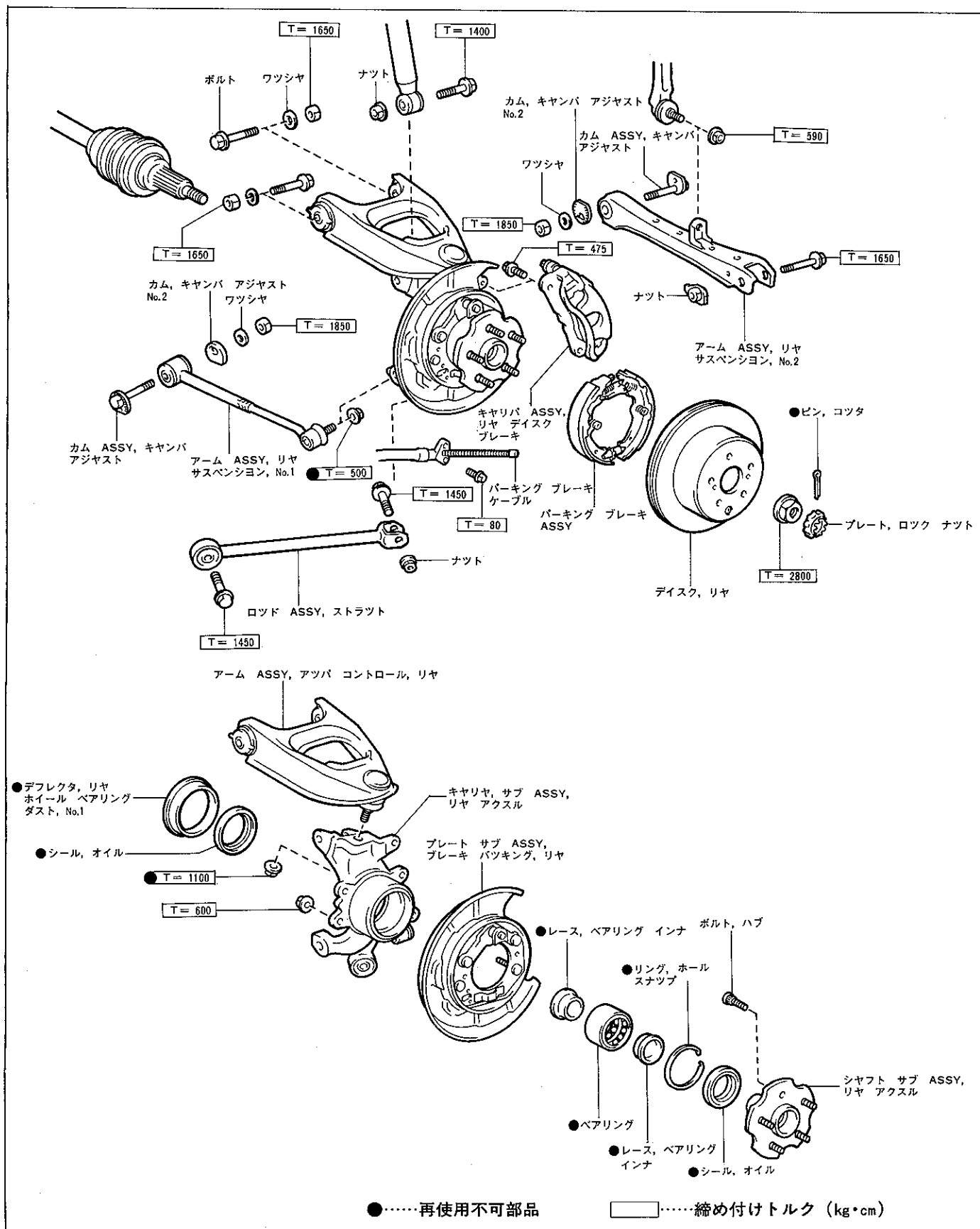
準備品

S S T		09218-54011	リムーバ アンド リブレーサ, シリンダ ライナ	ベアリングおよびオイル シール (アウト側) 取 り付け用
		09223-41020	リブレーサ, クランク シャフ ト リヤ オイル シール	オイル シール (インナ側) 取り付け用
		09308-00010	プラー, オイル シール	オイル シール取りはずし用
		09608-32010	リブレーサ, ステアリング ナ ツクル オイル シール	ベアリングおよびオイル シール (アウト側) 取 り付け用
		09608-35014	ツール セット, アクスル ハ ブ アンド ドライブ ピニオ ン ベアリング	
		09608-06020	ハンドル	
		09608-06100	リブレーサ, フロント ハブ アウト	ベアリング取りはずし用 アクスル シャフト取り付け用
		09608-06160	リブレーサ, リヤ ハブ イン ナ ベアリング カップ	ダスト デフレクタ取り付け用
		09628-10011	プラー, ボール ジョイント	ハブ ボルト取りはずし用
		09905-00013	プライヤ, スナツプ リング	スナツプ リング脱着用
		09950-20017	プラー, ユニバーサル	
		09952-20010	スクリュ	
		09953-55010	クロウ, A	

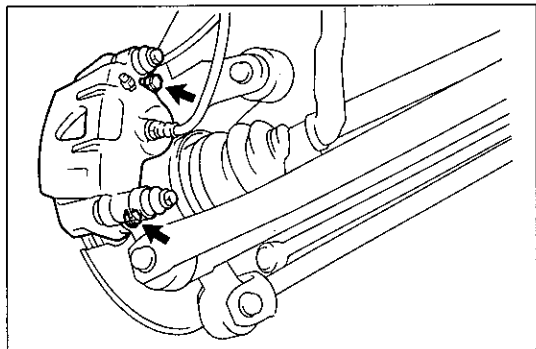
S S T		09954-20011 スクリュ, アジャスト	アクスル シャフトおよびインナ レース (アウト側) 取りはずし用
		09955-20012 プロパ	
		09956-20011 ピース, タイティング	
		09957-20010 ピン	
		09958-30020 ディスク D, アタツチング	
		09959-20010 ハンドル	
工 具		(株)バンザイ 扱い レンチ, ヘキサゴン 5 3X-75-5	スタビライザ リンク脱着用
	ソケット レンチ (32mm)		アクスル ハブ取り付けナット脱着用
計 器	ダイヤル ゲージ		アクスル ハブ振れ点検用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)		各部締め付け用
	トルク レンチ (700~4200kg・cm)		アクスル ハブ取り付けナット締め付け用
油 脂 その他	キャツスル MP グリース No.2		各部塗布用

リヤ アクスル ハブ

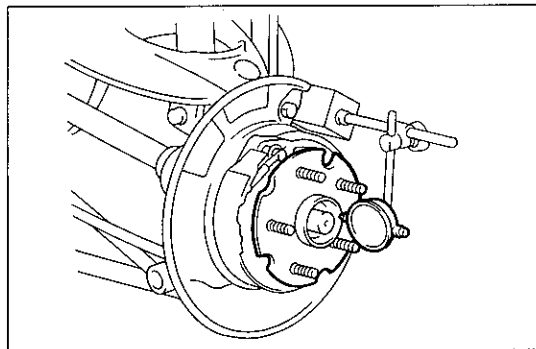
脱着分解構成図



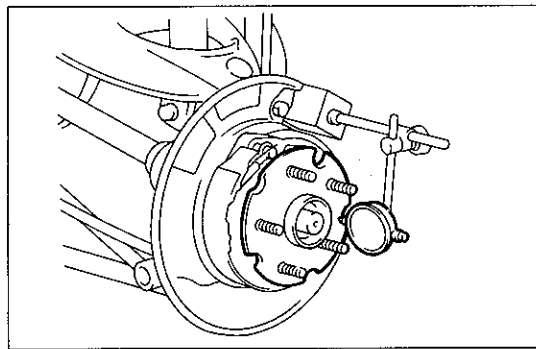
K 6779



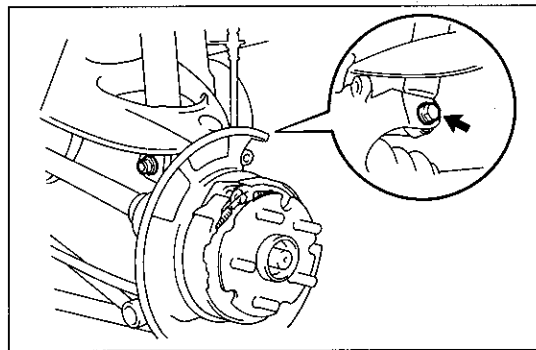
K 6780



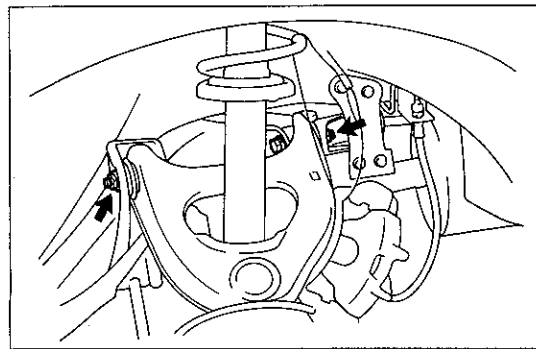
K 6781



K 6782



K 6783

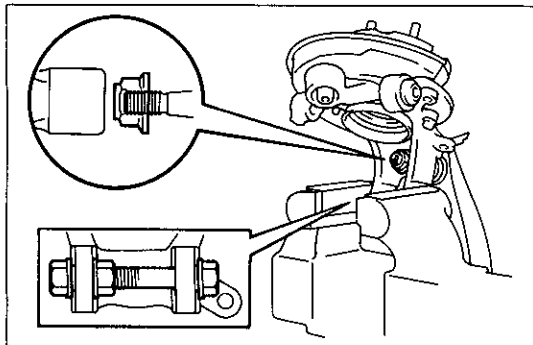


K 6784

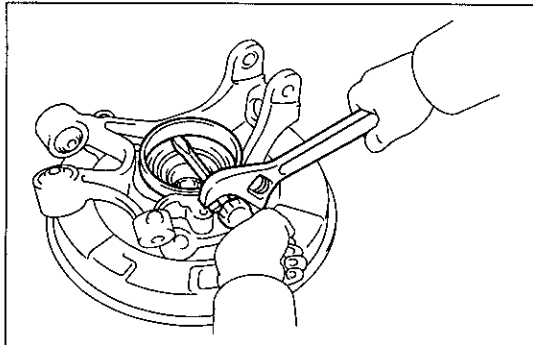
リヤ アクスル キヤリヤ ウイズ

アツパ アーム取りはずし

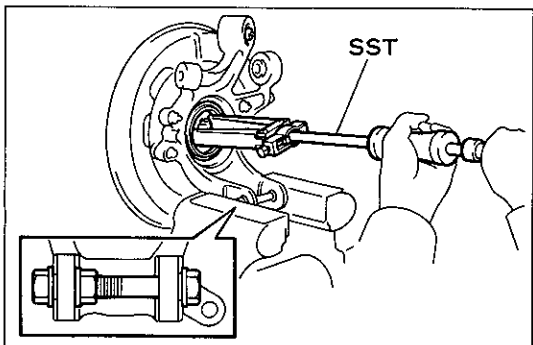
- 1 リヤ ホイール取りはずし
- 2 コッタ ピン, ロック キヤツプおよびロック ナット取りはずし
- 3 リヤ ブレーキ キヤリパおよびディスク取りはずし
 - (1) ボルト 2 本をはずして, ブレーキ キヤリパを取りはずす。
 - 注意** ・キヤリパを針金などで吊しておく。
 - ・ブレーキ パッド間に厚さ10mm程度の木片などを入れる。
 - (2) ディスクとアクスル ハブに合わせマークを付けてから, リヤ ディスクを取りはずす。
 - 注意** ディスク面に油脂を着けない。
- 4 ベアリング軸方向のガタ点検
 - (1) ロック ナットをドライブ シャフトとアクスル ハブを固定できるまで締め付ける。
 - (2) ダイアル ゲージをドライブ シャフト先端の円周上にセットし, ベアリング軸方向のガタを点検する。
 - 限度 0.05mm
- 5 アクスル ハブ振れ点検
 - (1) ダイアル ゲージをアクスル ハブの外周付近にセットし, アクスル ハブの振れを点検する。
 - 限度 0.07mm
 - (2) ロック ナットを取りはずす。
- 6 パーキング ブレーキ シューおよびケーブル取りはずし
- 7 ショック アブソーバ切り離し
 - (1) ショック アブソーバ プシユ部のボルトおよびナットをはずして, アクスル キヤリヤからショック アブソーバを切り離す。
- 8 ストラット ロッド取りはずし
(P9-58参照)
- 9 ロワー サスペンション アーム No.1 取りはずし
(P9-58参照)
- 10 ロワー サスペンション アーム No.2 取りはずし
(P9-59参照)
- 11 リヤ アクスル キヤリヤ ウイズ アツパ アーム取りはずし
 - (1) アツパ アームのボルト 2 本をはずして, リヤ アクスル キヤリヤ ウイズ アツパ アームを取りはずす。



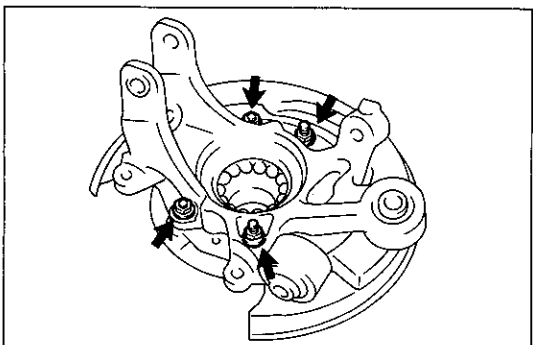
K 6750



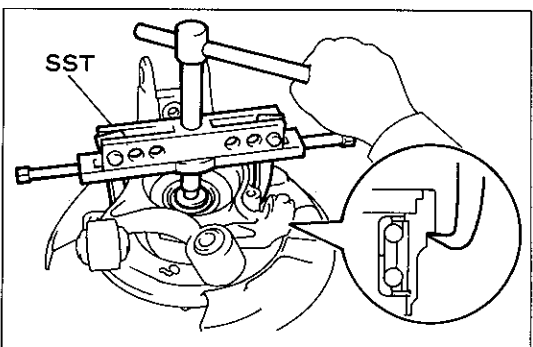
E 2609



K 6785



K 6786



K 1601

リヤ アクスル ハブ分解

1 アツパ アーム取りはずし

- (1) ボルトおよびナットを図のように取り付け、バイスに固定する。
- (2) ナットをゆるめて、図の位置に取り付け、ナットをハンマでたたいて、アツパ アームを取りはずす。

注意 アツパ アームのスタッドを直接たたかない。

2 ダスト デフレクタ取りはずし

- (1) ⊖ドライバを使用して、ダスト デフレクタを取りはずす。

3 オイル シール（インナ側）取りはずし

- (1) ボルトおよびナットを図のように取り付け、バイスに固定する。
- (2) SSTを使用して、オイル シールを取りはずす。

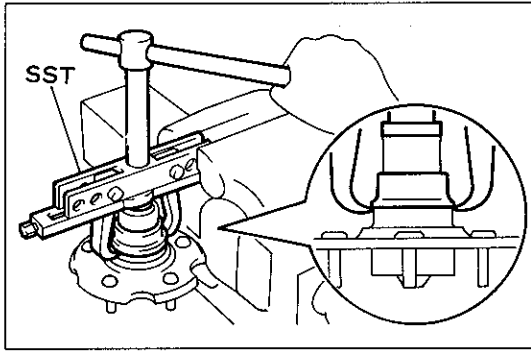
S S T 09308-00010

4 アクスル シャフト取りはずし

- (1) ナット4個をはずして、バッキング プレートをアクスル シャフト側へずらす。

- (2) SSTを使用して、アクスル シャフトおよびバッキング プレートを取りはずす。

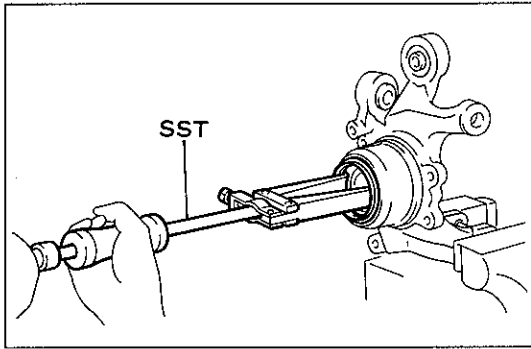
S S T	09952-20010	09953-55010	09954-20011
	09955-20012	09956-20011	09957-20010
	09958-30020	09959-20010	



K 1602

- (3) SSTを使用して、インナ レース (アウト側) をアクスル シヤフトから取りはずす。

S S T	09952-20010	09953-55010	09954-20011
	09955-20012	09956-20011	09957-20010
	09958-30020	09959-20010	

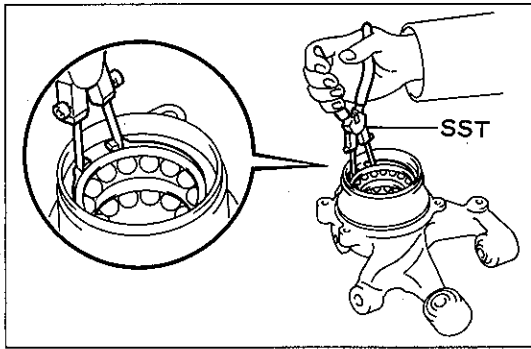


K 6787

5 オイル シール (アウト側) 取りはずし

- (1) SSTを使用して、オイル シールを取りはずす。

S S T 09308-00010

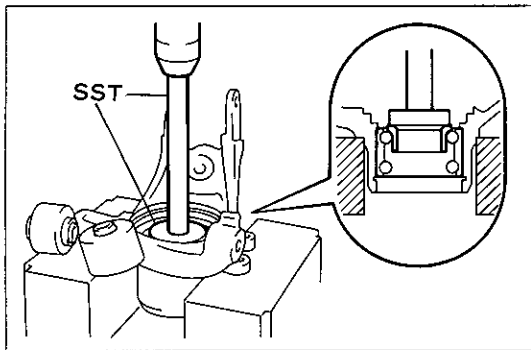


E 2617

6 ベアリング取りはずし

- (1) SSTを使用して、ホール スナツプ リングを取りはずす。

S S T 09905-00013

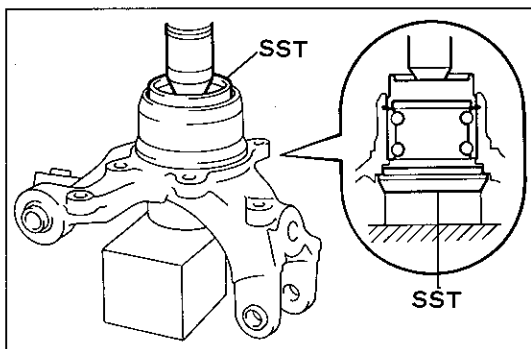


K 6788

- (2) インナ レースをベアリングのインナ側に取り付ける。

- (3) SSTおよびプレスを使用して、ベアリングを取りはずす。

S S T 09608-06020 09608-06100



K 6789

リヤ アクスル ハブ組み付け

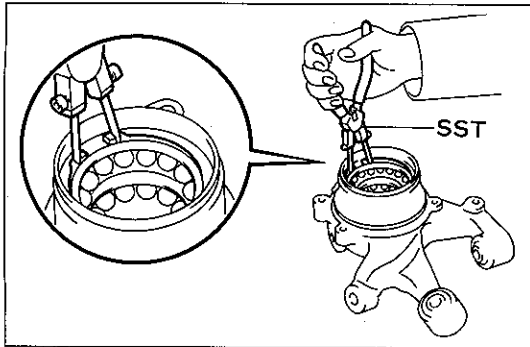
1 ベアリング取り付け

- (1) SSTを使用して、新品のベアリングをアクスル キヤリヤに取り付ける。

S S T 09218-54011 09608-32010

注意

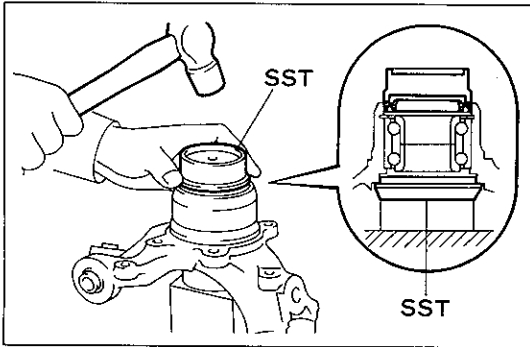
- ・ボールおよびインナ レースが分離した場合は、必ず組み付いていた側に組み付ける。
- ・新品のベアリングに着いているグリースは拭き取らない。
- ・アクスル キヤリヤの下に適当な台を置く。



E 2617

- (2) SSTを使用して、新品のホール スナップ リングを取り付ける。

S S T 09905-00013



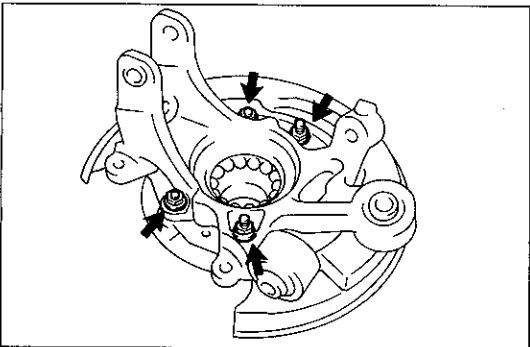
K 6790

2 オイル シール (アウト側) 取り付け

- (1) インナ レース (アウト側) を取り付ける。
 (2) SSTを使用して、新品のオイル シールがキャリヤ端面と面一になるまで圧入する。

S S T 09218-54011 09608-32010

- (3) オイル シールのリップ部にキヤツスル MP グリース No. 2を塗布する。



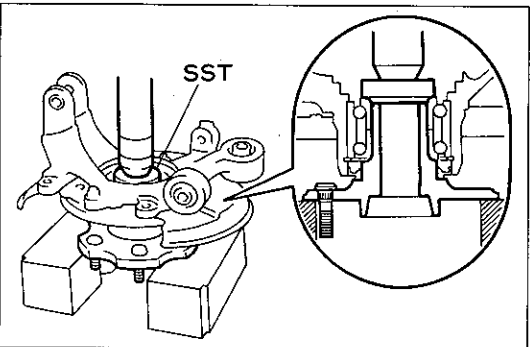
K 6786

3 アクスル シャフト取り付け

- (1) ナット 4個でバツキング プレートを取り付ける。

T = 600kg・cm

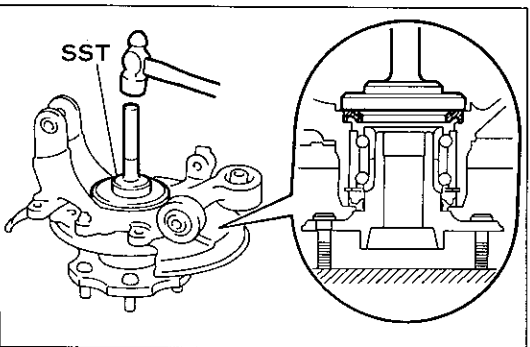
- (2) インナ レースを取り付ける。



K 6791

- (3) SSTを使用して、アクスル シャフトを圧入する。

S S T 09608-06100



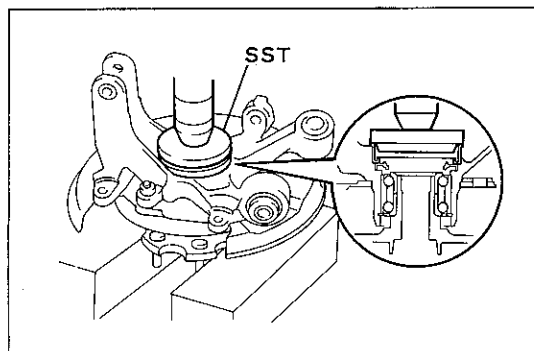
K 6792

4 オイル シール (インナ側) 取り付け

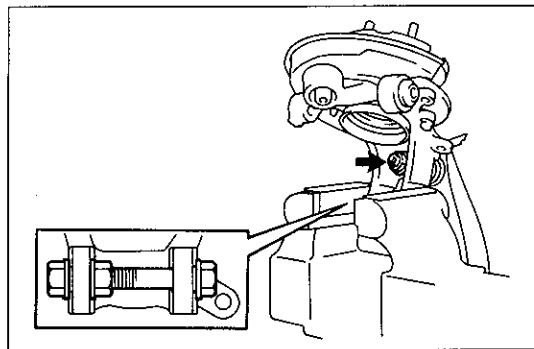
- (1) SSTを使用して、新品のオイル シールがアクスル キャリヤ端面と面一になるまで打ち込む。

S S T 09223-41020

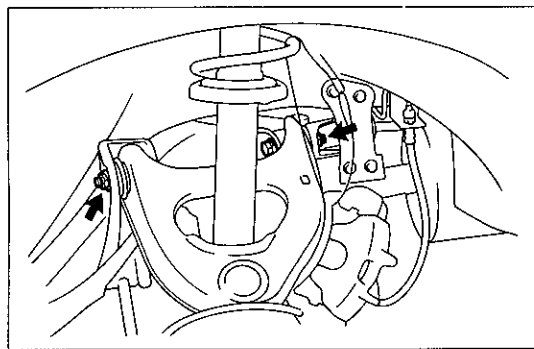
- (2) オイル シールのリップ部にキヤツスル MP グリース No. 2を塗布する。



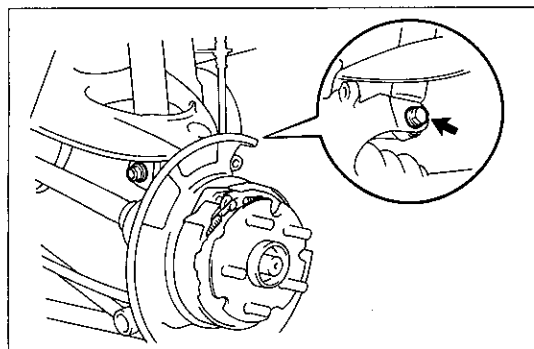
K 7875



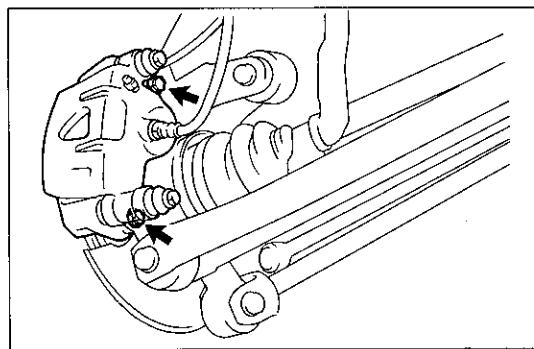
K 6754



K 6784



K 6783



K 6780

5 ダスト デフレクタ取り付け

- (1) SSTおよびプレスを使用して、新品のダスト デフレクタを取り付ける。

S S T 09608-06160

注意 ダスト デフレクタを変形させない。

6 アツパ アーム取り付け

- (1) ボルトおよびナットを図のように取り付け、バイスに固定する。
- (2) ナット (呼び径14mm, ピッチ1.5) でアツパ ボール ジョイントとアクスル キヤリヤを $T=200\text{kg}\cdot\text{cm}$ で締め付け、テーパ部をかん合させる。
- (3) ナットをはずし、新品のロック ナットを取り付ける。

 $T=1100\text{kg}\cdot\text{cm}$

リヤ アクスル キヤリヤ ウィズ

アツパ アーム取り付け

1 リヤ アクスル キヤリヤ ウィズ アツパ アーム取り付け

- (1) アクスル ハブにドライブ シャフトを挿入してから、アツパ アームをボルト 2 本でボデーに仮締めする。

注意 ドライブ シャフトの先端で、アクスル ハブのオイル シールを傷つけない。

2 ロワー サスペンション アーム No.2 仮締め (P9-60参照)

3 ロワー サスペンション アーム No.1 仮締め (P9-60参照)

4 ストラット ロッド仮締め (P9-60参照)

5 ショック アブソーバ取り付け

- (1) リヤ アクスル キヤリヤをジャッキ アップし、ショック アブソーバとキヤリヤの穴を合わせ、車両後方からボルトを通して締め付ける。

 $T=1400\text{kg}\cdot\text{cm}$

6 パーキング ブレーキ ケーブルおよびシュー組み付け

7 リヤ ブレーキ ディスクおよびキヤリパ取り付け

- (1) アクスル ハブとディスクの合わせマークを合わせて、リヤ ディスクを取り付ける。
- (2) ボルト 2 本で、ブレーキ キヤリパをキヤリヤに取り付ける。

 $T=475\text{kg}\cdot\text{cm}$

8 ロック ナット, ロック キヤップおよびコッタ ピン取り付け

 $T=2800\text{kg}\cdot\text{cm}$

9 リヤ ホイール 取り付け

T=1050kg・cm

10 車両落ち着かせ

- (1) 車両をジャッキ ダウンして数回上下にゆすり、リヤ サスペンションを落ち着かせる。

11 リヤ ホイール取りはずし

12 リヤ サスペンション アームおよびストラット ロッド本締め

(P9-60参照)

13 アツパ アーム本締め

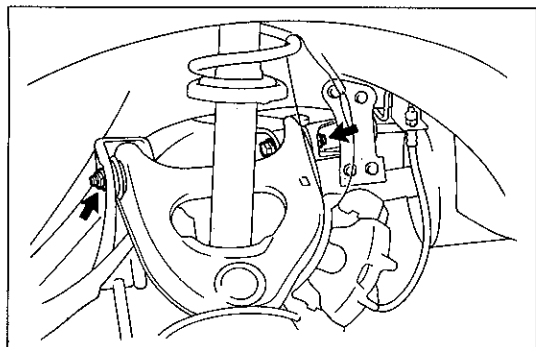
T=1650kg・cm

14 リヤ ホイール取り付け

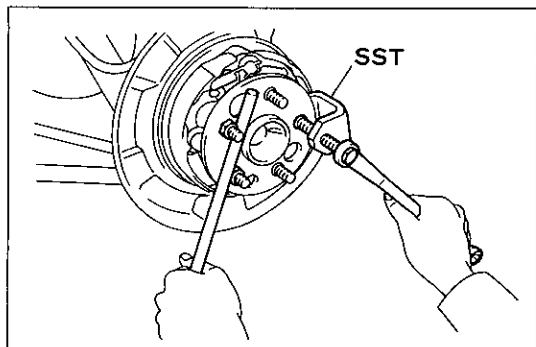
T=1050kg・cm

15 リヤ ホイール アライメント点検および調整

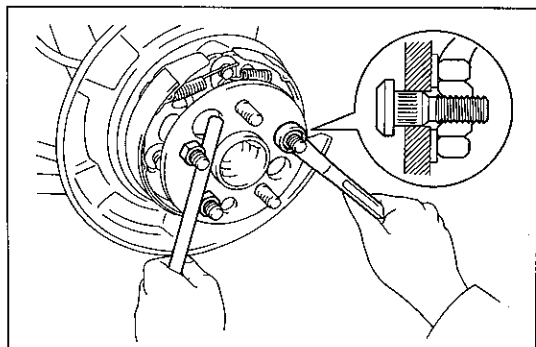
(P9-7参照)



K 6784



K 4753



K 4754

ハブ ボルト 交換

1 リヤ ホイール取りはずし

2 ブレーキ キャリパおよびディスク取りはずし

(P9-71参照)

3 ハブ ボルト取りはずし

- (1) SSTを使用して、ハブ ボルトを取りはずす。

S S T 09628-10011

4 ハブ ボルト取り付け

- (1) ハブ ボルトに左図のようなプレート ワッシヤを通し、ナット (呼び径12mm, ピッチ1.5) を締め付けながらハブ ボルトを取り付ける。

5 ブレーキ ディスク およびキャリパ取り付け

(P9-75参照)

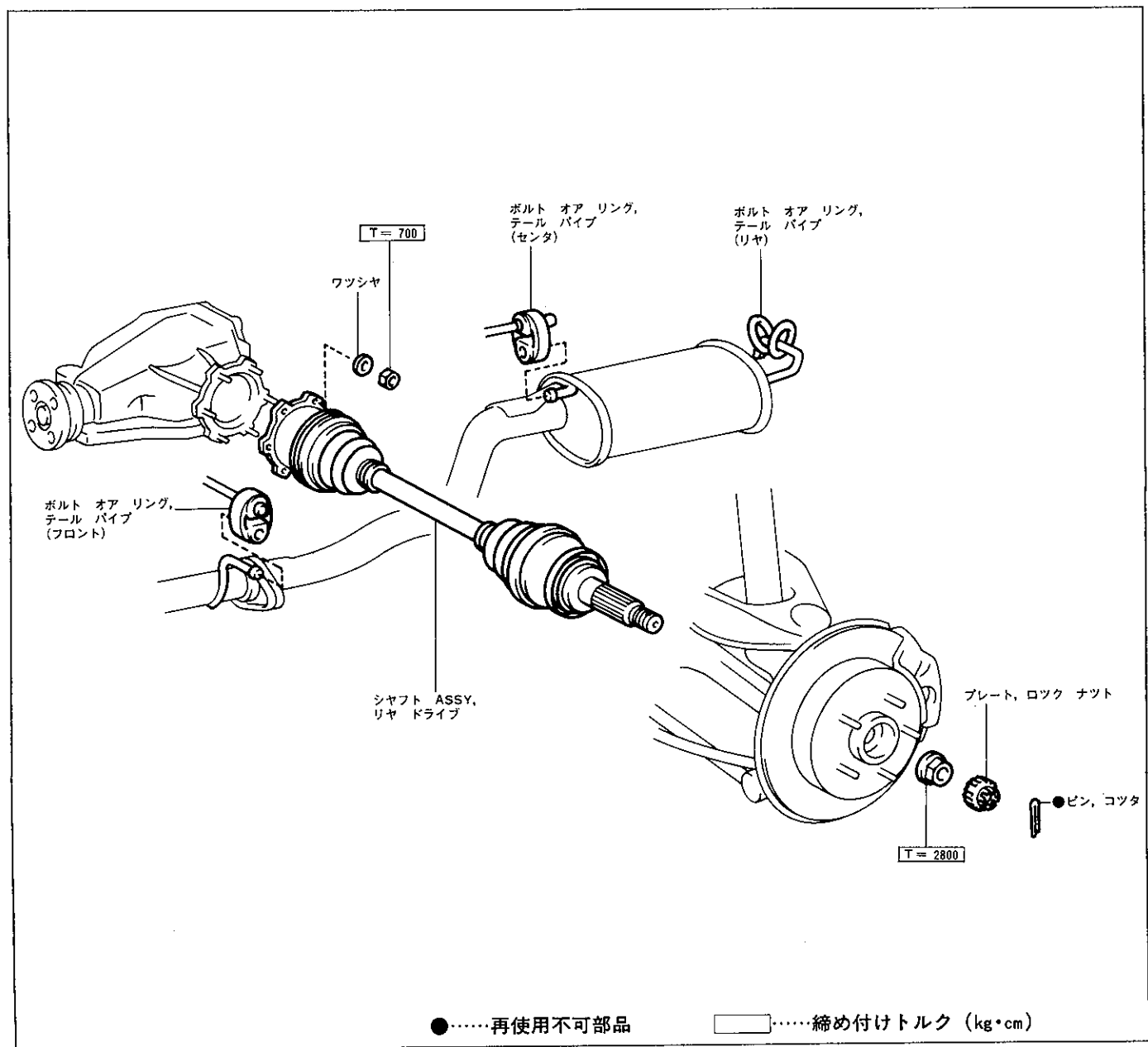
6 リヤ ホイール取り付け

T=1050kg・cm

ドライブ シャフト
準備品

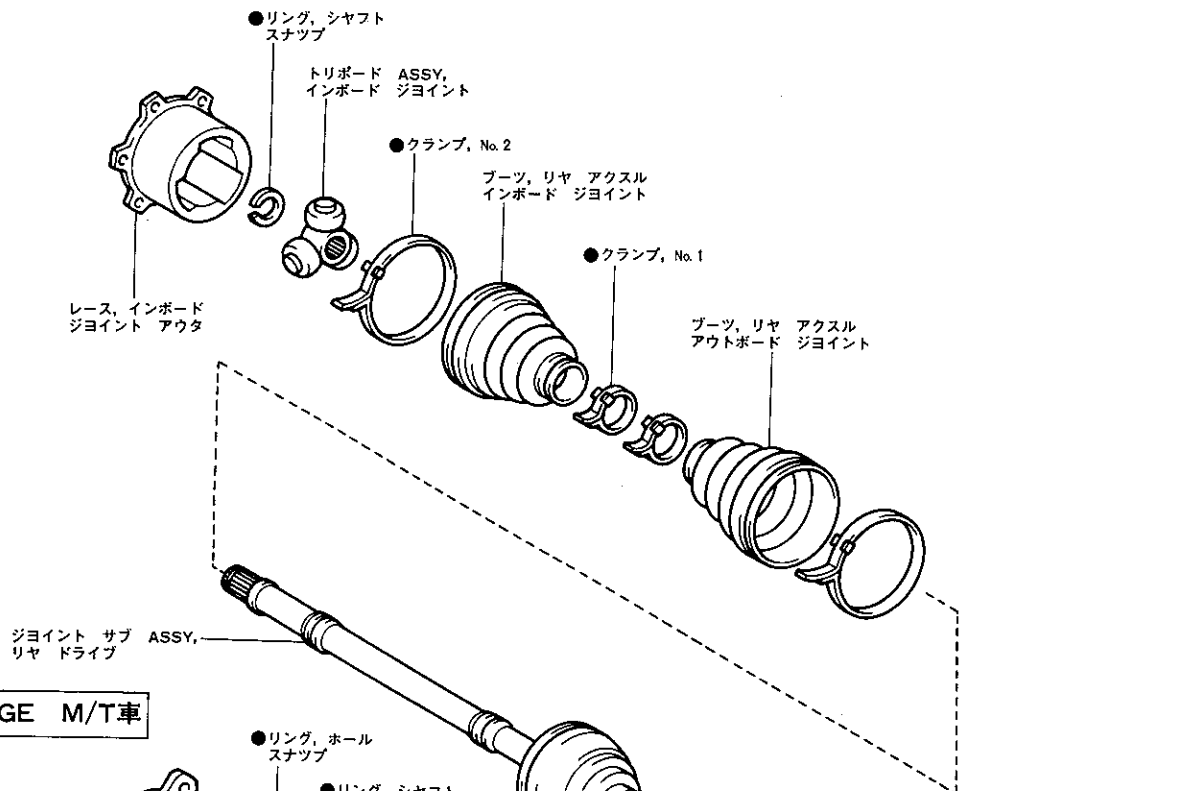
S S T	 09905-00012 エクスパンダ, スナツプ リン グ No.1	スナツプ リング脱着用
工 具	ソケット レンチ (32mm)	ハブ ナット脱着用
計 器	トルク レンチ (500~2800kg・cm)	ハブ ナット締め付け用

ドライブ シャフト
脱着構成図

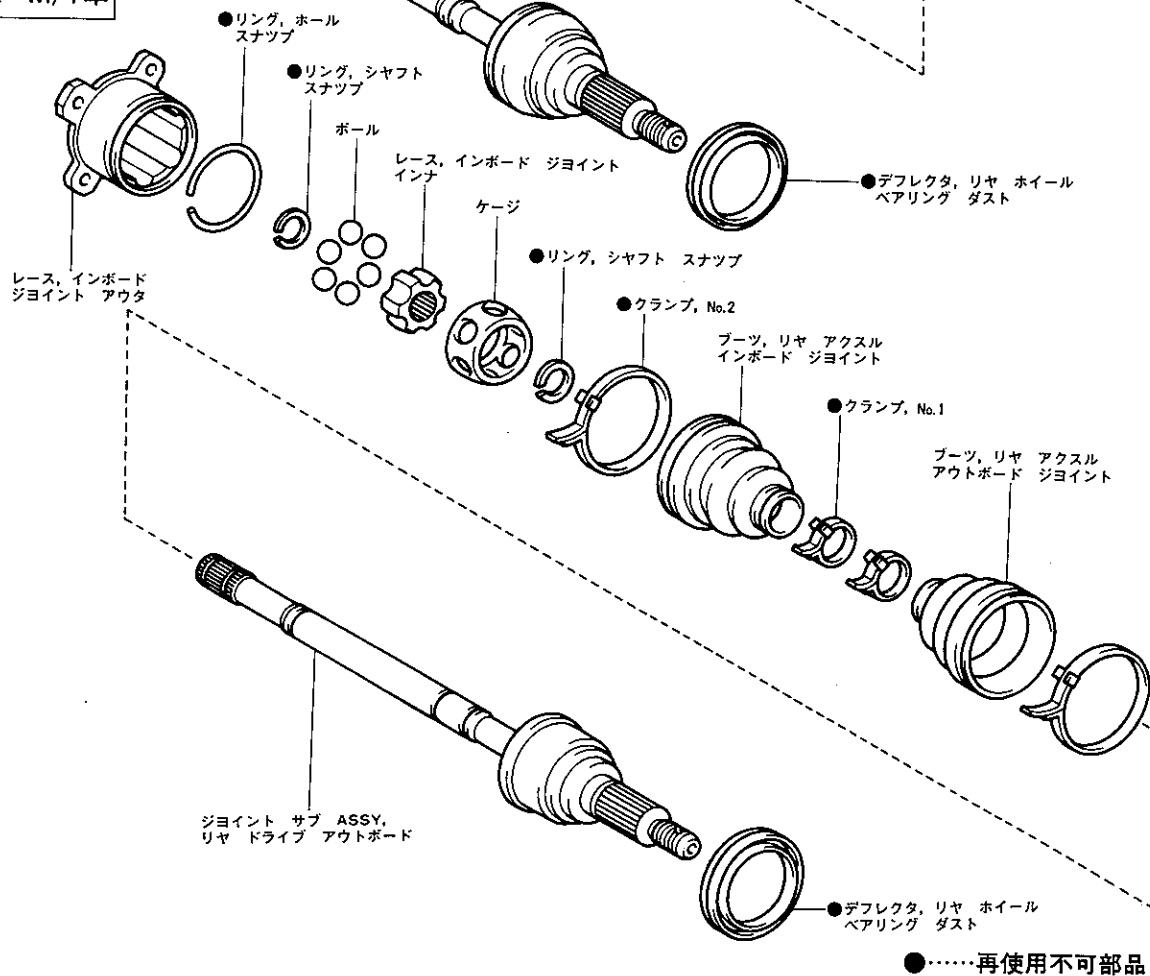


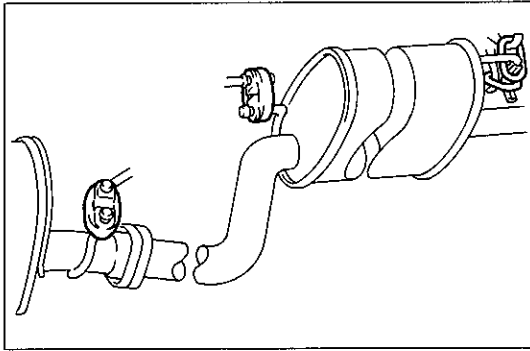
分解構成図

除く 1G-GE M/T車



1G-GE M/T車

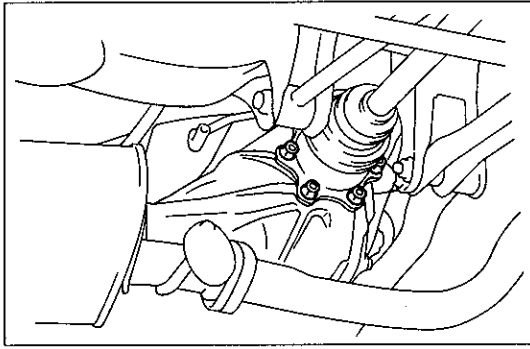




K 6795

ドライブ シャフト取りはずし

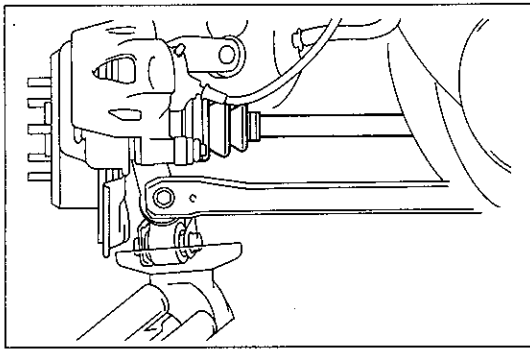
- 1 リヤ ホイール取りはずし
- 2 コッタ ピン, ロック キヤップ, ロック ナット取りはずし
- 3 エキゾースト テール パイプ O リング取りはずし(左側)
 - (1) O リングを切り離す。
 - (2) 針金などでエキゾースト テール パイプを吊り下げておく。



K 6796

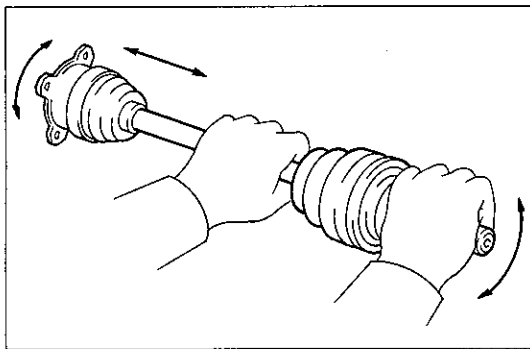
4 ドライブ シャフト取りはずし

- (1) ドライブ シャフト セット ナットを取りはずす。



K 6903

- (2) リヤ アクスル キヤリヤをジャッキ アップし, ドライブ シャフトを水平にする。
- (3) ドライブ シャフトをサイド ギヤ シャフトから切り離し, アクスル ハブから取りはずす。



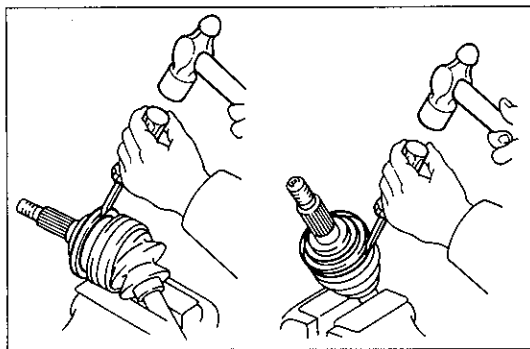
K 6797

ドライブ シャフト分解前点検

1 ドライブ シャフト ASSY点検

- (1) ジョイント部を上下, 左右, 軸方向に動かし, 作動の不円滑や著しいガタがないことを確認する。また, ブーツの亀裂, 損傷およびグリース漏れを確認する。

注意 ドライブ シャフトは水平にして持ち運ぶ。



K 6798

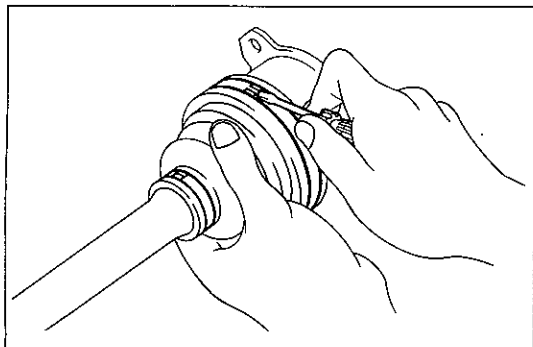
ダスト デフレクタ交換

1 ダスト デフレクタ取りはずし

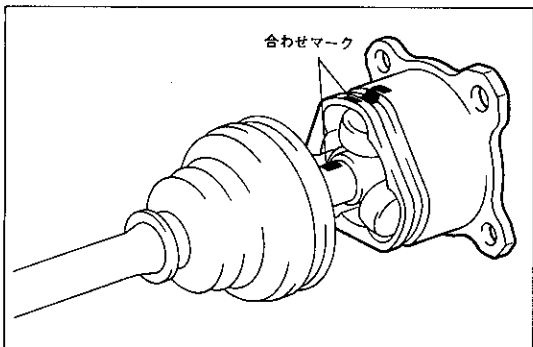
2 ダスト デフレクタ取り付け

- (1) 新品のダスト デフレクタを取り付ける。

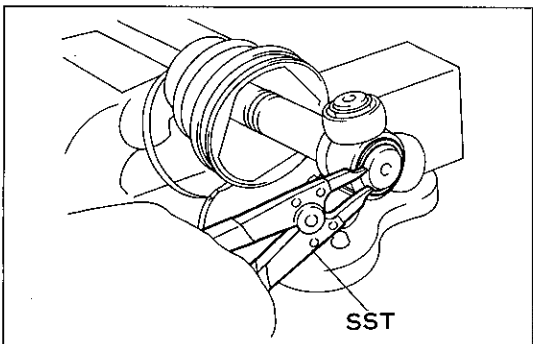
注意 ダスト デフレクタを変形させない。



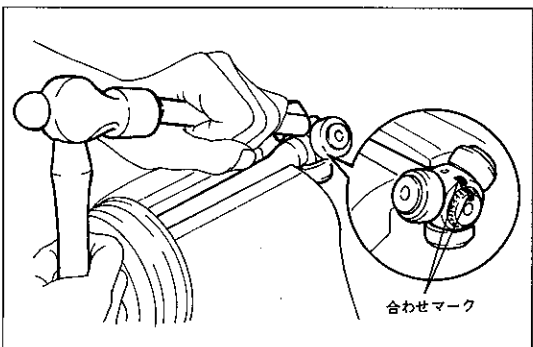
K 6799



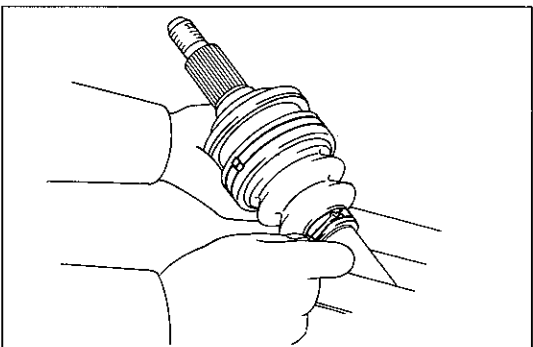
K 6800



E 7844



K 4677



K 6801

除く 1G-GE M/T車

ドライブ シャフト分解

1 インボード ジョイント ブーツ切り離し

- (1) ブーツ クランプ 2個を取りはずす。

注意 ブーツを傷つけない

- (2) インボード ジョイント ブーツをアウト レースから取りはずす。

2 インボード ジョイント アウト レース取りはずし

- (1) インボード ジョイント部からグリースを取り除く。

- (2) インボード ジョイント アウト レースとドライブ シャフトに合わせマークを付ける。

注意 合わせマークを付ける際、ポンチは使用しない。

- (3) インボード ジョイント アウト レースをドライブ シャフトから取りはずす。

3 インボード ジョイント取りはずし

- (1) ドライブ シャフトをバイスに固定する。

- (2) シャフト スナツプ リングを取りはずす。

SST 09905-00012

- (3) インボード ジョイントとドライブ シャフトに合わせマークを付ける。

- (4) プラスバーを使用して、インボード ジョイントを取りはずす。

注意 取りはずしの際、ローラ部をたたかない。

- (5) インボード ジョイント ブーツおよびクランプ 2個を取りはずす。

注意 ブーツ保護のため、ドライブ シャフトのスプライン部にテープを巻く。

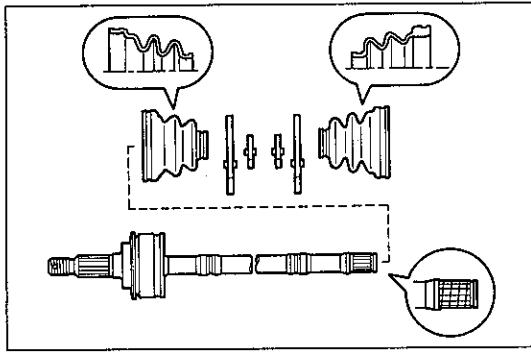
4 アウトボード ジョイント ブーツおよびクランプ取りはずし

- (1) ブーツ クランプ 2個を取りはずす。

注意 ブーツを傷つけない。

- (2) アウトボード ジョイント ブーツをアウトボード ジョイントから取りはずす。

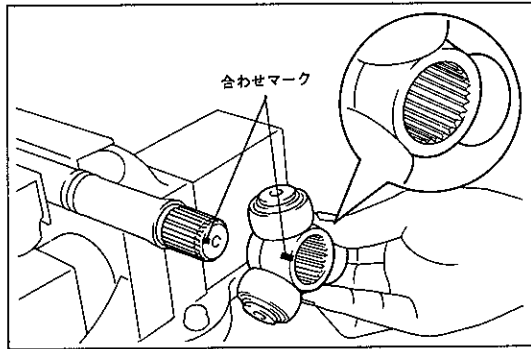
- (3) アウトボード ジョイント ブーツおよびクランプ 2個をドライブ シャフトから取りはずす。



ドライブ シャフト組み付け

1 ブーツおよびクランプ組み付け

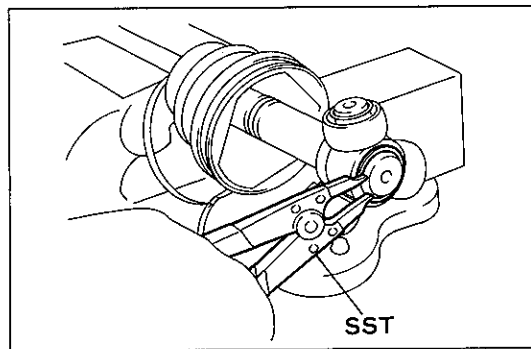
- (1) ドライブ シャフトのスプライン部でブーツを傷つけるおそれがあるため、保護テープを巻く
- (2) ドライブ シャフトに次の部品を順に組み付ける。
 - ① アウトボード ジョイント ブーツ
 - ② 新品のクランプ 4 個
 - ③ インボード ジョイント ブーツ



2 トリボード ジョイント組み付け

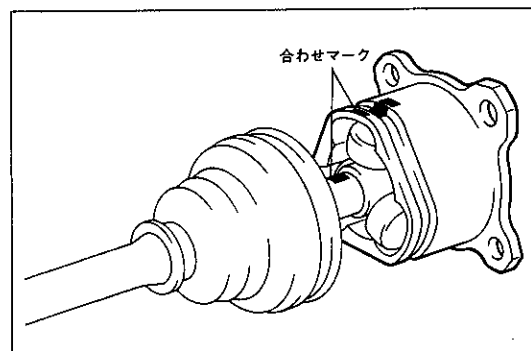
- (1) トリボード ジョイントをドライブ シャフトの合わせマークに合わせて組み付ける。
- (2) トリボード ジョイントをプラスパーで打ち込む。

注意 打ち込む際、ローラ部をたたかない。



- (3) 新品のシャフト スナップ リングを組み付ける。

S S T 09905-00012



3 インボード ジョイント アウタ レース組み付け

- (1) インボード ジョイント アウタ レースにグリースを充てんする。

注意 インボード ジョイントとアウトボード ジョイントのグリースの種類が異なるため、間違えない。

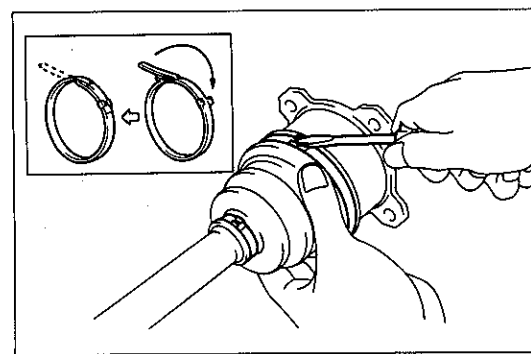
＜参考＞ グリース量 270g(1G-GTE, 1G-GZE車)
215g(1G-GE A/T, 1G-FE A/T車)
180g(1G-FE M/T車)

- (2) インボード ジョイント アウタ レースとドライブ シャフトの合わせマークを合わせて組み付ける。

4 インボード ジョイント ブーツ組み付け

- (1) インボード ジョイント ブーツをアウタ レースおよびドライブ シャフトの溝に確実に組み付ける。

注意 ブーツのアウタ レースかん合溝部に、グリースを付着させない。



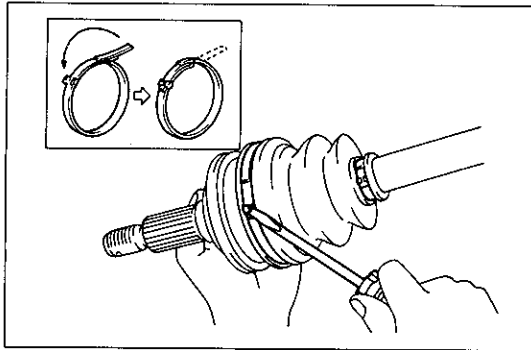
- (2) クランプ2個をインボード ジョイントブーツに組み付ける。

〈参考〉 識別ペイント

	1G-GTE, 1G-GZE車	1G-GE A/T, 1G-FE A/T車	1G-FE M/T車
クランプ大	茶	紫	緑
クランプ小	ナシ	黒	黒

- (3) クランプを折り曲げ、クランプをかしめる。

注意 ブーツを傷つけない。



K 6804

5 アウトボード ジョイントブーツ組み付け

- (1) ジョイント部にグリースを充てんする。

注意 アウトボード ジョイントとインボード ジョイントのグリースの種類が異なるため、間違えない。

〈参考〉 グリース量 155g (1G-GTE, 1G-GZE車)

130g (1G-GE A/T, 1G-FE車)

- (2) アウトボード ジョイントブーツをアウトボード ジョイントおよびドライブ シャフトの溝に確実に組み付ける。

注意 ブーツのジョイントかん合溝部に、グリースを付着させない。

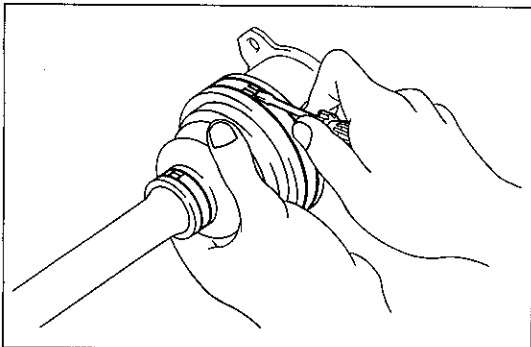
- (3) クランプ2個をアウトボード ジョイントブーツに組み付ける。

〈参考〉 識別ペイント

	1G-GTE, 1G-GZE車	1G-GE A/T, 1G-FE A/T車	1G-FE M/T車
クランプ大	黒	黄	黄
クランプ小	ナシ	黒	黒

- (4) クランプを折り曲げ、クランプをかしめる。

注意 ブーツを傷つけない。



K 6799

1 G-GE M/T車

ドライブ シャフト分解

1 インボード ジョイントブーツ切り離し

- (1) ブーツ クランプ2個を取りはずす。

注意 ブーツを傷つけない。

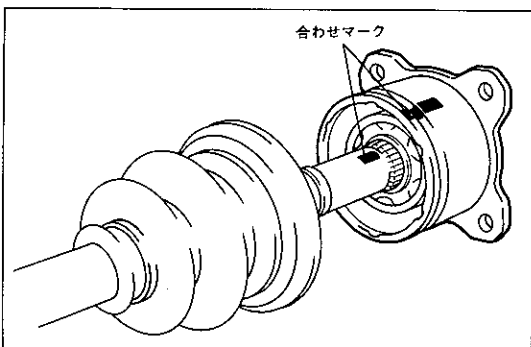
- (2) インボード ジョイントブーツをアウト レースから取りはずす。

2 インボード ジョイント アウタ レース取りはずし

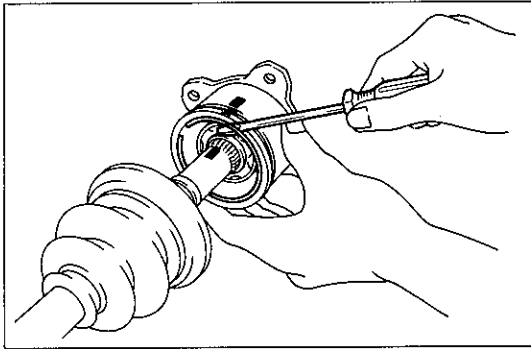
- (1) インボード ジョイント部からグリースを取り除く。

- (2) インボード ジョイント アウタ レースとドライブ シャフトに合わせマークを付ける。

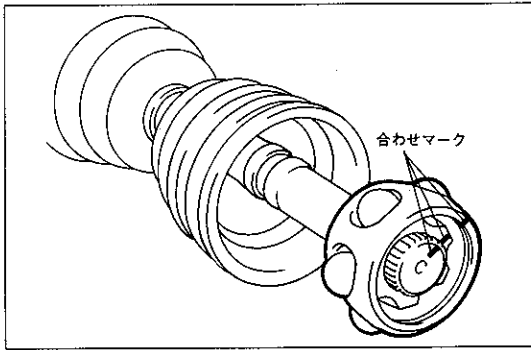
注意 合わせマークを付ける際、ポンチは使用しない。



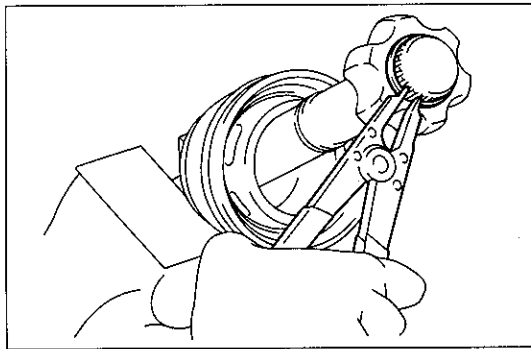
K 6805



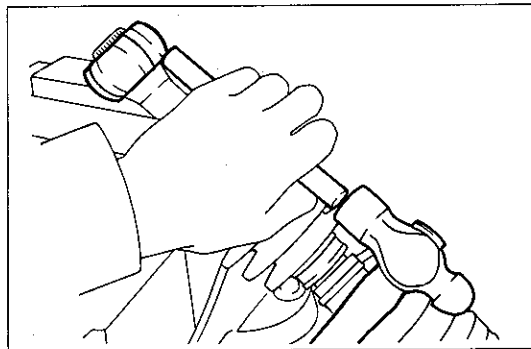
K 6806



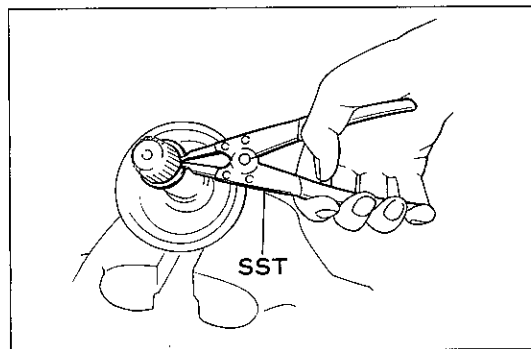
K 1441



K 6807



K 1445



K 4685

(3) スナツプ リングを取りはずす。

(4) インボード ジョイント アウタ レースをドライブ シャフトから取りはずす。

注意 ボールを落とさない。**3 インボード ジョイント取りはずし**

(1) ケージ、インナ レースおよびドライブ シャフトに合わせマークを付ける。

(2) ボール6個を取りはずす。

(3) ケージの穴とインナ レースの凸部を合わせインナ レースとの噛み合いをはずして、ケージをアウトボード ジョイント側へはずす。

(4) シャフト スナツプ リングを取りはずす。

S S T 09905-00012

(5) プラスパーを使用して、インナ レースを取りはずす。

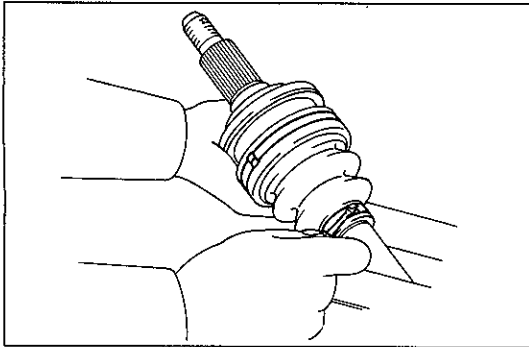
(6) ケージを取りはずす。

(7) シャフト スナツプ リングを取りはずす。

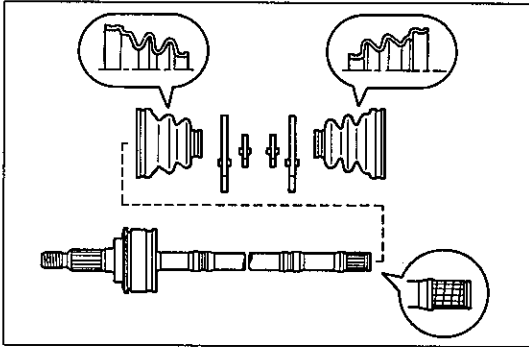
S S T 09905-00012

(8) インボード ジョイント ブーツおよびクランプ2個を取りはずす。

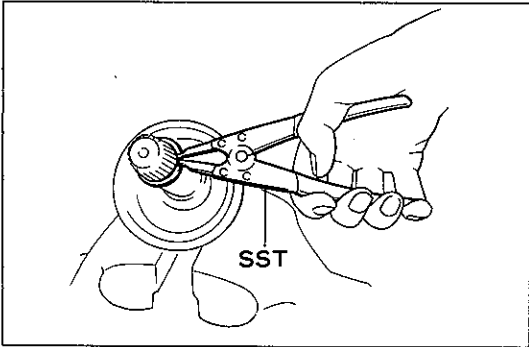
注意 ブーツ保護のため、ドライブ シャフト スプライン部にテープを巻く。



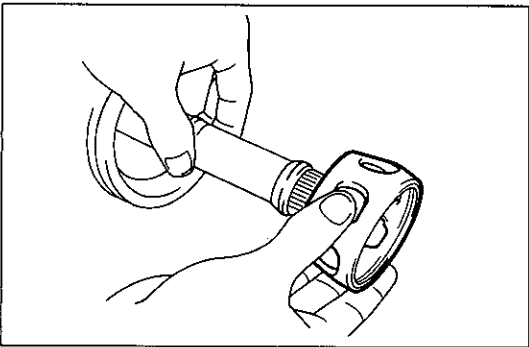
K 6801



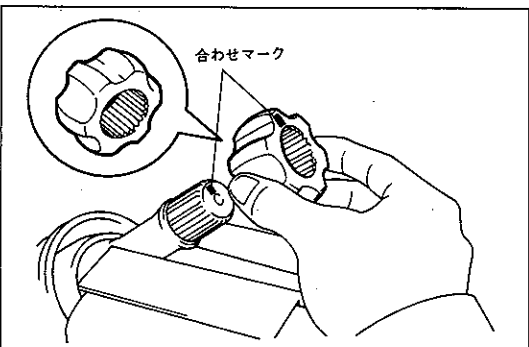
K 6808



K 4685



K 1459



K 1460

4 アウトボード ジョイント ブーツおよびクランプ取りはずし

- (1) ブーツ クランプ2個を取りはずす。
注意 ブーツを傷つけない。
- (2) アウトボード ジョイント ブーツをアウトボード ジョイントから切り離す。
- (3) アウトボード ジョイント ブーツおよびクランプ2個をドライブ シャフトから取りはずす。

ドライブ シャフト組み付け

1 ブーツおよびクランプ組み付け

- (1) ドライブ シャフトのスプライン部でブーツを傷つけるおそれがあるため、保護テープを巻く。
- (2) ドライブ シャフトに次の部品を順に組み付ける。
 - ① アウトボード ジョイント ブーツ
 - ② 新品のクランプ4個
 - ③ インボード ジョイント ブーツ

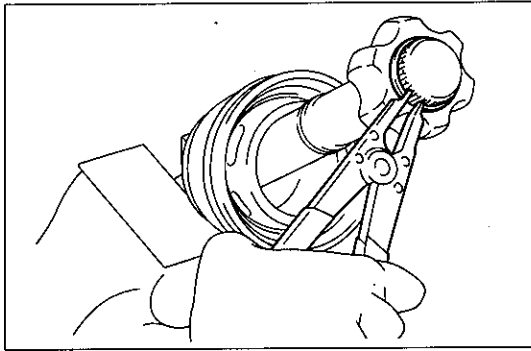
2 インボード ジョイント組み付け

- (1) 新品のシャフト スナツプ リングを取り付ける。
S S T 09905-00012

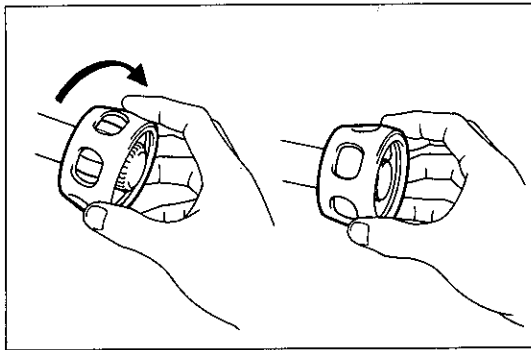
- (2) ケージをドライブ シャフトに差し込む。

注意 内径の小さい方をアウトボード側にする。

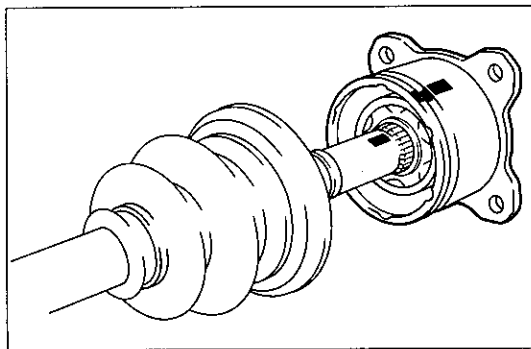
- (3) インナ レースをドライブ シャフトの合わせマークに合わせて組み付ける。
- (4) インナ レースをプラスバーで打ち込む。



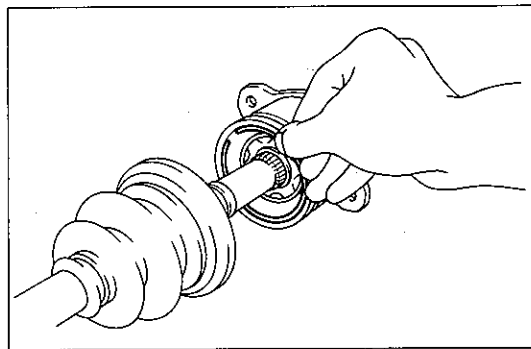
K 6807



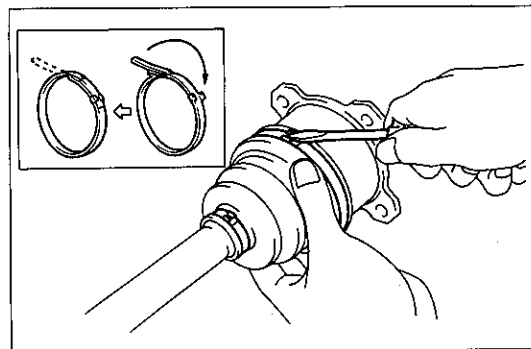
K 1443 K 1442



K 6805



K 6809



K 6803

- (5) 新品のシャフト スナツプ リングを組み付ける。

S S T 09905-00012

- (6) ケージとインナ レースの合わせマークに合わせて、ケージとインナ レースを噛み合わせる。

- (7) ボール6個を取り付ける。

注意 脱落防止のため、ボールにグリースを塗布しておく。

3 インボード ジョイント アウタ レース組み付け

- (1) インボード ジョイント アウタ レースにグリースを充てんする。

〈参考〉 グリース量 125g

- (2) アウタ レースとドライブ シャフトの合わせマークに合わせて組み付ける。

- (3) 新品のスナツプ リングを取り付ける。

4 インボード ジョイント ブーツ組み付け

- (1) インボード ジョイント ブーツをアウタ レースおよびドライブ シャフトの溝に確実に組み付ける。

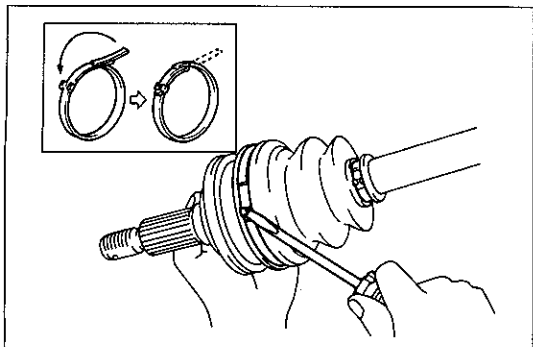
注意 ブーツのアウタ レースかん合部に、グリースを付着させない。

- (2) クランプ2個をインボード ジョイント ブーツに組み付ける。

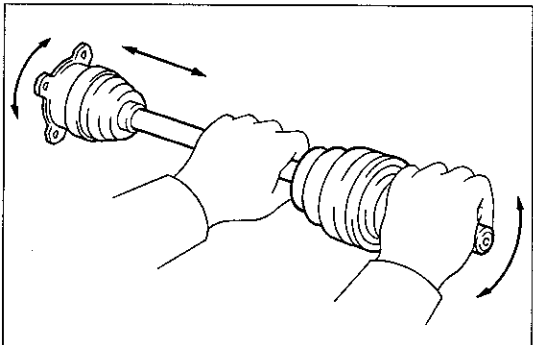
注意 ジョイント部固定のクランプは、アウトボード ジョイント部のクランプより小さいものを組み付ける。

- (3) クランプを折り曲げ、クランプをかしめる。

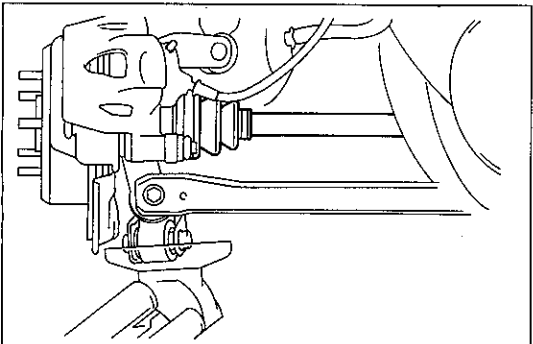
注意 ブーツを傷つけない。



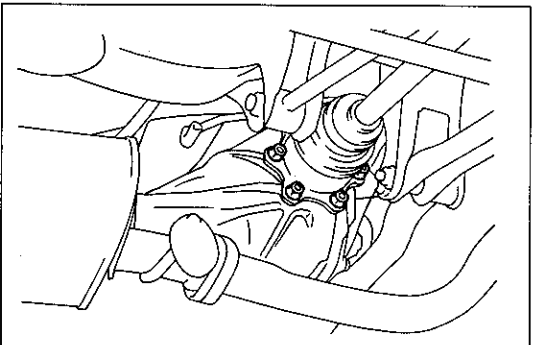
K 6804



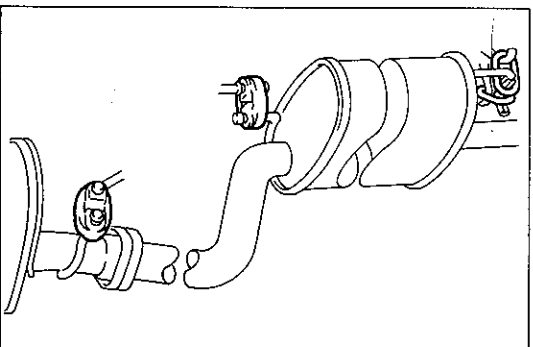
K 6797



K 6903



K 6796



K 6795

5 アウトボード ジョイント ブーツ組み付け

- (1) ジョイント部にグリースを充てんする。

〈参考〉 グリース量 125g

- (2) アウトボード ジョイント ブーツをアウトボード ジョイントおよびドライブ シャフトの溝に確実に組み付ける。

注意 ブーツのジョイントかん合溝部に、グリースを付着させない。

- (3) クランプ2個をアウトボード ジョイント ブーツに組み付ける。

注意 ジョイント部固定のクランプは、インボード ジョイント部のクランプより大きいものを組み付ける。

- (4) クランプを折り曲げ、クランプをかしめる。

注意 ブーツを傷つけない。

ドライブ シャフト点検

1 ドライブ シャフト点検

- (1) ジョイント部を上下、左右、軸方向に動かし、スムーズに作動することを確認する。
- (2) ブーツの亀裂、損傷およびグリース漏れがないことを確認する。

ドライブ シャフト取り付け

1 ドライブ シャフト取り付け

- (1) リヤ アクスル キヤリヤをジャッキ アップし、アクスル ハブとサイド ギヤ シャフトの高さを同じくらいにする。
- (2) ドライブ シャフトのスプラインを、アクスル ハブのスプラインに合わせ挿入する。

- (3) ドライブ シャフトをナットでサイド ギヤ シャフトに取り付ける。

$T=700\text{kg}\cdot\text{cm}$

2 エキゾースト テール パイプ O リング取り付け (左側)

3 ロック ナット, ロック キャップおよびコッタ ピン取り付け

$T=2800\text{kg}\cdot\text{cm}$

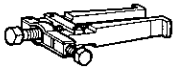
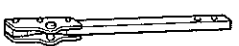
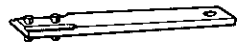
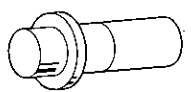
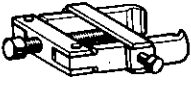
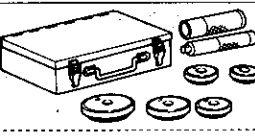
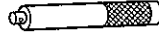
4 リヤ ホイール取り付け

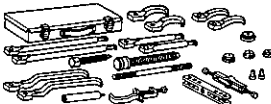
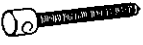
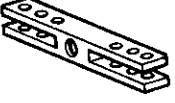
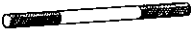
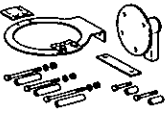
$T=1050\text{kg}\cdot\text{cm}$

デフアレンシャル

4リンク車デフアレンシャル

準備品

S S T		09308-10010 プラー, オイル シール	ドライブ ピニオン オイル シール取りはずし 用
		09330-00021 ツール, コンパニオン フラン ジ ホールディング	コンパニオン フランジ保持用
		09504-00011 レンチ, デフアレンシャル サイド ベアリング アジャス テイング ナット	サイド ベアリング アジャステイング ナット 調整用
		09506-30012 リブレーサ, デフアレンシャ ル ドライブ ピニオン リヤ ベアリング コーン	ドライブ ピニオン フロント ベアリング取り 付け用
		09520-00031 プラー, リヤ アクスル シャ フト	リヤ アクスル シャフト脱着用
		09554-30011 リブレーサ, デフアレンシャ ル オイル シール	ドライブ ピニオン オイル シール取り付け用
		09556-22010 リムーバ, ドライブ ピニオン フロント ベアリング	テーパー ドローラ ベアリング (フロント ベ アリング) 取りはずし用
		09557-22022 リムーバ アンド リブレーサ コンパニオン フランジ	コンパニオン フランジ脱着用
		09608-30012 ツール セット, フロント ハ ブ アンド ドライブ ピニオ ン ベアリング	
		09608-04020 ハンドル	フロントおよびリヤ ベアリング アウタ レー ス取り付け用
		09608-04100 リブレーサ, ドライブ ピニオ ン フロント ベアリング カ ップ	フロント ベアリング アウタ レース取り付け 用
		09608-04110 リブレーサ, ドライブ ピニオ ン リヤ ベアリング カップ	リヤ ベアリング アウタ レース取り付け用
		09950-00020 リムーバ, ベアリング	ドライブ ピニオン リヤ ベアリング取りはず し用

S S T		09950-20017 プラー, ユニバーサル	テーパーード ローラ ベアリング (サイド ベアリング) 取りはずし用
		09952-20010 スクリュ	
		09953-20010 クロウ, B	
		09954-20011 スクリュ, アジャスト	
		09955-20012 プロパ	
		09956-20011 ピース, タイティング	
		09957-20010 ピン	
		09958-30010 ディスク C, アタツチング	
		09959-20010 ハンドル	
工 具		09031-00040 ピン ポンチ	ピニオン シャフト ピン脱着用
		09090-05001 デイファレンシャル リペア スタンド	デイファレンシャル キヤリヤ分解および組み付け用
		(株)バンザイ 扱い XY-1 ダイヤル ゲージ レバー式測定子	コンパニオン フランジ振れ点検用 サイド ギヤ シャフト振れ点検用
	ソケット レンチ 30mm		ドライブ ピニオン ナット脱着用
計 器	ダイヤル ゲージ		各部点検用
	トルク レンチ (0~30kg・cm)		プレロード測定用
	トルク レンチ (500~2800kg・cm)		ドライブ ピニオン ナット締め付け用

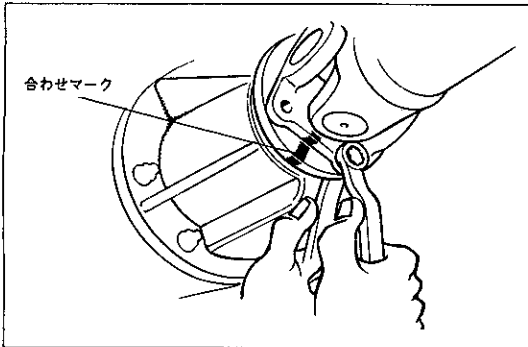
油 脂 その他	キヤツスル ハイボイド ギヤ オイル S	リヤ アクスル ハウジング内への注入用
	光明丹	歯当たり点検用
	オイル ヒータ	リング ギヤ加熱用

車上交換

ドライブ ピニオン オイル シール交換

1 プロペラ シャフト切り離し

- (1) プロペラ シャフトのフランジ ヨークとコンパニオン フランジに合わせマークを付ける。
- (2) フランジ部取り付けボルトとナットをはずし、プロペラ シャフトを切り離す。

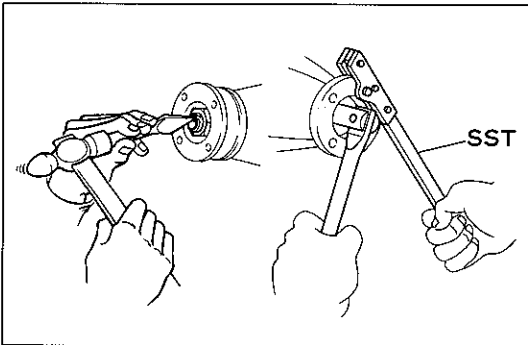


B 4055

2 コンパニオン フランジ取りはずし

- (1) タガネを使用してナットのかしめを解く。
- (2) SSTを使用してフランジを固定し、ナットおよびプレート ワッシャを取りはずす。

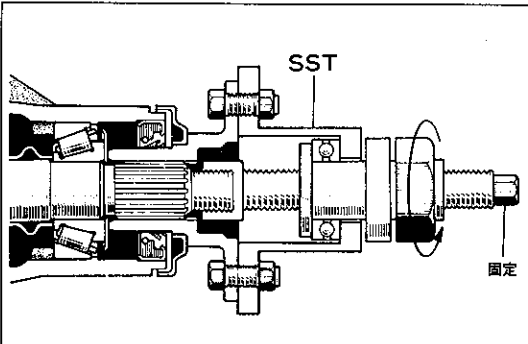
S S T 09330-00021



B 4056 B 4057

- (3) SSTを使用してコンパニオン フランジを取りはずす。

S S T 09557-22022

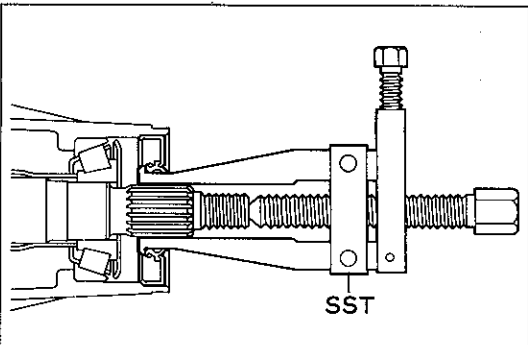


B 4058

3 オイル シール取りはずし

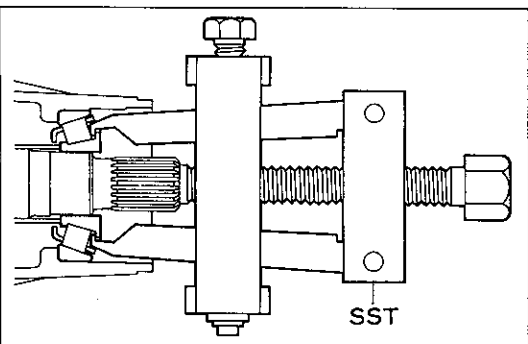
- (1) SSTを使用してオイル シールを取りはずす。

S S T 09308-10010



K 6449

4 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし



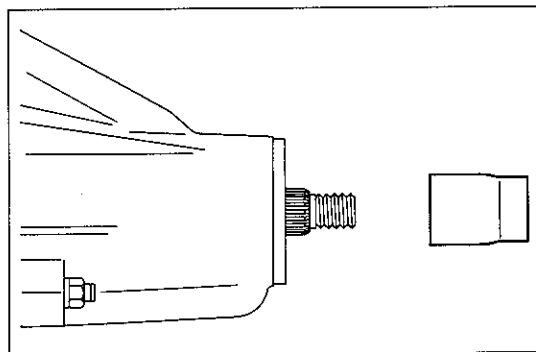
K 6450

5 フロント ベアリング取りはずし

- (1) SSTを使用して、フロント ベアリングを取りはずす。

S S T 09556-22010

6 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ取りはずし



K 6451

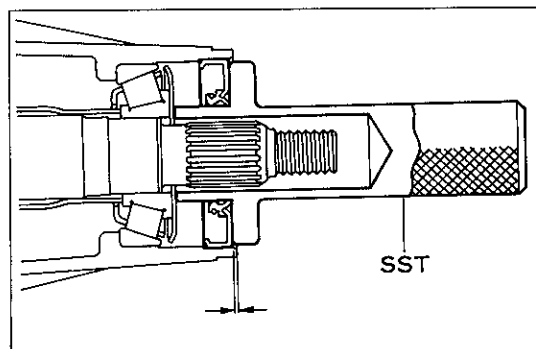
7 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ取り付け

- (1) ドライブ ピニオンに新品のスペーサを取り付ける。

注意 内径の大きい方をリヤ側へ向ける。

8 フロント ベアリング取り付け

9 ドライブ ピニオン オイル スリング取り付け



K 6452

10 オイル シール取り付け

- (1) オイル シール リップ部にキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。

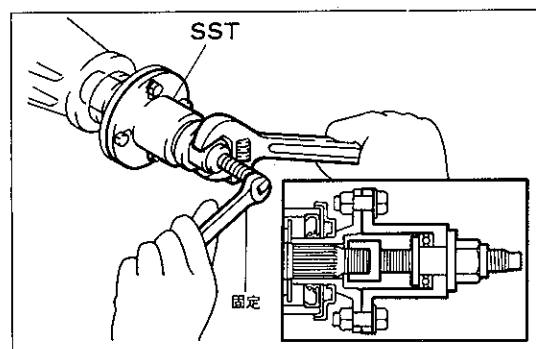
- (2) SSTを使用して、新品のオイル シールを打ち込む。

S S T 09554-30011

基準値 オイル シール打ち込み量 (キャリヤ端面より)

1.0mm (7.1インチ)

1.5mm (7.5インチ)

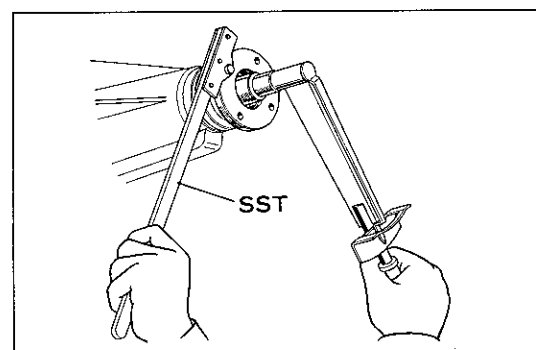


D 3750

11 コンパニオン フランジ取り付け

- (1) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取り付ける。

S S T 09557-22022



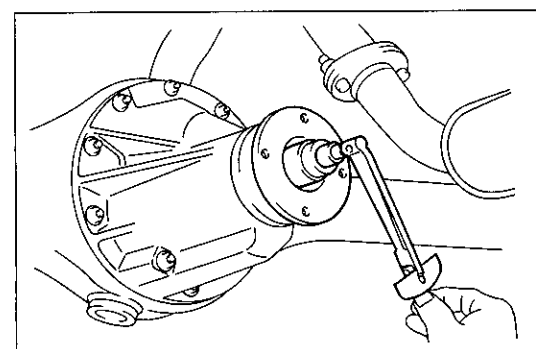
K 7913

- (2) プレートのワッシヤを取り付ける。

- (3) 新品のナットのねじ部にギヤ オイルを塗布し、SSTを使用してフランジを固定し、ナットを締め付ける。(P9-108参照)

S S T 09330-00021

T=1100~2400kg・cm



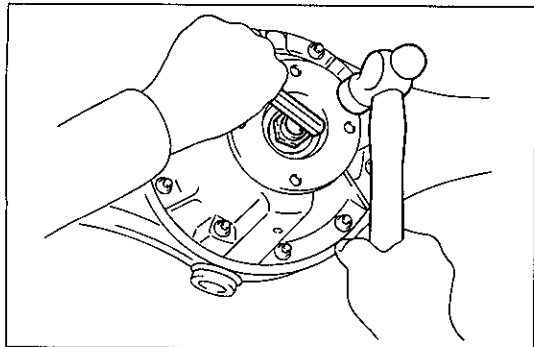
K 6453

12 ドライブ ピニオン プレロード点検

- (1) ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値 8~11kg・cm (7.1インチ)

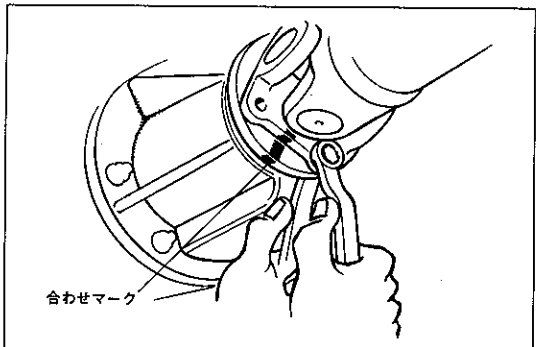
6~10kg・cm (7.5インチ)



K 6454

13 ナットかしめ

- (1) タガネを使用して、ナットをかしめる。



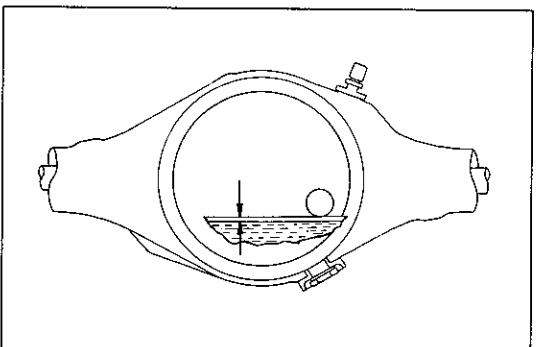
B 4055

14 プロペラ シャフト接続

- (1) デイフアレンシヤルのコンパニオン フランジのマークに合わせてプロペラ シャフトを取り付ける。

$T = 380 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ (除く 2L-T M/T)

$T = 750 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ (2L-T M/T)



B 4060

15 デイフアレンシヤル オイル量点検

基準値 フィラ下面 $+0 \text{ mm}$

-5 mm

フィラ プラグ締め付けトルク $T = 500 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

〈参考〉 使用オイルと油量

キヤツスル ハイポルド ギヤ オイル S

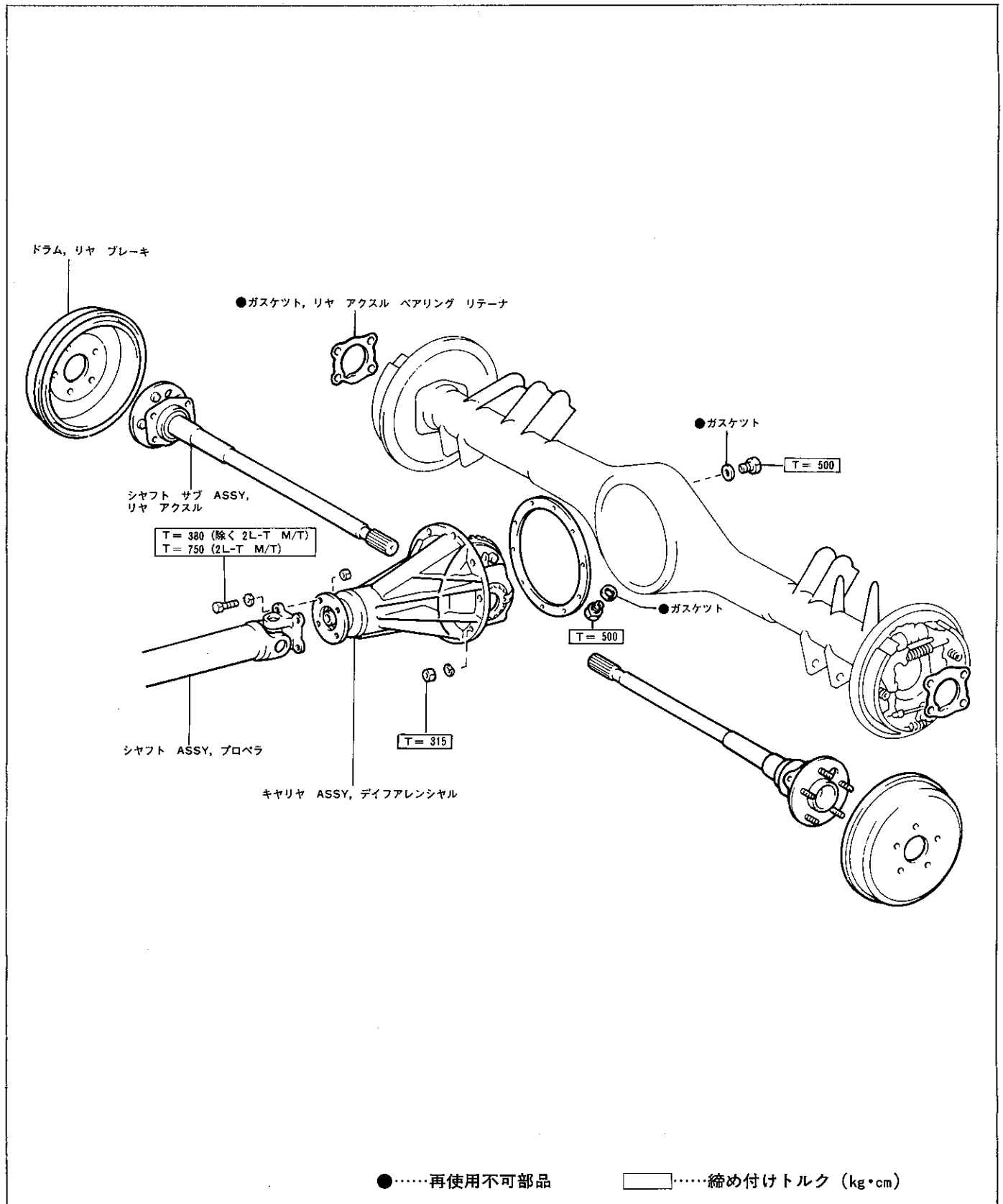
全油量 1.4ℓ (7.1インチ)

1.5ℓ (7.5インチ)

デイフアレンシヤル キヤリヤ

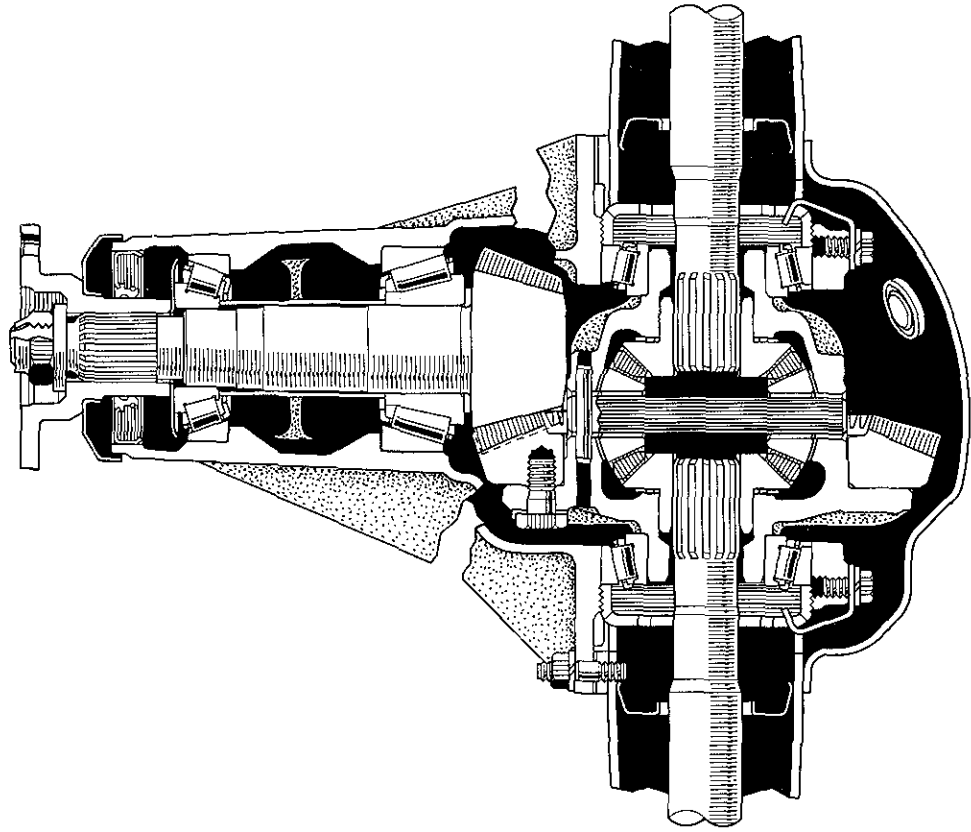
ASSY

脱着構成図

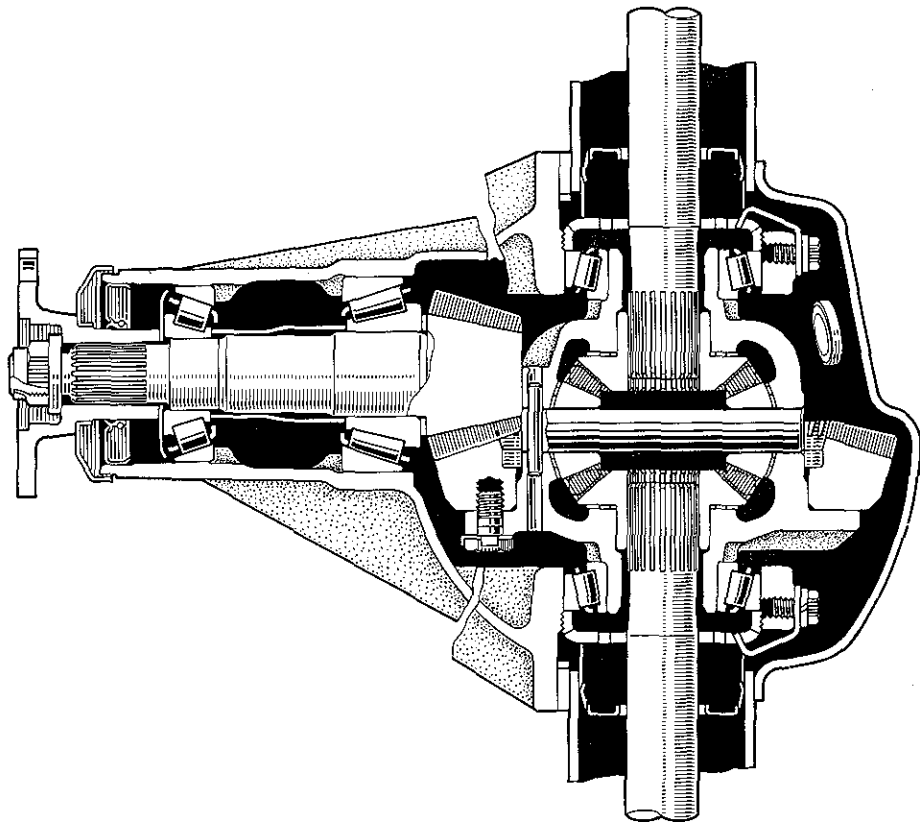


断面図

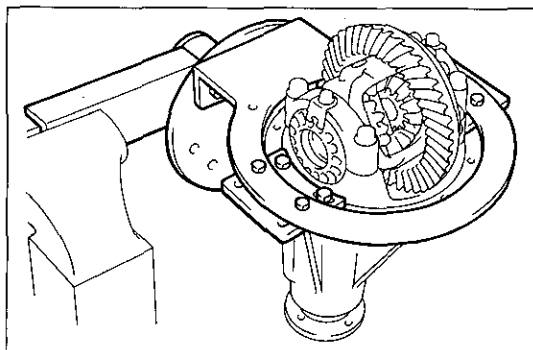
7.1インチ



7.5インチ



D 0671 K 1968



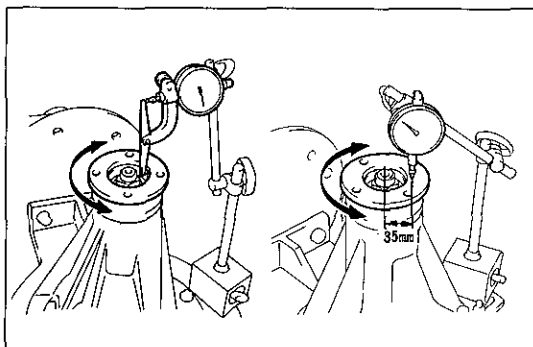
K 6457

デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY分解前点検

〈参考〉 3～9の分解前点検は不具合のあるものを分解する場合、必ず点検すること。

1 デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY固定

- (1) デフアレンシヤル キヤリヤ ASSYをデフアレンシヤル リペア スタンドに固定する。



K 6458 K 6909

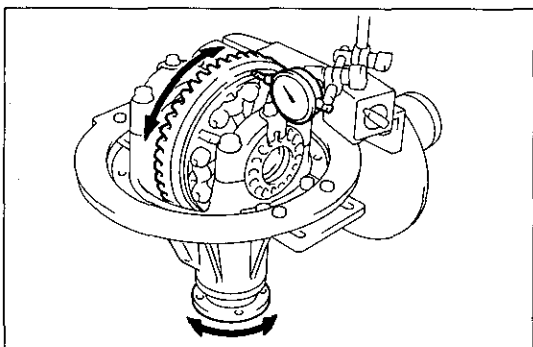
2 コンパニオン フランジの振れ点検

- (1) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの内周面に直角に取り付け、コンパニオン フランジの縦振れを測定する。

限度 0.10mm

- (2) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの中心から外側へ35mmの位置へフランジ面と直角に取り付け、コンパニオン フランジの横振れを測定する。

限度 0.10mm

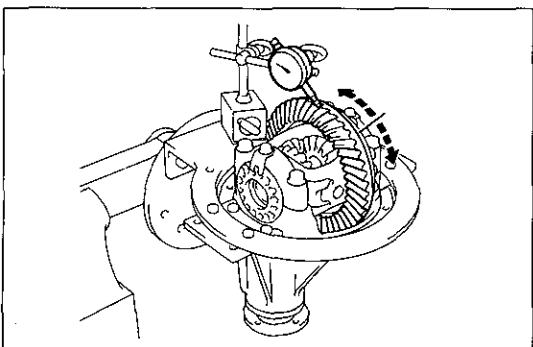


K 6459

3 リング ギヤ振れ点検

- (1) リング ギヤの背面の振れをダイヤル ゲージで点検する。

限度 0.07mm



K 6460

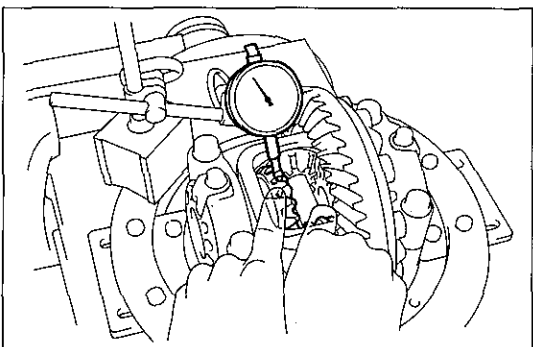
4 リング ギヤのバックラツシュ点検

- (1) ダイヤル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当てドライブ ピニオンのフランジを固定し、リング ギヤを動かして測定する。

基準値 0.13～0.18mm

注意 リング ギヤ円周上の3箇所以上で測定する。

5 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検 (P9-105参照)

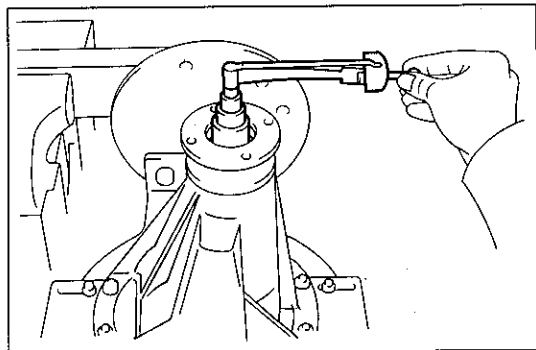


K 1585

6 サイド ギヤのバックラツシュ点検

- (1) ダイヤル ゲージをサイド ギヤの歯面先端に直角に当て、ピニオンをデフアレンシヤル ケースの方へ固定しバックラツシュを測定する。

基準値 0.05～0.20mm



K 6461

7 ドライブ ピニオン プレロード測定

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュの範囲内で起動トルクを測定する。

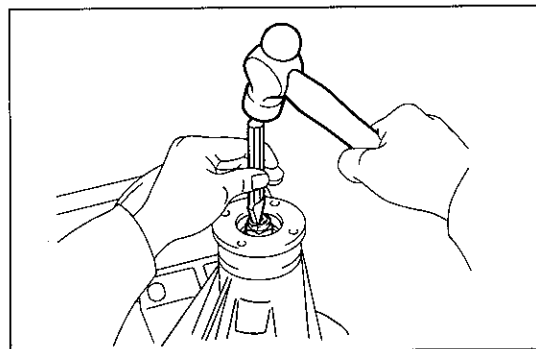
基準値 8～11kg・cm (7.1インチ)

6～10kg・cm (7.5インチ)

8 総合プレロード点検

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤ歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

基準値 総合プレロード=ドライブ ピニオン プレロード
+ 4～6 kg・cm

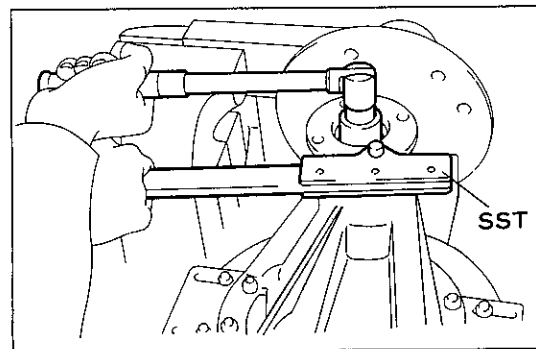


K 6462

デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY分解

1 コンパニオン フランジ取りはずし

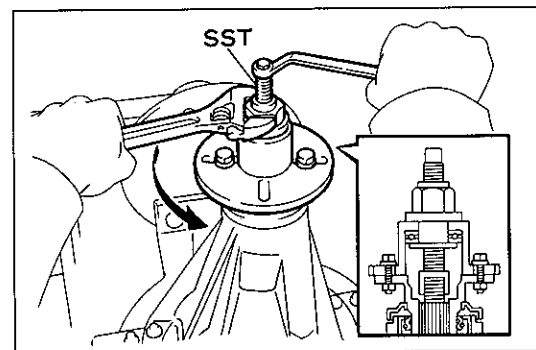
- (1) タガネを使用して、ナットのかしめを解く。



K 6463

- (2) SSTを使用して、フランジを固定し、ナットおよびプレートワッシヤを取りはずす。

S S T 09330-00021

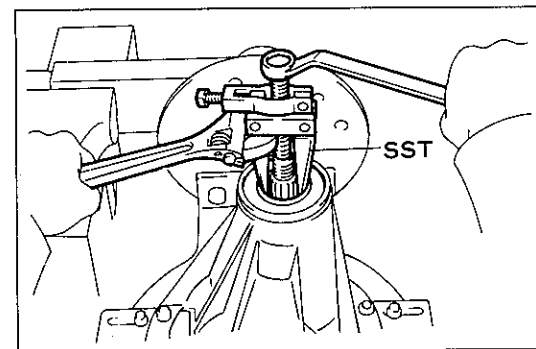


K 6464

- (3) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取りはずす。

S S T 09557-22022

〈参考〉 SSTのボルトはNo.1を使用する。



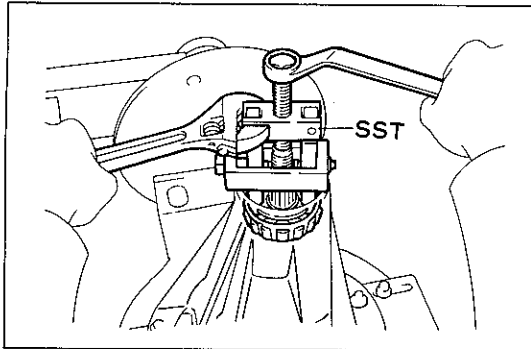
K 6465

2 オイル シール取りはずし

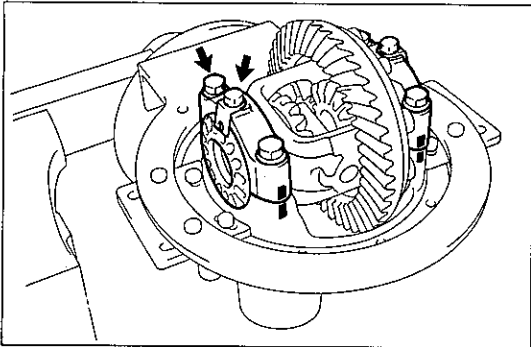
- (1) SSTを使用して、オイル シールをデフアレンシヤル キヤリヤから取りはずす。

S S T 09308-10010

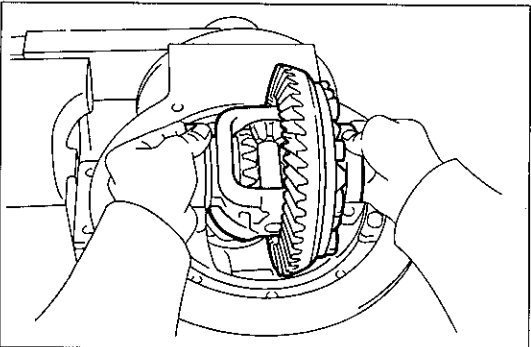
3 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし



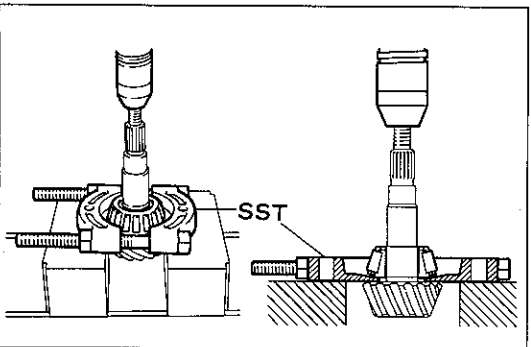
K 6466



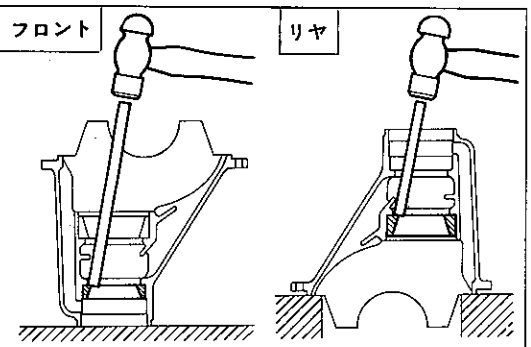
K 6467



K 1595



K 1871



K 1872 K 1873

4 フロント ベアリングおよびベアリング スペース取りはずし

- (1) SSTを使用して、フロント ベアリングをデフアレンシャル キャリヤから取りはずす。

S S T 09556-22010

- (2) ベアリング スペースを取りはずす。

5 デフアレンシャル ケース ASSY取りはずし

- (1) ベアリング キャップとデフアレンシャル キャリヤに合わせマークを付ける。
- (2) ボルト 2 本を取りはずし、アジャステイング ナット ロック 2 個を取りはずす。
- (3) ボルト 4 本をはずし、ベアリング キャップおよびアジャステイング ナット 2 個を取りはずす。

注意 ベアリング キャップとキャリヤは一体で加工されているため組み合わせを変えない

- (4) デフアレンシャル ケースをベアリング アウタ レースとともに取りはずす。

注意 ベアリング アウタ レースに左右（背面側、歯面側）の識別マークを付けるかまたは別々に整理する。

6 ドライブ ピニオン取りはずし

- (1) デフアレンシャル キャリヤからドライブ ピニオンを取りはずす。

7 テーパー ドローラ ベアリング インナ（リヤ用）

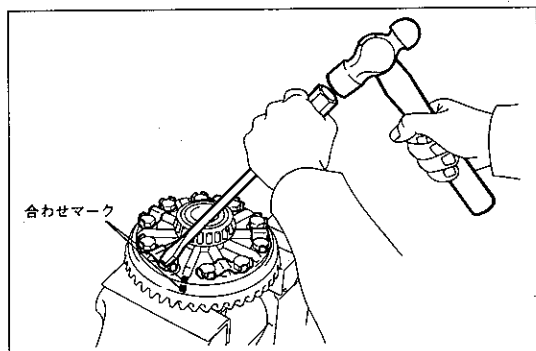
- (1) SSTとプレスを使用して、ドライブ ピニオンからリヤ ベアリングを取りはずす。

S S T 09950-00020

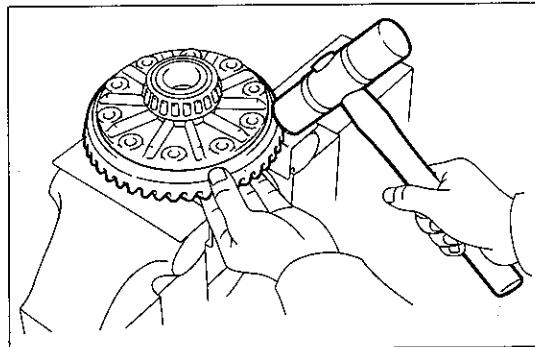
- (2) プレート ワッシヤを取りはずす。

8 フロントおよびリヤ ベアリング アウタ レース取りはずし

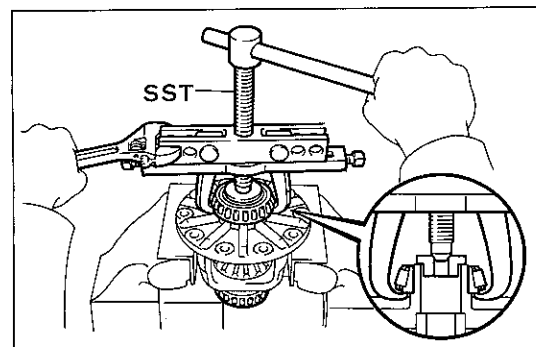
- (1) ブラスバーを使用して、ベアリング アウタ レースを軽く均等にたたきながら打ち抜く。



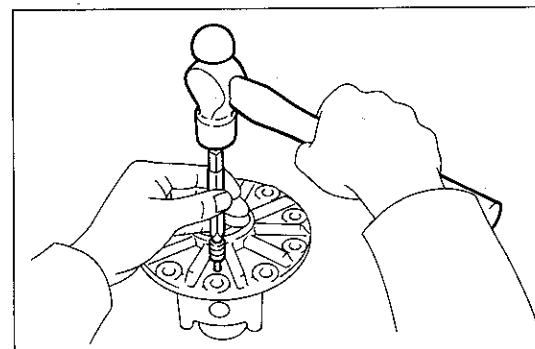
K1874



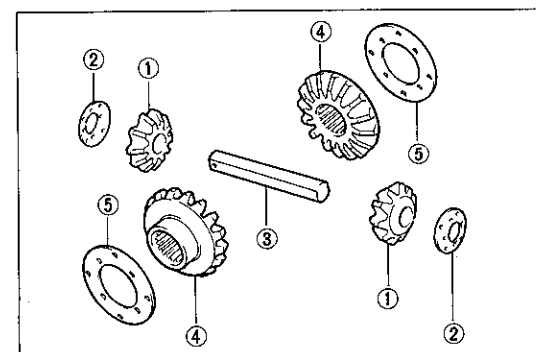
K1876



K1877



K1878



K6468

9 リング ギヤ取りはずし

- (1) デイファレンシヤル ケースとリング ギヤに合わせマークを付ける。
- (2) ㊦ドライバを使用して、ロック プレートのかしめを解く。
- (3) ボルト 8 本およびロック プレート 4 個を取りはずす。
(7.1インチ)
- (4) ボルト 10 本およびロック プレート 5 個を取りはずす。
(7.5インチ)
- (5) プラスティック ハンマを使用して、リング ギヤ外周を軽くたたいて取りはずす。
- (6) デイファレンシヤル ケース ASSYの振れを点検する。(P 9-100参照)

10 テーパード ローラ ベアリング インナ (サイド ベアリング) 取りはずし

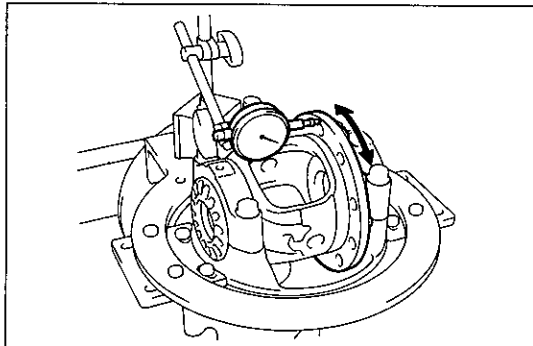
- (1) デイファレンシヤル ケースの切り欠き部よりベアリングのインナ レースにSSTのツメをかける。
- (2) SSTを使用して、デイファレンシヤル ケースからテーパード ローラ ベアリング 2 個を取りはずす。

S S T	09952-20010	09953-20010	09954-20011
	09955-20012	09956-20011	09957-20010
	09958-30010	09959-20010	

〈参考〉 サイド ベアリング脱着は、リング ギヤを取り付けた状態でできるので、サイド ベアリング交換以外は取りはずす必要はない

11 デイファレンシヤル ケース分解

- (1) ピン ポンチを使用して、ストレート ピンを打ち抜く。
- (2) デイファレンシヤル ケースから次の部品を取りはずす。
 - ① デイファレンシヤル ピニオン 2 個
 - ② ピニオン スラスト ワッシャ 2 枚
 - ③ デイファレンシヤル ピニオン シャフト
 - ④ デイファレンシヤル サイド ギヤ 2 個
 - ⑤ サイド ギヤ スラスト ワッシャ 2 枚



K 1880

デフアレンシヤル構成部品の点検

- 1 サイド ギヤおよびピニオン ギヤの摩耗点検
- 2 デフアレンシヤル ケースの亀裂および損傷の有無点検
- 3 デフアレンシヤル ケースの振れ点検

〈参考〉 リング ギヤ振れ点検で限度を超えた場合のみ行う。

- (1) デフアレンシヤル ケースをデフアレンシヤル キヤリヤに組み付け、ベアリング キヤツプを組み付ける。(P9-104参照)
- (2) デフアレンシヤル ケースの振れを点検する。
限度 0.07mm
- (3) デフアレンシヤル ケースを取りはずす。(P9-98参照)
- (4) サイド ベアリングを取りはずす。(P9-99参照)

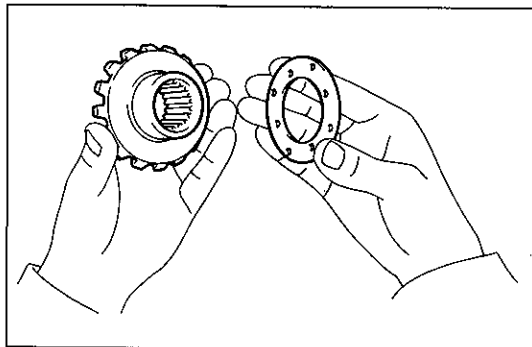
デフアレンシヤル ケース組み付け

1 デフアレンシヤル ケース組み付け

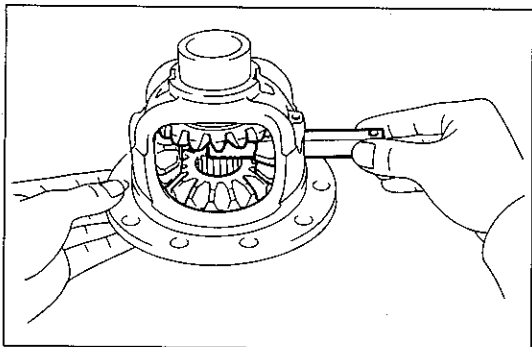
注意 ・スラスト ワツシヤ、サイド ギヤ、ピニオンなどの組み付け時には、ゴミおよび切り粉などの付着がないことを確認する。

・各摺動部、回転時にキヤツスル ハイポイド ギヤ オイル Sを十分塗布する。

- (1) サイド ギヤにスラスト ワツシヤを組み付ける。



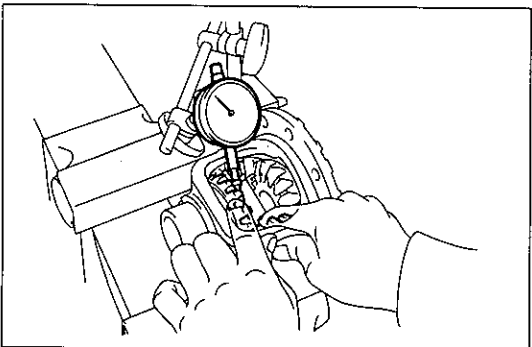
K 1881



K 6469

- (2) サイド ギヤ (ワツシヤ付き)、ピニオン ギヤ、ピニオン シャフトおよびピニオン スラスト ワツシヤを組み付ける。

注意 ピニオン シャフトの固定用穴とケースの穴を合わせる。



K 1883

- (3) サイド ギヤのバックラツシュが基準値内になり、かつスムーズに回るよう左右両側とも同じサイズのスラスト ワツシヤを次頁の表から選択し調整する。
ピニオンをデフアレンシヤル ケースの方へ固定しバックラツシュを点検する。

基準値 0.05～0.20mm

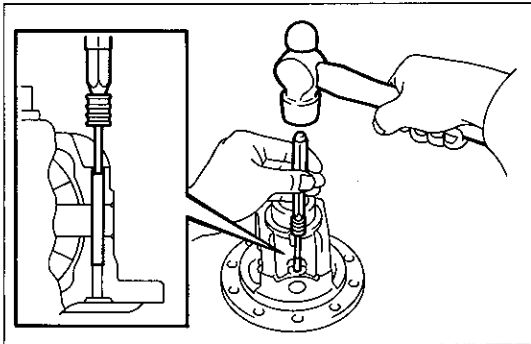
〈参考〉 スラスト ワッシヤ種類

7.1インチ

品 番	厚 さ (mm)
41361-22140	0.93~0.97
41361-22020	0.98~1.02
41361-22150	1.03~1.07
41361-22030	1.08~1.12
41361-22160	1.13~1.17
41361-22040	1.18~1.22

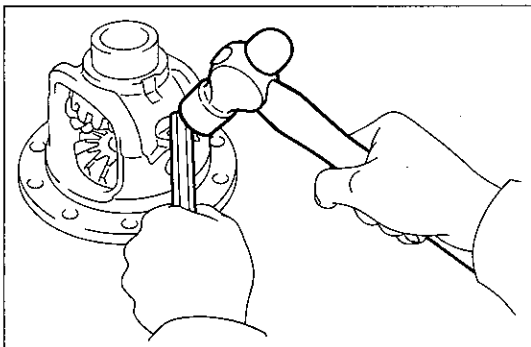
7.5インチ

品 番	厚 さ (mm)
41361-30040	0.96~1.04
41361-30050	1.06~1.14
41361-30060	1.16~1.24
41361-30070	1.26~1.34



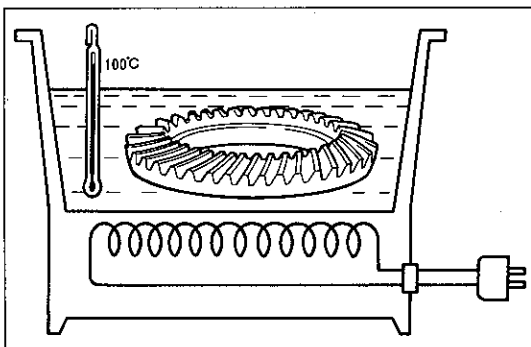
K 1884

- (4) ピン ポンチを使用して、ストレート ピンをリング ギヤの歯面側から打ち込む。



K 1885

- (5) タガネを使用して、デифアレンシヤル ケースのピン穴外周をかしめる。



K 1886

2 リング ギヤ組み付け

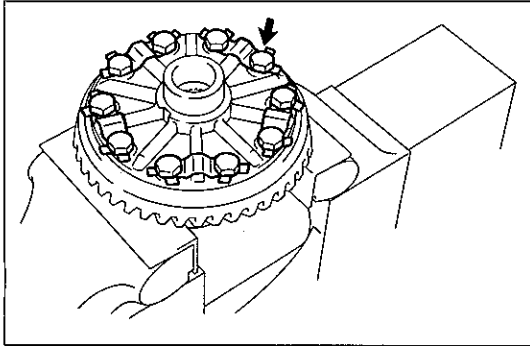
- (1) リング ギヤをオイルなどで90~110°Cに加熱する。

注意 リング ギヤは110°C以上に加熱させない。

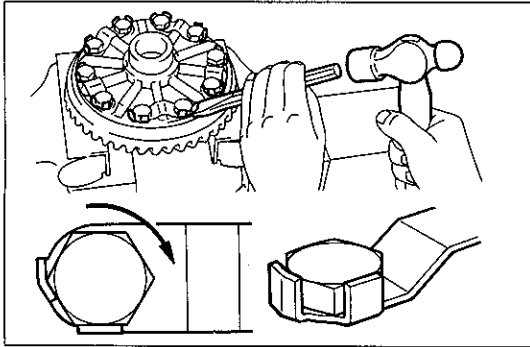
- (2) デифアレンシヤル ケースとリング ギヤの合わせ面の油脂を十分清掃する。

- (3) デифアレンシヤル ケースとリング ギヤの合わせマークを合わせて、リング ギヤを素早く組み付ける。

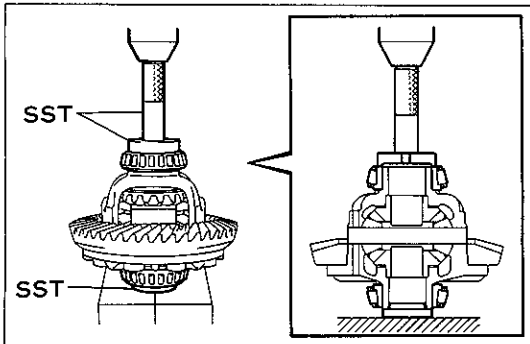
注意 デифアレンシヤル ケースのボルト穴とリング ギヤのねじ穴を合わせる。



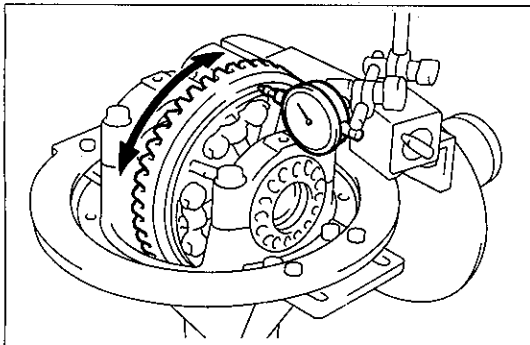
K1887



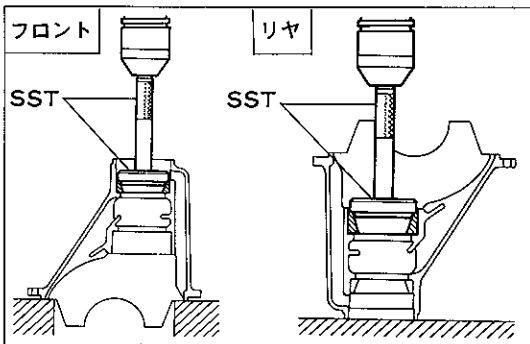
K1888



K1889



K1893



K1890 K1891

- (4) 新品のロック プレート 4 個 (7.5 インチは 5 個) を介して、セット ボルト 8 本 (7.5 インチは 10 本) を締め付ける。

T=985kg・cm

- 注意**
- ・ボルトは、対角線に相対する順に行い、数回に分けて締め付ける。
 - ・ボルトは、リングギヤが十分冷えてから規定トルクで締め付ける。

- (5) タガネを使用して、ロック プレートのツメを起こし回り止めをする。

- 注意**
- ボルトの 2 面幅に接触するツメは、2 面幅部と密着するまで折り曲げること。またボルトの山部と接触してツメ幅が 2 分割になる場合は、ボルトの締め側を密着させる。

3 テーパード ローラ ベアリング インナ (サイド ベアリング) 組み付け

- (1) SSTとプレスを使用して、デフアレンシヤル ケースにテーパード ローラ ベアリング 2 個を圧入する。

S S T 09252-10010 09557-10010 09558-10010

4 リング ギヤ振れ点検

- (1) デフアレンシヤル ケースをキヤリヤに取り付け、ベアリングにガタがない程度にアジャスティング ナットを締め付ける。

- 注意** 左右のベアリング アウタ レースを間違えないように組み付ける。

- (2) ベアリング キヤツプを組み付ける。(P9-104参照)

- (3) リング ギヤの背面の振れをダイヤル ゲージで点検する。

限 度 0.07mm

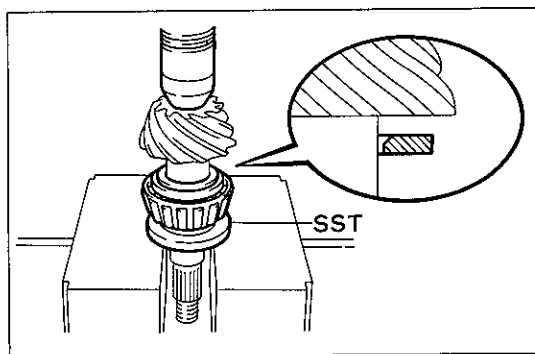
- (4) デフアレンシヤル ケースを取りはずす。(P9-98参照)

5 フロントおよびリヤ ベアリング アウタ レース組み付け

- (1) SSTとプレスを使用して、ベアリング アウタ レースを圧入する。

S S T フロント 09608-04020 09608-04100

リヤ 09608-04020 09608-04110



K 1892

6 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (リヤ用)

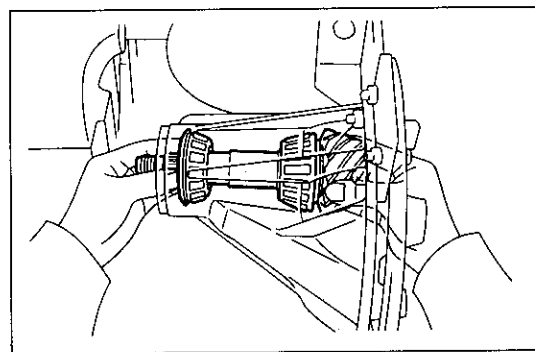
- (1) ドライブ ピニオンにプレート ワッシヤを組み付ける。

注意 ワッシヤは内径に面取りしてある方をギヤ側に向ける。

参考 ワッシヤは取りはずし前と同じ厚さのものを組み付けておく。

- (2) SSTとプレスを使用して、ドライブ ピニオンにテーパー ド ローラ ベアリング インナを圧入する。

S S T 09506-30012



K 6470

7 ドライブ ピニオン プレロード仮調整

- (1) デイフアレンシヤル キヤリヤにドライブ ピニオン、テーパー ド ローラ ベアリング インナ (フロント用) およびドライブ ピニオン オイル スリングを組み付ける。

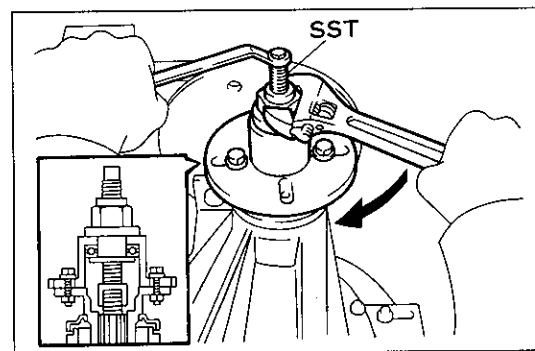
注意 リング ギヤの歯当たり点検のため、スペーサおよびオイル シールは組み付けず、歯当たり点検、調整後に組み付ける。

- (2) SSTを使用して、コンパニオン フランジを組み付ける。

S S T 09557-22022

注意 スペーサを組み付けていないので、コンパニオン フランジはドライブ ピニオンのガタが少し残る程度まで締め付ける。

参考 SSTのボルトはNo.1を使用する。



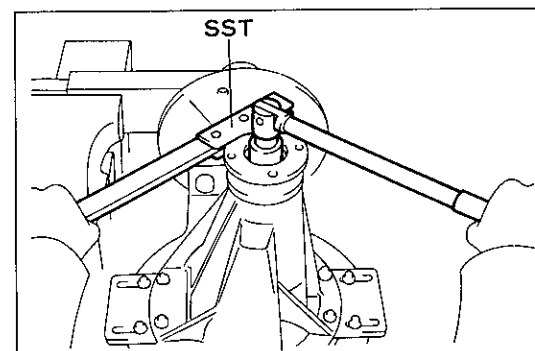
K 6471

- (3) SSTを使用して、プレート ワッシヤを介して、新品のナットを規定のプレロードになるように少しずつ締め付ける。

S S T 09330-00021

注意 ・ナットとドライブ ピニオンのねじ部にキヤツスル ハイボイド ギヤ オイル Sを塗布する。

・スペーサが入っていないので、ナットは少しずつ締め付け、絶対に締めすぎない。



K 6472

- (4) ドライブ ピニオンの起動トルクを測定する。

基準値 ベアリング新品 16~22kg・cm (7.1インチ)

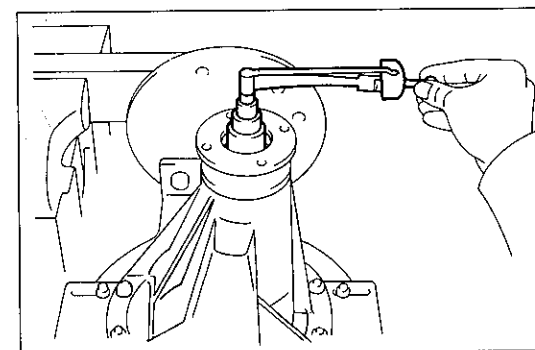
12~19kg・cm (7.5インチ)

ベアリング再使用品 8~11kg・cm (7.1インチ)

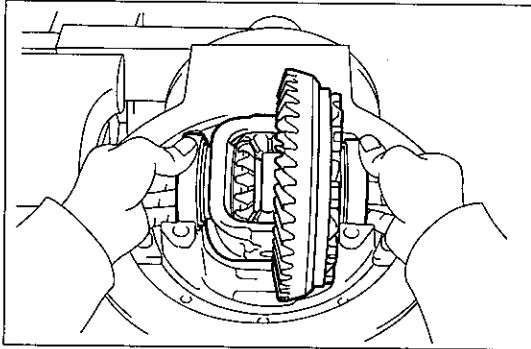
6~10kg・cm (7.5インチ)

注意 ・ベアリングをなじませるため、正転、逆転を数回行つた後に測定する。

・総合プレロード測定のため、プレロードを記録しておく。



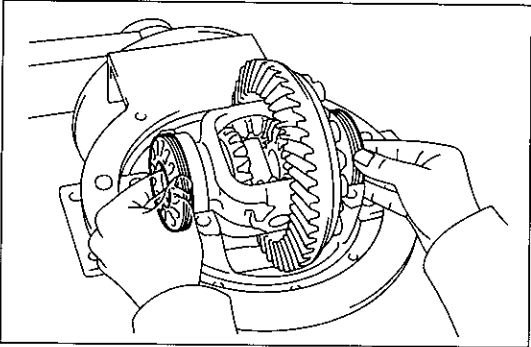
K 6461



K1904

8 デイフアレンシヤル ケース組み付け

- (1) テーパー ド ローラ ベアリング インナに左右のベアリング アウタ レースを間違えないように組み付ける。
- (2) デイフアレンシヤル ケースをキヤリヤに組み付ける。

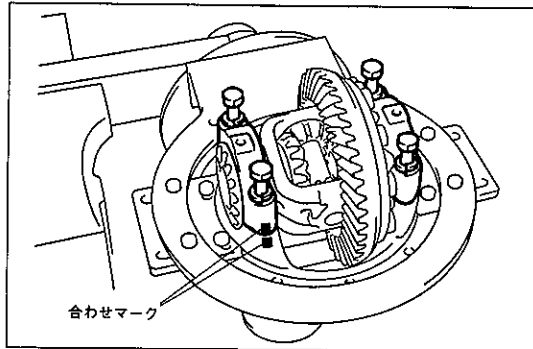


K1905

9 アジヤステイング ナット組み付け

- (1) アジヤステイング ナットとデイフアレンシヤル キヤリヤのねじ山が合うように組み付ける。
- (2) リング ギヤとドライブ ピニオンのバックラツシュがほぼ基準値になるように組み付ける。

〈参考〉 バックラツシュ基準値 0.13~0.18mm

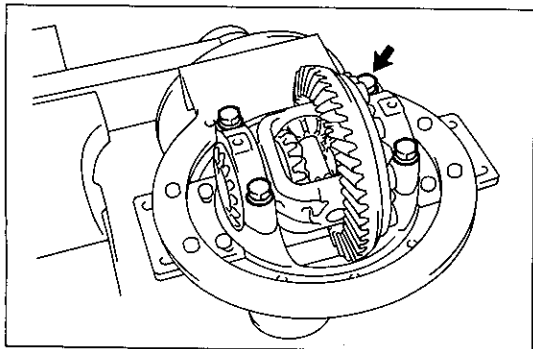


K1906

10 ベアリング キャップ仮付け

- (1) ベアリング キャップとデイフアレンシヤル キヤリヤの合わせマークを合わせて、ベアリング キャップを組み付ける。
- (2) ベアリング キャップ ボルト4本を2~3回締め込んで、手でベアリング キャップを押さえつけて仮付けする。

注意 アジヤステイング ナットとベアリング キャップのねじ山が合っていることを確認する。

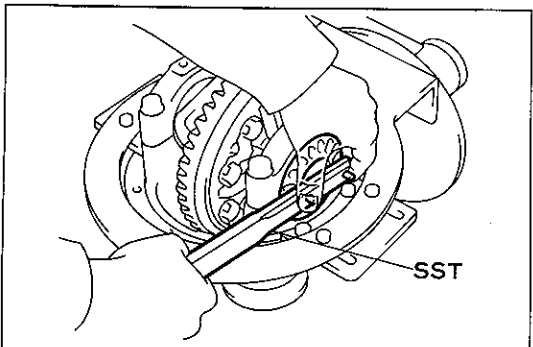


K1907

11 リング ギヤ バックラツシュ調整およびサイド ベアリング プレロード調整

- (1) ベアリング キャップ ボルト4本を一度規定トルクで締め付けた後、アジヤステイング ナットがSST (09504-00011) で回る程度までゆるめる。

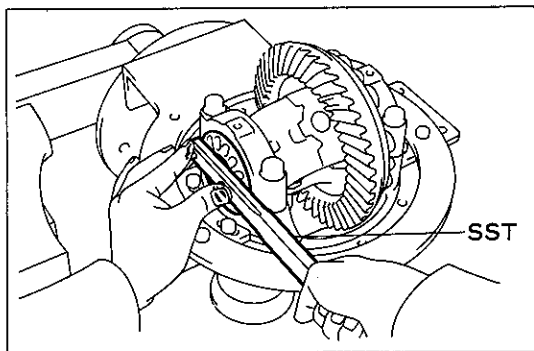
$T=800\text{kg}\cdot\text{cm}$



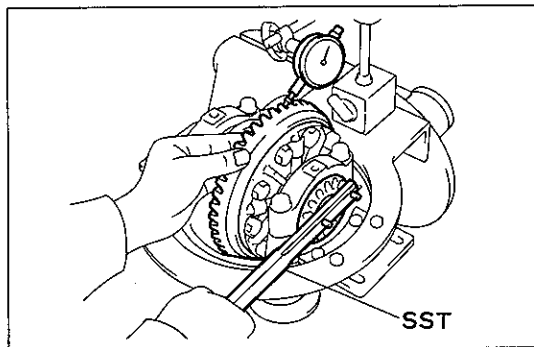
K1908

- (2) SSTを使用して、リング ギヤのバックラツシュが約0.18mmになるまでリング ギヤ背面側のアジヤステイング ナットを締め付ける。

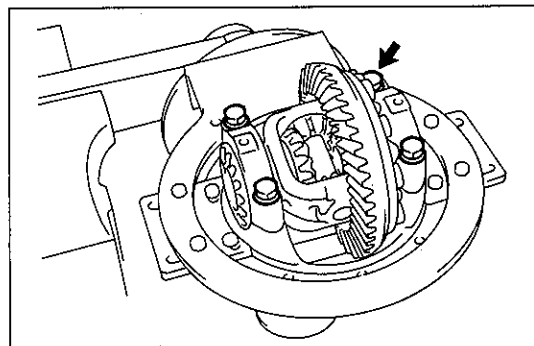
S S T 09504-00011



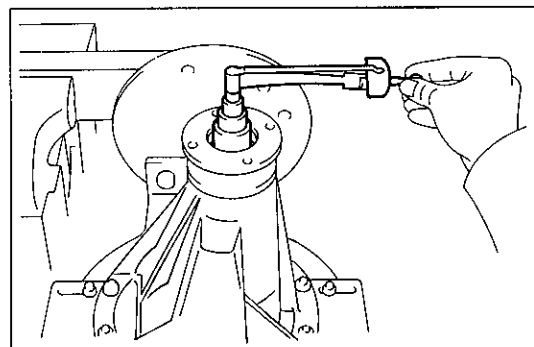
K 1909



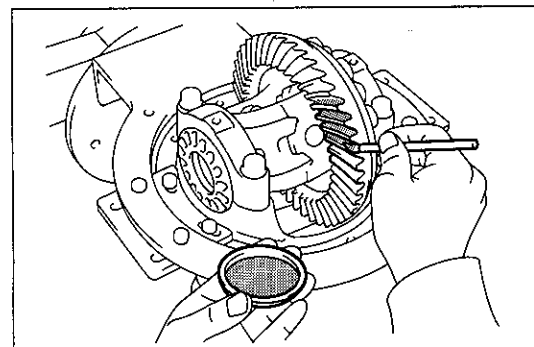
K 1910



K 1907



K 6461



K 1911

- (3) リング ギヤを回しながらSSTを使用して、リング ギヤ歯面側のアジャステイング ナットをいっぱい締め込みベアリングを落ち着かせた後、アジャステイング ナットをゆるめる。

S S T 09504-00011

- (4) SSTを使用して、リング ギヤ歯面側のアジャステイング ナットをリング ギヤ軸方向の遊び0から1.5ノッチ締め込む。

S S T 09504-00011

注意 軸方向の遊び0の位置とはアジャステイング ナットの締め付けが重くなった位置である。

- (5) ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュが基準値内になるように左右のアジャステイング ナットによりベアリングを移動させて調整する。(左を1ノッチゆるめたら右を1ノッチ締め込む。)

S S T 09504-00011

基準値 0.13~0.18mm

注意 ・バックラッシュの測定はリング ギヤ円周上3箇所以上で行う。

・アジャステイング ナット ロックの穴とアジャステイング ナットの穴が合う位置にする。

- (6) ベアリング キャップ ボルト4本を規定トルクで締め付ける。

$T = 800 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

- (7) トルク レンチを使用して、総合プレロードを測定する。ドライブ ピニオンとリング ギヤの歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

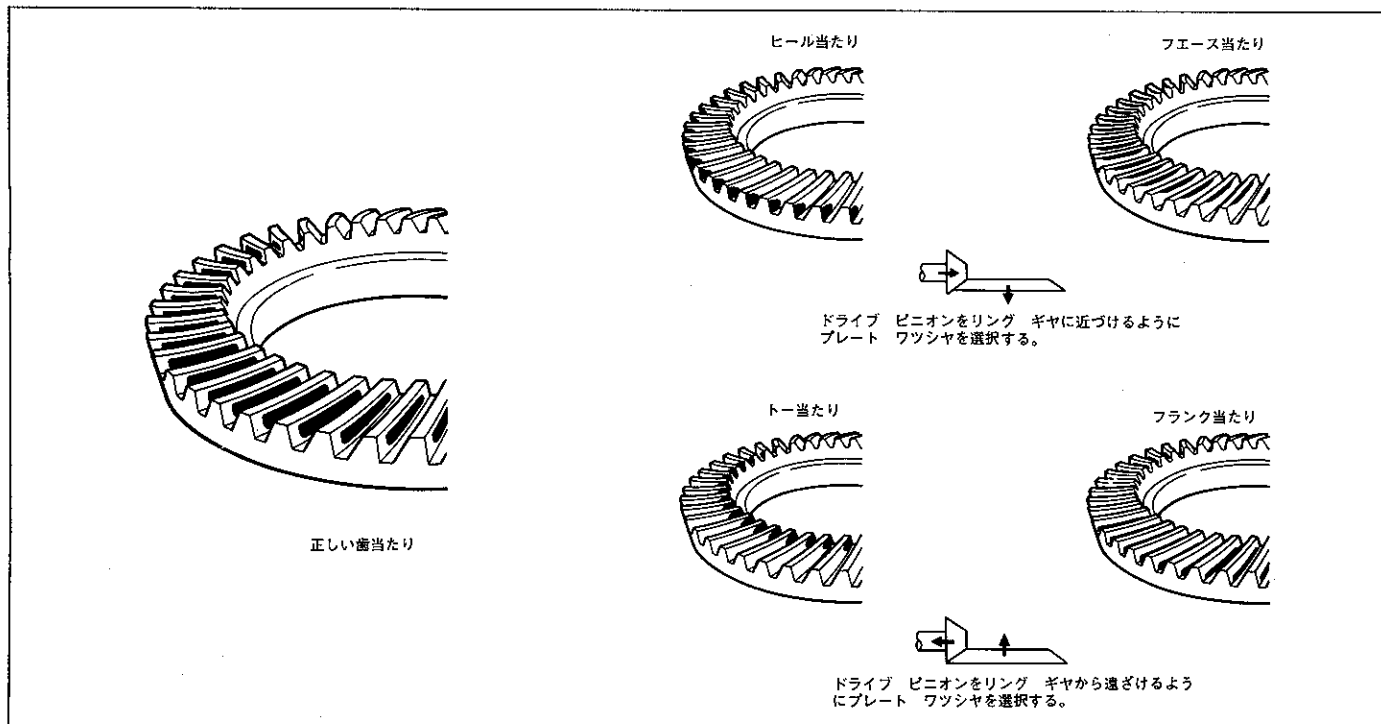
基準値 総合プレロード=ドライブ ピニオン プレロード
+ 4 ~ 6 $\text{kg} \cdot \text{cm}$

基準値外の場合は、リング ギヤ歯面側のアジャステイング ナットにより調整する。

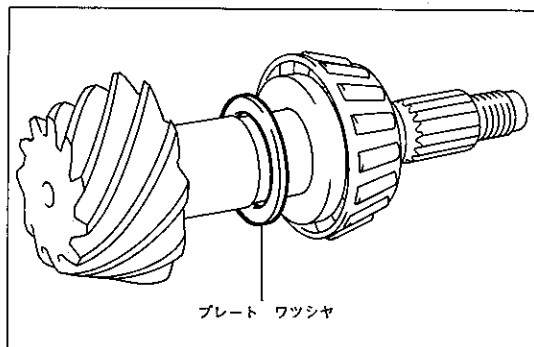
12 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検

- (1) リング ギヤの歯面両側に光明丹を均一に薄く塗布し、リング ギヤを数回、回転させる。光明丹が示すパターンが歯当たり位置である。

注意 リング ギヤ円周上4箇所で当たり状態をみる。



K 3673



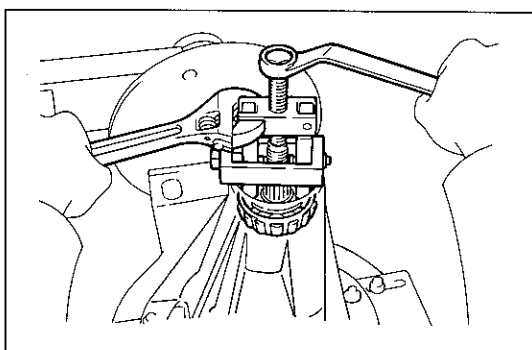
K 1912

- (2) 歯当たりが不良の場合は、ドライブ ピニオン突き出し量調整用プレート ワッシャを表から選択し再組み付けする。

注意 フェース当たり、フランク当たりの場合はバックラッシュ基準値内で調整可能な場合もある。

＜参考＞ プレート ワッシャの種類

品 番	厚さ (mm)	品 番	厚さ (mm)
90201-35434	2.23～2.25	90201-35401	2.50～2.52
90201-35435	2.26～2.28	90201-35402	2.53～2.55
90201-35436	2.29～2.31	90201-35403	2.56～2.58
90201-35437	2.32～2.34	90201-35404	2.59～2.61
90201-35396	2.35～2.37	90201-35438	2.62～2.64
90201-35397	2.38～2.40	90201-35439	2.65～2.67
90201-35398	2.41～2.43	90201-35440	2.68～2.70
90201-35399	2.44～2.46	90201-35441	2.71～2.73
90201-35400	2.47～2.49		



K 6466

- 13 ナット、プレート ワッシャおよびコンパニオン フランジ取りはずし

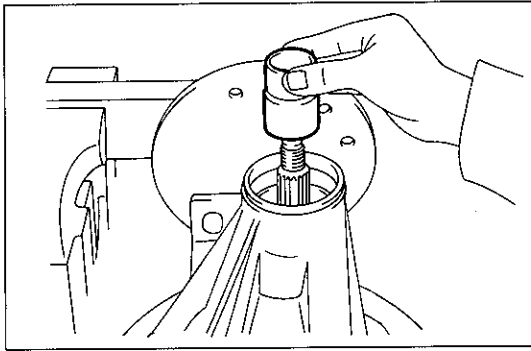
(P9-97参照)

- 14 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし

- 15 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (フロント用) 取りはずし

- (1) SSTを使用して、テーパー ド ローラ ベアリング インナを取りはずす。

S S T 09556-22010



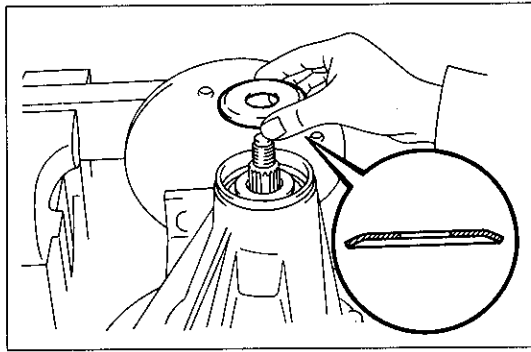
K 6473

16 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ組み付け

- (1) ドライブ ピニオンに新品のベアリング スペーサを組み付ける。

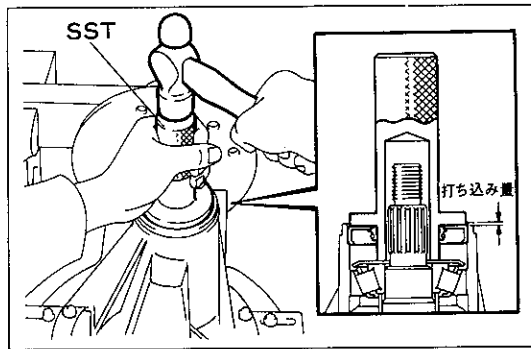
注意 内径の大きい方をリヤ側へ向ける。

17 テーパード ローラ ベアリング インナ (フロント用) 組み付け



K 6474

18 ドライブ ピニオン オイル スリング組み付け



K 6475

19 オイル シール組み付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイル シールを打ち込む。

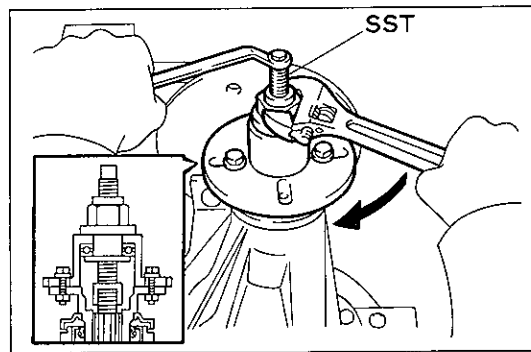
S S T 09554-30011

基準値 オイル シール打ち込み量 (キヤリヤ端面から)

1.0mm (7.1インチ)

1.5mm (7.5インチ)

- (2) オイル シールのリップ部にキヤツスル MP グリース No.2を塗布する。



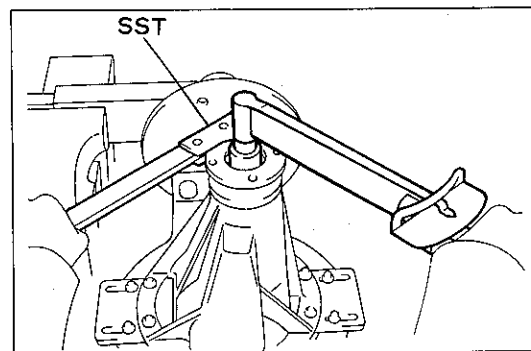
K 6476

20 コンパニオン フランジ組み付け

- (1) SSTを使用して、コンパニオン フランジを組み付ける。

S S T 09557-22022

〈参考〉 SSTのボルトはNo.1を使用する。



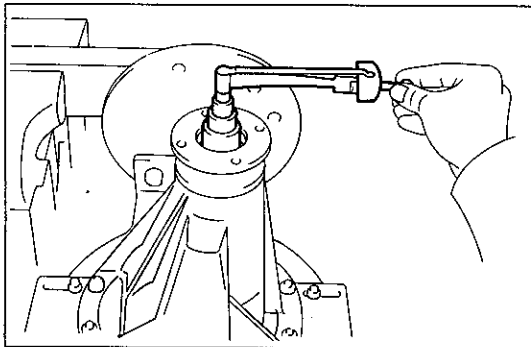
K 6477

- (2) プレート ワッシヤを組み付ける。

- (3) 新品のナットのねじ部にキヤツスル ハイポイド ギヤ オイル Sを塗布しSSTを使用して、フランジを固定し、規定トルクで締め付ける。

S S T 09330-00021

T=1100kg・cm



K 6461

21 ドライブ ピニオン プレロード調整

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値 ベアリング新品 16～22kg・cm (7.1インチ)

12～19kg・cm (7.5インチ)

ベアリング再使用品 8～11kg・cm (7.1インチ)

6～10kg・cm (7.5インチ)

注意 ベアリングをなじませるためフランジの正転、逆転を数回行つた後に測定する。

- (2) プレロードが過大の場合、ベアリング スペーサを交換する。
 (3) プレロードが不足の場合は、ナットを5～10°ずつ増し締めし、プレロードを測定し、基準値になるように繰り返し調整する。
 (4) ナットの締め付けトルクが2400kg・cmを超えてもプレロード不足の場合はナットを一度ゆるめて、ナットおよびドライブ ピニオンのねじ山がつぶれていないか点検する。

異常がないならば、スペーサを交換し、ねじ部にキヤツスル ハイポイド ギヤ オイル Sを塗布したのち前記作業を繰り返す。

22 総合プレロード点検

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤ歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

基準値 総合プレロード＝ドライブ ピニオン プレロード

+ 4～6 kg・cm

23 ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュ点検

- (1) ダイアル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当てドライブ ピニオンのフランジを固定し、リング ギヤを動かして測定する。

基準値 0.13～0.18mm

注意 リング ギヤ円周上の3箇所以上で測定する。

24 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検

(P9-105参照)

25 コンパニオン フランジの振れ点検

- (1) ダイアル ゲージをコンパニオン フランジの内周面に直角に取り付け、コンパニオン フランジの縦振れを測定する。

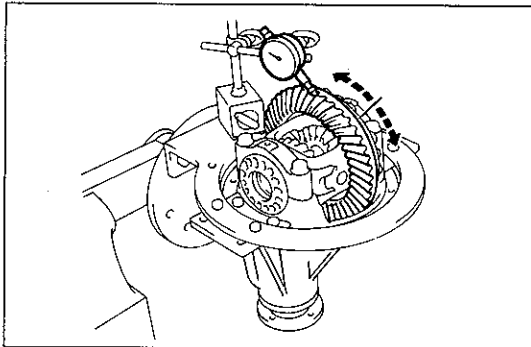
限度 0.10mm

- (2) ダイアル ゲージをコンパニオン フランジの中心から外側へ35mmの位置へフランジ面と直角に取り付け、コンパニオン フランジの横振れを測定する。

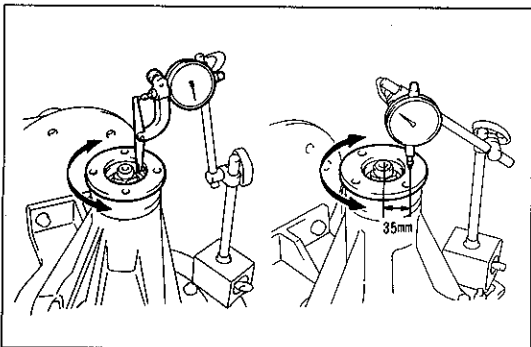
限度 0.10mm

26 ドライブ ピニオン ナットかしめ

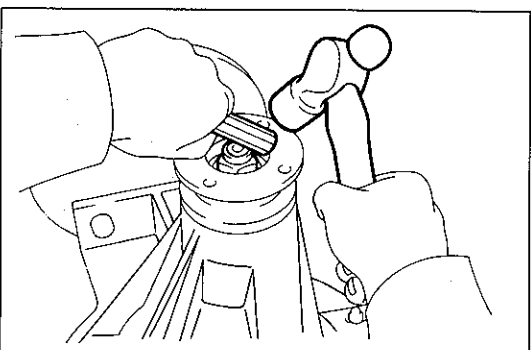
- (1) タガネを使用して、ナットをかしめる。



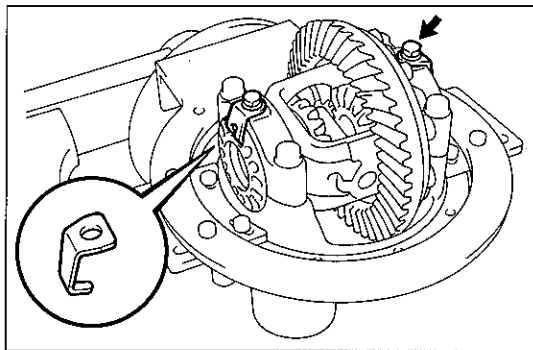
K 6478



K 6458 K 6909



K 6479



K 1920

27 アジャステイング ナット ロック組み付け

- (1) 左右のベアリング キヤツプにアジャステイング ナット ロックを取り付け、ボルトで締め付ける。

$T=130\text{kg}\cdot\text{cm}$

〈参考〉 アジャステイング ナット ロックは2種類あり、選択して使用する。

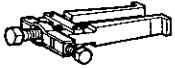
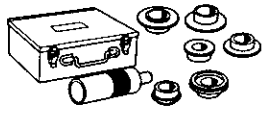
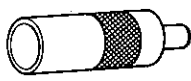
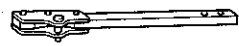
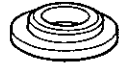
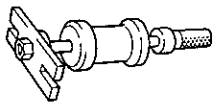
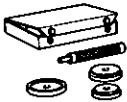
- (2) ボルト締め付け後、アジャステイング ナットがゆるまない方向に密着していることを確認する。

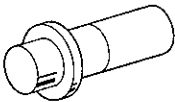
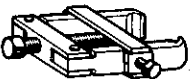
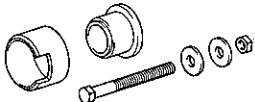
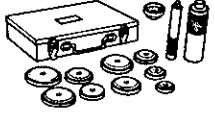
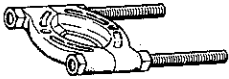
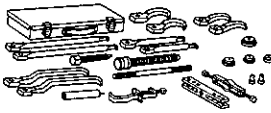
28 デイフアレンシヤル キヤリヤ ASSY取りはずし

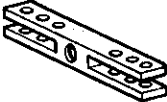
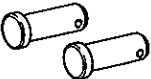
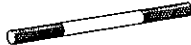
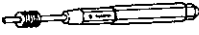
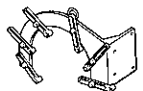
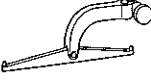
- (1) デイフアレンシヤル キヤリヤ ASSYをデイフアレンシヤル リペア スタンドから取りはずす。

IRS用デフアレンシヤル

準備品

SST		09308-00010 プラー, オイル シール	サイド ギヤ シャフト オイル シール取りは ずし用
		09308-10010 プラー, オイル シール	ドライブ ピニオン オイル シール取りはずし 用
		リブレーサ, トランスミツシ 09316-60010 ン アンド トランスファ ベ アリング	
		09316-00010 リブレーサ バイブ	テーパード ローラ ベアリング (サイド ベア リング) 取り付け用 [8インチ]
		09330-00021 ツール, コンパニオン フラン ジ ホールディング	コンパニオン フランジ保持用
		リムーバ アンド リブレーサ, 09504-22011 デフアレンシヤル サイド ワッシャ	プレート ワッシャ脱着用 (8インチ)
		リブレーサ, デフアレンシヤ 09506-30012 ル ドライブ ピニオン リヤ ベアリング コーン	ドライブ ピニオン フロント ベアリング取り 付け用
		09520-24010 プラー, デフアレンシヤル サイド ギヤ シャフト	サイド ギヤ シャフト脱着用
		09550-10012 リブレーサ セット, "B"	
		09252-10010 ハンドル No.1, リブレーサ	
		リブレーサ, デフアレンシヤ 09557-10010 ル ドライブ ピニオン フロ ント ベアリング	テーパード ローラ ベアリング (サイド ベア リング) 取り付け用 [7.5インチ]
		09558-10010 リブレーサ, リヤ アクスル シャフト オイル シール	
		09550-22011 ツール セット, リヤ アクス ル ベアリング アンド デイ フアレンシヤル	

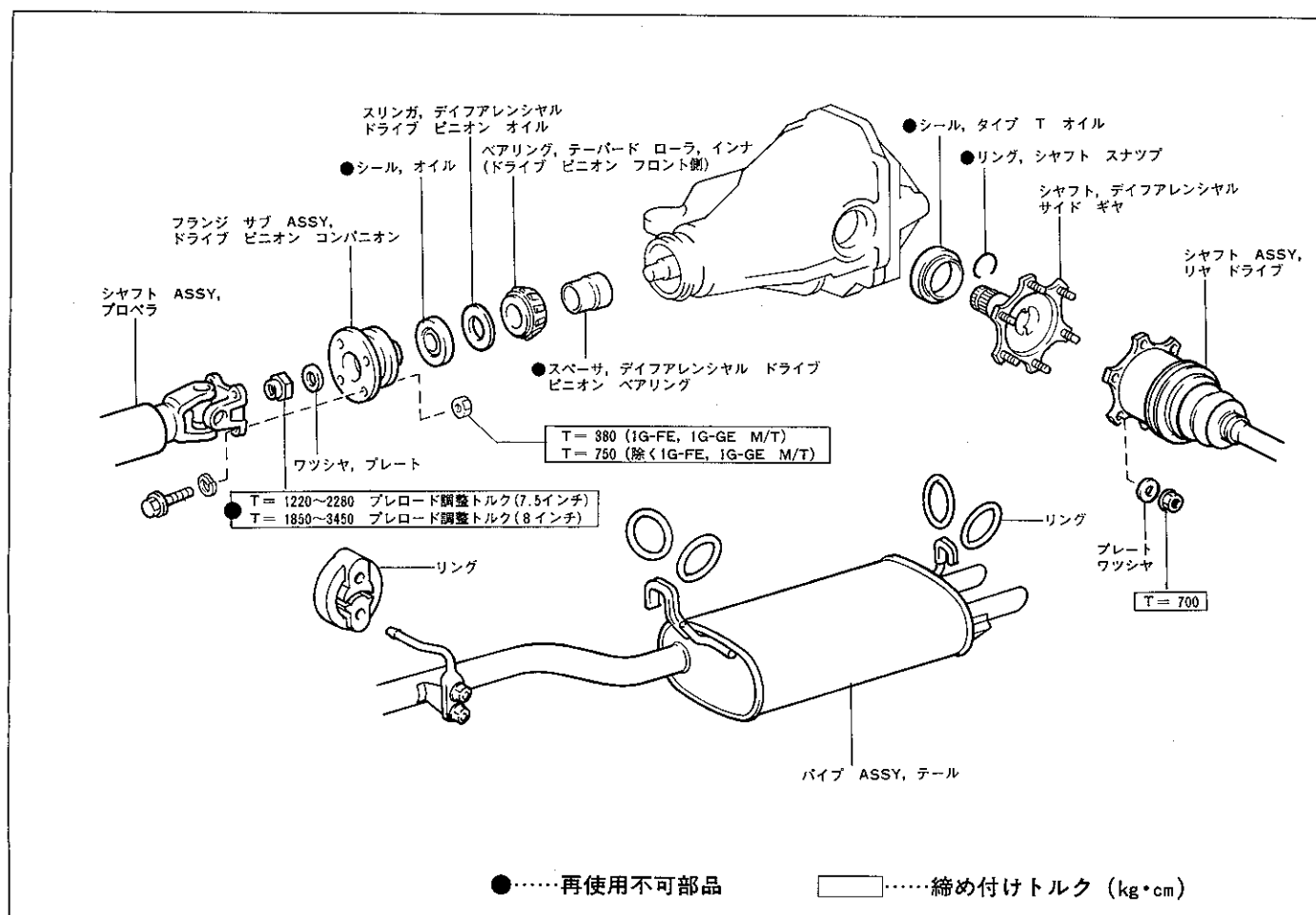
	09550-00020 ハンドル	サイド ギヤ シヤフト オイル シール取り付け用
	09550-00031 リブレーサ	
	09554-30011 リブレーサ, デイフアレンシヤル オイル シール	ドライブ ピニオン オイル シール取り付け用
	09556-22010 リムーバ, ドライブ ピニオン フロント ベアリング	テーパー ドローラ ベアリング (フロント ベアリング) 取りはずし用
	09557-22022 リムーバ アンド リブレーサ, コンパニオン フランジ	コンパニオン フランジ脱着用
	09570-22010 リムーバ アンド リブレーサ, デイフアレンシヤル マウント クッション	デイフアレンシヤル マウント クッション脱着用
	09608-35014 ツール セット, アクスル ハブ アンド ドライブ ピニオン ベアリング	
	09608-06020 ハンドル	
	09608-06110 リブレーサ, フロント ハブ インナ アンド ドライブ ピニオン フロント ベアリング カップ	フロント およびリヤ ベアリング アウタ レース取り付け用
	09608-06120 リブレーサ, フロント ハブ アウタ ベアリング カップ	フロント ベアリング アウタ レース取り付け用
	09608-06180 リブレーサ, ドライブ ピニオン リヤ ベアリング カップ	リヤ ベアリング アウタ レース取り付け用 (7.5インチ)
	09950-00020 リムーバ, ベアリング	リヤ ベアリング アウタ レース取り付け用 (8インチ)
	09950-20017 プラー, ユニバーサル	ドライブ ピニオン リヤ ベアリング取りはずし用
	09952-20010 スクリュー	
		テーパー ドローラ ベアリング (サイド ベアリング) 取りはずし用

S S T		09953-20010 クロウ, B	デーバード ローラ ベアリング (サイド ベアリング) 取りはずし用
		09954-20011 スクリユ, アジャスト	
		09955-20012 プロパ	
		09956-20011 ピース, タイテイング	
		09957-20010 ピン	
		09958-30010 ディスク C, アタツチング	
		09959-20010 ハンドル	
工 具		09031-00040 ピン ポンチ	ピニオン シャフト ピン脱着用
		09043-20010 レンチ, ヘキサゴン12	デифアレンシヤル キヤリヤ脱着用
		(株)バンザイ扱いFR用オートマチック トラ ES-5TB 弥栄工業(株)扱い ンスミツシヨ ン オーバーホ TL-FR ール アタツチメント	デифアレンシヤル キヤリヤ分解および組み付け用
		(株)バンザイ扱い XY-1	ダイヤル ゲージ レバー式測定子 コンパニオン フランジ振れ点検用 サイド ギヤ シャフト振れ点検用
	ソケット レンチ 30mm		ドライブ ピニオン ナット脱着用
計 器	ダイヤル ゲージ		各部点検用
	マイクロメータ (0~25mm)		プレート ワッシヤ厚さ測定用
	トルク レンチ (0~30kg・cm)		プレロード測定用
	トルク レンチ (700~4200kg・cm)		ドライブ ピニオン ナット締め付け用

計 器	外パス	サイド ギヤ シヤフト打ち込み量点検用
油 脂 その他	キヤツスル ハイボイド ギヤ オイル SX	デифアレンシヤル キヤリヤ内への注入用
	キヤツスル ハイボイド ギヤ オイル LSD	デифアレンシヤル キヤリヤ内への注入用 (LSD用)
	光明丹	歯当たり点検用
	オイル ヒータ	リング ギヤ加熱用
	シール パツキン 1281	デифアレンシヤル キヤリヤ カバーへの塗布 用, リヤ アクスル ハウジング エンド ガス ケットへの塗布用

車上交換

脱着構成図

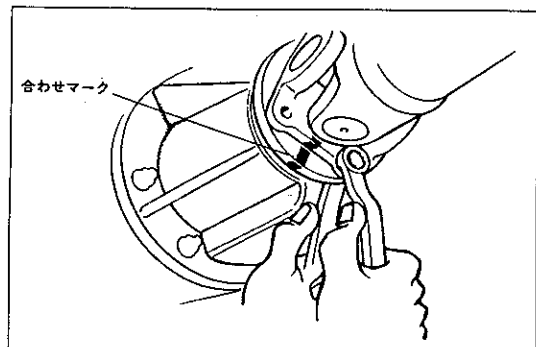


K 6480

ドライブ ピニオン オイル シール交換

1 プロペラ シャフト切り離し

- (1) プロペラ シャフトのフランジ ヨークとコンパニオン フランジに合わせマークを付ける。
- (2) フランジ部取り付けボルトとナットを取りはずし、プロペラ シャフトを切り離す。

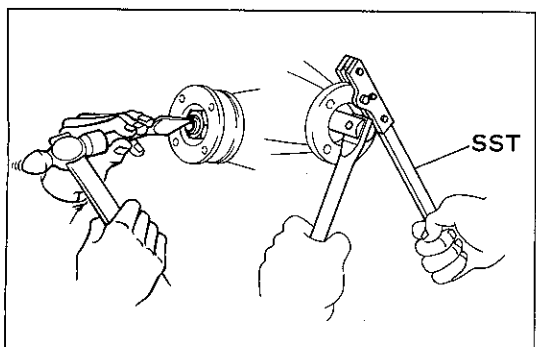


B 4055

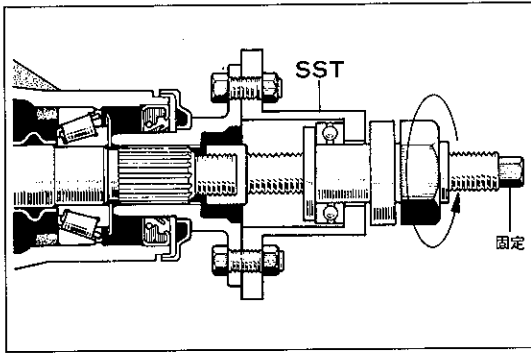
2 コンパニオン フランジ取りはずし

- (1) タガネを使用して、ナットのかしめを解く。
- (2) SSTを使用して、フランジを固定し、ナットおよびプレート ワッシャを取りはずす。

S S T 09330-00021



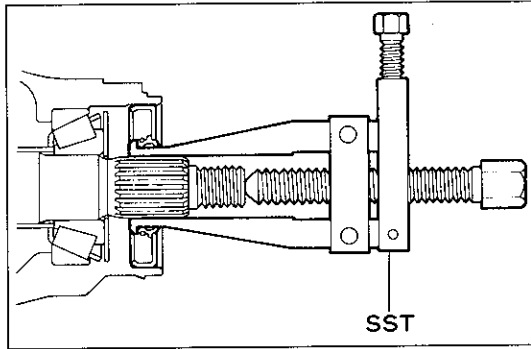
B 4056 B 4057



B 4058

(3) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取りはずす。

S S T 09557-22022



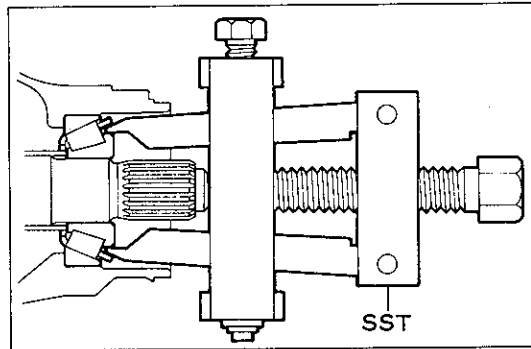
K 6481

3 オイル シール取りはずし

(1) SSTを使用して、オイル シールを取りはずす。

S S T 09308-10010

4 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし



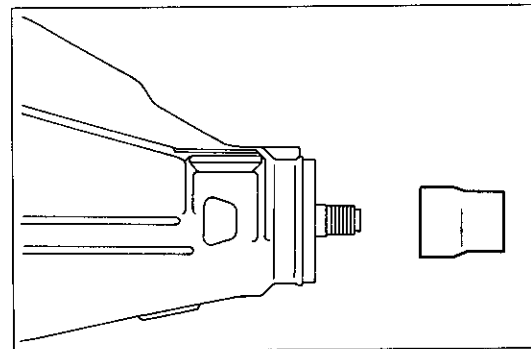
K 6482

5 フロント ベアリング取りはずし

(1) SSTを使用して、フロント ベアリングを取りはずす。

S S T 09556-22010

6 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ取りはずし



K 6483

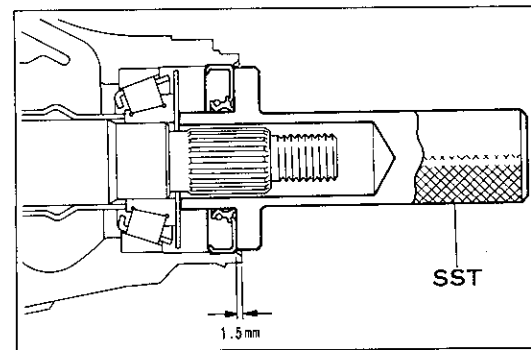
7 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ取り付け

(1) ドライブ ピニオンに新品のスペーサを取り付ける。

注意 内径の大きい方をリヤ側へ向ける。

8 フロント ベアリング取り付け

9 ドライブ ピニオン オイル スリング取り付け



K 6484

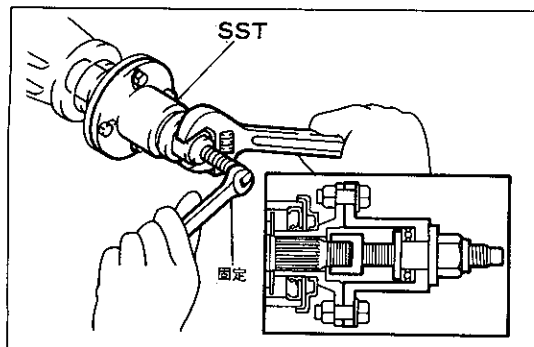
10 オイル シール取り付け

(1) オイル シール リップ部にキヤツスル MP グリース No.2を塗布する。

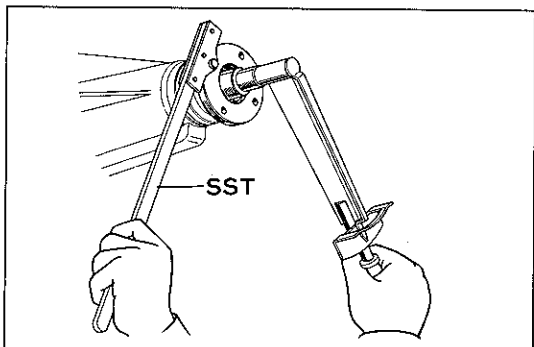
(2) SSTを使用して、新品のオイル シールを打ち込む。

S S T 09554-30011

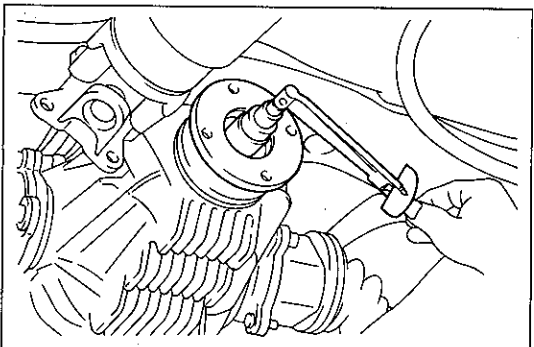
基準値 オイル シール打ち込み量 (キヤリヤ端面より) 1.5mm



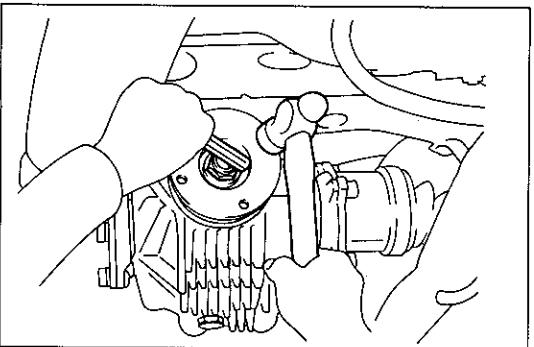
D 3750



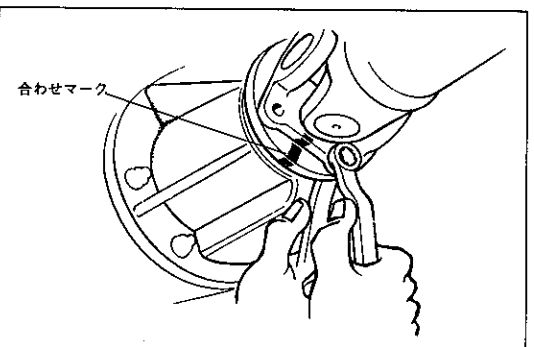
K 7913



K 6485



K 6486



B 4055

11 コンパニオン フランジ取り付け

- (1) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取り付ける。

S S T 09557-22022

- (2) プレートのワッシヤを取り付ける。

- (3) 新品のナットのねじ部にデフ オイルを塗布し、SSTを使用してフランジを固定し、ナットを締め付ける。(P9-142参照)

S S T 09330-00021

T=1220~2280kg・cm (7.5インチ)

T=1850~3450kg・cm (8インチ)

12 ドライブ ピニオン プレロード点検

- (1) ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラツシユの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値 6~10kg・cm(7.5インチ)

5~8 kg・cm(8インチ)

13 ナットかしめ

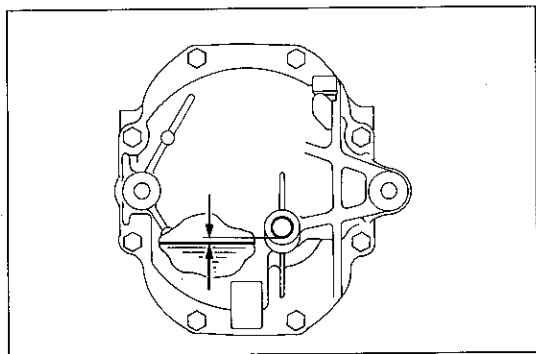
- (1) タガネを使用して、ナットをかしめる。

14 プロペラ シャフト接続

- (1) デイフアレンシヤルのコンパニオン フランジのマークに合わせてプロペラ シャフトを取り付ける。

T=380kg・cm (1 G-FE, 1 G-GE M/T)

T=750kg・cm (除く 1 G-FE, 1 G-GE M/T)



K 6487

15 デフアレンシヤル オイル量点検

基準値 フイラ下面 +0 mm

- 5 mm

フイラ プラグ締め付けトルク $T=400\text{kg}\cdot\text{cm}$

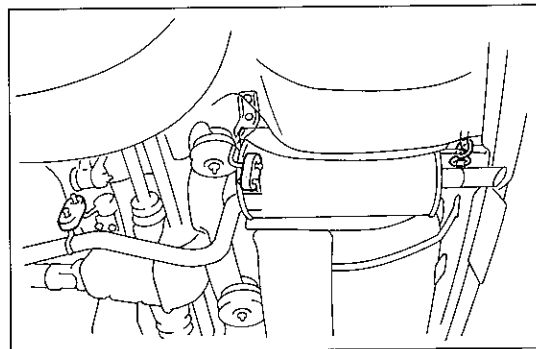
〈参考〉 使用オイルと油量

キャツスル ハイポイド ギヤ オイル SX

キャツスル ハイポイド ギヤ オイル LSD (LSD付き)

全油量 1.2ℓ (7.5インチ)

1.3ℓ (8インチ)



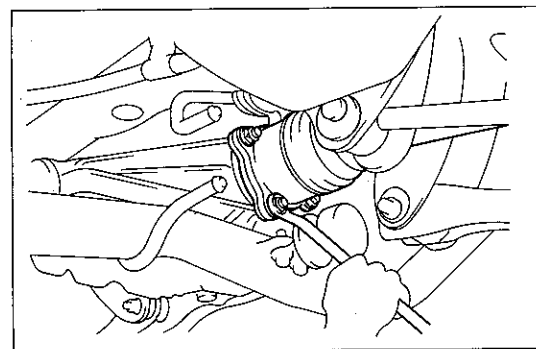
K 6488

サイド ギヤ シャフト オイル シール交換

1 テール パイプ リング取りはずし

(左側オイル シール交換時)

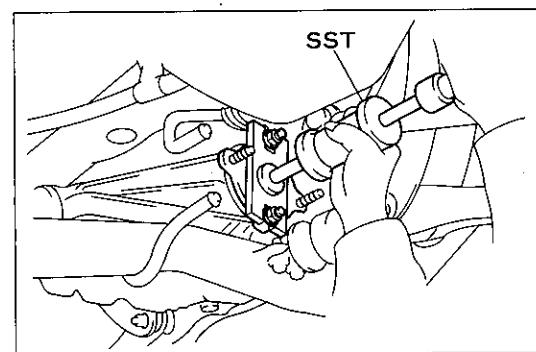
- (1) テール パイプのO リング4個を取りはずす。
- (2) テール パイプを引っ張らないように針金などで吊るす。



K 6910

2 ドライブ シャフト切り離し

- (1) ナット4個または6個を取りはずす。
- (2) ドライブ シャフトが水平になるようにローアームをジャッキアップする。
- (3) ドライブ シャフトをサイド ギヤ シャフトから切り離し、針金などで吊っておく。



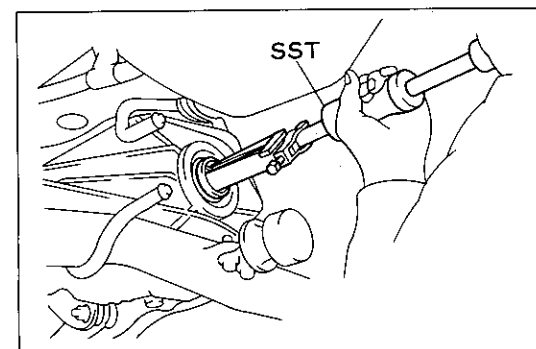
K 6911

3 サイド ギヤ シャフト取りはずし

- (1) SSTを使用して、デフアレンシヤル キャリヤからサイド ギヤ シャフトを取りはずす。

S S T 09520-24010

- (1) ⊖ドライバなどを使用して、スナップ リングをシャフトから取りはずす。

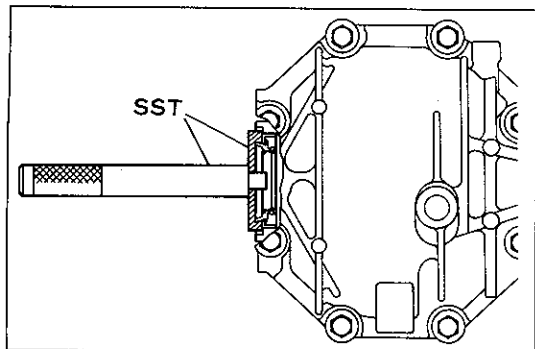


K 6912

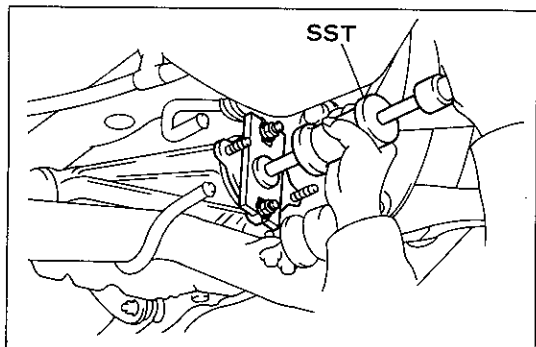
4 サイド ギヤ シャフト オイル シール取りはずし

- (1) SSTを使用してオイル シールを取りはずす。

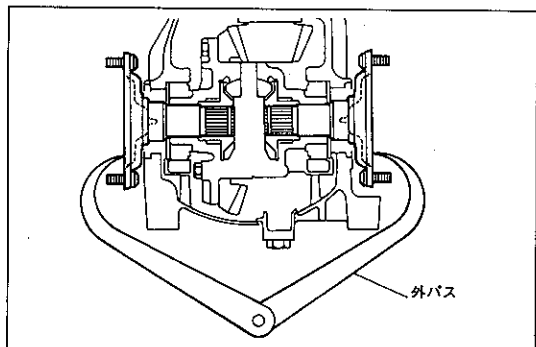
S S T 09308-00010



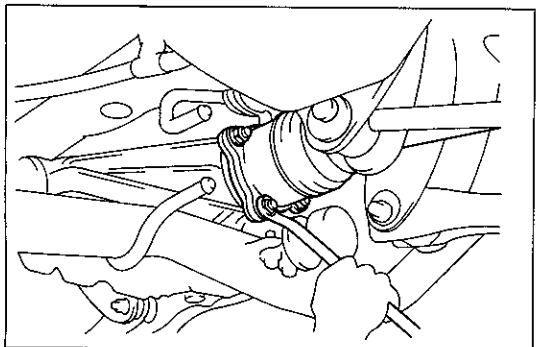
K 6489



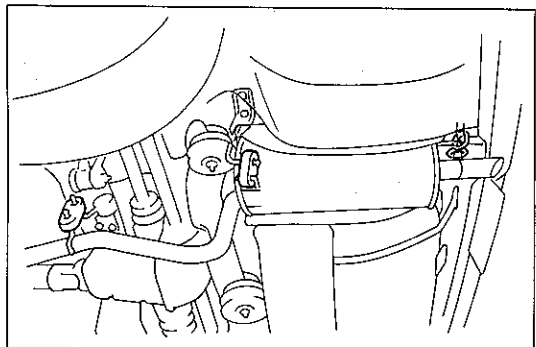
K 6911



K 6490



K 6910



K 6488

5 サイドギヤシャフトオイルシール取り付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイルシールをデフアレンシャルキャリヤ端面と面一になるまで打ち込む。

SST 09550-00020 09550-00031

- (2) オイルシールリップ部にキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。

6 サイドギヤシャフト取り付け

- (1) 新品のスナツプリングをサイドギヤシャフトに組み付ける。
- (2) スナツプリングにキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。
- (3) SSTを使用して、サイドギヤシャフトをデフアレンシャルに打ち込む。

SST 09520-24010

- 注意**
- ・スナツプリングの切り口を下向きにして組み付ける。
 - ・挿入時、斜めに打ち込まない。斜めに打ち込んだ場合は、スナツプリングを新品に取り替え、再度打ち込む。
 - ・挿入時、オイルシールを傷つけない。

〈参考〉・打ち込み時、SSTのスライディングハンマの反発力の変化あるいは音質の変化でピニオンシャフトに当たっていることを判断できる。

- ・サイドギヤシャフトをデフアレンシャルピニオンシャフトに当てた状態にし、サイドギヤシャフトフランジ面を外バスなどで測定する。

参考値 241.66mm以下 (7.5インチ 除く 1G-FE A/T)

239.66mm以下 (7.5インチ 1G-FE A/T)

261.7 mm以下 (8インチ)

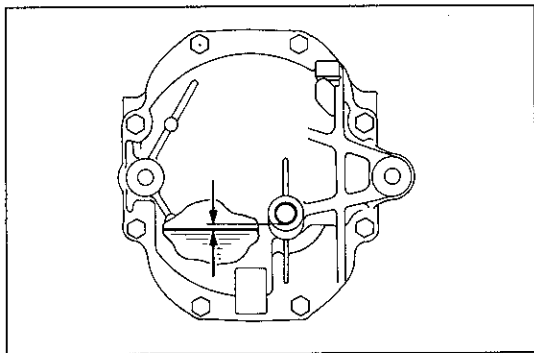
7 ドライブシャフト接続

- (1) ドライブシャフトが水平になるようにロワーアームをジャッキアップし、ドライブシャフトをサイドギヤシャフトに取り付ける。
- (2) ナット4個または6個を取り付ける。

T=700kg・cm

8 テールパイプリング取り付け (左側オイルシール交換時)

- (1) テールパイプを押し上げて、Oリング4個を取り付ける。



K 6487

9 デフアレンシヤル オイル量点検

基準値 フィラ下面 +0 mm

-5 mm

フィラ プラグ締め付けトルク $T=400\text{kg}\cdot\text{cm}$

〈参考〉 使用オイルと量

キャツスル ハイポイド ギヤ オイル SX

キャツスル ハイポイド ギヤ オイル LSD (LSD付
き)

全油量 1.2ℓ (7.5インチ)

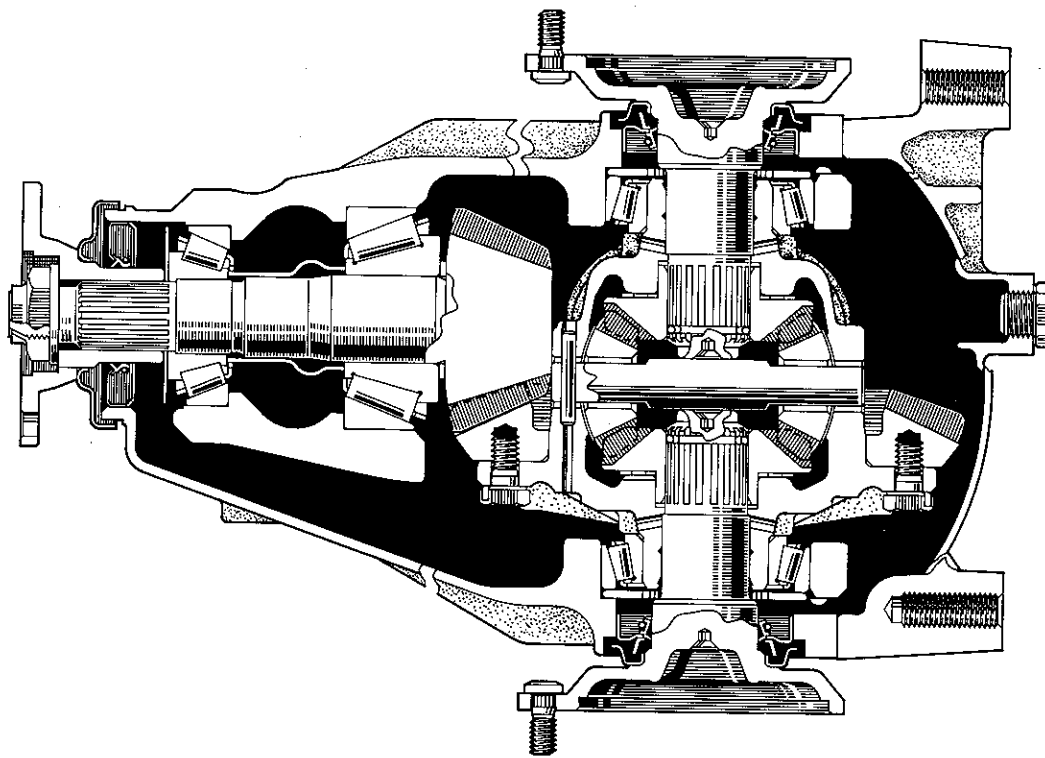
1.3ℓ (8インチ)

デフアレンシャル キヤリヤ

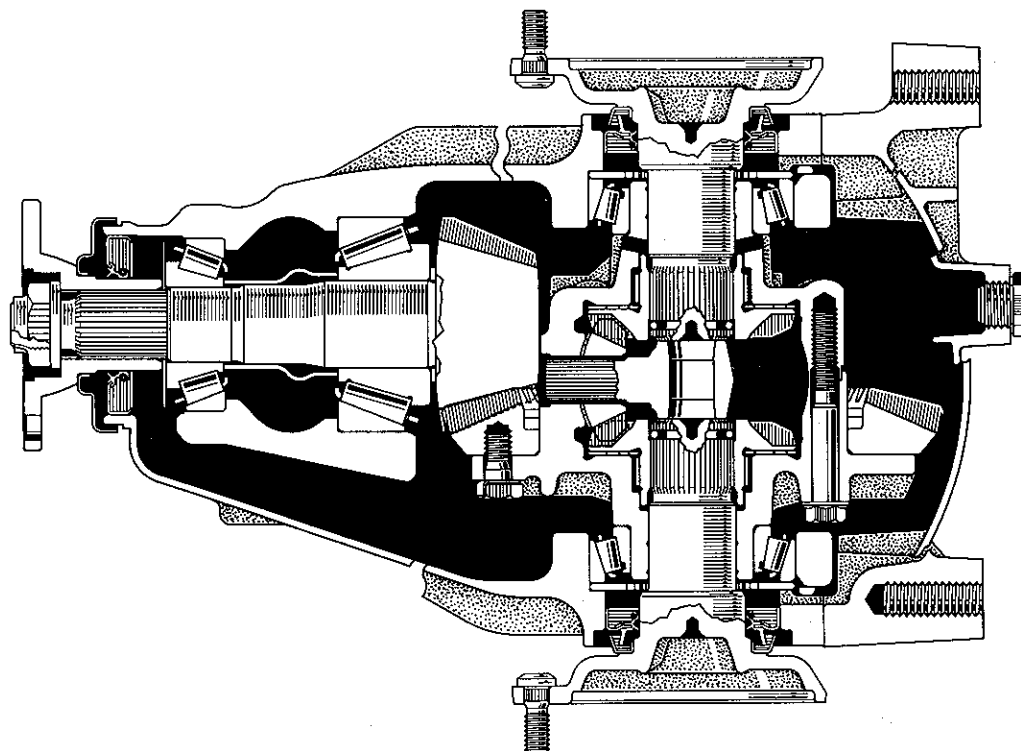
ASSY

断面図

7.5インチ, 8インチ 2ピニオン

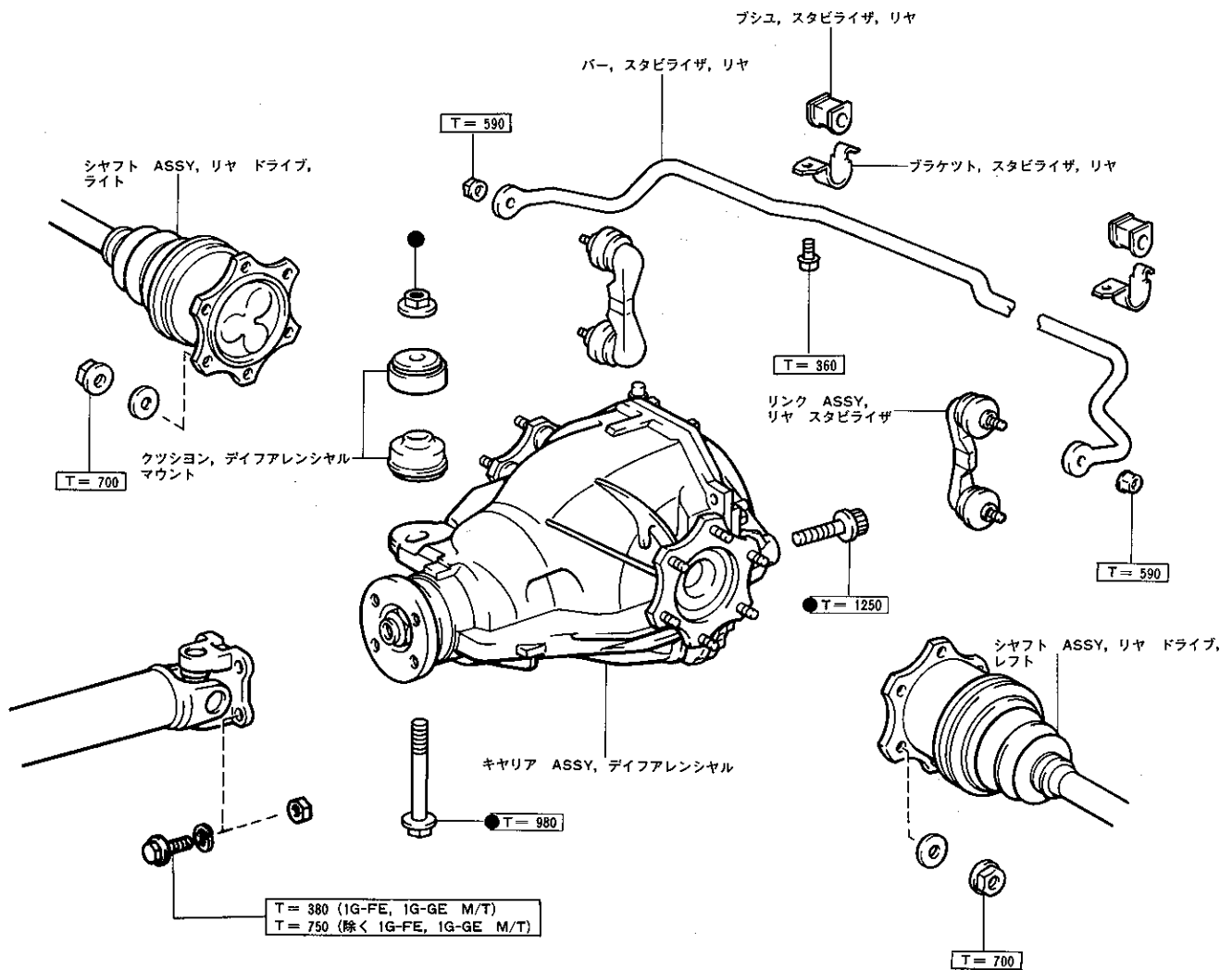


8インチ 4ピニオン



K 6491 K 6492

脱着構成図



●.....再使用不可部品

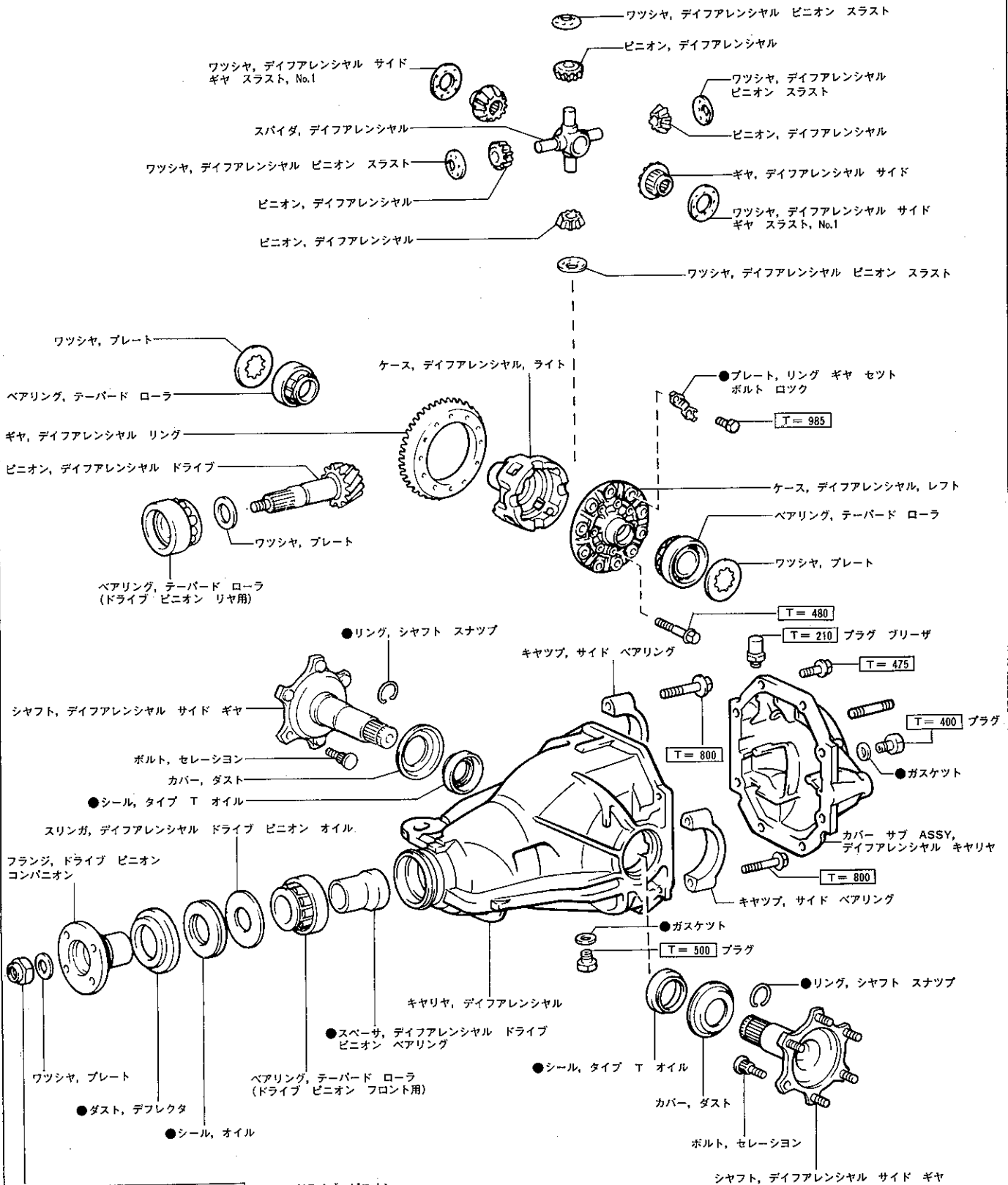
□.....締め付けトルク (kg・cm)

K 6913

7.5インチ, 8インチ 2ピニオン

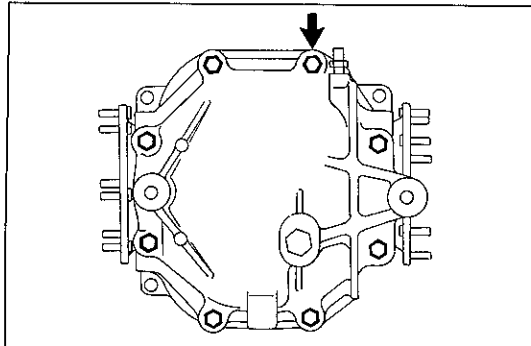


8 インチ 4 ピニオン



●……再使用不可部品

□……締め付けトルク (kg·cm)



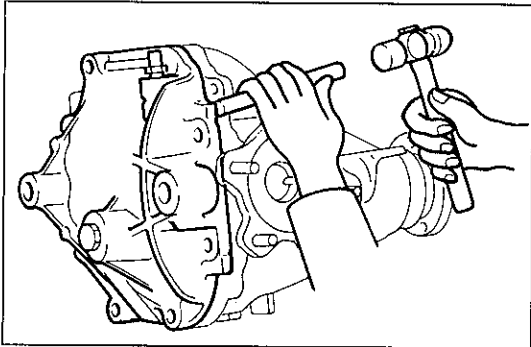
K 6495

デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY分解前点検

〈参考〉 3～9の分解前点検は不具合のあるものを分解する場合
必ず点検すること。

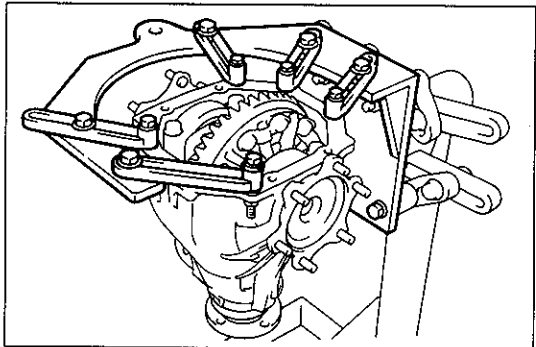
1 デフアレンシヤル キヤリヤ カバー取りはずし

(1) ボルト 8 本を取りはずす。



K 6496

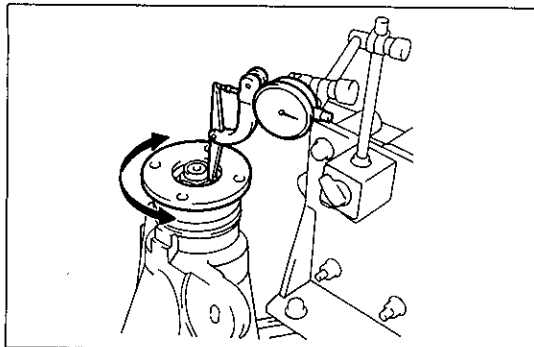
(2) プラスパーを使用して、軽くたたいてキャリヤ カバーを取り
はずす。



K 6497

2 デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY固定

(1) デフアレンシヤル キヤリヤ ASSYをオーバーホール ア
タッチメントに固定する。

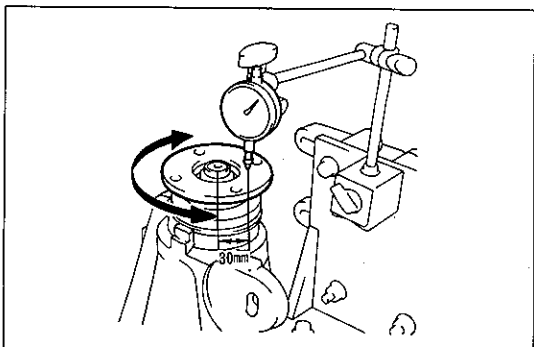


K 6498

3 コンパニオン フランジの振れ点検

(1) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの内周面に直角に
取り付け、コンパニオン フランジの縦振れを測定する。

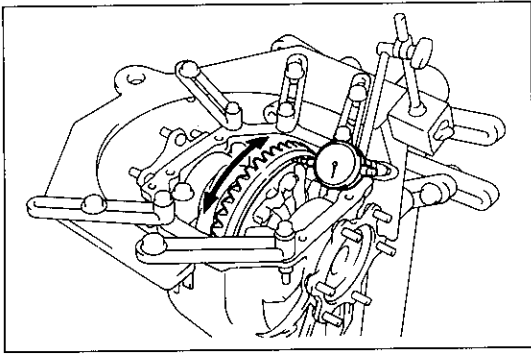
限 度 0.09mm



K 6914

(2) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの中心から外側へ
30mmの位置へフランジ面と直角に取り付け、コンパニオン フ
ランジの横振れを測定する。

限 度 0.09mm



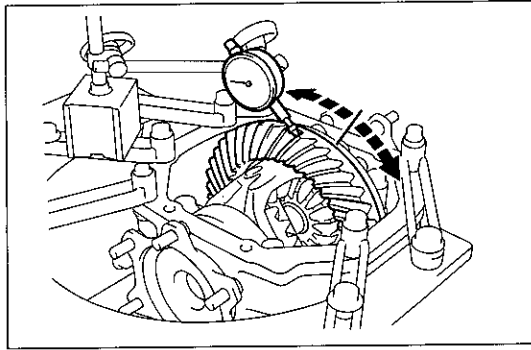
K 6499

4 リング ギヤ振れ点検

- (1) リング ギヤの背面の振れをダイヤル ゲージで点検する。

限度 0.07mm (7.5インチ)

0.10mm (8インチ)



K 1983

5 リング ギヤのバックラツシュ点検

- (1) ダイヤル ゲージをリング ギヤの歯車先端に直角に当てドライブ ピニオンを固定し、リング ギヤを動かして測定する。

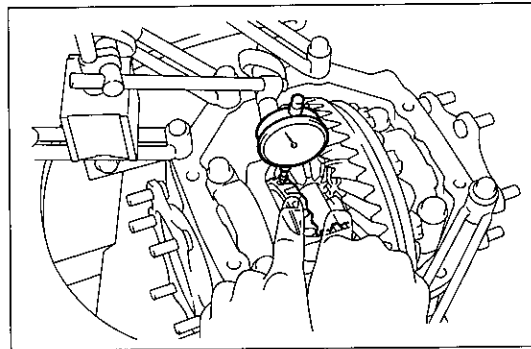
基準値 0.13~0.18mm (除く 1G-FE A/T)

0.10~0.15mm (1G-FE A/T)

注意 リング ギヤ円周上の3箇所以上で測定する。

6 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検

(P9-140参照)

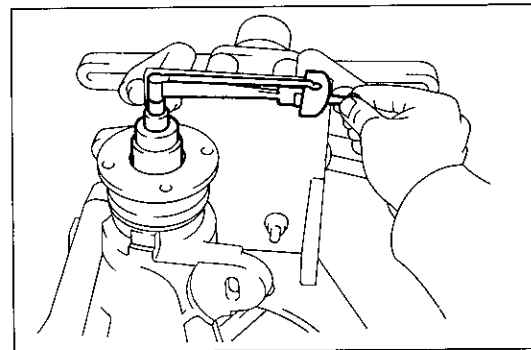


K 1984

7 サイド ギヤのバックラツシュ点検

- (1) ダイヤル ゲージをサイド ギヤの歯面先端に直角に当て、ピニオンをデифアレンシヤル ケースの方へ固定しバックラツシュを測定する。

基準値 0.05~0.20mm



K 6500

8 ドライブ ピニオン プレロード測定

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラツシュの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値 6~10kg・cm (7.5インチ)

5~8 kg・cm (8インチ)

9 総合プレロード点検

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤ歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

基準値 総合プレロード=ドライブ ピニオン プレロード

+ 4~6 kg・cm

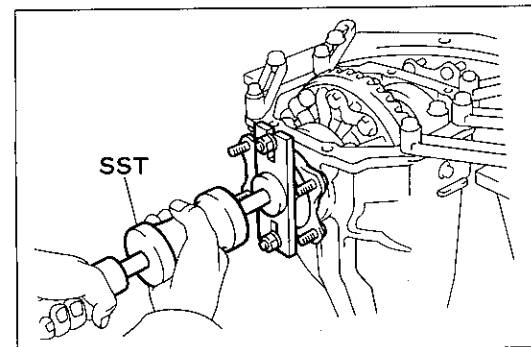
デифアレンシヤル キヤリヤ ASSY分解

1 サイド ギヤ シャフト取りはずし

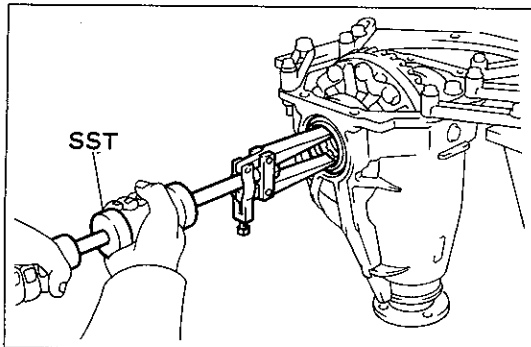
- (1) SSTを使用して、デифアレンシヤル キヤリヤからサイド ギヤ シャフトを取りはずす。

S S T 09520-24010

- (2) ㊦ドライバを使用して、スナツプ リングをシャフトから取りはずす。



K 6501

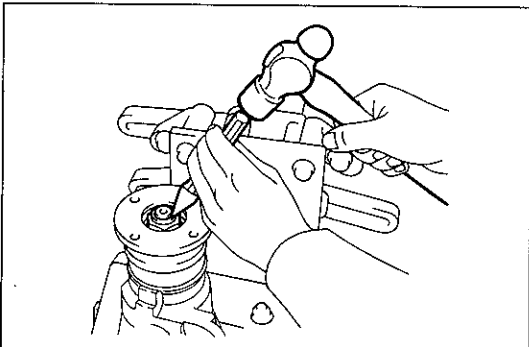


K 6502

2 サイド ギヤ シャフト オイル シール取りはずし

- (1) SSTを使用して、オイル シール 2 個を取りはずす。

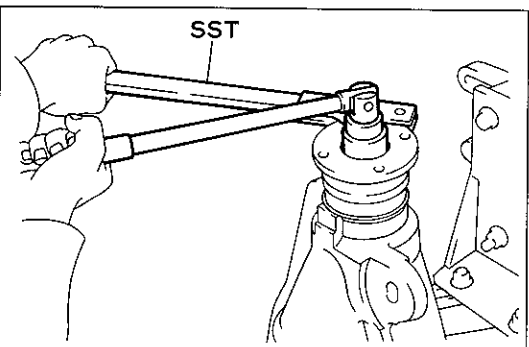
S S T 09308-00010



K 6503

3 コンパニオン フランジ取りはずし

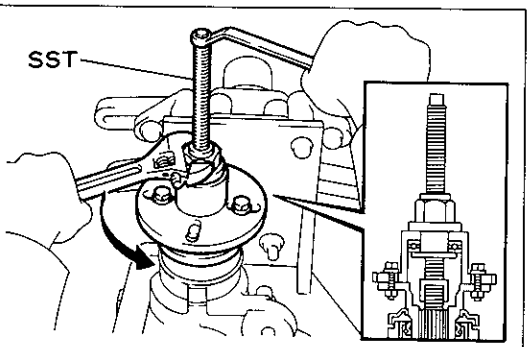
- (1) タガネを使用して、ナットのかしめを解く。



K 6504

- (2) SSTを使用して、フランジを固定し、ナットおよびプレート
ワッシャを取りはずす。

S S T 09330-00021

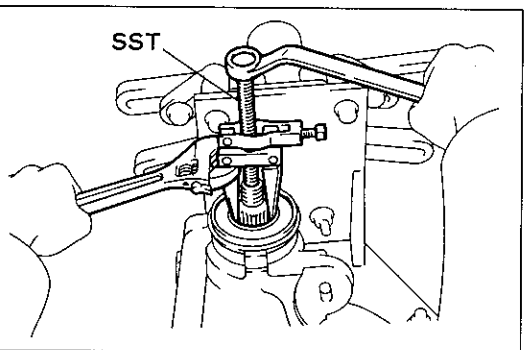


K 6505

- (3) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取りはずす。

S S T 09557-22022

〈参考〉 SSTのボルトはNo.1 (7.5インチ), No.3 (8インチ) を使用
する。



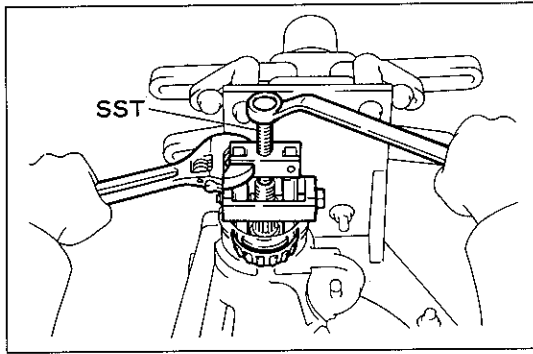
K 6506

4 オイル シール取りはずし

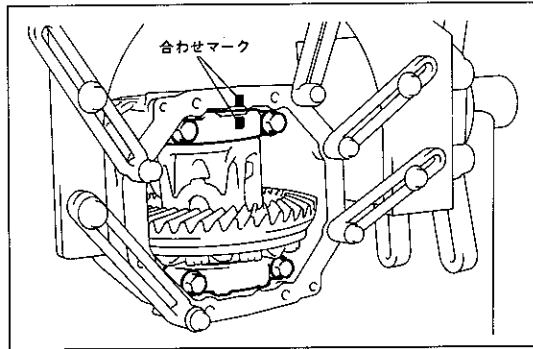
- (1) SSTを使用して、オイル シールをデフアレンシヤル ギヤ
リヤから取りはずす。

S S T 09308-10010

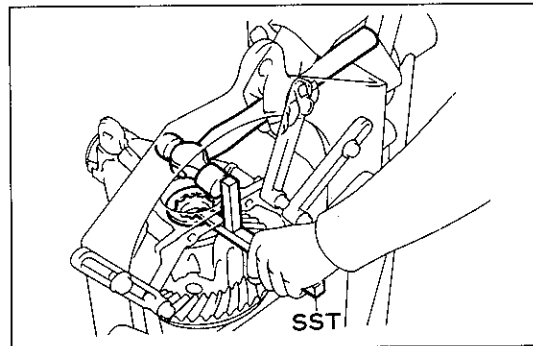
5 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし



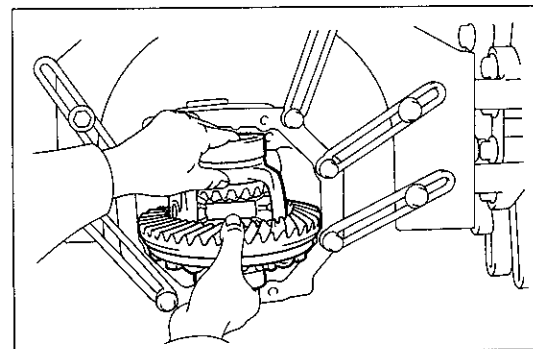
K 6507



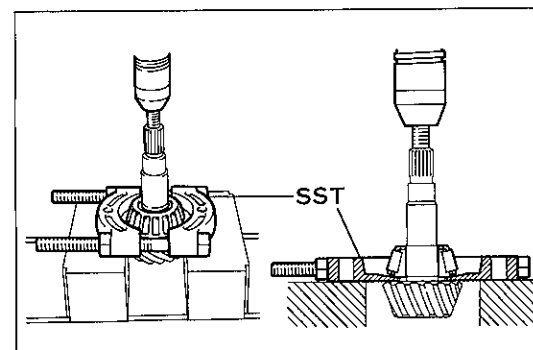
K 6508



K 6509



K 1995



K 1871

6 フロント ベアリングおよびベアリング スペーサ取りはずし

- (1) SSTを使用して、フロント ベアリングをデフアレンシヤル キャリヤから取りはずす。

S S T 09556-22010

- (2) ベアリング スペーサを取りはずす。

7 デフアレンシヤル ケース ASSY取りはずし

- (1) ベアリング キャップとデフアレンシヤル キャリヤに合わせマークを付ける。

- (2) ボルト4本を取りはずし、ベアリング キャップ2個を取りはずす。

注意 ベアリング キャップとキャリヤは一体で加工されているため組み合わせを変えない。

- (3) SSTを使用して、プレート ワッシヤ(バックラッシュ調整用)を取りはずす。

S S T 09504-22011

- (4) デフアレンシヤル ケースをベアリング アウタ レースとともに取りはずす。

注意 ベアリング アウタ レースに左右(背面側、歯面側)の識別マークを付けるかまたは別々に整理する。

8 ドライブ ピニオン取りはずし

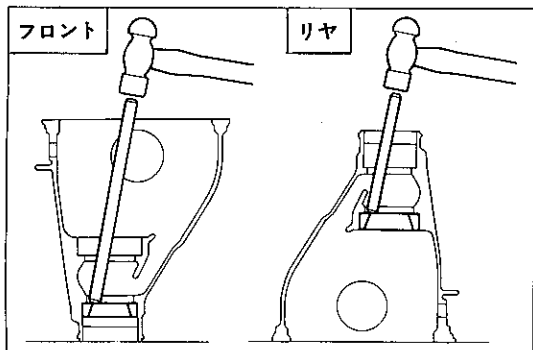
- (1) デフアレンシヤル キャリヤからドライブ ピニオンを取りはずす。

9 ドライブ ピニオン リヤ ベアリング取りはずし

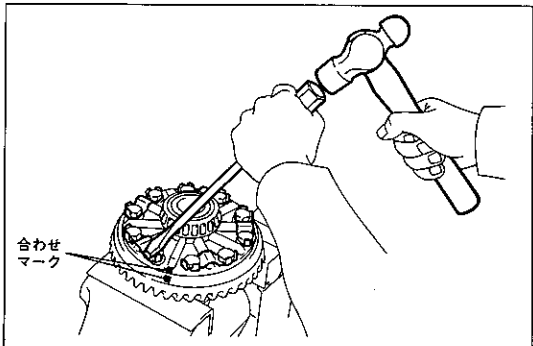
- (1) SSTとプレスを使用して、ドライブ ピニオンからリヤ ベアリングを取りはずす。

S S T 09950-00020

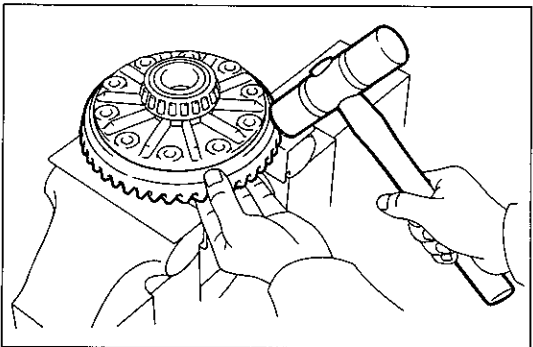
- (2) プレート ワッシヤを取りはずす。



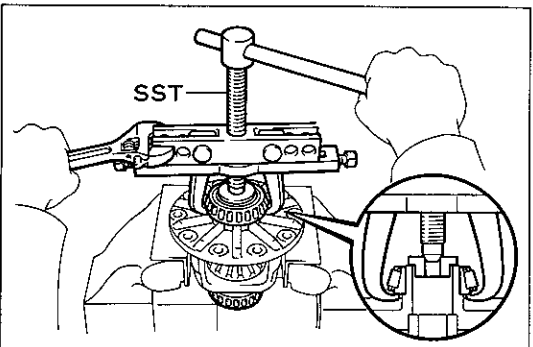
K 6510 K 6511



K 1874



K 1876



K 1877

10 フロントおよびリヤ ベアリング アウタ レース取りはずし

- (1) プラスバーを使用して、ベアリング アウタ レースを軽く均等にたたきながら打ち抜く。

11 リング ギヤ取りはずし

- (1) デイフアレンシヤル ケースとリング ギヤに合わせマークを付ける。
- (2) ⊖ドライバを使用して、ロック プレートのかしめを解く。
- (3) ボルト10本およびロック プレート5個を取りはずす。

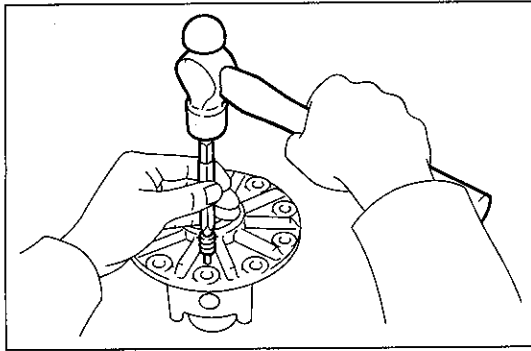
- (4) プラスティック ハンマを使用して、リング ギヤ外周を軽くたたいて取りはずす。
- (5) デイフアレンシヤル ケース ASSYの振れを点検する。

12 テーパー ドローラ ベアリング インナ (サイド ベアリング) 取りはずし

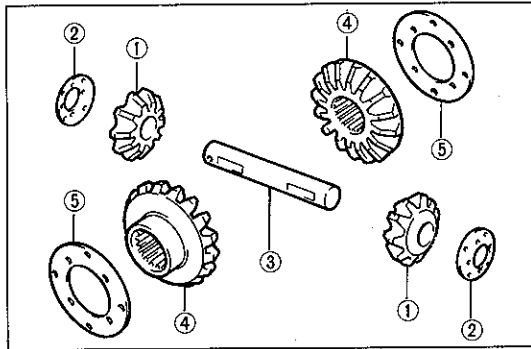
- (1) デイフアレンシヤル ケースの切り欠き部よりベアリングのインナ レースにSSTのツメをかける。
- (2) SSTを使用して、デイフアレンシヤル ケースからテーパー ドローラ ベアリング2個を取りはずす。

S S T	09952-20010	09953-20010	09954-20011
	09955-20012	09956-20011	09957-20010
	09958-30010	09959-20010	

〈参考〉 ベアリング脱着は、リング ギヤを取り付けた状態でできるので、サイド ベアリング交換以外は取りはずす必要はない。



K 1878



K 1879

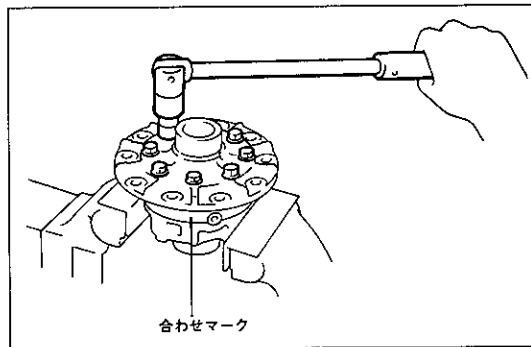
13 デフアレンシャル ケース分解

2 ピニオン

(1) ピン ポンチを使用して、ストレート ピンを打ち抜く。

(2) デフアレンシャル ケースから次の部品を取りはずす。

- ① デフアレンシャル ピニオン 2個
- ② ピニオン スラスト ワッシヤ 2枚
- ③ デフアレンシャル ピニオン シャフト
- ④ デフアレンシャル サイド ギヤ 2個
- ⑤ サイド ギヤ スラスト ワッシヤ 2枚

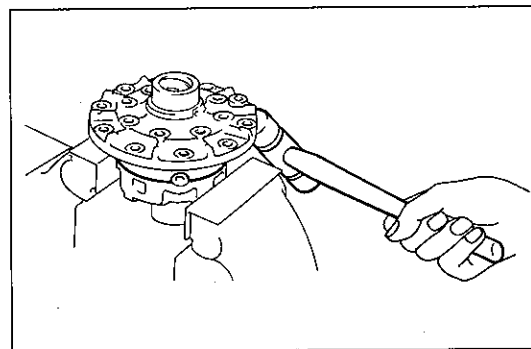


D 4624

4 ピニオン

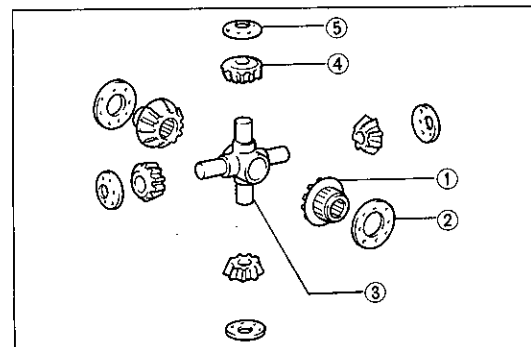
(1) デフアレンシャル ケースのライトとレフトに合わせマークを付ける。

(2) ボルト 8 本を取りはずす。



D 4625

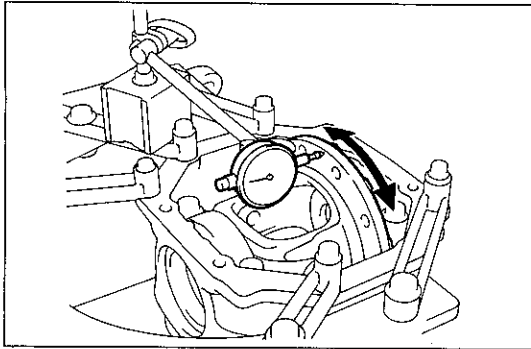
(3) デフアレンシャル ケースのライト側とレフト側をプラスチック ハンマなどを使用して、かん合をはずす。



D 4626

(4) デフアレンシャル ケースから次の部品を取りはずす。

- ① デフアレンシャル サイド ギヤ 2個
- ② サイド ギヤ スラスト ワッシヤ 2枚
- ③ デフアレンシャル スパイダ
- ④ デフアレンシャル ピニオン 4個
- ⑤ ピニオン スラスト ワッシヤ 4枚



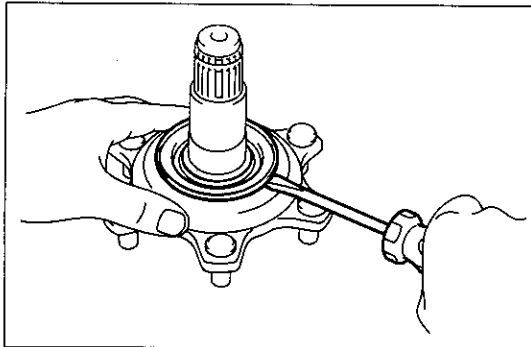
K 2024

デフアレンシヤル構成部品の点検および交換

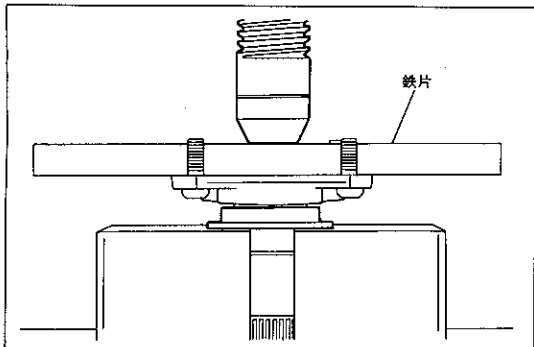
- 1 サイド ギヤおよびピニオン ギヤの摩耗点検
- 2 デフアレンシヤル ケースの亀裂, 損傷の有無点検
- 3 デフアレンシヤル ケースの振れ点検

〈参考〉 リング ギヤ振れ点検で限度を超えた場合のみ行う。

- (1) デフアレンシヤル ケースをデフアレンシヤル キヤリヤに組み付け, ベアリング キャップを組み付ける。(P9-135参照)
- (2) デフアレンシヤル ケースの振れを点検する。
 限度 0.07mm (7.5インチ)
 0.10mm (8インチ)
- (3) デフアレンシヤル ケースを取りはずす。(P9-127参照)
- (4) サイド ベアリングを取りはずす。(P9-128参照)



E 2343



E 7948

4 サイド ギヤ シヤフト ダスト カバー交換

- (1) ⊖ドライバを使用して, ダスト カバーを取りはずす。

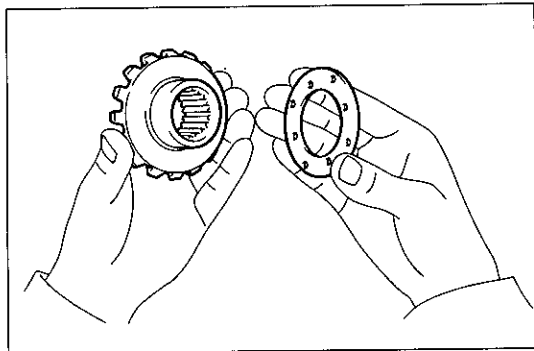
- (2) プレスを使用して, 新品のダスト カバーをサイド ギヤ シヤフトに当たるまで圧入する。

注意 圧入時は, ダスト カバーを確認しながら, 少しずつつくりと行い, 圧入しすぎない。

デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY組み付け

1 デフアレンシヤル ケース組み付け

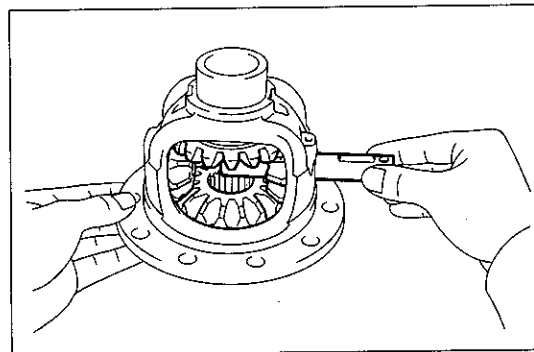
- 注意**
- ・スラスト ワツシヤ, サイド ギヤ, ピニオンなどの組み付け時には, ゴミ, 切り粉などの付着がないことを確認する。
 - ・各摺動部, 回転部にキャツスル ハイポイド ギヤ オイル SXを十分塗布する。



K1881

2 ピニオン

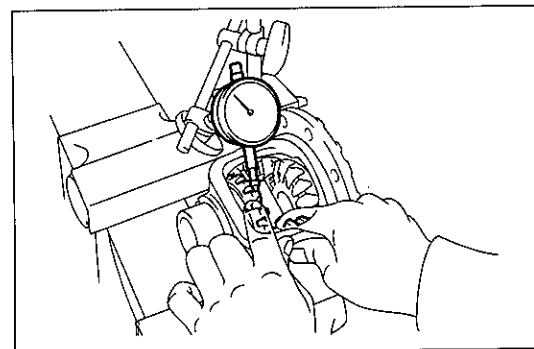
(1) サイド ギヤにスラスト ワツシヤを組み付ける。



K1882

(2) サイド ギヤ(ワツシヤ付き), ピニオン ギヤ, ピニオン シャフトおよびピニオン スラスト ワツシヤを組み付ける。

注意 ピニオン シャフトの固定用穴とケースの穴を合わせる。



K1883

(3) サイド ギヤのバックラツシュが基準値内になり, かつスムーズに回るよう左右両側とも同じサイズのスラスト ワツシヤを下表より選択し調整する。

ピニオンをデフアレンシヤル ケースの方へ固定し, バックラツシュを点検する。

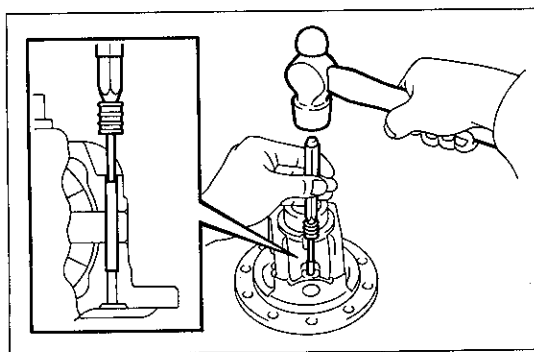
基準値 0.05~0.20mm

〈参考〉 スラスト ワツシヤの種類

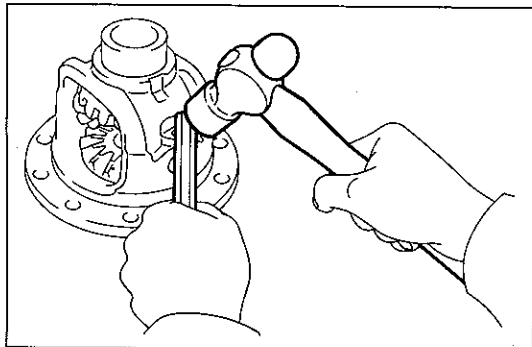
7.5インチ	
品 番	厚 さ (mm)
41361-30040	0.96~1.04
41361-30050	1.06~1.14
41361-30060	1.16~1.24
41361-30070	1.26~1.34
41361-30080	1.36~1.44
41361-30090	1.46~1.54
41361-30100	1.56~1.64

8 インチ	
品 番	厚 さ (mm)
41361-40021	1.58~1.62
41362-40021	1.68~1.72
41363-40021	1.78~1.82

(4) ピン ポンチを使用して, ストレート ピンをリング ギヤの歯面側から打ち込む。

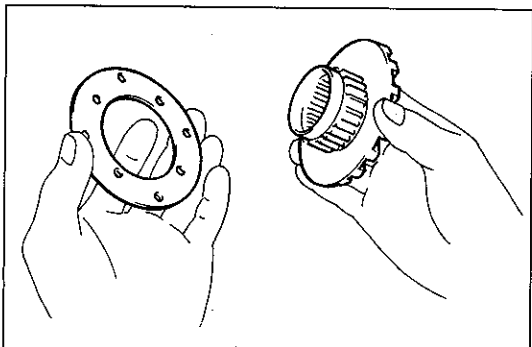


K1884



K 1885

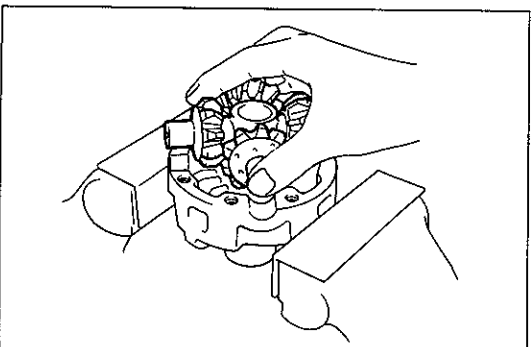
- (5) タガネを使用して、デフアレンシヤル ケースのピン穴外周をかしめる。



D 4628

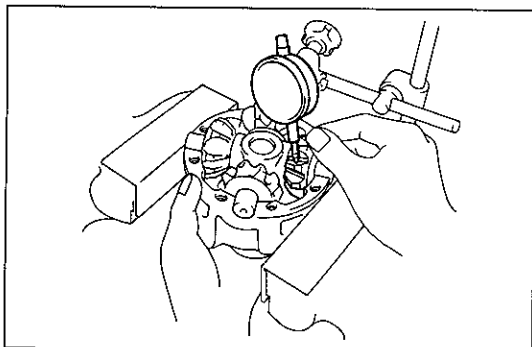
4 ピニオン

- (1) サイド ギヤにスラスト ワッシヤを組み付ける。



D 4629

- (2) スパイダにピニオン 4 個およびピニオン スラスト ワッシヤ 4 枚を組み付ける。
 (3) デフアレンシヤル ケースにサイド ギヤ, ピニオンおよびスパイダを組み付ける。



D 4630

- (4) サイド ギヤを固定して、デフアレンシヤル ケース ライト側のサイド ギヤ バックラツシュをピニオン側で点検する。

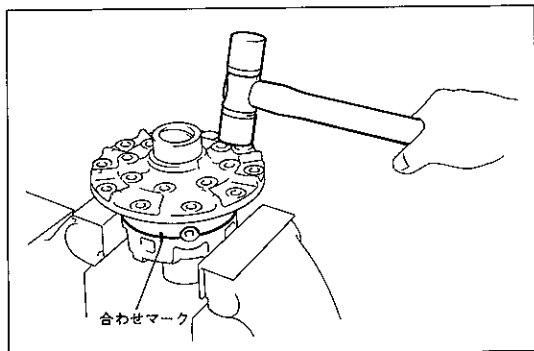
基準値 0.05mm～0.20mm

注意 ピニオンはデフアレンシヤル ケースに押し付けて点検する。

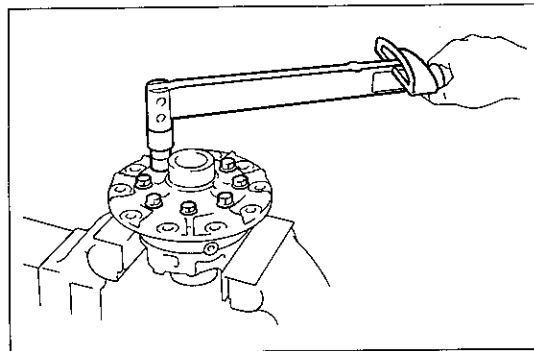
- (5) デフアレンシヤル ケース レフト側にデフアレンシヤル ピニオンおよびスパイダを組み付け、(4)の作業を行う。
 (6) 基準値外の場合は、左右両側ともスラスト ワッシヤを下表より選択し、バックラツシュを基準値内に選択する。

〈参考〉 スラスト ワッシヤの種類

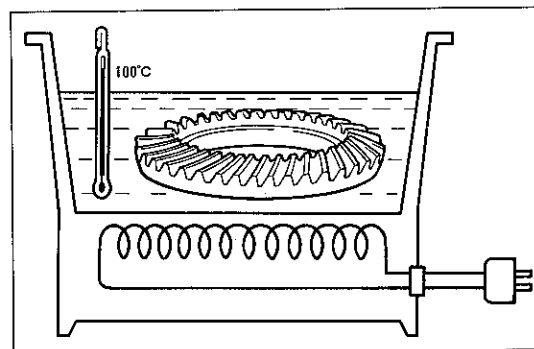
品 番	厚 さ (mm)
41361-24010	0.88～0.92
41361-24020	0.98～1.02
41361-24030	1.08～1.12
41361-24040	1.18～1.22
41361-24050	1.28～1.32



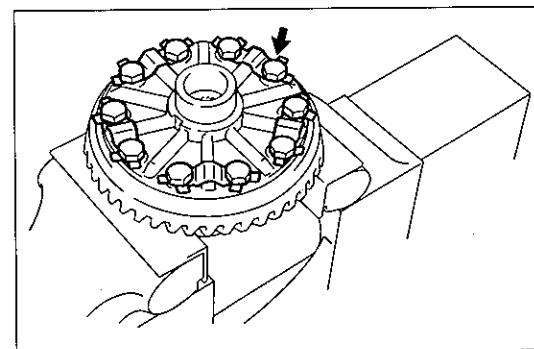
D 4631



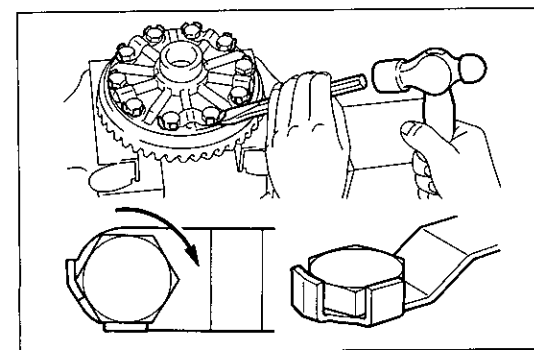
D 4632



K 1885



K 1886



K 1888

- (7) デイフアレンシヤル ケース ライト側の合わせマークをレフト側の合わせマークに合わせ、デイフアレンシヤル ピニオンとサイド ギヤの歯が噛み合うように組み付ける。
- (8) プラスティック ハンマを使用して、デイフアレンシヤル ケースを軽くたたいて、かん合させる。

- (9) ボルト 8 本を規定トルクで締め付ける。

$$T = 480 \text{ kg} \cdot \text{cm}$$

注意 ボルトは対角線に相対する順に行い、数回に分けて締め付ける。

2 リング ギヤ組み付け

- (1) リング ギヤをオイルなどで90～110°Cに加熱する。

注意 リング ギヤは110°C以上に加熱させない。

- (2) リング ギヤとデイフアレンシヤル ケースの合わせ面の油脂を十分清掃する。
- (3) デイフアレンシヤル ケースとリング ギヤの合わせマークを合わせて、リング ギヤを素早く組み付ける。

注意 デイフアレンシヤル ケースのボルト穴とリング ギヤのねじ穴を合わせる。

- (4) 新品のロック プレート 5 個を介して、セット ボルト 10 本を規定トルクで締め付ける。

$$T = 985 \text{ kg} \cdot \text{cm}$$

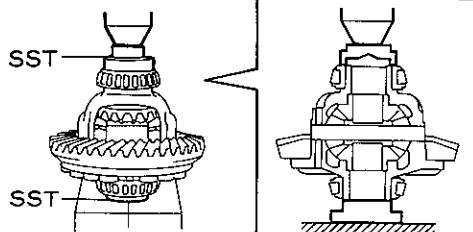
注意 ・ボルトは、対角線に相対する順に行い、数回に分けて締め付ける。

・ボルトは、リング ギヤが十分冷えてから規定トルクで締め付ける。

- (5) タガネを使用して、ロック プレートのツメを起こし回り止めをする。

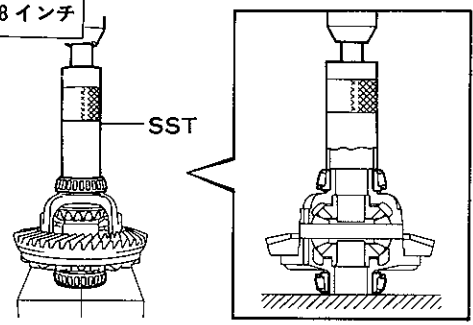
注意 ボルトの2面幅に接触するツメは、2面幅部と密着するまで折り曲げること。またボルトの山部と接触してツメ幅が2分割になる場合は、ボルトの締め側を密着させる。

7.5インチ

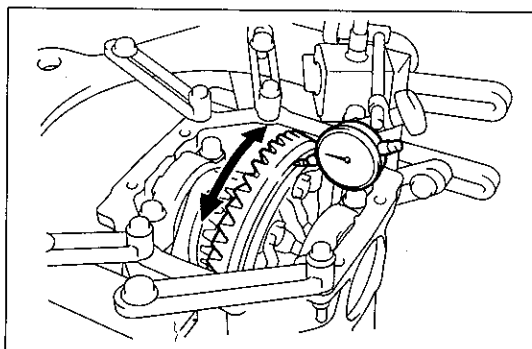


X 4315

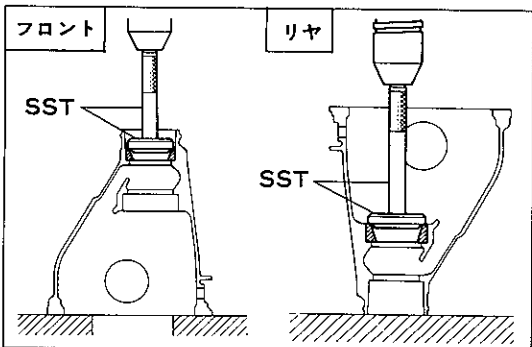
8インチ



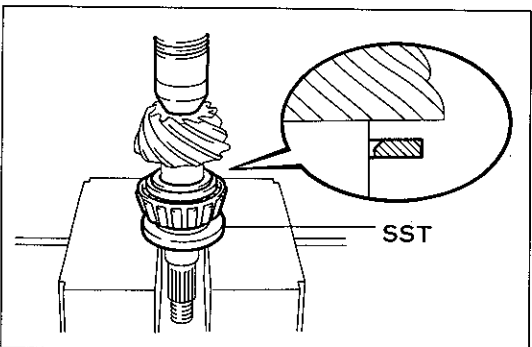
K 2025



K 2026



K 6512 K 6513



K 1892

3 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (サイド ベアリン グ) 組み付け

7.5インチ

- (1) SSTとプレスを使用して、デフアレンシヤル ケースにテーパー ド ローラ ベアリングを圧入する。

S S T 09315-00021

8インチ

- (1) SSTとプレスを使用して、デフアレンシヤル ケースにテーパー ド ローラ ベアリングを圧入する。

S S T 09316-00010

4 リング ギヤ振れ点検

- (1) デフアレンシヤル ケースをキヤリヤに取り付け、ベアリン グにガタがない程度にプレート ワツシヤを取り付ける。

(P 9-135参照)

注意 左右のベアリング アウタ レースを間違えないように 組み付ける。

- (2) ベアリング キヤツプを組み付ける。(P 9-138参照)

- (3) リング ギヤの背面の振れをダイヤル ゲージで点検する。

限 度 0.07mm (7.5インチ)

0.10mm (8インチ)

- (4) デフアレンシヤル ケースを取りはずす。(P 9-127参照)

5 フロントおよびリヤ ベアリング アウタ レース組み付け

- (1) SSTとプレスを使用して、ベアリング アウタ レースを圧入 する。

S S T フロント 09608-06020 09608-06110

リヤ 7.5インチ 09608-06020 09608-06120

8インチ 09608-06020 09608-06180

6 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (リヤ用) 組み付け

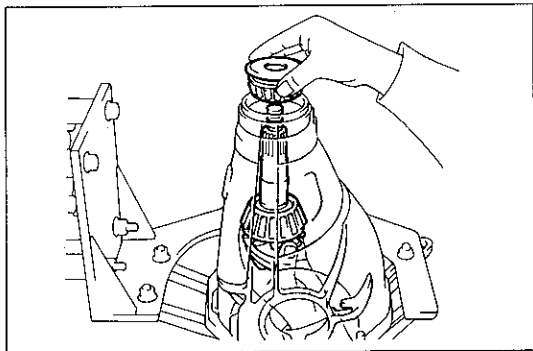
- (1) ドライブ ピニオンにプレート ワツシヤを組み付ける。

注意 ワツシヤは内径に面取りしてある方をギヤ側に向ける。

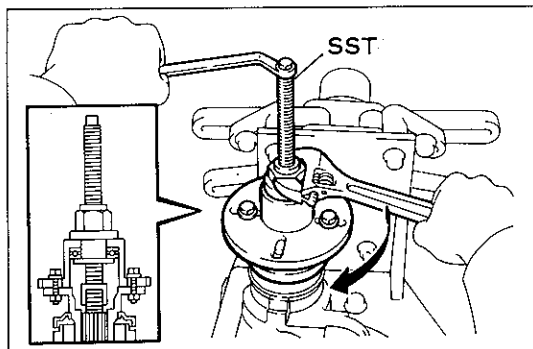
〈参考〉 ワツシヤは取りはずし前と同じ厚さのものを組み付けて おく。

- (2) SSTとプレスを使用して、ドライブ ピニオンにテーパー ド ローラ ベアリング インナを圧入する。

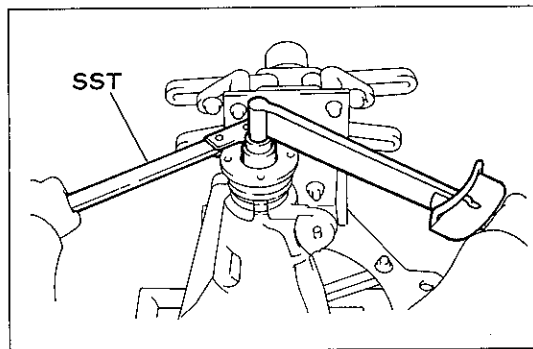
S S T 09506-30012



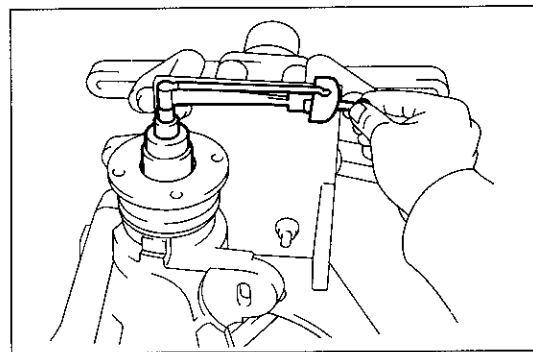
K 6514



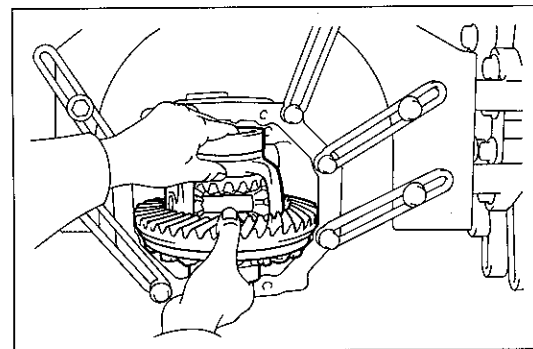
K 6515



K 6516



K 6500



K 1995

7 ドライブ ピニオン プレロード仮調整

- (1) デイファレンシャル キャリヤにドライブ ピニオン、テーパード ローラ ベアリング インナ (フロント用) およびドライブ ピニオン オイル スリングを組み付ける。

注意 リング ギヤの歯当たり点検のため、スペーサおよびオイル シールは組み付けず、歯当たり点検、調整後に組み付ける。

- (2) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取り付ける。

S S T 09557-22022

注意 スペーサを組み付けていないので、コンパニオン フランジはドライブ ピニオンのガタが少し残る程度まで締め付ける。

〈参考〉 SSTのボルトはNo.1 (7.5インチ), No.3 (8インチ)を使用する。

- (3) SSTを使用して、プレート ワッシャを介して新品のナットを規定のプレロードになるように少しずつ締め付ける。

S S T 09330-00021

注意

- ・ナットとドライブ ピニオンのねじ部にキヤツスル ハイポイド ギヤ オイル SXを塗布する。
- ・スペーサが入っていないので、ナットは少しずつ締め付け、絶対に締め過ぎない。

- (4) ドライブ ピニオンの起動トルクを測定する。

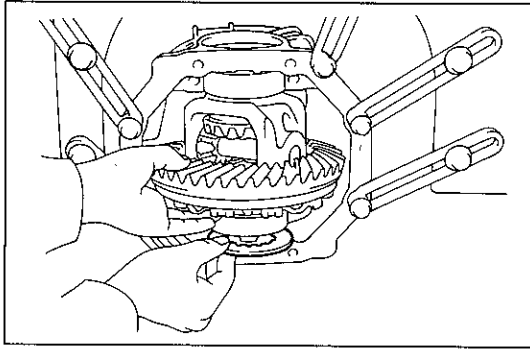
基準値	ベアリング新品	12~19kg・cm	(7.5インチ)
		10~16kg・cm	(8インチ)
	ベアリング再使用	6~10kg・cm	(7.5インチ)
		5~8 kg・cm	(8インチ)

注意

- ・ベアリングをなじませるため、正転、逆転を数回行つた後に測定する。
- ・総合プレロード測定のため、プレロードを記録しておく。

8 デイファレンシャル ケース組み付け

- (1) テーパード ローラ ベアリング インナの左右のベアリング アウタ レースを間違えないように組み付ける。
- (2) デイファレンシャル ケースをキャリヤに組み付ける。



K 6517

9 リング ギヤ バックラツシュ調整

- (1) リング ギヤ背面側にリング ギヤのバックラツシュがほぼ基準値内に入るようなプレート ワッシヤを選択して取り付ける。

〈参考〉 ・サイド ベアリングが新品の場合は、プレート ワッシヤを厚さの薄いものから選択して取り付ける。

サイド ベアリングが再使用の場合は、プレート ワッシヤを分解前と同じ厚さのものから取り付ける。

・プレート ワッシヤの種類

7.5インチ

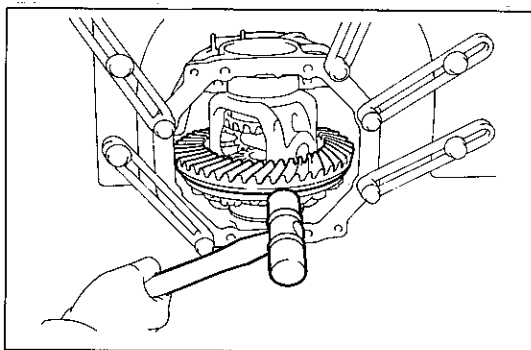
品 番	厚さ (mm)	品 番	厚さ (mm)
90201-65007	2.57~2.59	90201-65013	2.75~2.77
90201-65008	2.60~2.62	90201-65014	2.78~2.80
90201-65009	2.63~2.65	90201-65015	2.81~2.83
90201-65010	2.66~2.68	90201-65016	2.84~2.86
90201-65011	2.69~2.71	90201-65017	2.87~2.89
90201-65012	2.72~2.74	90201-65018	2.90~2.92

品 番	厚さ (mm)	品 番	厚さ (mm)
90201-65019	2.93~2.95	90201-65025	3.11~3.13
90201-65020	2.96~2.98	90201-65026	3.14~3.16
90201-65021	2.99~3.01	90201-65027	3.17~3.19
90201-65022	3.02~3.04	90201-65028	3.20~3.22
90201-65023	3.05~3.07	90201-65029	3.23~3.25
90201-65024	3.08~3.10		

8 インチ

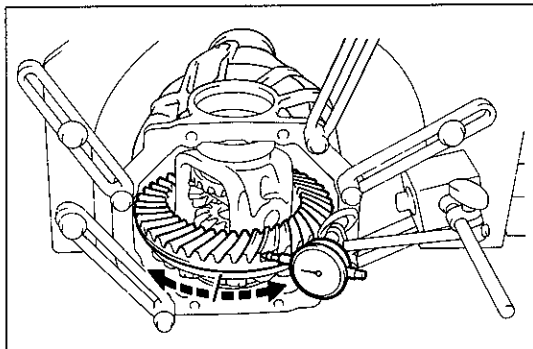
品 番	識別マーク	厚 さ (mm)
90201-52001	01	2.57~2.59
90201-52002	02	2.60~2.62
90201-52003	03	2.63~2.65
90201-52004	04	2.66~2.68
90201-52005	05	2.69~2.71
90201-52006	06	2.72~2.74
90201-52007	07	2.75~2.77
90201-52008	08	2.78~2.80
90201-52009	09	2.81~2.83
90201-52010	10	2.84~2.86
90201-52011	11	2.87~2.89
90201-52012	12	2.90~2.92
90201-52013	13	2.93~2.95
90201-52014	14	2.96~2.98
90201-52015	15	2.99~3.01
90201-52016	16	3.02~3.04

品 番	識別マーク	厚 さ (mm)
90201-52017	17	3.05~3.07
90201-52018	18	3.08~3.10
90201-52019	19	3.11~3.13
90201-52020	20	3.14~3.16
90201-52021	21	3.17~3.19
90201-52022	22	3.20~3.22
90201-52023	23	3.23~3.25
90201-52024	24	3.26~3.28
90201-52025	25	3.29~3.31
90201-52026	26	3.32~3.34
90201-52027	27	3.35~3.37
90201-52028	28	3.38~3.40
90201-52029	29	3.41~3.43
90201-52030	30	3.44~3.46
90201-52031	31	3.47~3.49



K 6518

- (2) プラスティック ハンマを使用して、リング ギヤを軽くたたき、ベアリングとワッシヤを十分落ち着かせる。

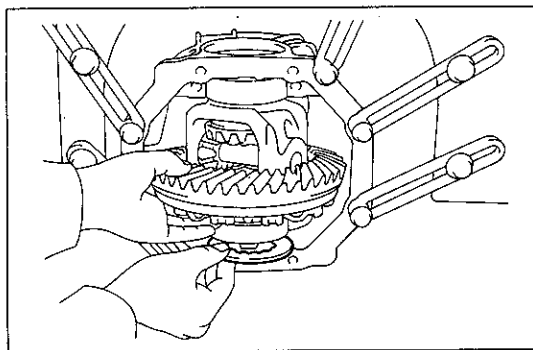


K 6519

- (3) ダイアル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当て、コンパニオン フランジを固定し、リング ギヤを動かしバックラツシュを点検する。

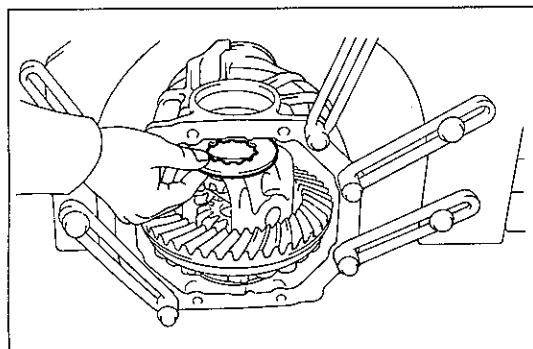
参考値 0.13mm (除く 1G-GE A/T)

0.10mm (1G-FE A/T)



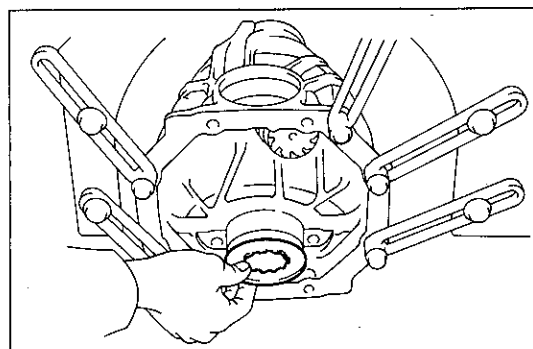
K 6517

- (4) リング ギヤのバックラツシュが参考値付近になるようなプレート ワツシヤを表より選択して、リング ギヤ背面側に取り付ける。



K 6520

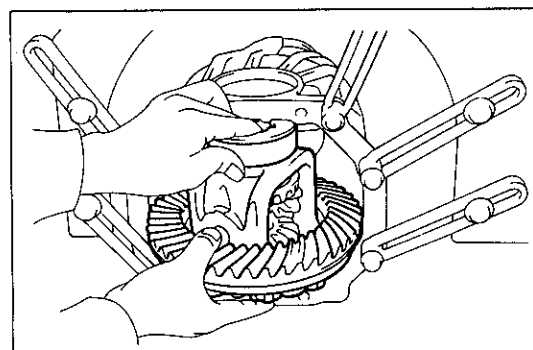
- (5) リング ギヤ歯面側のサイド ベアリング アウタ レース端面とキャリアのすき間が0か、または0に近いプレート ワツシヤを指で十分奥まで挿入し、そのうち一番厚いものを選択する。



K 6521

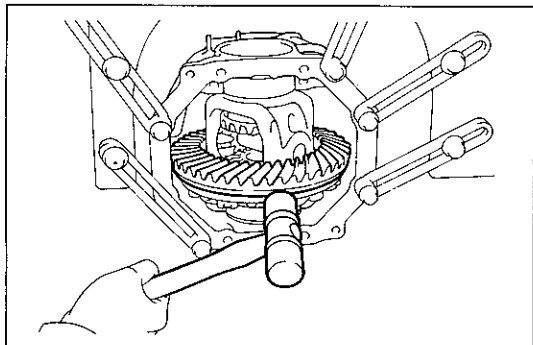
- (6) デイフアレンシャル ケースとプレート ワツシヤを取りはずす。

- (7) リング ギヤ背面側のプレート ワツシヤをキャリアに据え付ける。

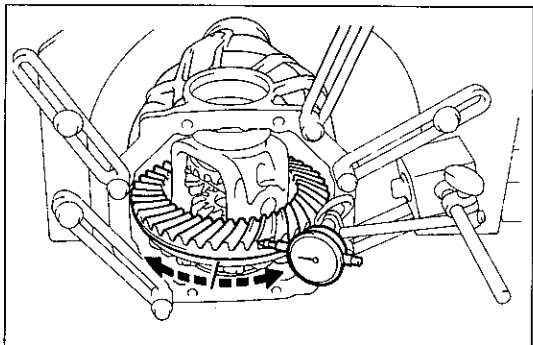


K 6522

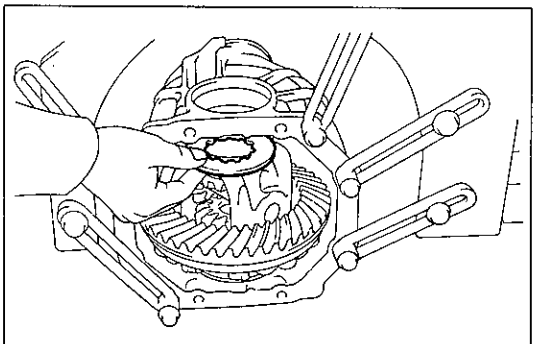
- (8) リング ギヤ歯面側のプレート ワツシヤをデイフアレンシャル ケースのサイド ベアリング アウタ レースに据え付けて、デイフアレンシャル ケースをキャリアに取り付ける。



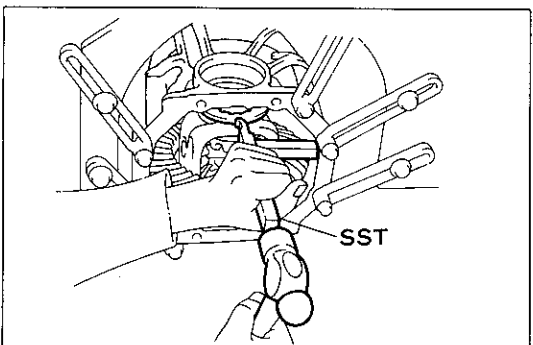
K 6518



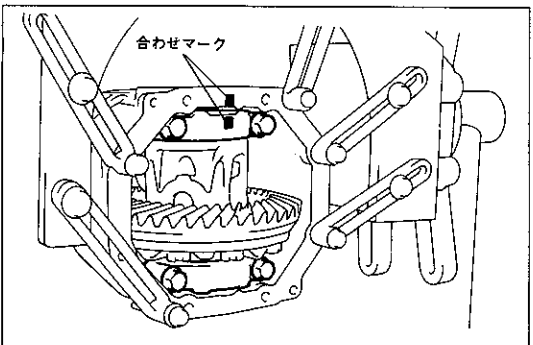
K 6519



K 6520



K 6523



K 6508

- (9) プラスティック ハンマを使用して、リング ギヤを軽くたたき、ベアリングを十分落ち着かせる。

- (10) ダイヤル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当て、コンパニオン フランジを固定し、リング ギヤを動かしバックラッシュを点検する。

基準値 0.13～0.18mm (除く 1G-FE A/T)

0.10～0.15mm (1G-FE A/T)

- (11) 基準値外の場合は、左右プレート ワッシヤの厚さを同量ずつ増減させて基準値内にする。

10 サイド ベアリング プレロード調整

- (1) リング ギヤのバックラッシュ調整後、リング ギヤ歯面側のプレート ワッシヤを取りはずす。
(2) マイクロメータを使用して、プレート ワッシヤの厚さを測定する。

- (3) 取りはずしたプレート ワッシヤより0.06～0.09mm厚いワッシヤを取り付ける。(P9-136参照)

注意 指で2/3程度まで挿入できるワッシヤを取り付ける。

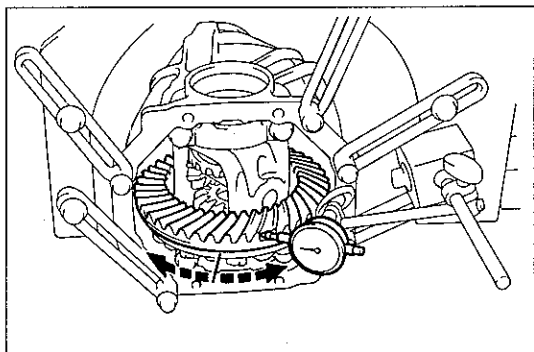
- (4) SSTを使用して、プレート ワッシヤを打ち込む。

SST 09504-22011

- (5) ベアリング キャップとデフアレンシヤル キャリヤの合わせマークを合わせて、ベアリング キャップを組み付ける。

- (6) ベアリング キャップ ボルト4本を規定トルクで締め付ける。

$T = 800 \text{ kg} \cdot \text{cm}$



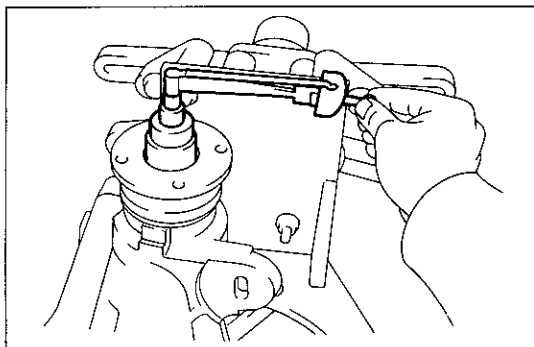
K 6524

- (7) ダイヤル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当て、コンパニオン フランジを固定し、リング ギヤを動かしバックラッシュを点検する。

基準値 0.13～0.18mm (除く 1G-FE A/T)

0.10～0.15mm (1G-FE A/T)

- (8) 基準値外の場合は、左右プレート ワッシヤの厚さを同量ずつ増減させて基準値内にする。(P9-136参照)



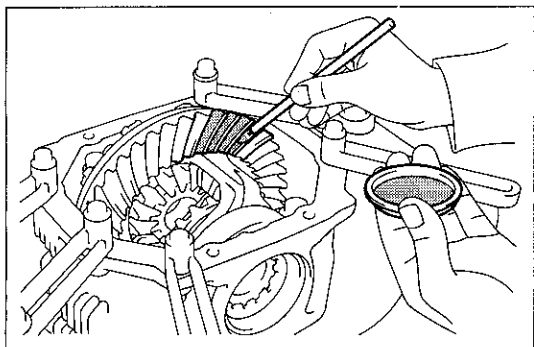
K 6500

11 総合プレロード測定

- (1) トルク レンチを使用して、総合プレロードを測定する。ドライブ ピニオンとリング ギヤの歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

基準値 総合プレロード=ドライブ ピニオン プレロード
+ 4～6 kg・cm

- (2) 基準値外の場合は、リング ギヤ歯面側のプレート ワッシヤで調整する。(P9-136参照)

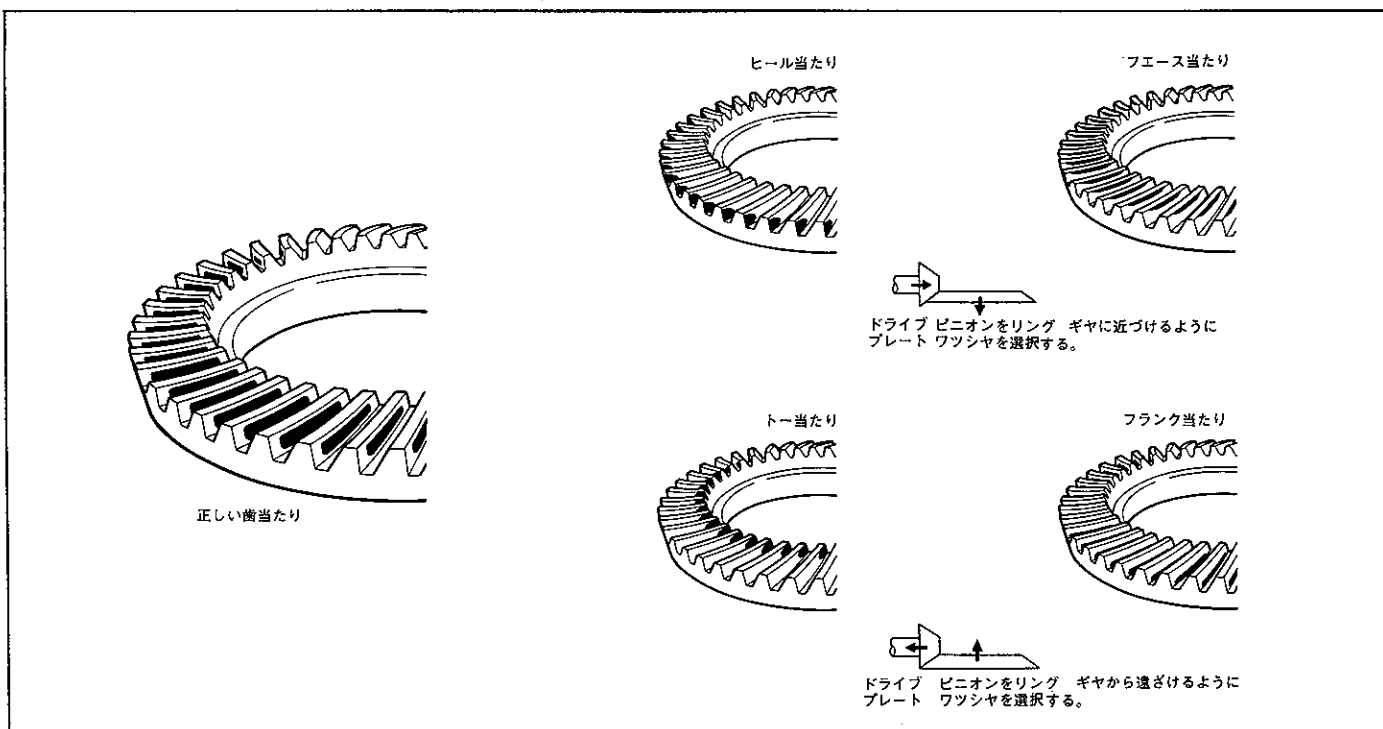


K 2038

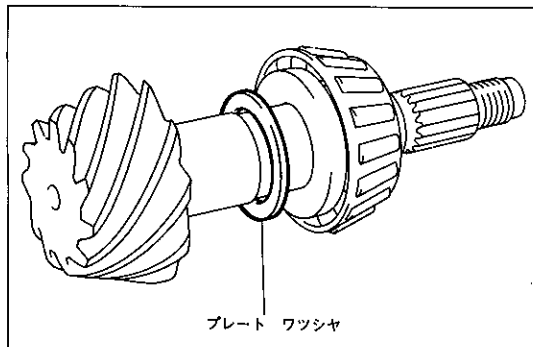
12 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検

- (1) リング ギヤの歯面両側に光明丹を均一に薄く塗布しリング ギヤを数回、回転させる。光明丹が示すパターンが歯当たり位置である。

注意 リング ギヤ円周上 4 箇所で見当り状態をみる。



K 3673



K 1912

- (2) 歯当たりが不良の場合は、ドライブ ピニオン突き出し量調整用プレート ワッシャを表より選択し再組み付けする。

注意 フェース当たり、フランク当たりの場合はバックラッシュ基準値内で調整可能な場合もある。

〈参考〉 プレート ワッシャの種類

7.5インチ			
品 番	厚さ (mm)	品 番	厚さ (mm)
90201-35434	2.23~2.25	90201-35401	2.50~2.52
90201-35435	2.26~2.28	90201-35402	2.53~2.55
90201-35436	2.29~2.31	90201-35403	2.56~2.58
90201-35437	2.32~2.34	90201-35404	2.59~2.61
90201-35396	2.35~2.37	90201-35438	2.62~2.64
90201-35397	2.38~2.40	90201-35439	2.65~2.67
90201-35398	2.41~2.43	90201-35440	2.68~2.70
90201-35399	2.44~2.46	90201-35441	2.71~2.73
90201-35400	2.47~2.49		

8インチ			
品 番	厚さ (mm)	品 番	厚さ (mm)
90201-35497	1.69~1.71	90201-35508	2.02~2.04
90201-35498	1.72~1.74	90201-35509	2.05~2.07
90201-35499	1.75~1.77	90201-35510	2.08~2.10
90201-35500	1.78~1.80	90201-35511	2.11~2.13
90201-35501	1.81~1.83	90201-35512	2.14~2.16
90201-35502	1.84~1.86	90201-35513	2.17~2.19
90201-35503	1.87~1.89	90201-35514	2.20~2.22
90201-35504	1.90~1.92	90201-35515	2.23~2.25
90201-35505	1.93~1.95	90201-35516	2.26~2.28
90201-35506	1.96~1.98	90201-35517	2.29~2.31
90201-35507	1.99~2.01	90201-35518	2.32~2.34

- 13 ナット プレート ワッシャおよびコンパニオン フランジ 取りはずし

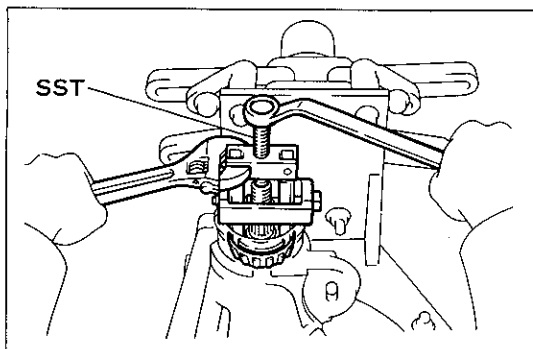
(P9-126参照)

- 14 ドライブ ピニオン オイル スリング取りはずし

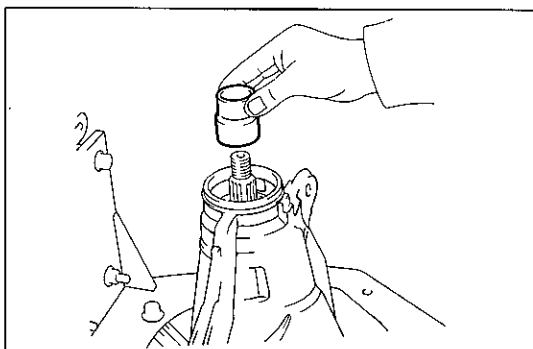
- 15 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (フロント用) 取りはずし

- (1) SSTを使用して、テーパー ド ローラ ベアリング インナを取りはずす。

S S T 09556-22010



K 6507



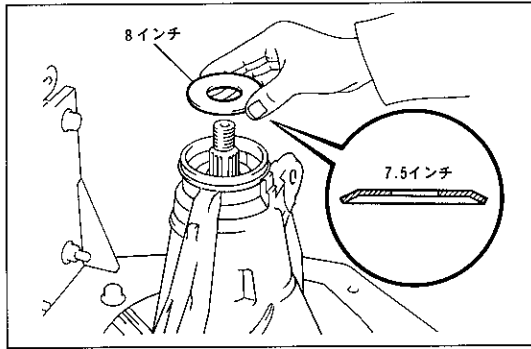
K 6525

- 16 ドライブ ピニオン ベアリング スペーサ組み付け

- (1) ドライブ ピニオンの新品のベアリング スペーサを組み付ける。

注意 内径の大きい方をリヤ側へ向ける。

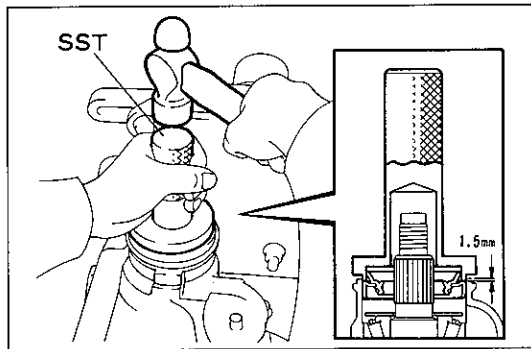
- 17 テーパー ド ローラ ベアリング インナ (フロント用) 組み付け



K 6526

18 ドライブ ピニオン オイル スリング組み付け

〈参考〉 8 インチは方向性がない。



K 6527

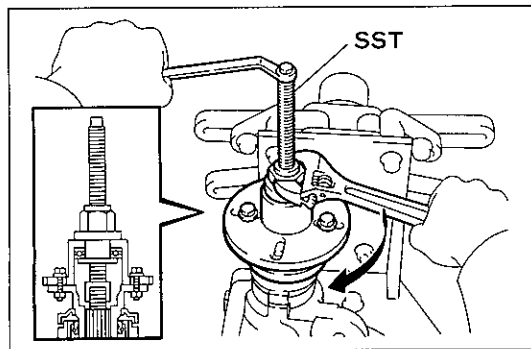
19 オイル シール組み付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイル シールを打ち込む。

S S T 09554-30011

基準値 オイル シール打ち込み量 (キヤリヤ端面から) 1.5mm

- (2) オイル シール リップ部にキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。



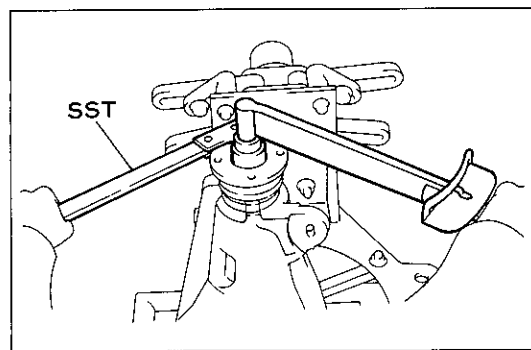
K 6528

20 コンパニオン フランジ組み付け

- (1) SSTを使用して、コンパニオン フランジを取り付ける。

S S T 09557-22022

- (2) プレート ワッシヤを組み付ける。



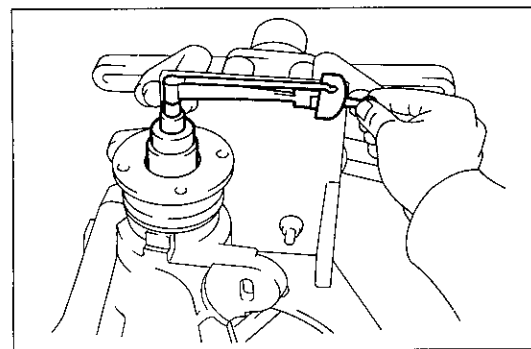
K 6516

- (3) 新品のナットのねじ部にキヤツスル ハイポイド ギヤ SX を塗布しSSTを使用して、フランジを固定し、規定トルクで締め付ける。

S S T 09330-00021

T=1220kg・cm (7.5インチ)

T=1850kg・cm (8インチ)



K 6500

21 ドライブ ピニオン プレロード調整

7.5インチ

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値 ベアリング新品 12~19kg・cm

ベアリング再使用品 6~10kg・cm

注意 ベアリングをなじませるためフランジの正転、逆転を数回行つた後に測定する。

- (2) プレロードが過大の場合は、ベアリング スペーサを交換する。
- (3) プレロードが不足の場合は、ナットを $5 \sim 10^\circ$ ずつ増し締めし、プレロードを測定し、基準値になるように繰り返し調整する。
- (4) ナットの締め付けトルクが $2280 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ を超えてもプレロード不足の場合はナットを一度ゆるめて、ナットおよびドライブ ピニオンのねじ山がつぶされていないか点検する。
異常がないならば、スペーサを交換し、ねじ部にキヤツスルハイポイド ギヤ SX を塗布したのち前記作業を繰り返す。

8 インチ

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュの範囲内で起動トルクを測定する。

基準値	ベアリング新品	$10 \sim 16 \text{ kg} \cdot \text{cm}$
	ベアリング再使用品	$5 \sim 8 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

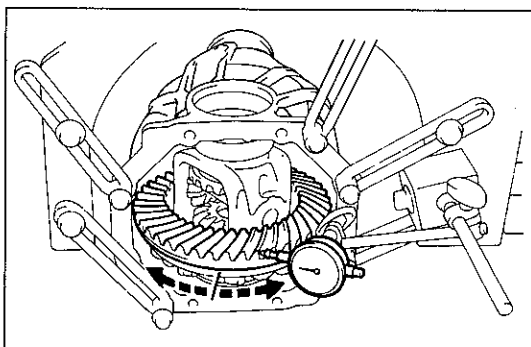
注意 ベアリングをなじませるためフランジの正転、逆転を数回行つた後に測定する。

- (2) プレロードが過大の場合は、ベアリング スペーサを交換する。
- (3) プレロードが不足の場合は、ナットを $5 \sim 10^\circ$ ずつ増し締めし、プレロードを測定し、基準値になるように繰り返し調整する。
- (4) ナットの締め付けトルクが $3450 \text{ kg} \cdot \text{cm}$ を超えてもプレロード不足の場合はナットを一度ゆるめて、ナットおよびドライブ ピニオンのねじ山がつぶれていないか点検する。
異常がないならば、スペーサを交換し、ねじ部にキヤツスルハイポイド ギヤ SX を塗布したのち前記作業を繰り返す。

22 総合プレロード

- (1) トルク レンチを使用して、ドライブ ピニオンとリング ギヤ歯面を当てた状態で起動トルクを測定する。

基準値	総合プレロード = ドライブ ピニオン プレロード $+ 4 \sim 6 \text{ kg} \cdot \text{cm}$
-----	--



K 6519

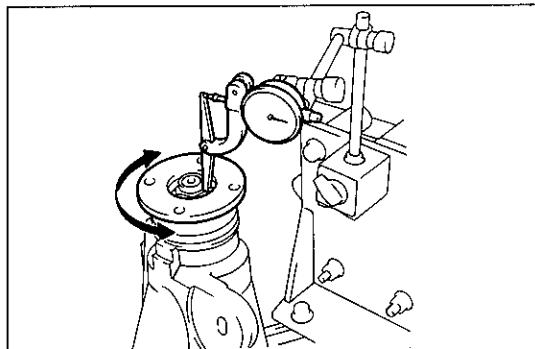
23 ドライブ ピニオンとリング ギヤのバックラッシュ点検

- (1) ダイアル ゲージをリング ギヤの歯面先端に直角に当てドライブ ピニオンのフランジを固定し、リング ギヤを動かして測定する。

基準値	$0.13 \sim 0.18 \text{ mm}$ (除く 1 G-FE A/T)
	$0.10 \sim 0.15 \text{ mm}$ (1 G-FE A/T)

注意 リング ギヤ円周上の3箇所以上で測定する。

24 リング ギヤとドライブ ピニオンの歯当たり点検 (P 9-139 参照)

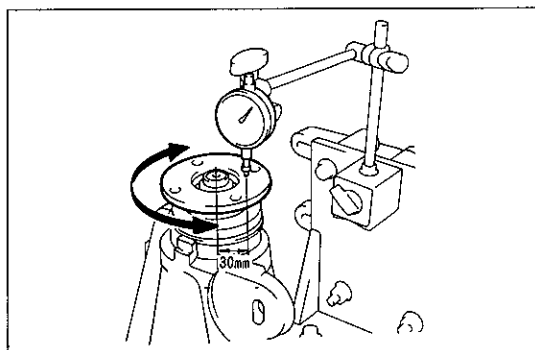


K6498

25 コンパニオン フランジの振れ点検

- (1) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの内周面に直角に取り付け、コンパニオン フランジの縦振れを測定する。

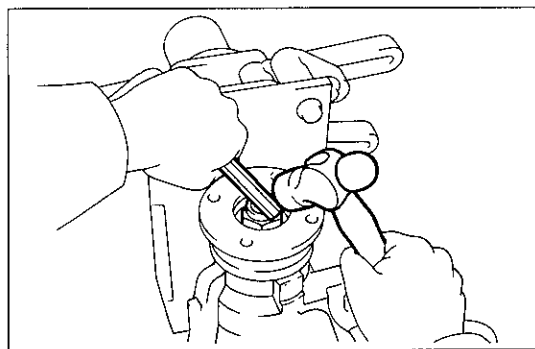
限 度 0.10mm



K6914

- (2) ダイヤル ゲージをコンパニオン フランジの中央から外側へ30mmの位置にフランジ面と直角に取り付け、コンパニオン フランジの横振れを測定する。

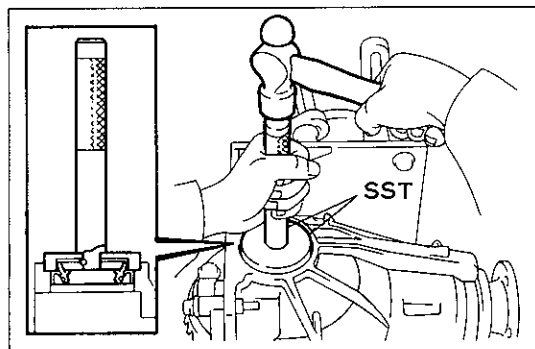
限 度 0.09mm



K6529

26 ドライブ ピニオン ナットかしめ

- (1) タガネを使用して、ナットをかしめる。



K6530

27 サイド ギヤ シャフト オイル シール組み付け

- (1) SSTを使用して、新品のオイル シール 2 個をデフアレンシヤル キヤリヤ端面と面一になるまで打ち込む。

S S T 09550-00020 09550-00031

- (2) オイル シール リップ部にキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。

28 サイド ギヤ シャフト組み付け

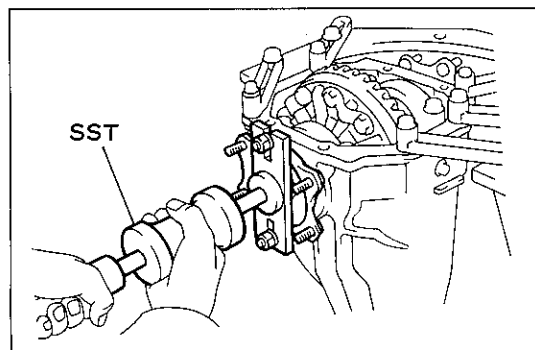
- (1) 新品のスナツプ リングをサイド ギヤ シャフトに組み付ける。

- (2) スナツプ リングにキヤツスル MP グリース No.2 を塗布する。

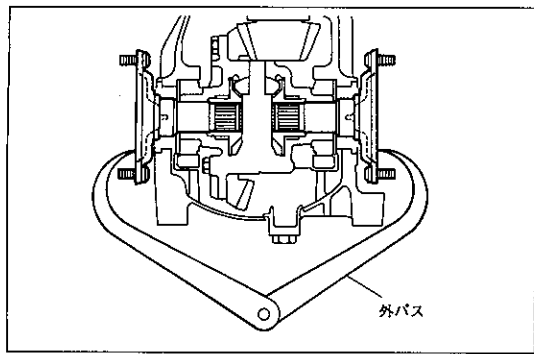
- (3) SSTを使用して、サイド ギヤ シャフトをデフアレンシヤルに打ち込む。

S S T 09520-24010

- 注意**
- ・スナツプ リングの切り口を下向きにして組み付ける。
 - ・挿入時、斜めに打ち込まない。斜めに打ち込んだ場合は、スナツプ リングを新品に取り替え、再度打ち込む。
 - ・オイル シールを傷つけない。



K6501



〈参考〉 ・打ち込み時, SSTのスライディング ハンマの反発力の変化あるいは音質の変化でピニオン シャフトに当たっていることを判断できる。

・サイド ギヤ シャフトをデフアレンシヤル ピニオン シャフトに当てた状態にし, サイド ギヤ シャフト フランジ面を外パスなどで測定する。

参考値 241.66mm以下 (7.5インチ 除く 1 G-FE A/T)

239.66mm以下 (7.5インチ 1 G-FE A/T)

261.7 mm以下 (8インチ)

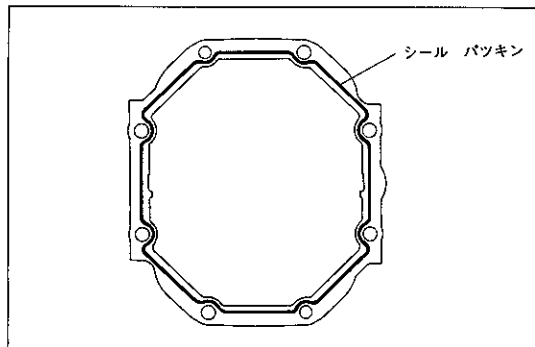
29 デフアレンシヤル キヤリヤ ASSY取りはずし

(1) デフアレンシヤル キヤリヤ ASSYをオーバーホール アタッチメントから取りはずす。

30 デフアレンシヤル キヤリヤ カバー組み付け

(1) デフアレンシヤル キヤリヤおよびキャリヤ カバーに付着しているシール パツキンをスクレーパおよびワイヤ ブラシを使用して清掃した後, 洗浄液などで油分を落とす。

注意 取り付け面を傷つけない。

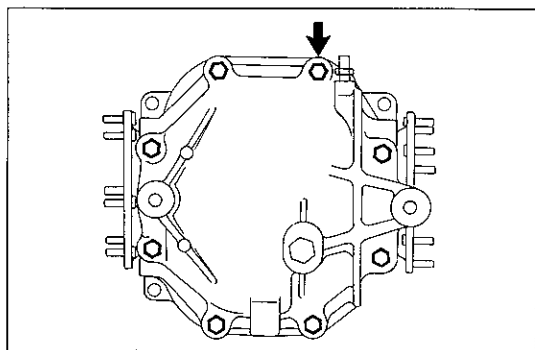


(2) 図に示す位置にシール パツキン 1281を塗布し, デフアレンシヤル キヤリヤに取り付ける。

注意 ・シール パツキンの塗布φ2〜φ3mmで塗布切れしない。

・シール パツキン塗布後, 3分以内に組み付ける。

・カバー組付後は, すぐにオイルを注入したり, 走行したりせず, 1時間以上放置すること。又, その後12時間以内は急激な加減速を避けること。

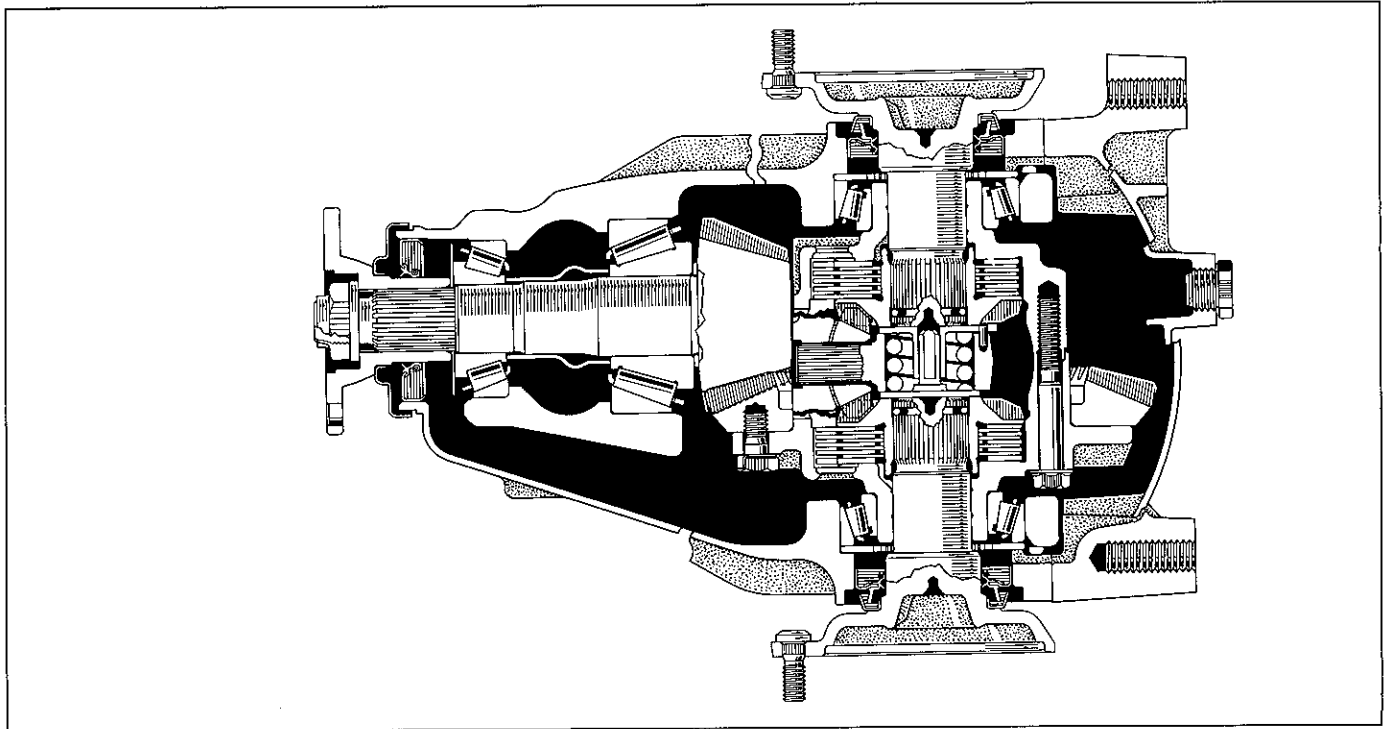


(3) ボルト 8 本でデフアレンシヤル キヤリヤ カバーを組み付ける。

$T = 475 \text{ kg} \cdot \text{cm}$

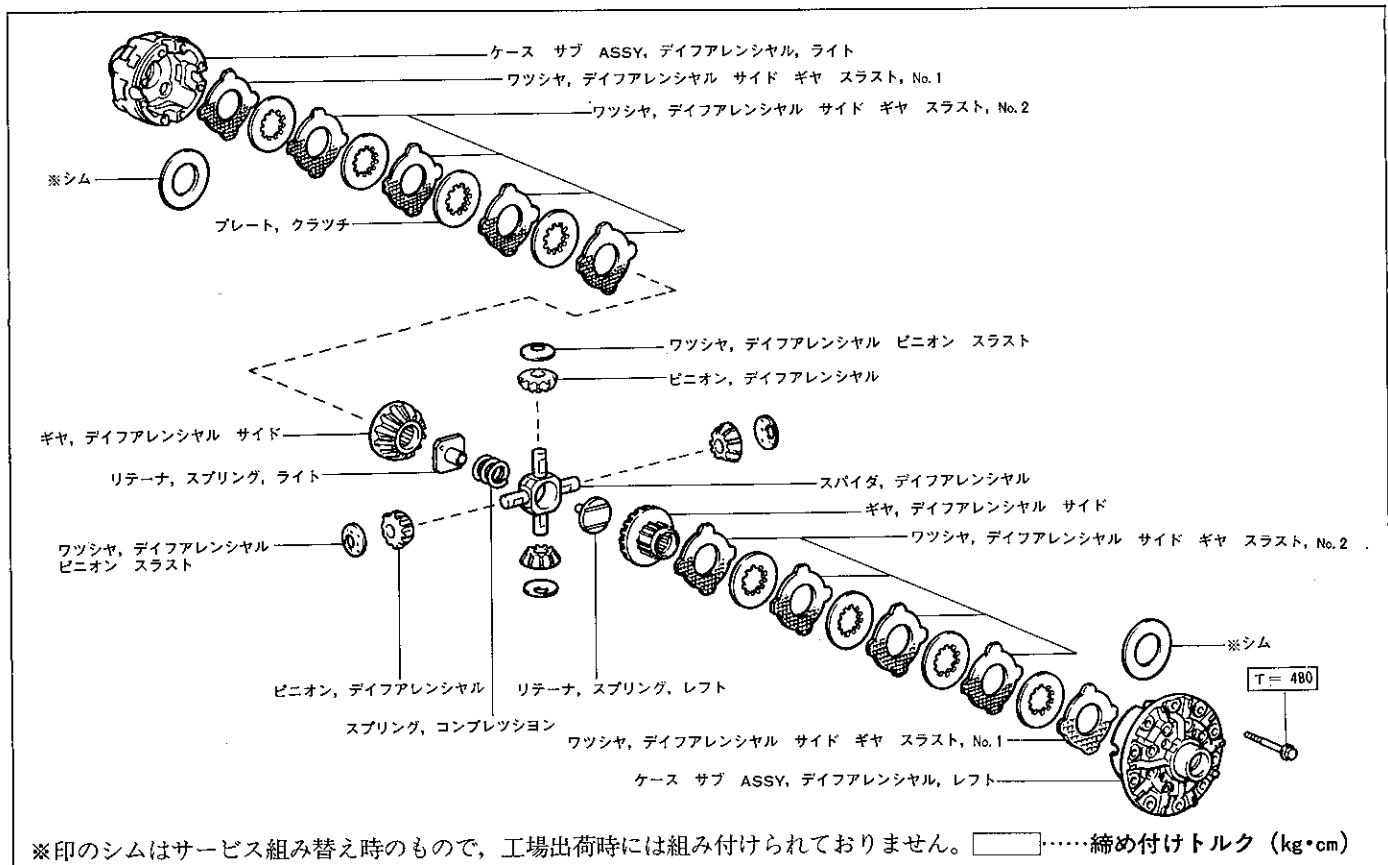
リミテッド スリツプ デフアレンシヤル

断面図

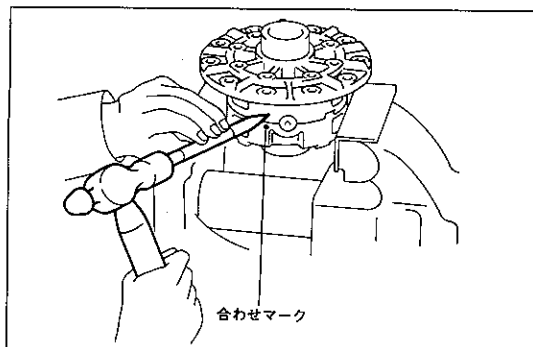


K 6534

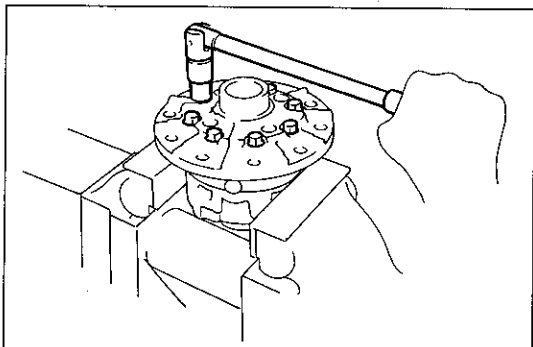
分解構成図



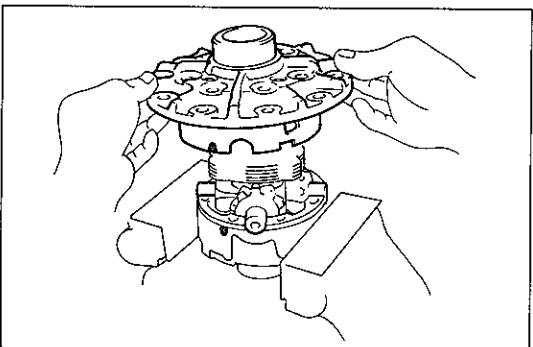
K 6997



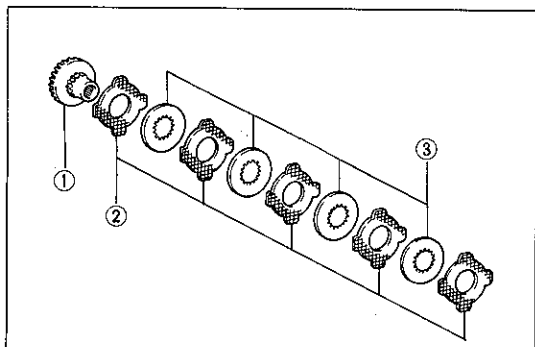
D4658



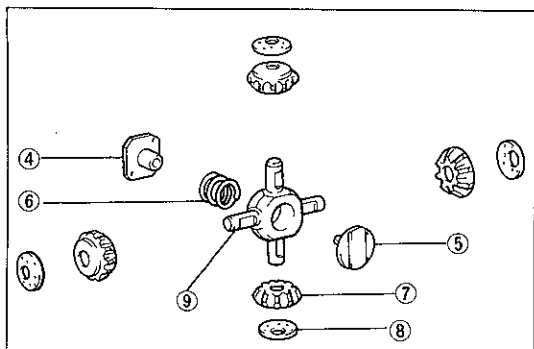
D4659



D4660



D4661



D4662

デフアレンシヤル ケース ASSY取りはずし (P9-127参照)

リミテッド スリッパ デフアレンシヤル

ケース分解

1 合わせマーク打刻

- (1) デフアレンシヤル ケースのライトとレフトに合わせマークを打つ。

2 デフアレンシヤル ケース ASSY分解

- (1) ボルト 8 本を取りはずす。

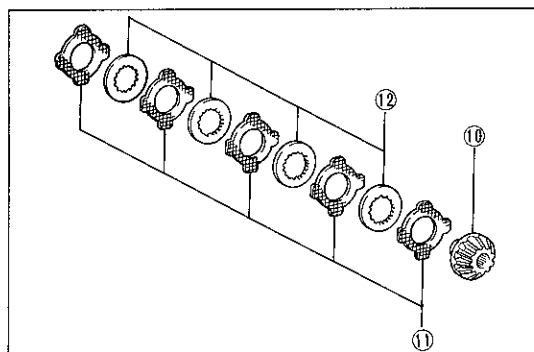
注意 ボルトは対角線に相対する順に行い、数回に分けて取りはずす。

- (2) デフアレンシヤル ケースのレフト側を取りはずす。

- (3) デフアレンシヤル ケースから次の部品を取りはずす。

- ① デフアレンシヤル サイド ギヤ
- ② サイド ギヤ スラスト ワッシャ (5 枚)
- ③ クラッチ プレート (4 枚)

- ④ スプリング リテーナ ライト
- ⑤ スプリング リテーナ レフト
- ⑥ コンプレッション スプリング
- ⑦ デフアレンシヤル ピニオン (4 個)
- ⑧ ピニオン スラスト ワッシャ (4 個)
- ⑨ デフアレンシヤル スパイダ



D 4663

- ⑩ デイフアレンシヤル サイド ギヤ
- ⑪ サイド ギヤ スラスト ワツシヤ (5枚)
- ⑫ クラッチ プレート (4枚)

構成部品の点検

1 部品の点検と交換

- (1) 分解した各部品は洗浄し、亀裂、各かん合部の摩耗、損傷、変形および焼き付きなどの不具合がある場合は修正または交換する。

注意 サイド ギヤおよびクラッチ プレートを交換するときは、それと接触するサイド ギヤ スラスト ワツシヤも新品と交換する。

2 デイフアレンシヤル サイド ギヤ スラスト No.2 ワツシヤ点検

- (1) ワツシヤに著しい摩耗がないことを点検する。
- (2) ワツシヤの厚さを点検する。

限度 1.7mm

3 クラッチ プレート点検

- (1) クラッチ プレートに著しい摩耗がないことを点検する。

参考値 板厚 1.57~1.63mm

4 コンプレツション スプリング点検

- (1) スプリングの自由長を点検する。

限度 31.7mm

デイフアレンシヤル ケース組み付け・調整

- 注意**
- ・ワツシヤ、サイド ギヤ、ピニオン等の組み付け時には、ゴミ、切粉などの付着がないことを確認する。
 - ・各摺動部、回転部にキヤツスル ハイポイド ギヤ オイル LSDを十分に塗布する。
 - ・組み付けの際、デイフアレンシヤル ケース側のスラスト ワツシヤ No.1 (識別マーク A~M) は使用しない。新品のスラスト ワツシヤ No.2に交換する。

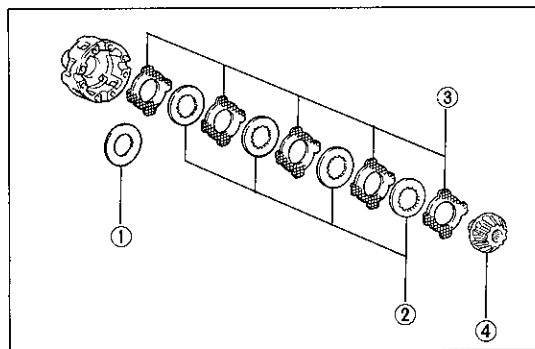
1 デイフアレンシヤル ケース ライト側組み付け

- (1) デイフアレンシヤル ケースに次の部品を組み付ける。

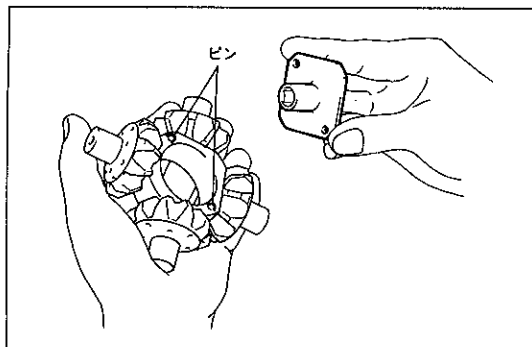
- ① 調整用シム (0~3枚)
- ② クラッチ プレート (4枚)
- ③ サイド ギヤ スラスト ワツシヤ No.2 (5枚)

注意 クラッチ プレートとサイド ギヤ スラスト ワツシヤは交互に組み付ける。

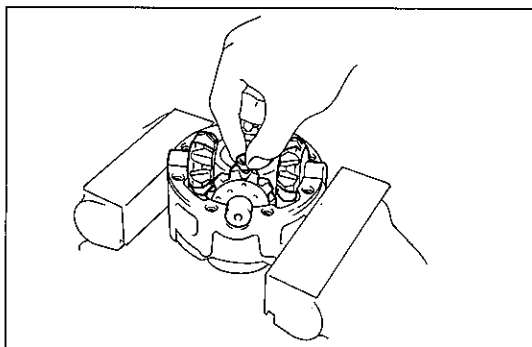
- ④ デイフアレンシヤル サイド ギヤ



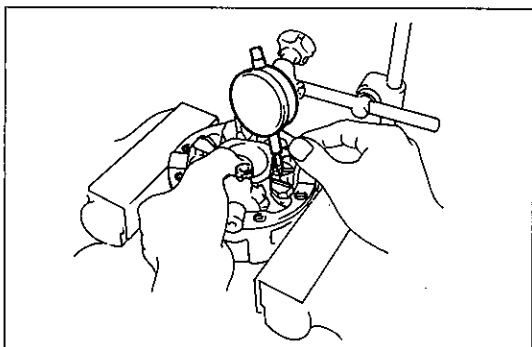
D 4664



D 4665



D 4666



D 4667

(2) デイフアレンシヤル スパイダに次の部品を組み付ける。

- ① デイフアレンシヤル ピニオン (4個)
- ② ピニオン スラスト ワッシャ (4枚)
- ③ スプリング リテーナ ライト

注意 スプリング リテーナ ライトの穴とスパイダ側のピンを確実に合わせる。

(3) デイフアレンシヤル スパイダおよびピニオンをデイフアレンシヤル ケース ライト側に組み付ける。

注意 スプリング リテーナ穴とスパイダ側のピンが確実に組み付けられていることを確認する。

(4) サイド ギヤのバックラツシュを点検する。バックラツシュがデイフアレンシヤル ピニオン側で基準値内に入るように調整用シムを選択し、0～3枚組み合わせて調整する。スパイダとサイド ギヤを固定してバックラツシュを点検する。

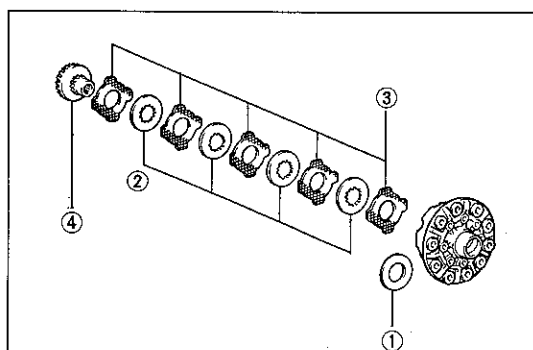
基準値 0.05～0.20mm

基準値外の場合は、調整用シムを再選択し、再組み付けする。

注意 ピニオン4個を数箇所点検する。

＜参考＞ 調整用シム

品 番	厚 さ (mm)
90564-50001	0.13～0.17
90564-50002	0.18～0.22
90564-50003	0.23～0.27
90564-50004	0.28～0.32
90564-50005	0.33～0.37



D 4668

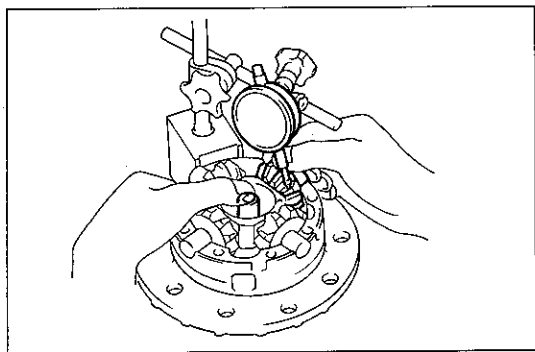
2 デイフアレンシヤル ケース レフト側組み付け

(1) デイフアレンシヤル ケースに次の部品を組み付ける。

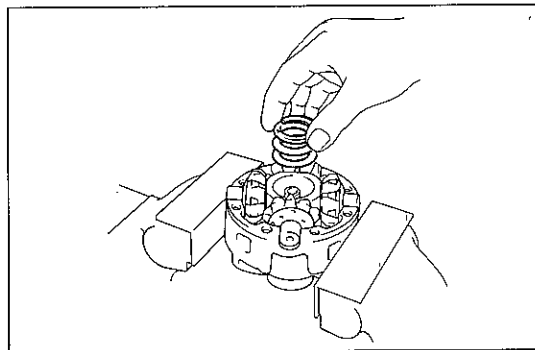
- ① 調整用シム (0～3枚)
- ② クラツチ プレート (4枚)
- ③ サイド ギヤ スラスト ワッシャ No.2 (5枚)

注意 クラツチ プレートとサイド ギヤ スラスト ワッシャは交互に組み付ける。

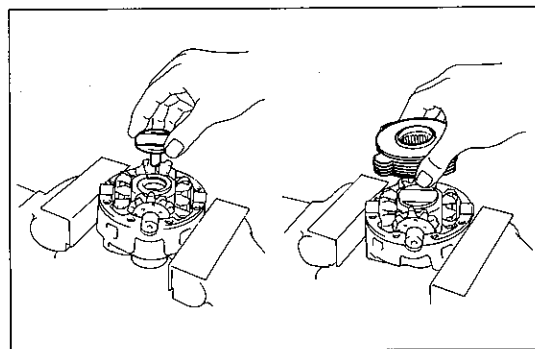
④ デイフアレンシヤル サイド ギヤ



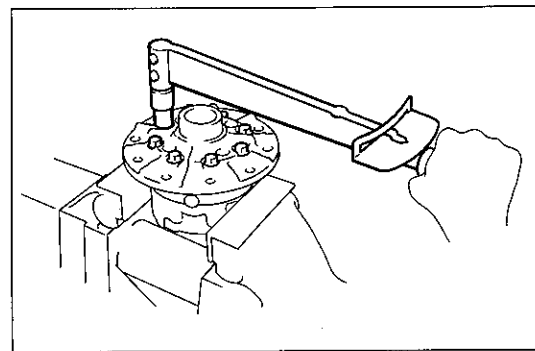
D 4669



D 4670



D 4671 D 4672



D 4673

- (2) デイフアレンシヤル ケース ライト側で組み付けたスパイダ ピニオンおよびスプリング リテーナ レフトをデイフアレンシヤル ケース レフト側に組み付ける。

- (3) サイド ギヤのバックラツシュを点検する。(P 9-149参照)

基準値 0.05~0.20mm

基準値外の場合は、調整用シムを再選択し、再組み付けする。

注意 ピニオン 4 個を数箇所点検する。

3 デイフアレンシヤル ケース ASSY組み付け

- (1) デイフアレンシヤル ケース ライト側にスパイダおよびスプリング リテーナ ライトを再度組み付ける。

注意 スプリング リテーナ穴とスパイダ側のピンが確実に組み付けられていることを確認する。

- (2) コンプレッション スプリングを組み付ける。

- (3) スプリング リテーナ レフトを組み付ける。

- (4) デイフアレンシヤル ケース ライト側へレフト側に組み付けたサイド ギヤ、スラスト ワツシヤ No.2、クラツチ プレートおよびシムを組み付ける。

- (5) デイフアレンシヤル ケース ライト側とレフト側の合わせマークを合わせ、デイフアレンシヤル ピニオンとサイド ギヤの噛み合うように組み付ける。

- (6) スパイダとデイフアレンシヤル ケース穴がかん合していることを確認後、ボルト 8 本で締め付ける。

T=480kg・cm

注意 ボルトは対角線に相対する順に行い、数回に分けて締め付ける。

デイフアレンシヤル ケース ASSY取り付け

(P 9-135参照)

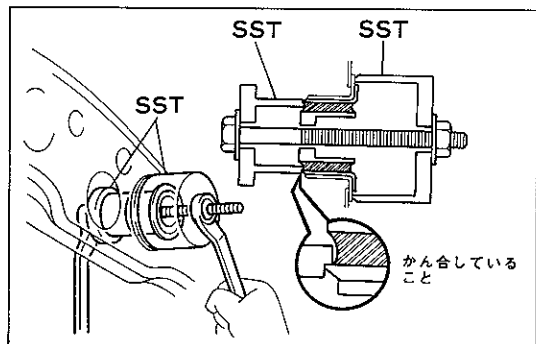
デフアレンシャル マウント

クッション

デフアレンシャル マウント クッション

取りはずし

- 1 デフアレンシャル キヤリヤ ASSY取りはずし
(P9-121参照)

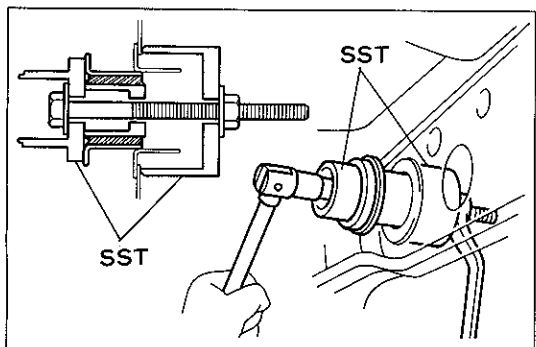


K 6915

- 2 デフアレンシャル マウント クッション 取りはずし
(1) SSTを使用してクッションを取りはずす。

S S T 09570-22010

注意 SSTの先端がクッションにかん合(センタリング)していることを確認する。



K 6916

デフアレンシャル マウント クッション

取り付け

- 1 デフアレンシャル マウント クッション取り付け
(1) SSTを使用してクッションを取り付ける。

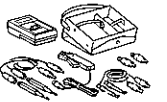
S S T 09570-22010

注意 SSTが傾かないようにセットして行う。

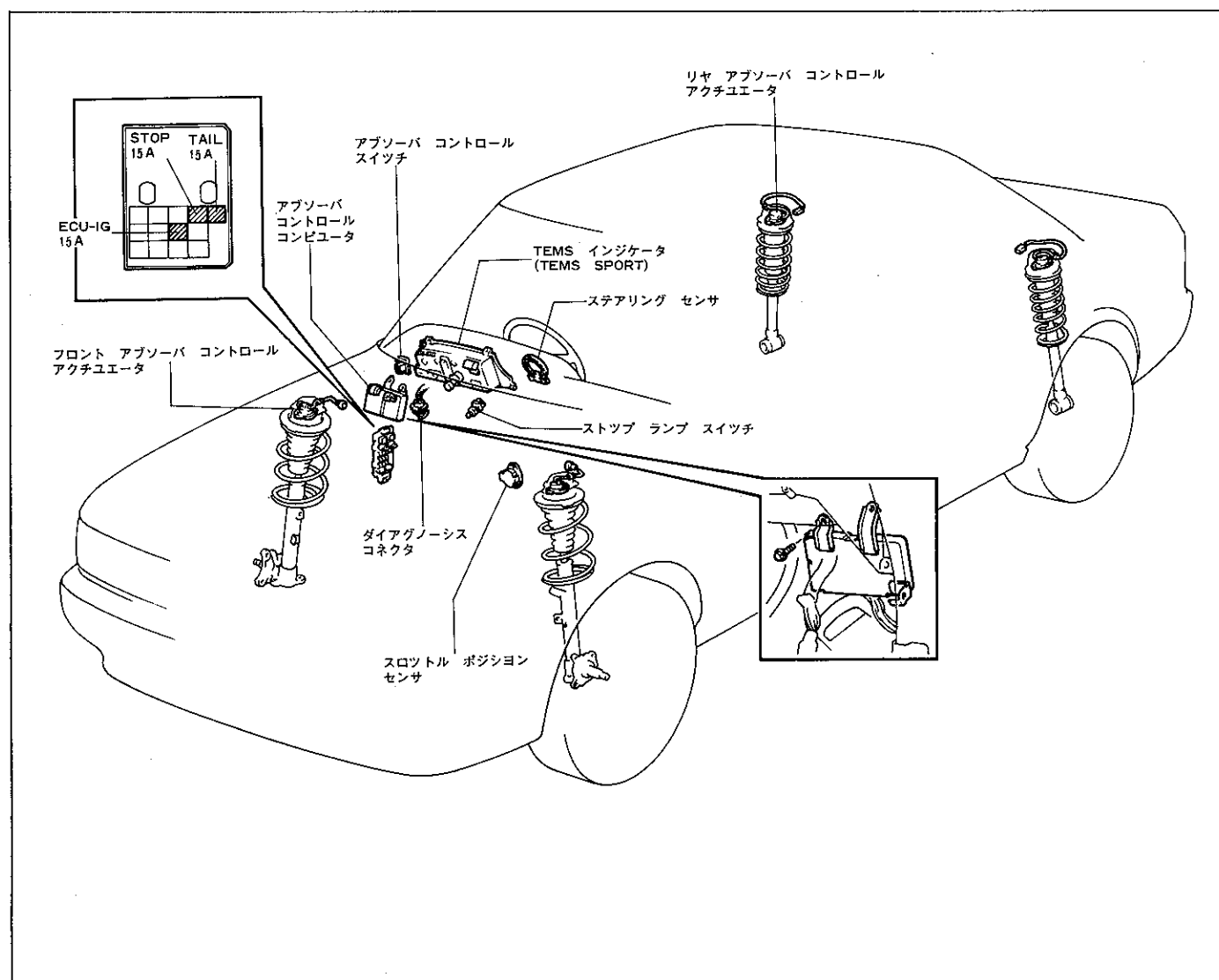
- 2 デフアレンシャル キヤリヤ ASSY取り付け
(P9-121参照)

TEMS

準備品

SST		09609-20011 プラー, ステアリング ホイール	ステアリング ホイール取りはずし用
計器		09082-00012 テスタ, トヨタ エレクトリカル	各部点検用
		09083-00060 ミニ テスト リード	コンピュータ点検用
		09843-18020 ワイヤ, ダイアグノーシス チェック	機能点検用

部品配置図



K 6810

機能点検

減衰力制御状態点検

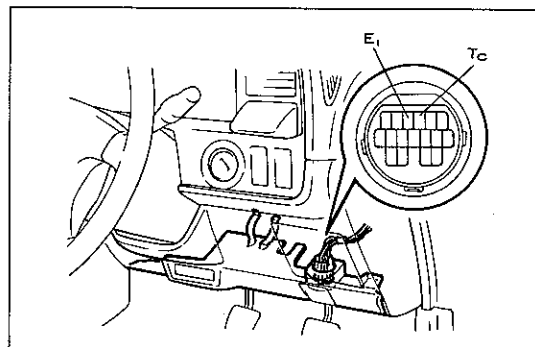
1 減衰力点検

- (1) イグニッション スイッチをONにする。
- (2) 車両の各コーナーを上下に大きくゆすりながら、アブソーバコントロール スイッチを切り替え、減衰力に変化のあることを点検する。
- (3) アブソーバ コントロール スイッチをSPORTにし、ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を短絡し、減衰力がハードになることを点検する。

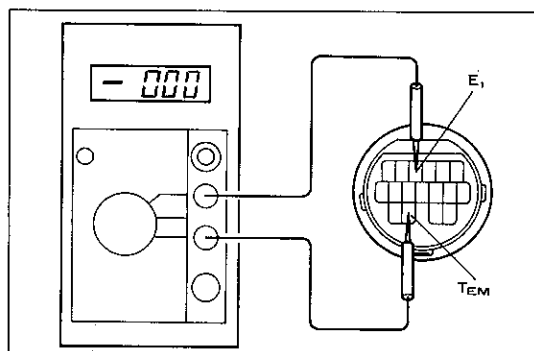
基 準

アブソーバ コントロール スイッチ	Tc-E1端子	減衰力
NORMAL	開放	ソフト
SPORT	開放	スポーツ
	短絡	ハード

- (4) ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を開放する。



K 6240



K 6811

制御機能点検

1 点検用テスト接続

- (1) ダイアグノーシス コネクタ T_{EM}-E1 端子間に、テストを接続する。

- 注意**
- ・電圧が一定にならない場合は、テストのレンジをHz レンジにして、バー表示の点滅の周期を読み取る。
 - ・以下、バー表示の状態は () 内に示す。

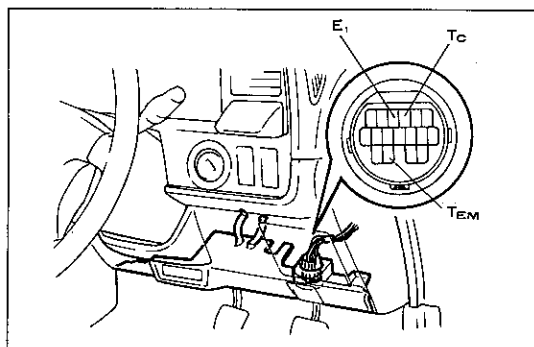
2 スピード センサ機能点検

- (1) 後輪をスピードメータ テスタに乗せ、エンジンを停止する。
- (2) ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を短絡する。
- (3) イグニッション スイッチをONにする。
- (4) アブソーバ コントロール スイッチをSPORTにする。
- (5) エンジンを始動し、車速20km/h以上にして、T_{EM} 端子電圧を点検する。

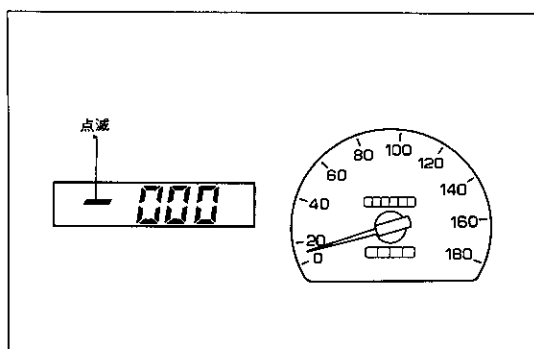
基 準

車 速	アブソーバ コントロール スイッチ	T _{EM} 端子電圧
20km/h未満	SPORT	1V以下⇔7V以上 (0.5秒周期で点滅)
20km/h以上		7 V以上

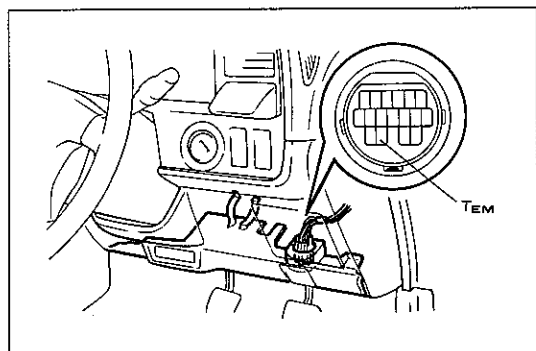
- (6) ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を開放する。



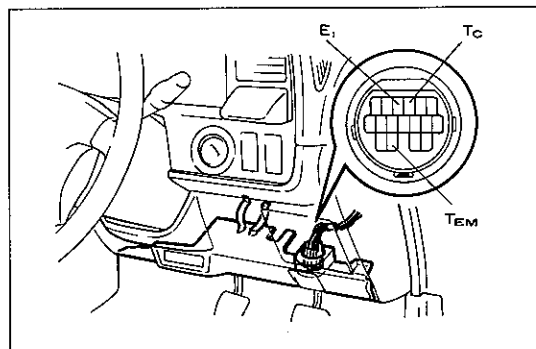
K 6240



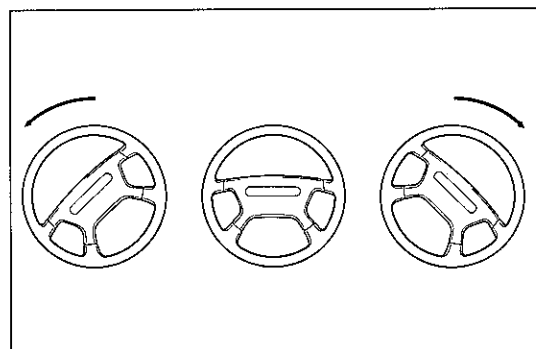
K 6812



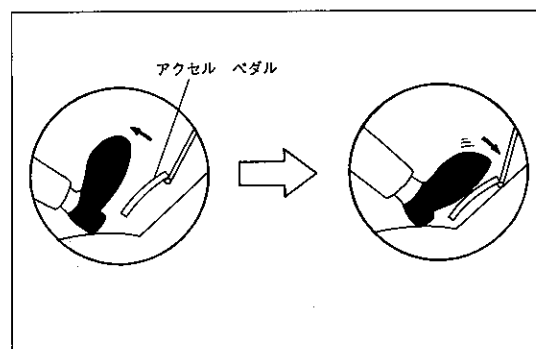
K 6240



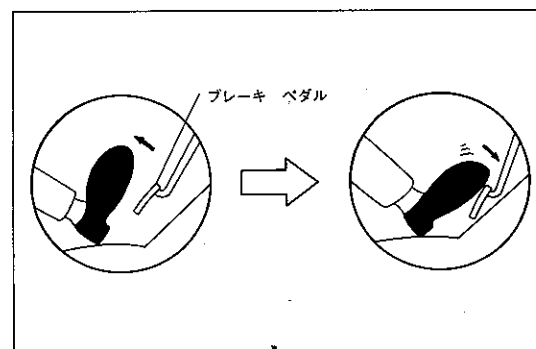
K 6240



K 4762



K 4763



K 4765

3 高速感応機能点検

- (1) 後輪をスピードメータ テスタに乗せる。
- (2) アブソーバ コントロール スイッチをSPORTにし、次のようにダイアグノーシス コネクタT_{EM} 端子電圧が変化することを点検する。

基 準

アブソーバ コントロール スイッチ	車 速	T _{EM} 端子電圧
SPORT	30km/h未満	1 V 以下
	40km/h以上	7 V 以上

注意 T_c-E₁ 端子は開放しておく。

4 アンチロール点検 (ステアリング センサ機能点検)

- (1) ホイールを直進状態にする。
- (2) ダイアグノーシス コネクタ T_c-E₁ 端子を短絡する。
- (3) イグニッション スイッチをONにする。
- (4) アブソーバ コントロール スイッチをNORMALにする。
- (5) ステアリング ホイールを直進状態から左および右に45°以上回転させ、T_{EM} 端子電圧を点検する。

基 準

ステアリング ホイールの状態	アブソーバ コントロール スイッチ	T _{EM} 端子電圧
直 進 状 態	NORMAL	1V以下↔7V以上 (0.5秒周期で点滅)
左右45°以上回転		1 V 以下

- (6) ダイアグノーシス コネクタ T_c-E₁ 端子を開放する。

5 アンチスクアウト点検

- (1) イグニッション スイッチをONにする。

〈参考〉 ・アブソーバ コントロール スイッチはNORMAL, SPORTどちらでも良い。

・イグニッション スイッチON後、約2秒間、T_{EM} 端子電圧が7V以上になり、その後1V以下になる。

- (2) アクセル ペダルを離れた状態からいつばいまですばやく踏む。

基 準 T_{EM} 端子電圧が7V以上になる

- (3) T_{EM} 端子電圧が7V以上になったら、直ちにペダルを離す。

基 準 約2秒後にT_{EM} 端子電圧が1V以下になる

6 アンチダイブ点検

- (1) 後輪をスピードメータ テスタに乗せる。

- (2) エンジンを始動する。

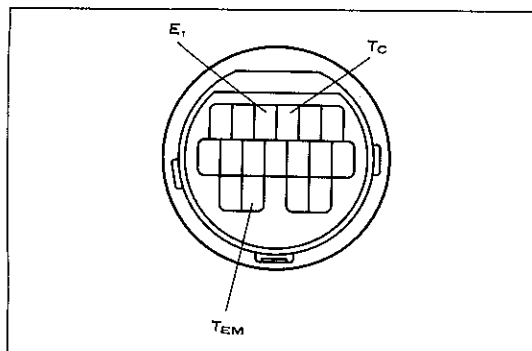
注意 アブソーバ コントロール スイッチはNORMALとする。

- (3) 車速を60km/h以上にしてブレーキ ペダルを踏む。

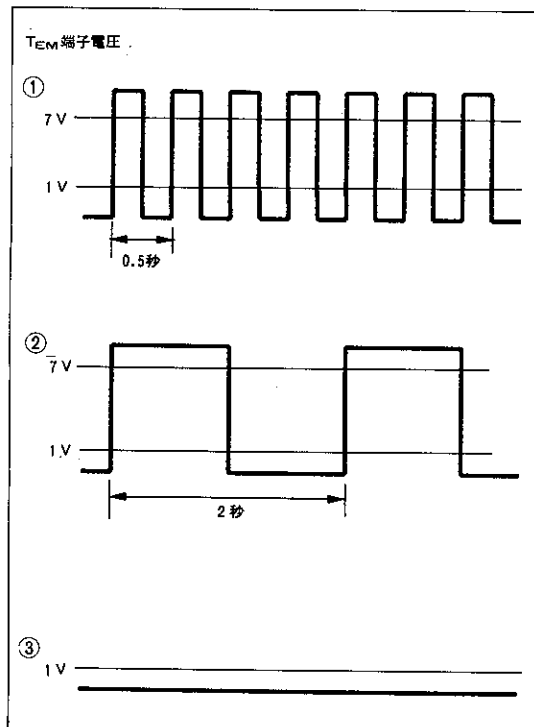
基 準 T_{EM} 端子電圧が、7V以上になる

- (4) T_{EM} 端子電圧が、7V以上になったら、直ちにペダルを離す。

基 準 約0.5秒後に、T_{EM} 端子電圧が1V以下になる



S-17-1



K6813

トラブル シューティング

トラブル シューティングの進め方

1 バッテリ電圧点検

基準 10~14V (エンジン停止時)

2 フェイル セーフ点検

- (1) ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を短絡し, TEM 端子電圧を点検する。

注意 ・ステアリング ホイールは直進状態, 車速は20km/h未満にする。

・アブソーバ コントロール スイッチはNORMAL, SPORTのどちらでも良い。

- (2) 図のような信号をTEM 端子に出力する。

① 正常時

② アクチュエータ短絡時

③ アクチュエータがなんらかの要因により駆動されない場合(コンピュータ異常時)で一定時間経過後 (1~9 秒後)

- (3) ②および③の場合, アクチュエータの駆動をイグニッション スイッチOFFまで停止する。

- (4) 異常が解消すれば, イグニッション スイッチをOFFにして再度ONにすると正常機能に復帰する。

3 機能点検

- (1) 機能点検を行い, 不具合現象を確認する。(P9-152参照)

- (2) (1)の結果をもとに, チャートに従って点検する。

4 フロー チャートの見方

◇…………作業する項目

□…………点検する項目

・条件の記入のない項目はイグニッション スイッチ ONで行う。

・コンピュータなどの端子記号は総配線図による。

○…………不具合要因

・ワイヤ ハーネス系も含む。

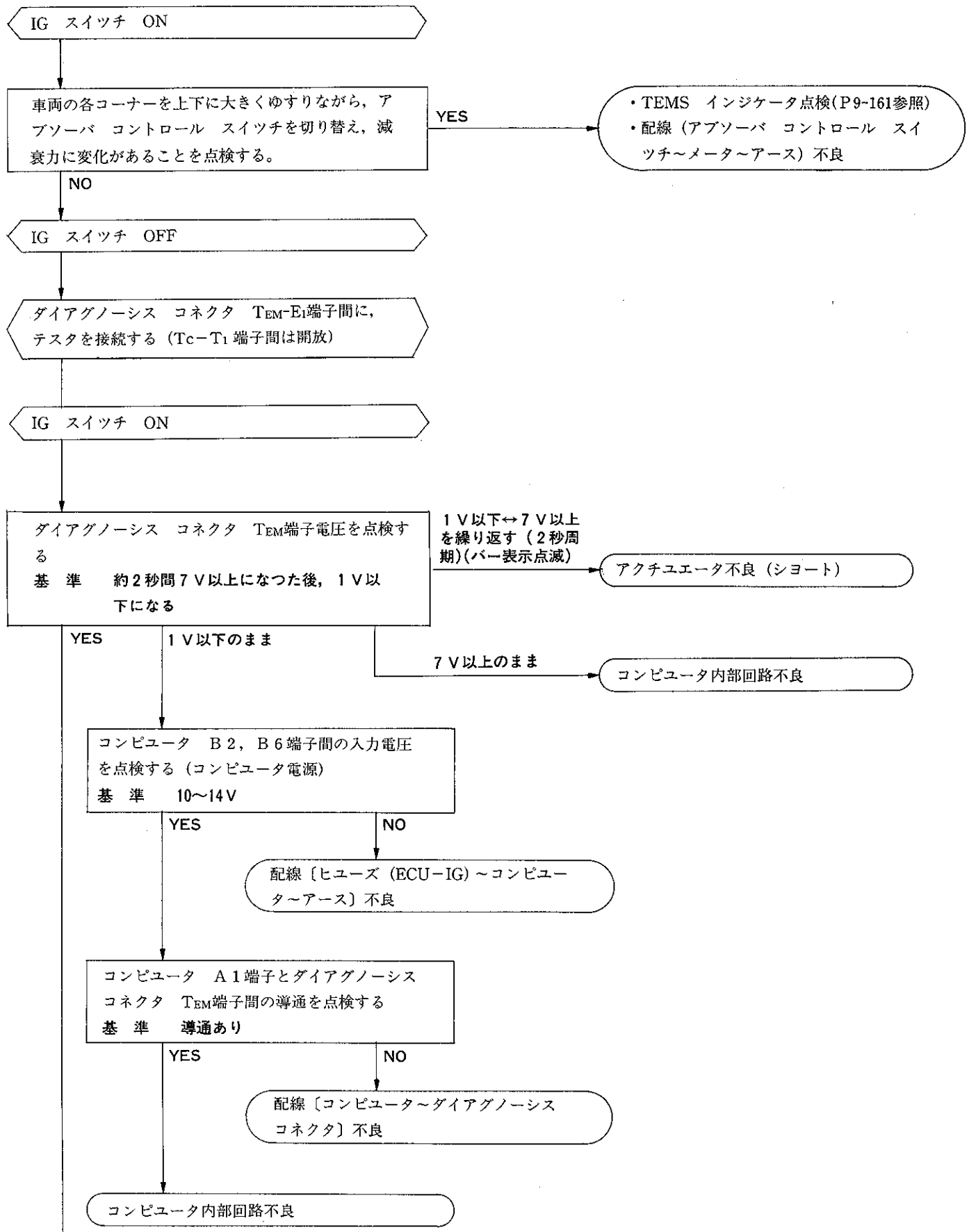
トラブル現象	チャートNo.	ページ
モード切り替え機能が働かない	0	P9-155
アクチスクアウト機能が働かない	1	P9-157
アンチダイブ機能が働かない	2	P9-157
アンチロール機能が働かない	3	P9-158
高速感応機能が働かない	4	P9-158

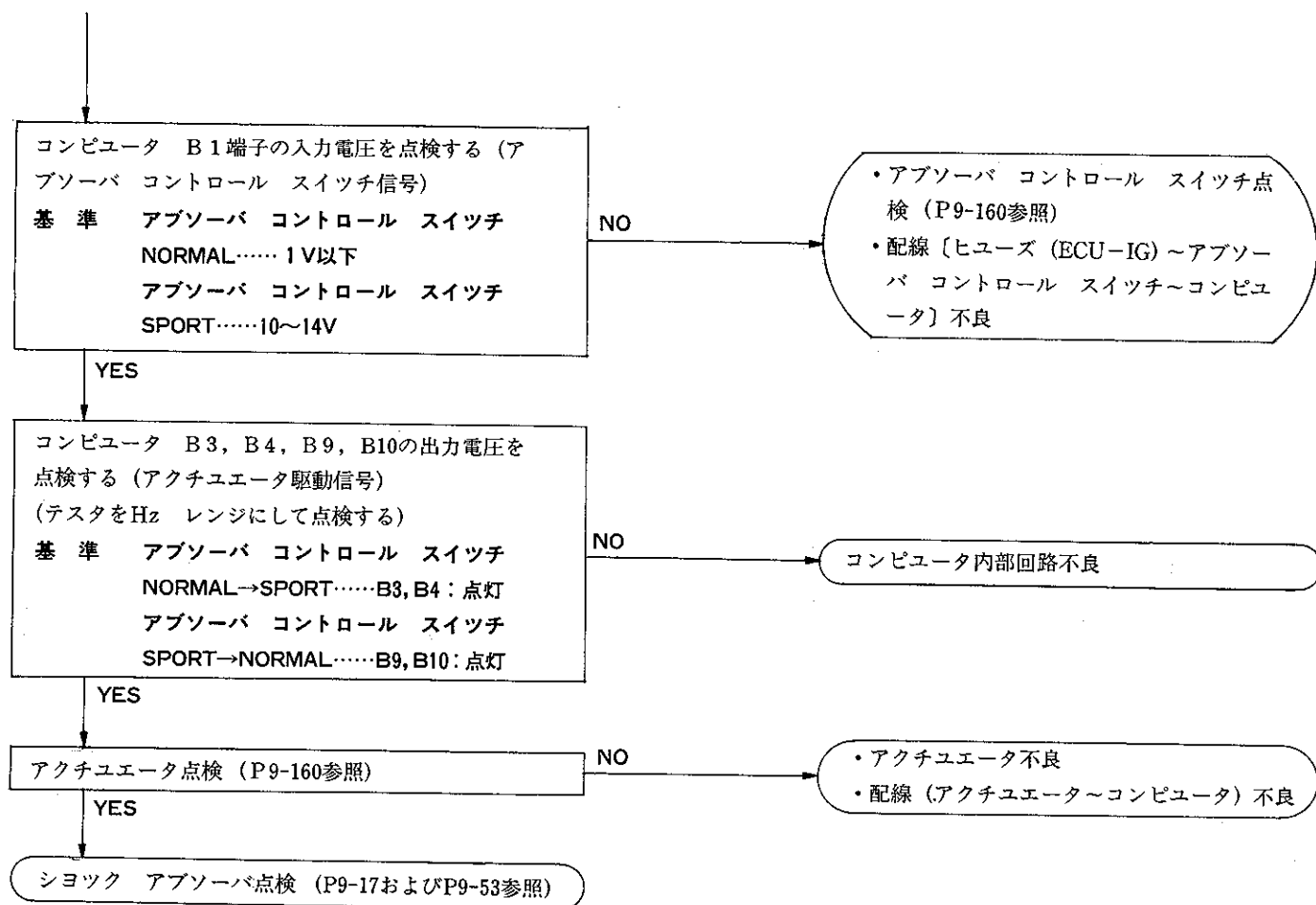
注意 ・電圧が一定にならない場合は, テスタのレンジをHz レンジにして, バー表示の点滅の周期を読み取る。

・アブソーバ コントロール コンピュータからアブソーバ コントロール アクチュエータへの出力信号の点検はHz レンジを使用する。

O

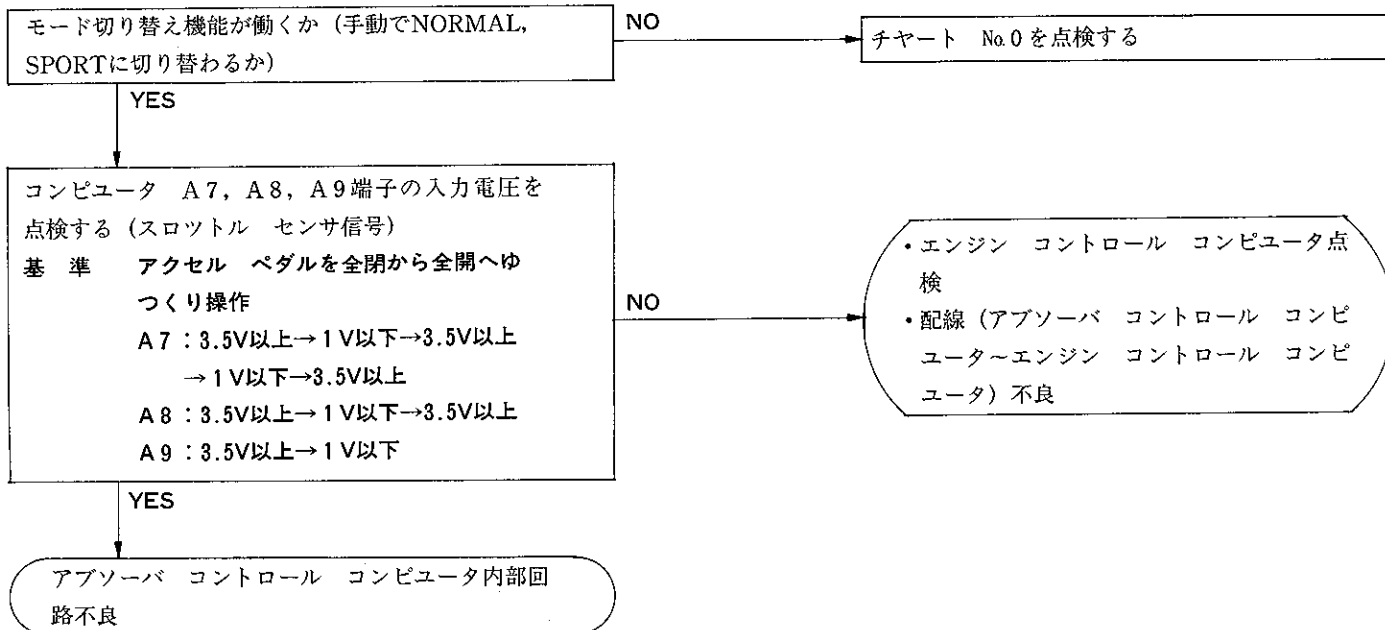
モード切り替え機能が働かない (手動でNORMAL, SPORTに切り替わらない)





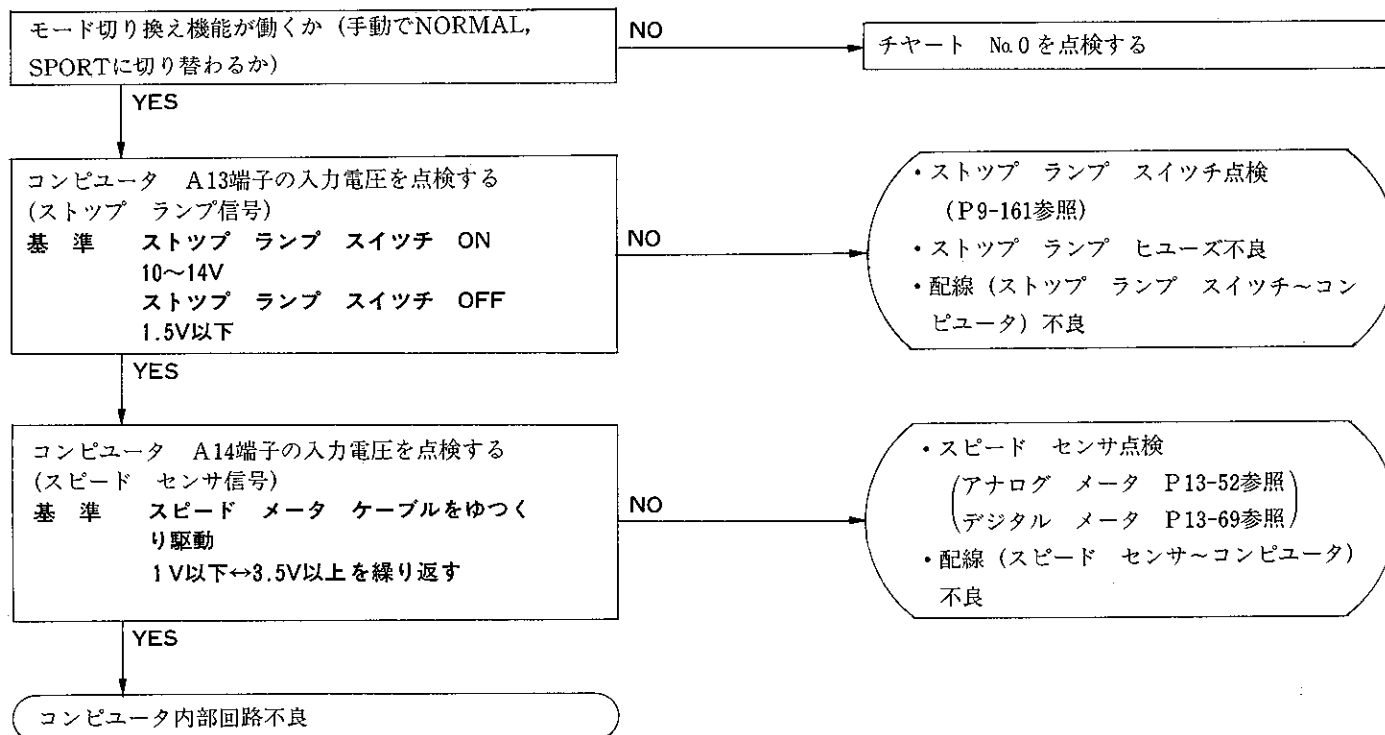
1

アンチスクアウト機能が働かない



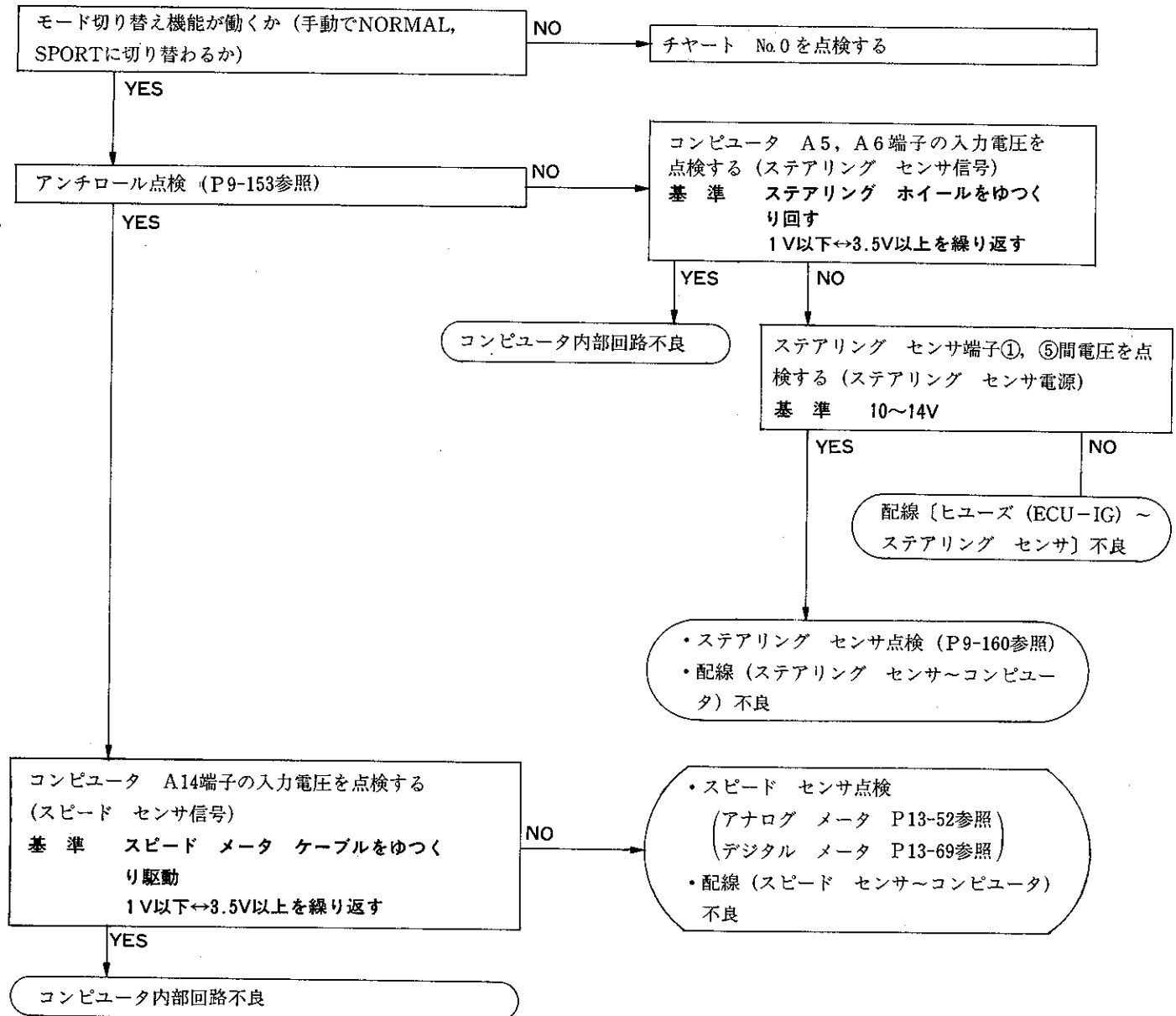
2

アンチダイブ機能が働かない



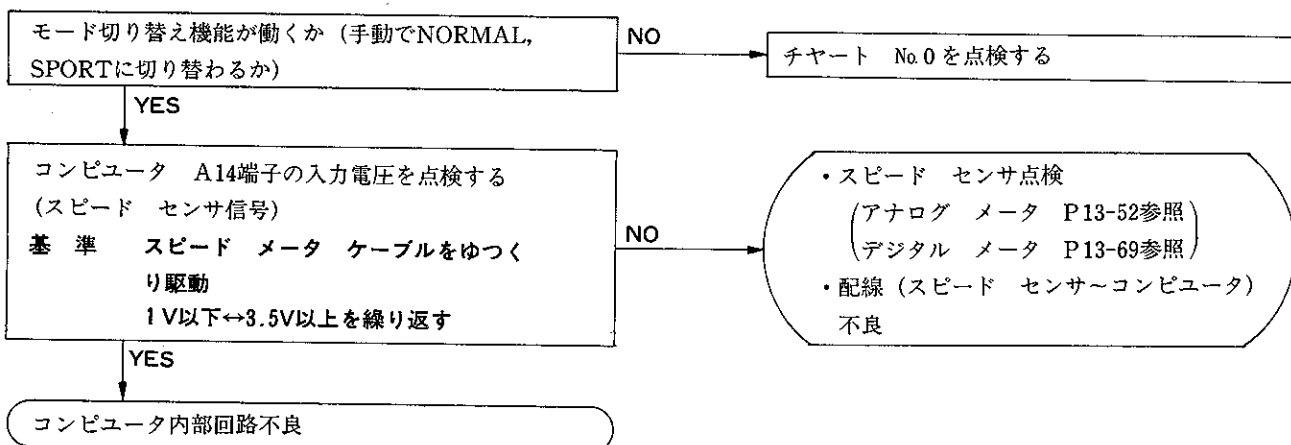
3

アンチロール機能が働かない



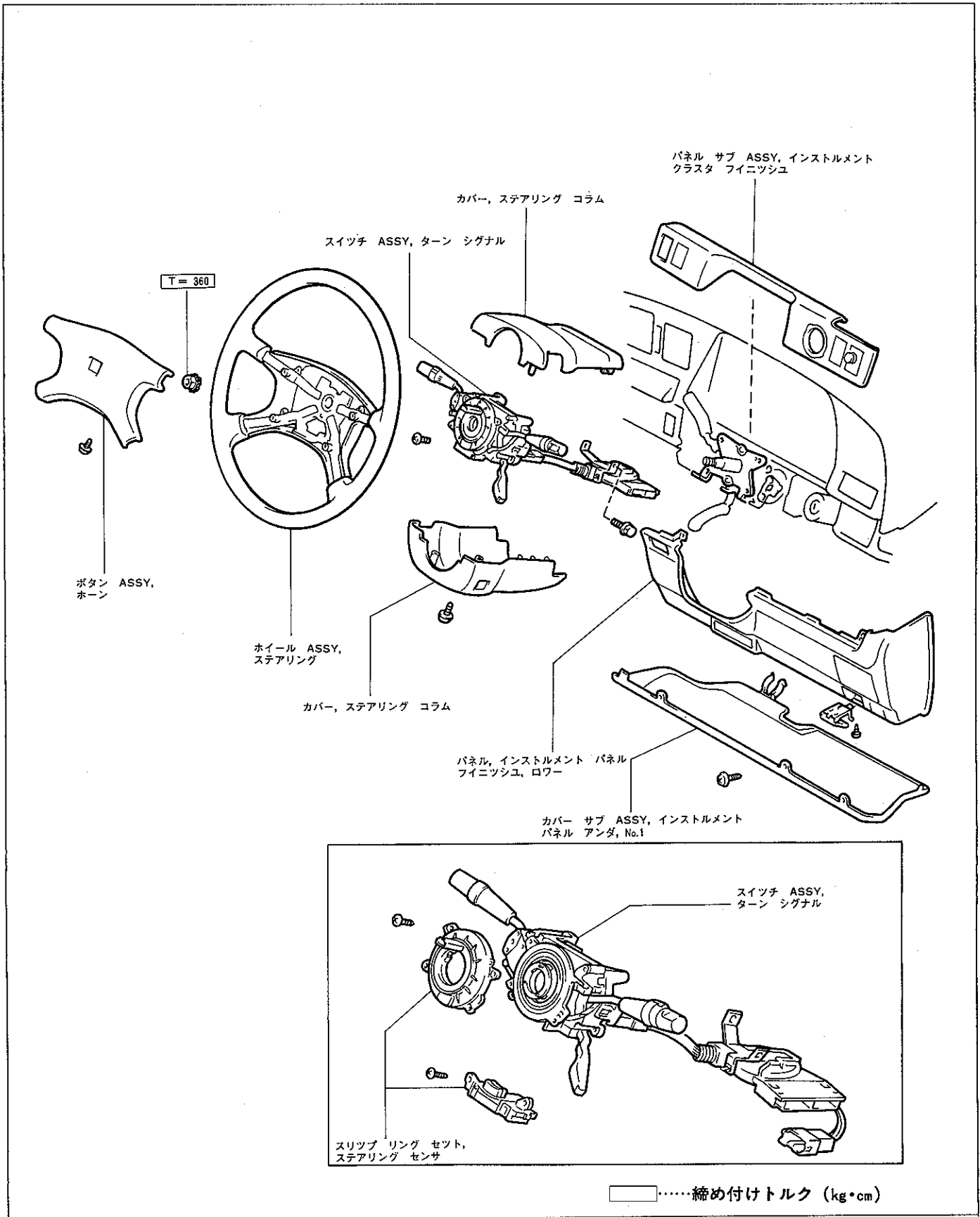
4

高速感応機能が働かない

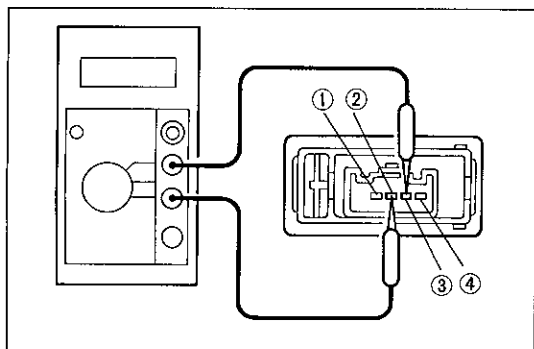


ステアリング センサ

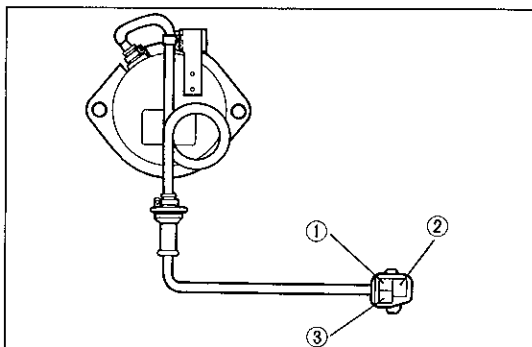
脱着構成図



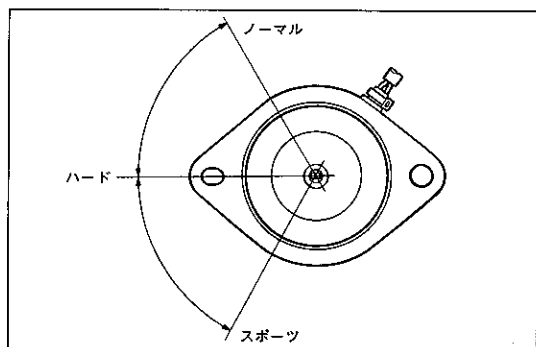
K6814



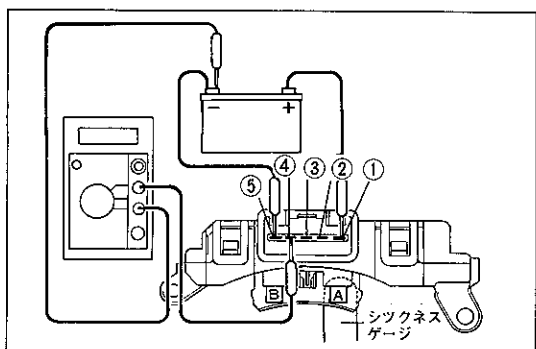
K 6815



K 6816



K 3234



K 4768

単体点検

アブソーバ コントロール スイッチ点検

- (1) アブソーバ コントロール スイッチを取りはずす。
- (2) 各端子間の導通を点検する。

基 準

アブソーバ コントロール スイッチ	点 検 端 子
NORMAL	②-③端子間導通なし
SPORT	②-③端子間導通あり

アブソーバ コントロール アクチュエータ点検

1 アクチュエータ点検

- (1) アクチュエータを取りはずす。
- (2) 各端子間の抵抗値を測定する。

基 準 ①-③端子間導通あり

②-③端子間導通あり (①-③端子間と同抵抗値)

①-②端子間導通あり (①-③端子間の抵抗値の約 2 倍)

- (3) アクチュエータのコネクタを車両側コネクタに接続する。
- (4) イグニッション スイッチをONにする。
- (5) アブソーバ コントロール スイッチを切り替えて、ノーマルおよびスポーツのシャフト停止位置を点検する。
- (6) ダイアグノーシス コネクタ Tc-E1 端子を短絡し、アブソーバ コントロール スイッチをSPORTにして、アクチュエータのシャフトがハードの位置になることを点検する。

ステアリング センサ点検

- (1) ①端子にバッテリー⊕, ⑤端子にバッテリー⊖およびテストを左図のように接続する。
- (2) 左図の④および⑥の部分にシツクネス ゲージを入れたとき, ②および④端子とアース間の抵抗を点検する。

基準値

遮 光 位 置	② 端 子	④ 端 子
④および⑥とも開放	約100Ω	約100Ω
④および⑥とも遮光	∞	∞
④のみ遮光	∞	約100Ω
⑥のみ遮光	約100Ω	∞

注意 ・ステアリング センサ交換時はスリップ リングとセツトで交換する。

・フोट イントラプタ部を汚さない。

ストップ ランプ スイッチ点検

A/Dなし車

- (1) ブレーキ ペダルを操作したときスイッチ端子間の導通の有無を点検する。

基 準 ペダルを踏み込んだ時……導通あり
 ペダルを踏まない時……導通なし

A/D付き車

- (1) ブレーキ ペダルを操作したときスイッチ端子1 ↔ 3間の導通の有無を点検する。

基 準 ペダルを踏み込んだ時……導通あり
 ペダルを踏まない時……導通なし

メータ点検

1 TEMS インジケータ点検

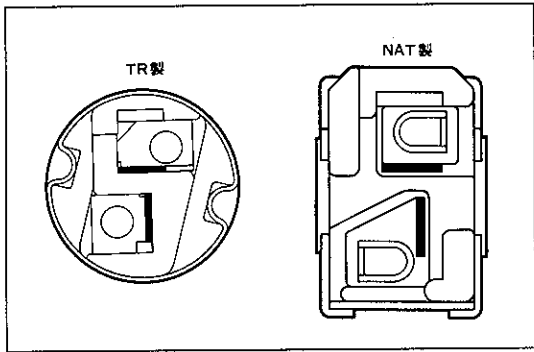
- (1) コンビネーション メータ コネクタ端子間にバッテリー電圧を加えたとき、インジケータ (TEMS SPORT) が点灯することを点検する。

基 準

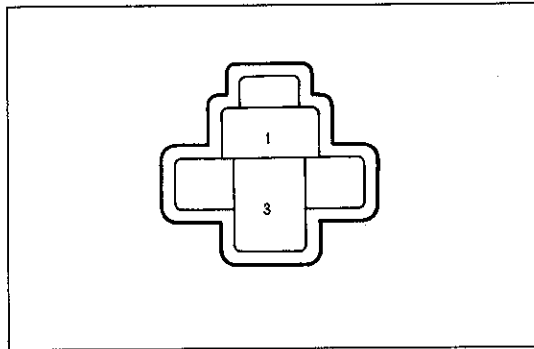
	バッテリー⊕	バッテリー⊖
アナログ メータ	A9	B4
デジタル メータ	D3	D5

2 スピード センサ点検

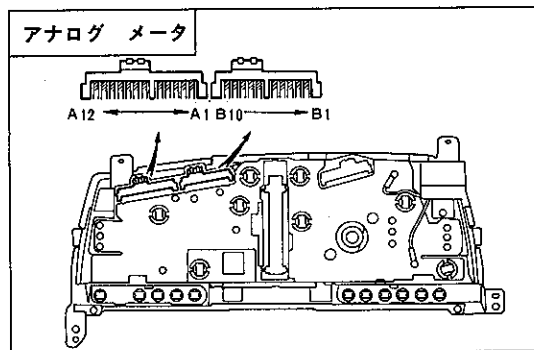
〔アナログ メータ P13-52参照〕
 〔デジタル メータ P13-69参照〕



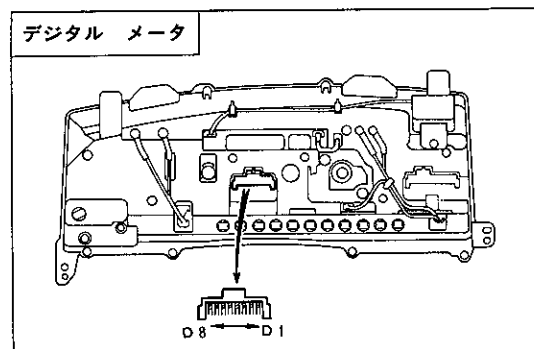
K0886 K2238



H0582



K6817



K6818

コンピュータ点検

(1) バッテリ電圧を点検する。

基準値 10~14V (エンジン停止時)

(2) テスタにミニ テスト リードを接続し、イグニッション スイッチ ONの状態、各端子とボデー アース間の電圧および導通を点検する。

注意 ・コネクタをコンピュータに接続しておき、コネクタ裏側から点検する。

・コンピュータ出力信号測定の基準値外の場合の不具合箇所は、コンピュータ本体および出力信号の行先を示す。

アブソーバ コントロール コンピュータ				ダイアグノーシス コネクタ		
コネクタ B				コネクタ A		
S-10-2				S-14-2-B		
				S-17-1		
コネクタ	端子番号	端子記号	入出力	測定条件	基準値 ()内はHz レンジ でのバー表示	基準値外の場合の 不具合箇所
A	1	I 3	出力	IG スイッチ ON	約 2 秒間 7 V 以上になつた後、1 V 以下	アブソーバ コントロール コンピュータ
	5	SS2	入力	ステアリング ホイールをゆつくり回転	1V以下 ↔ 3.5V以上を繰り返す	ステアリング センサ
	6	SS1				
	7	L 3	入力	スロットルを全閉からゆつくり全開へ操作	3.5 V 以上 → 1V 以下 → 3.5 V 以上 → 1V 以下 → 3.5 V 以上	スロットル ポジション センサまたはエンジン コントロール コンピュータ
	8	L 2			3.5 V 以上 → 1V 以下 → 3.5 V 以上	
	9	L 1			3.5 V 以上 → 1V 以下	
	12	CHK	入力	ダイアグノーシス コネクタ Tc-E, 短絡	1.5 V 以下	ダイアグノーシス コネクタ
				ダイアグノーシス コネクタ Tc-E, 開放	10~14V	
B	13	STP	入力	ブレーキ ペダル踏時	10~14V	ストップ ランプ スイッチ
				ブレーキ ペダル開放時	1.5 V 以下	
	14	SPD	入力	スピードメータ ケーブルをゆつくり駆動	1V以下 ↔ 3.5V以上を繰り返す	スピード センサ
	1	SWS	入力	アブソーバ コントロール スイッチ NORMAL	1 V 以下	アブソーバ コントロール スイッチ
				アブソーバ コントロール スイッチ SPORT	10~14V	
	2	+B	入力	IG スイッチ ON	10~14V	電源
	3	FM+	出力	アブソーバ コントロール スイッチ	(点灯)	アブソーバ コントロール コンピュータ
	4	RM+		NORMAL ↔ SPORT		
	6	GND	入力	常時	導通あり	ボデー アース
	7	FCH	出力	ダイアグノーシス コネクタ Tc-E, 短絡	(点灯)	アブソーバ コントロール コンピュータ
	8	RCH		アブソーバ コントロール スイッチ NORMAL ↔ SPORT		
	9	FM-	出力	アブソーバ コントロール スイッチ	(点灯)	アブソーバ コントロール コンピュータ
	10	M-		NORMAL ↔ SPORT		